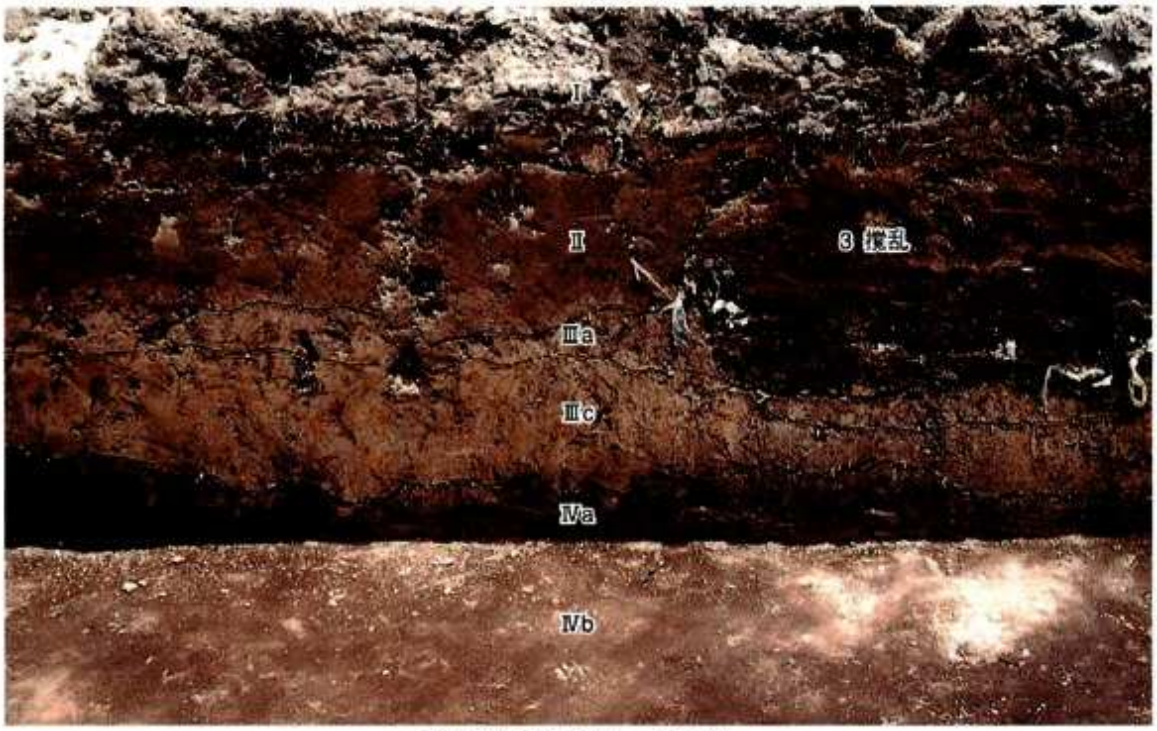
新潟市小丸山遺跡

直り山団地建設事業用地内発掘調査報告書

大江山中学校より遺跡を望む（1986年6月）

1995

新潟市教育委員会



基本層序（A7グリッド東壁）

SE9　井戸枠出土状況

例　言

1　本書は、新潟県新潟市直り山字小丸山244番地ほかに所在する小丸山遺跡（新潟市遺跡番号88）発掘調査の報告書である。

2　小丸山遺跡の発掘地は、新潟市直り山字小丸山238～244番地、松山字居浦769～770番地ほかの約5,000㎡である。

3　現地発掘調査は昭和61（1986）年度、整理作業は昭和61～63（1986～1988）・平成3～5（1991～1993）年度まで実施した。

4　調査で出土した遺物は新潟市教育委員会が保管している。調査記録は新潟市教育委員会が所有している。注記は「KM」とし、遺構名・大小グリッド・層序等を記した。

5　本書は、小池邦明と本間桂吉（新潟市教育委員会生涯学習課）が編集した。

6　本書には昭和60（1985）年度の事前調査及び平成4（1992）年度の範囲等確認調査で出土した遺物を一部収載した。

7　発掘調査及び本書作成にあたり、下記の方をはじめ多くの方々から指導・援助を頂いた。

相沢央　青池光子　諫山えりか　石垣直一　宇野隆夫　遠藤佐　春日真実　金子正典　小林昌二
坂井秀弥　佐々木陽子　田辺早苗　富岡正人　平尾政幸　藤塚明　三辻利一　光谷拓実　山崎ヨシ
吉田恵二　渡邊朋和　渡邊ますみ　直り山・西山・松山各自治会　新潟県教育庁文化行政課
新潟県住宅供給公社　新潟江南高校　北陸古代土器研究会　吉沢組

凡　例

1　平面図および遺構等の方位は、真北を基準に記した。なお、磁北は真北から約7度西偏する。

2　文中および平面図等の遺構の種別は、次の略記号で表した。

掘立柱建物：SB、溝：SD、井戸：SE、土坑：SK、性格不明遺構：SX

また、範囲等確認調査時に発見された遺物集中区は、トレンチを「T」、集中区を「S」と表した。

3　土器実測図の断面は須恵器を黒塗りにし、それ以外は白抜きにした。黒色処理、赤彩等については下記の点網で表した。

黒色処理　赤彩　煤　漆

4　木製品について、欠損部分を復元したものは破線、直接見えない部分については一点破線で図示した。また、木目が非常に細かいものは、スクリーントーンで木取りを模式的に示した。

5　砥石の砥面部分は点網で表した。

6　単位表現は、下記の略記号で表した。

メートル：m、センチメートル：cm、ミリメートル：mm、平方メートル：㎡、グラム：g、
キログラム：kg

7　縄文時代・平安時代・中世の遺物の番号は、図示番号・写真番号・一覧表番号とも原則として同番号を付した。近世遺物については図示点数より写真点数のほうが多いため、番号を写真図版に合わせて記載した。

目　次

第１章　調査に至る経緯
　第１節　事前調査 …… 1
　第２節　範囲等確認調査 …… 2
　第３節　本格調査 …… 5
　第４節　昭和61年度調査体制 …… 5
　第５節　整理作業 …… 6
　第６節　調査経費 …… 7
　第７節　その他 …… 7

第２章　遺跡の立地と環境
　第１節　地理的環境 …… 9
　第２節　周辺の遺跡 ……10

第３章　本格調査の概要
　第１節　調査区の設定と調査方法 ……12
　第２節　層序 ……13
　第３節　調査の経過 ……13

第４章　検出した遺構
　第１節　平安時代 ……16
　　第１項　掘立柱建物 ……16
　　第２項　柵列 ……20
　　第３項　溝 ……20
　　第４項　井戸 ……21
　　第５項　土坑 ……24
　　第６項　畝状小溝 ……24
　　第７項　性格不明遺構 ……26
　第２節　近世以降 ……26
　　第１項　土坑 ……26
　　第２項　性格不明遺構 ……27

第５章　出土した遺物
　第１節　縄文時代 ……28
　第２節　平安時代 ……28
　　第１項　遺物の概要 ……28
　　（１）土器の概要 ……28
　　第２項　遺構出土遺物 ……31
　　（１）掘立柱建物 ……31
　　（２）柵列 ……33
　　（３）溝 ……33
　　（４）井戸 ……33
　　（５）土坑 ……34
　　（６）遺物集中区 ……34
　　（７）性格不明遺構 ……35
　　（８）ピット ……36
　　第３項　遺構外出土遺物 ……36
　　第４項　墨書土器 ……39
　第３節　中世 ……42
　第４節　近世 ……42
　第５節　時代不明遺物 ……43

第６章　まとめ
　第１節　平安時代の様相 ……44
　　第１項　掘立柱建物群について ……44
　　第２項　土器の様相 ……45
　　第３項　遺構の変遷 ……50
　第２節　調査成果 ……52

第７章　小丸山遺跡出土遺物の胎土分析
　第１節　はじめに ……54
　第２節　分析法 ……54
　第３節　分析結果 ……54

　引用・参考文献 ……61

表目次

第1表　小丸山遺跡発掘調査にかかる年度・費目別経費 …… 7
第2表　掘立柱建物・構列一覧 …… 17
第3表　柱材一覧 …… 20
第4表　井戸部材一覧 …… 21
第5表　井戸出土のおな遺物 …… 22
第6表　出土位置別墨書一覧 …… 40
第7表　遺構別器種構成（1） …… 48
第8表　遺構別器種構成（2） …… 49
第9表　小泊・真木山・狼沢窯跡出土須恵器の分析値 …… 56
第10表　小丸山・的場遺跡出土土器の分析値 …… 57
第11表　胎土分析試料一覧 …… 58
第12表　縄文時代出土遺物一覧 …… 62
第13表　平安時代遺構出土遺物一覧 …… 62
第14表　平安時代遺構外出土遺物一覧 …… 72
第15表　平安時代墨書土器一覧 …… 79
第16表　中世出土遺物一覧 …… 81
第17表　近世図示遺物一覧 …… 81
第18表　土製品・石製品遺物一覧 …… 82

図目次

第1図　遺跡周辺の地形 …… 1
第2図　昭和60年度事前調査試掘坑配置図 …… 2
第3図　昭和60年度事前調査土層柱状図 …… 2
第4図　昭和61年度範囲等確認調査試掘坑配置図 …… 3
第5図　昭和61年度範囲等確認調査土層柱状図 …… 4
第6図　平成4年度範囲等確認調査試掘坑配置図及び土層柱状図 …… 8
第7図　平成4年度範囲等確認調査出土遺物 …… 8
第8図　遺跡の位置と周辺の地形概念図 …… 9
第9図　遺跡周辺の旧地形 …… 9
第10図　昭和6年の亀田砂丘と周辺 …… 10
第11図　周辺の遺跡分布図 …… 11
第12図　現地形測量図・グリッドの設定 …… 12
第13図　基本層序 …… 15
第14図　遺構配置図 …… 16
第15図　畝状小溝配置図 …… 25
第16図　縄文時代の遺物 …… 28
第17図　用途別遺物分布図（1） …… 38
第18図　用途別遺物分布図（2） …… 39
第19図　墨書土器分布図 …… 41
第20図　中世の遺物 …… 42
第21図　掘立柱建物の分類 …… 44
第22図　掘立柱建物の寸法と面積 …… 45
第23図　遺構別食膳具構成比率 …… 46
第24図　主な遺構の食膳具法量分布 …… 47
第25図　遺構の変遷想定 …… 51
第26図　小泊群と笹神群の須恵器のRb-Sr分布図 …… 59
第27図　K因子の比較 …… 59
第28図　Ca因子の比較 …… 59

第29図　小泊群と笹神群の須恵器の相互識別 …… 59
第30図　小丸山遺跡出土土器の産地推定 …… 60
第31図　的場遺跡出土土器の産地推定 …… 60
第32図　小丸山遺跡出土土器のRb-Sr分布図 …… 60
第33図　的場遺跡出土土器のRb-Sr分布図 …… 60
第34図　平安時代の遺構1（SB1～3） …… 83
第35図　平安時代の遺構2（SB4・7・8） …… 84
第36図　平安時代の遺構3（SB5・6、SD2、SA1） …… 85
第37図　平安時代の遺構4（SB9A～12、SD3・4） …… 86～88
第38図　平安時代の遺構5（SB12柱穴、SB10・11A・12出土柱根・礎板） …… 89
第39図　平安時代の遺構6（SB12出土柱根、SD5・6） …… 90
第40図　平安時代の遺構7（SE1・2、SE2部材） …… 91
第41図　平安時代の遺構8（SE3～6・8） …… 92
第42図　平安時代の遺構9（SE7・9、SE7部材） …… 93
第43図　平安時代の遺構10（SE9井戸枠・部材） …… 94
第44図　平安時代の遺構11（SE9井戸枠寸法） …… 95
第45図　平安時代の遺構12（SK1・2・5、SX2～5） …… 96
第46図　平安時代の遺構13（畝状小溝7群） …… 97
第47図　平安時代の遺構出土遺物1（SB2・4・6、SD2） …… 98
第48図　平安時代の遺構出土遺物2（SD2） …… 99
第49図　平安時代の遺構出土遺物3（SD2・3、SB8・11） …… 100
第50図　平安時代の遺構出土遺物4（SD3、SB12） …… 101
第51図　平安時代の遺構出土遺物5（SD4） …… 102
第52図　平安時代の遺構出土遺物6（SD4） …… 103
第53図　平安時代の遺構出土遺物7（SD4） …… 104
第54図　平安時代の遺構出土遺物8（SD4） …… 105
第55図　平安時代の遺構出土遺物9（SD4） …… 106
第56図　平安時代の遺構出土遺物10（SD4） …… 107
第57図　平安時代の遺構出土遺物11（SD1・4・5、SA1） …… 108
第58図　平安時代の遺構出土遺物12（SD5） …… 109
第59図　平安時代の遺構出土遺物13（SE1～4） …… 110
第60図　平安時代の遺構出土遺物14（SE4～7） …… 111
第61図　平安時代の遺構出土遺物15（SE7・9） …… 112
第62図　平安時代の遺構出土遺物16（SE9） …… 113
第63図　平安時代の遺構出土遺物17（SK1） …… 114
第64図　平安時代の遺構出土遺物18（SK1・2） …… 115
第65図　平安時代の遺構出土遺物19（SK4・5、第1・第2T集中区） …… 116
第66図　平安時代の遺構出土遺物20（第2・第4T集中区、SX1） …… 117
第67図　平安時代の遺構出土遺物21（SX2・3） …… 118
第68図　平安時代の遺構出土遺物22（SX4～8） …… 119
第69図　平安時代の遺構出土遺物23（SX9、ピット） …… 120
第70図　平安時代の遺構外出土遺物1 …… 121
第71図　平安時代の遺構外出土遺物2 …… 122
第72図　平安時代の遺構外出土遺物3 …… 123
第73図　平安時代の遺構外出土遺物4 …… 124
第74図　平安時代の遺構外出土遺物5 …… 125
第75図　平安時代の遺構外出土遺物6 …… 126
第76図　平安時代の遺構外出土遺物7 …… 127
第77図　平安時代の遺構外出土遺物8 …… 128
第78図　平安時代の遺構外出土遺物9 …… 129
第79図　平安時代の遺構外出土遺物10 …… 130

第80図　平安時代の遺構外出土遺物11 …… 131
第81図　平安時代の遺構外出土遺物12 …… 132
第82図　平安時代の遺構外出土遺物13 …… 133
第83図　平安時代の遺構外出土遺物14 …… 134
第84図　平安時代の遺構外出土遺物15 …… 135
第85図　平安時代の遺構外出土遺物16 …… 136
第86図　平安時代の遺構外出土遺物17 …… 137
第87図　平安時代の遺構外出土遺物18 …… 138
第88図　平安時代の遺構外出土遺物19 …… 139
第89図　平安時代の遺構外出土遺物20 …… 140
第90図　近世の主な陶磁器 …… 141
第91図　土製品・石製品 …… 142
付図　遺構全測図 …… 折り込み

写真図版目次

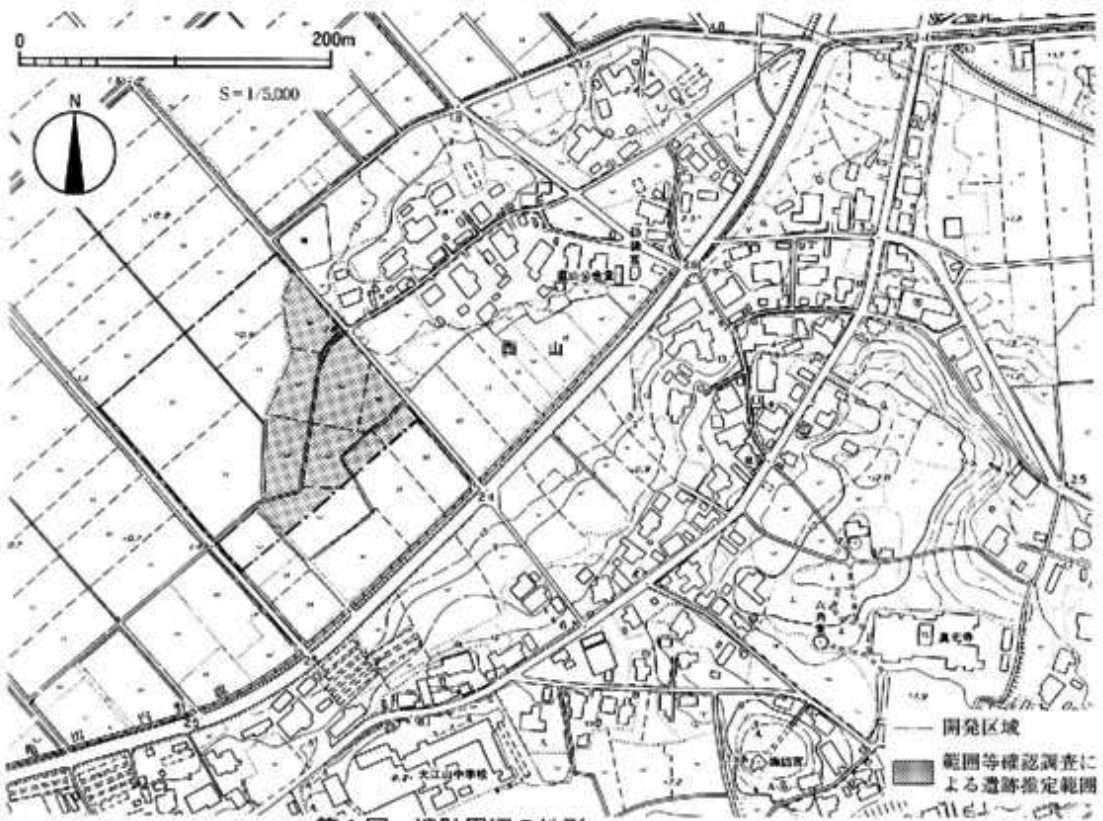
図版1　小丸山遺跡と周辺、第1トレンチ　A7グリッド東壁 …… 143
図版2　平安時代の遺構1（SB1～3・5～8） …… 144
図版3　平安時代の遺構2（SB11・12、SD5、畝状小溝4群・7群） …… 145
図版4　平安時代の遺構3（SB1～3・5・6、SD2） …… 146
図版5　平安時代の遺構4（SB11A、SD3、SB11A p15） …… 147
図版6　平安時代の遺構5（SB12、SD4） …… 148
図版7　平安時代の遺構6（SB12第1～9柱穴） …… 149
図版8　平安時代の遺構7（SB12第10～21柱穴） …… 150
図版9　平安時代の遺構8（SE1～4） …… 151
図版10　平安時代の遺構9（SE5～7） …… 152
図版11　平安時代の遺構10（SE8・9、SK1） …… 153
図版12　平安時代の遺構11（SK1・2・5、SD5、第4T集中区一括、SX3） …… 154
図版13　平安時代の遺構12（SB10～12柱根・礎板　SE2・SE5井戸枠） …… 155
図版14　平安時代の遺構13（SE7井戸部材、SE9井戸枠） …… 156
図版15　縄文時代の遺物・平安時代の遺物1（SB2・4、SD2） …… 157
図版16　平安時代の遺物2（SD2～4、SB8・11・12） …… 158
図版17　平安時代の遺物3（SD4・5、SE3） …… 159
図版18　平安時代の遺物4（SE3・4・6・7・9） …… 160
図版19　平安時代の遺物5（SK1・2、第2・4T集中区） …… 161
図版20　平安時代の遺物6（第4T集中区、遺構外出土） …… 162
図版21　平安時代の遺物7（遺構外出土） …… 163
図版22　平安時代の遺物8（遺構外出土） …… 164
図版23　平安時代の遺物9（遺構外出土） …… 165
図版24　平安時代の遺物10（墨書土器1～11、13・14、16～23） …… 166
図版25　平安時代の遺物11（墨書土器24～47） …… 167
図版26　平安時代の遺物12（墨書土器48～58、60～64、69、76～81） …… 168
図版27　平安時代の遺物13（墨書土器65～68、70～75、82～93） …… 169
図版28　平安時代の遺物14（墨書土器94～107、109～111）、中世の遺物 …… 170
図版29　近世の遺物1 …… 171
図版30　近世の遺物2 …… 172
図版31　近世の遺物3 …… 173
図版32　土錘・石製品・鉄製品 …… 174

第１章　調査に至る経緯

第１節　事前調査

昭和60（1985）年夏、新潟県住宅供給公社（以下「公社」）による新潟市直り山地内ほかにおける分譲住宅団地建設計画が具体化した（第１図）。この計画にかかる事前照会において、新潟県教育庁文化行政課（以下「県教委」）から、計画予定地近くに直り山B遺跡が周知されており、開発予定地にも遺跡が存在する可能性が指摘された。連絡を受けた新潟市教育委員会（以下「市教委」）は、同年10月に計画地内を踏査し、須恵器や土師器が散布していることを確認した。また同地は、同年8月県教委が主体となって実施した、亀田郷一帯の遺跡詳細分布調査で発見されたばかりの新遺跡であることも判明した。

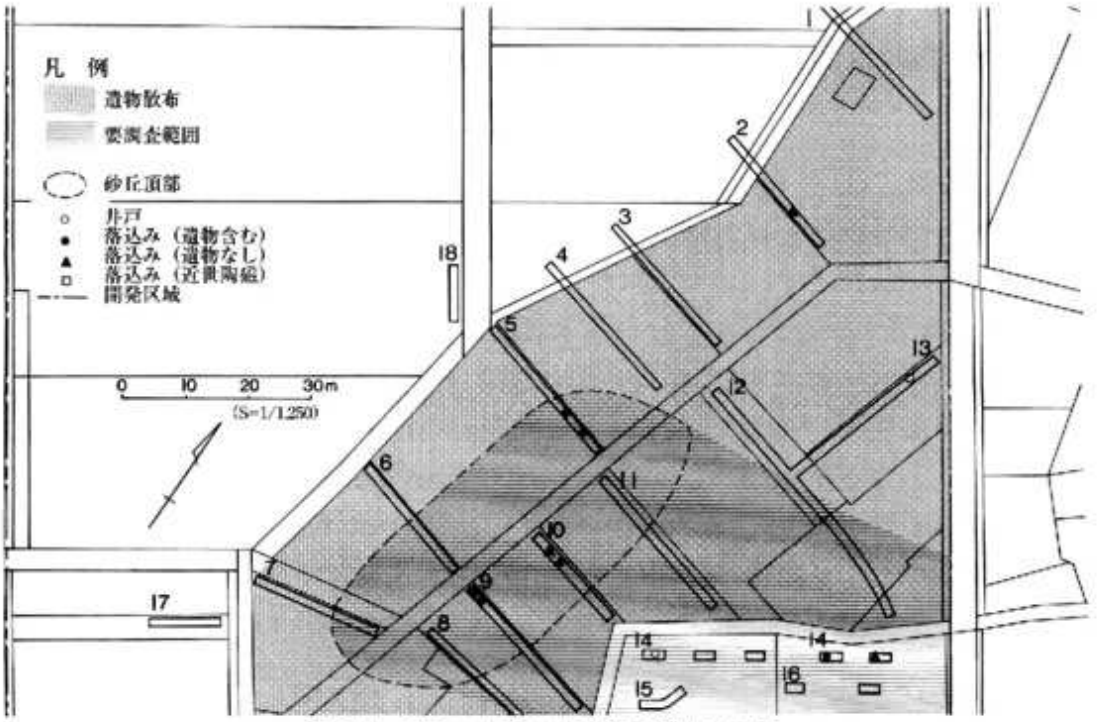
建設工事が翌年に予定されていたため、市教委が調査主体となり、同年12月9日から11日にかけて県教委とともに緊急に事前調査を実施した。調査には岡本郁栄（新潟県教育庁文化行政課文化財主事）、酒井和男（新潟県文化財保護指導員）、藤塚明（新潟市教育委員会社会教育課主事）があたった。この調査は、バックホーにより遺物包含層とされる黒色砂層まで一気に掘削し、地層の状態や、遺構の有無を確認するものであった。調査の結果、予定地内の畑の半分以上において、耕作土下に粘土層が堆積しており、この粘土層の下に黒色砂層がみられ（第3図）、平安時代の遺物を伴う落ち込みが認められた。水田部分ではこの粘土層は削平されていたが、耕作土直下の砂層上面から古代



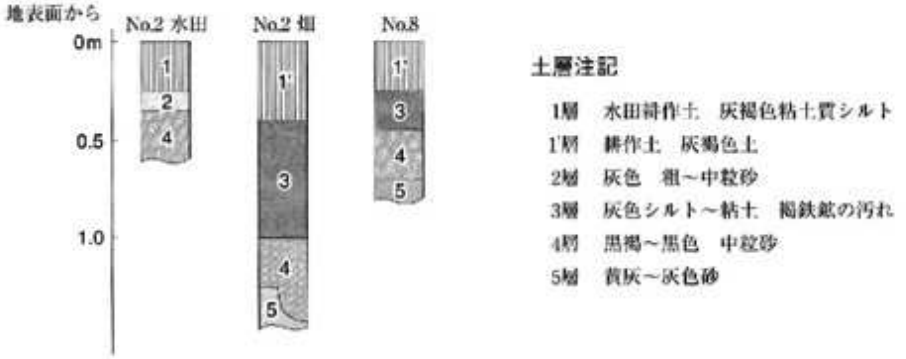
第１図　遺跡周辺の地形（文献26第3図を転載）

の可能性がある井戸が検出された。後の本調査でSE2としたものである。

これらの結果を基に公社及び県教委と協議を行った結果、団地造成には本格調査の実施が必要であることが了承された。また、計画がすでに実施段階にあり他に代替地がないこと、地元周辺の各自治会が早期開発を望んでいることなどの理由により、翌年早々に市教委が範囲等確認調査を行い、記録保存が必要と判断される範囲については順次本格調査に移行することになった。



第２図　昭和60年度事前調査試掘坑配置図

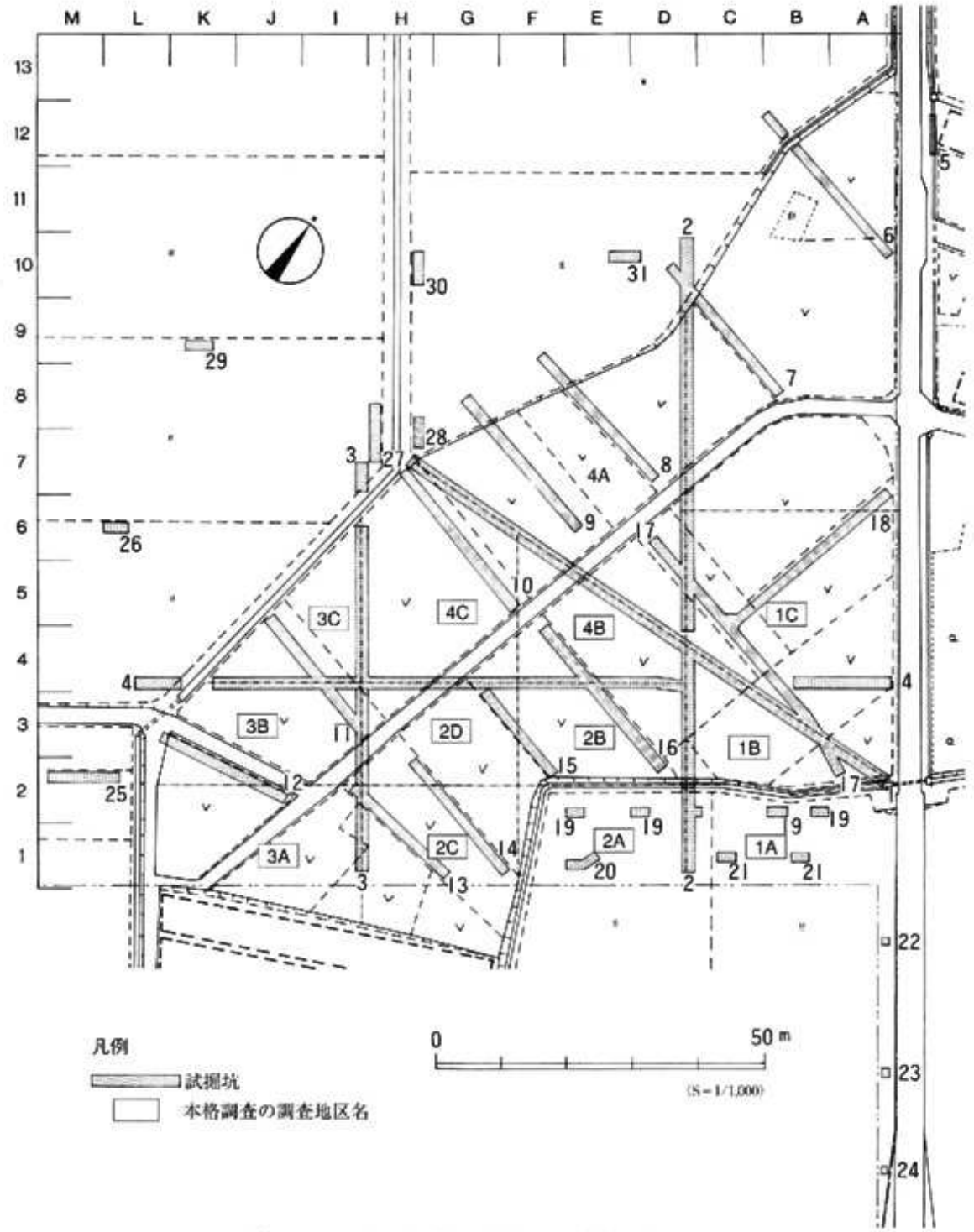


第３図　昭和60年度事前調査土層柱状図（S=1/40）

第２節　範囲等確認調査

公社は、昭和61（1986）年５月19日付第316号で文化財保護法57条の2第1項に基づく埋蔵文化財発掘の届出を文化庁に提出し、これを受けて市教委は同年５月24日付新教社第434号で文化財保護法98条の2第1項に基づく埋蔵文化財発掘調査（範囲等確認調査）の通知を文化庁に提出した。

開発予定地には、新規の作付は停止されていたものの、既設のビニールハウスや収穫前の作物が



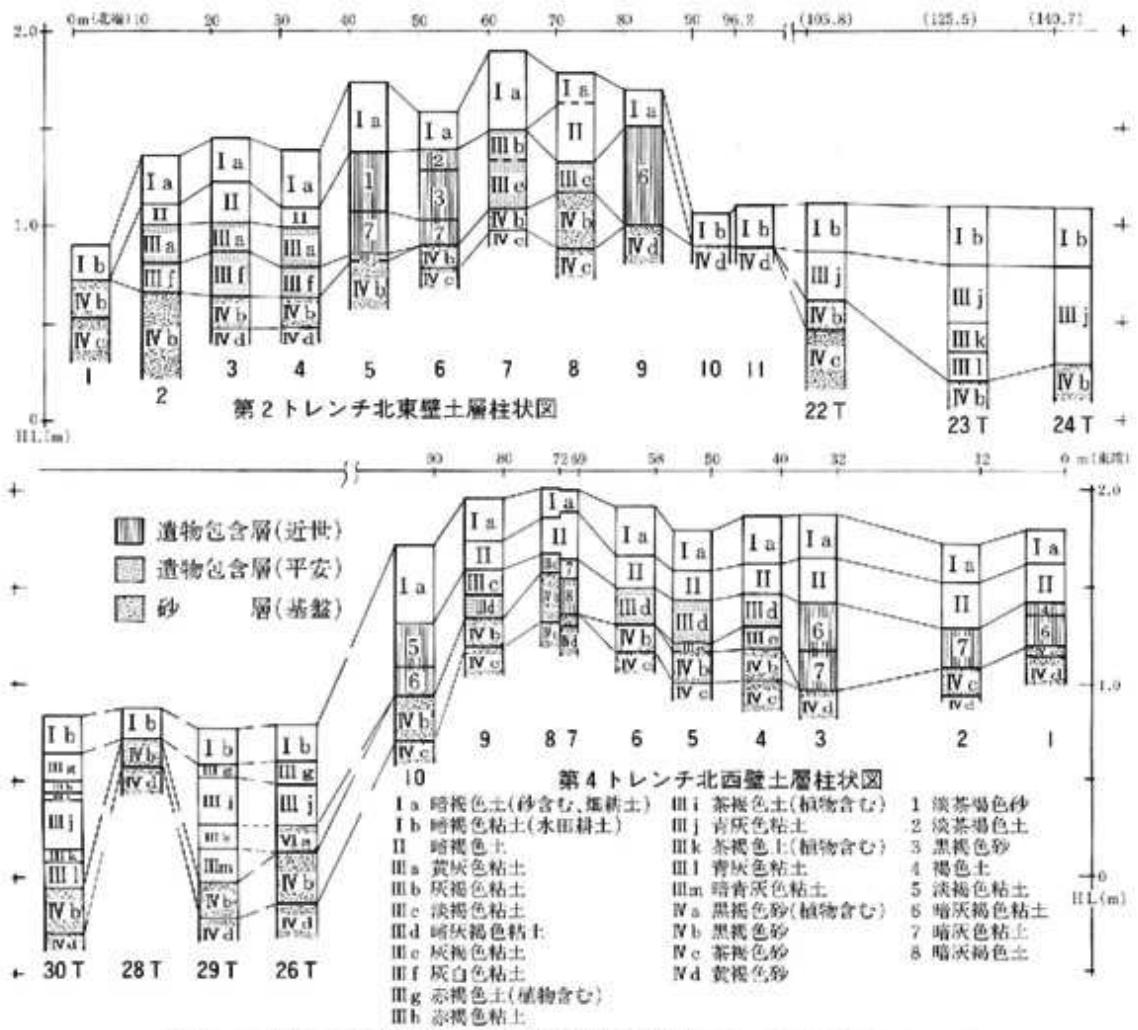
第４図　昭和61年度範囲等確認調査試掘坑配置図

残っていた。畑地の現地形測量を行った後、作付されていた畑地を横断する形で第6～18トレンチを設定し、調査を開始した（第４図）。次に既設のビニールハウスや作物が取り除かれた時点で仮水路設置計画位置に第1トレンチ、開発地に対し直交する第2～4トレンチを設定した。この間水田部分で第19～31の小トレンチを順次調査した。第5トレンチは排水路整備工事に係わる立会い調査区である。以上のうち、第６～21トレンチは事前調査時のトレンチ番号を付け替えて精査したものである。な

お、本書ではこの付け替え後の番号を用いた。

当初トレンチ内の砂層到達面までを重機で除去した後、遺構等の検出にあたったが、前年12月の事前調査では主要な遺物包含層ではないと考えていた黒褐色砂層の直上に堆積する灰色粘土層中に多量の遺物が含まれていることを確認したため、途中から重機による除去は灰色粘土層上面までとし、以下の層は人力による掘り下げに切り替えた。この時点で確認された基本層序は、Ⅰ層表土、Ⅱ層暗褐色土、Ⅲ層灰色粘土（遺物包含層）、Ⅳ層黒褐色砂（遺構確認面）である（第5図）。畑地内では大半のトレンチでⅢ層の遺物包含層が認められたが、12·13トレンチ周辺は基盤砂層が高く、Ⅱ・Ⅲ層はほとんど認められなかった。Ⅲ層の層厚に従って遺物量に偏りがあり、Ⅲ層が厚く堆積している畑地東側で多く見られた。また、第18トレンチ東端で近世以降の遺構が確認された。水田部分の第19～21トレンチではⅡ～Ⅳ層が削平されていたが、平安時代の井戸や土坑が確認された。第26・29・30トレンチ等では耕作土直下に暗灰色砂層があり、遺物が出土しなかった。このことから、開発地域内での遺跡の広がりは畑地全域と第19トレンチ周辺の合計8,700㎡と推定された。

範囲等確認調査の予定期間は6月3日～17日であったが、包含層の残りがよく、大幅な期間延長となり、終了したのは8月2日であった。出土した遺物はテンバコ10箱分で、ほとんどが平安時代のも



第５図　昭和61年度範囲等確認調査土層柱状図（文献24第６図を転載　S=1/40）

のであった。近世の遺物が若干含まれていた。

第3節　本格調査

近世以降の人為的な改変が部分的に認められたが、大規模な破壊の痕跡はなく、調査区内の遺跡保存状態は予想より良好であった。そのため、範囲等確認調査期間中を通じ、県教委の指導を求めるとともに、公社と協議を重ねた。本格調査実施のため、公社から新潟市が受託する契約は同年6月14日に締結され、市教委は昭和61年6月19日付新教社第495号で文化財保護法第98条の2第1項に基づく埋蔵文化財発掘調査（本格調査）の通知を文化庁に提出した。この契約による発掘面積は遺構等の存在が予想される範囲約3,500㎡（第2図）、発掘終了予定は7月29日であったが、範囲等確認調査完了前の知見に基づき契約されたため、範囲・期間とも大幅に増える結果となった。本格調査が終了したのは8月23日、調査面積は約5,000㎡であった。

第4節　昭和61年度調査体制

発掘調査は市教委が調査主体となり、社会教育課が所管した。現地における調査体制は次のとおりであった。

範囲等確認調査

現地調査期間　昭和61年6月9日～8月2日

調査主体　新潟市教育委員会（教育長　寺崎哲夫）

所管課　社会教育課（課長　鈴木忠）

事務担当　松岡道彦（芸術文化係長）　古井弘（同主事）　熊谷博純（同）

調査担当　藤塚明（芸術文化係主事）

調査員　小池邦明（新潟市社会教育課嘱託）　渡邊朋和（同）

発掘作業員（短期臨時職員）　青山彰子　阿部慶子　阿部フミ子　阿部美子　石垣敏夫　伊藤京子　浦山美穂子　大沢百合子　奥田寧子　倉茂真理子　佐藤松雄　鈴木五作　戸根富美江　豊島一　豊島正次郎　豊島初枝　豊島兵弥　豊島ヤイ　山賀朝男　渡辺多貴美

本格調査

本格調査は範囲等確認調査が予定より長期にわたったため、並行して行われた。調査体制は範囲等確認調査とほぼ同じであるため、調査員・発掘作業員だけを記す。

現地調査期間　昭和61年7月2日～8月23日

調査員　坂井陽一（新潟江南高校教諭）　酒井和男（新潟県文化財保護指導員）　戸根与八郎（新潟県教育庁文化行政課主任）　寺崎裕助（同文化財専門員）　小池邦明（新潟市社会教育課嘱託）　渡邊朋和（同）

発掘作業員（短期臨時職員）　阿部慶子　阿部フミ子　五十嵐カツミ　五十嵐博之　石垣敏夫　岩田廣　浦山美穂子　大沢サクミ　大沢百合子　桑野修　鈴木五作　鈴木真一　清野武　戸根富美江　豊島一　豊島初枝　豊島ヤイ　山賀朝男　大沢一之　大沢友樹　窪田吉夫　豊外和之　野村知行　山崎勝栄

第5節　整理作業

整理作業は、平成元・2年度の的場遺跡の本格調査により中断し、長期化した。各年度の体制は次のとおりである。この間、昭和63（1988）年4月1日に組織改正があり、発掘調査業務は新設された文化行政課が引き継いだ。また、平成3（1991）年4月1日に組織改正による課名変更があり、生涯学習課と課名を改めた。なお、範囲等確認調査にかかる報告書は「新潟市小丸山遺跡・的場遺跡範囲等確認調査報告書」として昭和62年3月31日に刊行し、公社からの受託にかかる報告書は、遺構数や遺物量が当初の予想を大きく上回ったため、「新潟市小丸山遺跡発掘調査概報」として昭和62年3月31日に刊行した。

昭和62（1987）年度

調査主体　新潟市教育委員会（教育長　寺崎哲夫）

所管課　社会教育課（課長　鈴木忠）

事務担当　松岡道彦（芸術文化係長）

調査担当　藤塚明（芸術文化係主査）

調査員　小池邦明（芸術文化係主事補）　渡邊朋和（同非常勤嘱託）　梶良成（同）

作業内容　遺物整理及び実測、出土木製品の樹種同定（奈良国立文化財研究所　光谷拓美氏）、土器付着物分析（国立歴史民俗博物館　永島正春氏）

昭和63（1988）年度

調査主体　新潟市教育委員会（教育長　寺崎哲夫）

所管課　文化行政課（課長　志水亘）

事務担当　松岡道彦（主幹・文化財係長）

調査担当　藤塚明（文化財係主査）

調査員　小池邦明（文化財係主事）　渡邊朋和（同非常勤嘱託）

作業内容　遺物整理及び実測、土器胎土分析（奈良教育大学　三辻利一氏）

平成3（1991）年度

調査主体　新潟市教育委員会（教育長　石井淳）

所管課　生涯学習課（課長　太田義昭）

事務担当　皆川泰男（主幹・文化財係長）　和田明彦（同主査）

調査担当　小池邦明（文化財係主事）

調査員　大森豊（文化財係主事）　本間桂吉（同）　板倉伝三郎（同非常勤嘱託）　野村政美（同）

整理作業員（短期臨時職員）　小林愛子　桜井恵子

作業内容　遺物整理及び実測

平成4（1992）年度

調査主体　新潟市教育委員会（教育長　石井淳）

所管課　生涯学習課（課長　太田義昭）

事務担当　皆川泰男（主幹・文化財係長）

調査担当　小池邦明（文化財係主事）

調査員　大森豊（文化財係主事）　本間桂吉（同）　板倉伝三郎（同非常勤嘱託）　野村政美（同）

整理作業員（短期臨時職員）　天野雅代　渋井和子

作業内容　遺物実測・トレース

平成5（1993）年度

調査主体　新潟市教育委員会（教育長　石井淳）

所管課　生涯学習課（課長　武藤紘一）

事務担当　和田明彦（文化財係長）

調査担当　小池邦明（文化財係主事）

調査員　大森豊（文化財係主事）　本間桂吉（同）　高橋亮（同）　野村政美（同非常勤嘱託）
渋井和子（同）

整理作業員（短期臨時職員）　天野雅代　森良子

作業内容　遺物実測・トレース及び図版作成、本報告書執筆・編集・刊行

第6節　調査経費

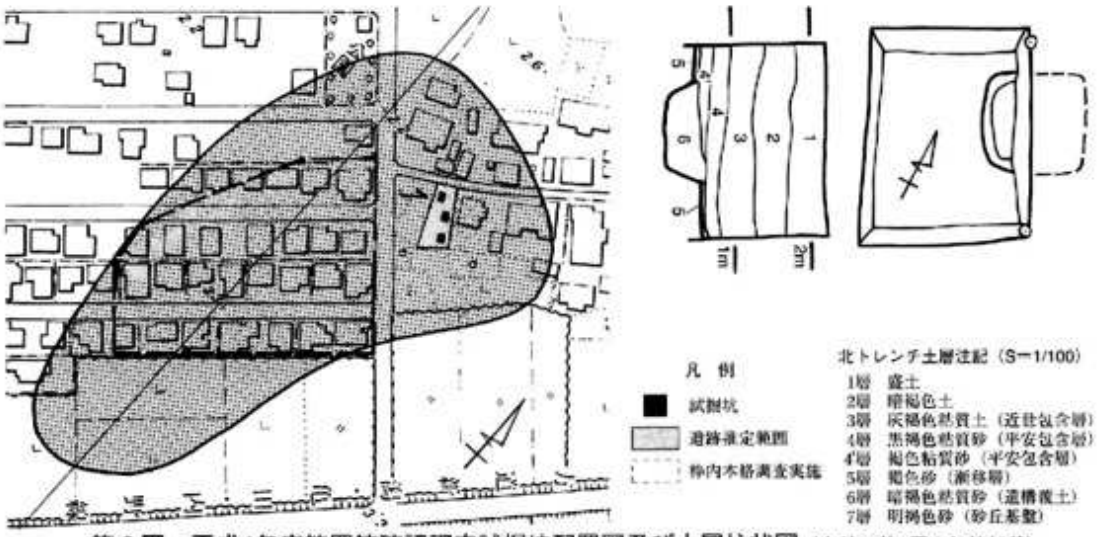
範囲等確認調査には国庫及び県費補助金の交付を受けた。補助対象経費は3,513,496円である。本格調査は公社からの受託費で行った。昭和61年度の受託費精算額は2,175,000円であった。なお、現場事務所設営・バックホー等重機・レベル等測量関係機材の経費は公社が直接執行したので、受託費には含まれていない。県教委からは範囲等確認調査、本格調査を通して職員派遣やヘルメット借用などの援助を受けた。昭和62年度以降の整理作業は新潟市の一般財源で行った。本報告書刊行までに要した事業費は約1,241万円である（第1表）。昭和62・63・平成3年度整理に要した経費は一般埋蔵文化財事務費の中から執行しており、第1表には含まれていない。

第1表　小丸山遺跡発掘調査にかかる年度・費目別経費　（単位　円）

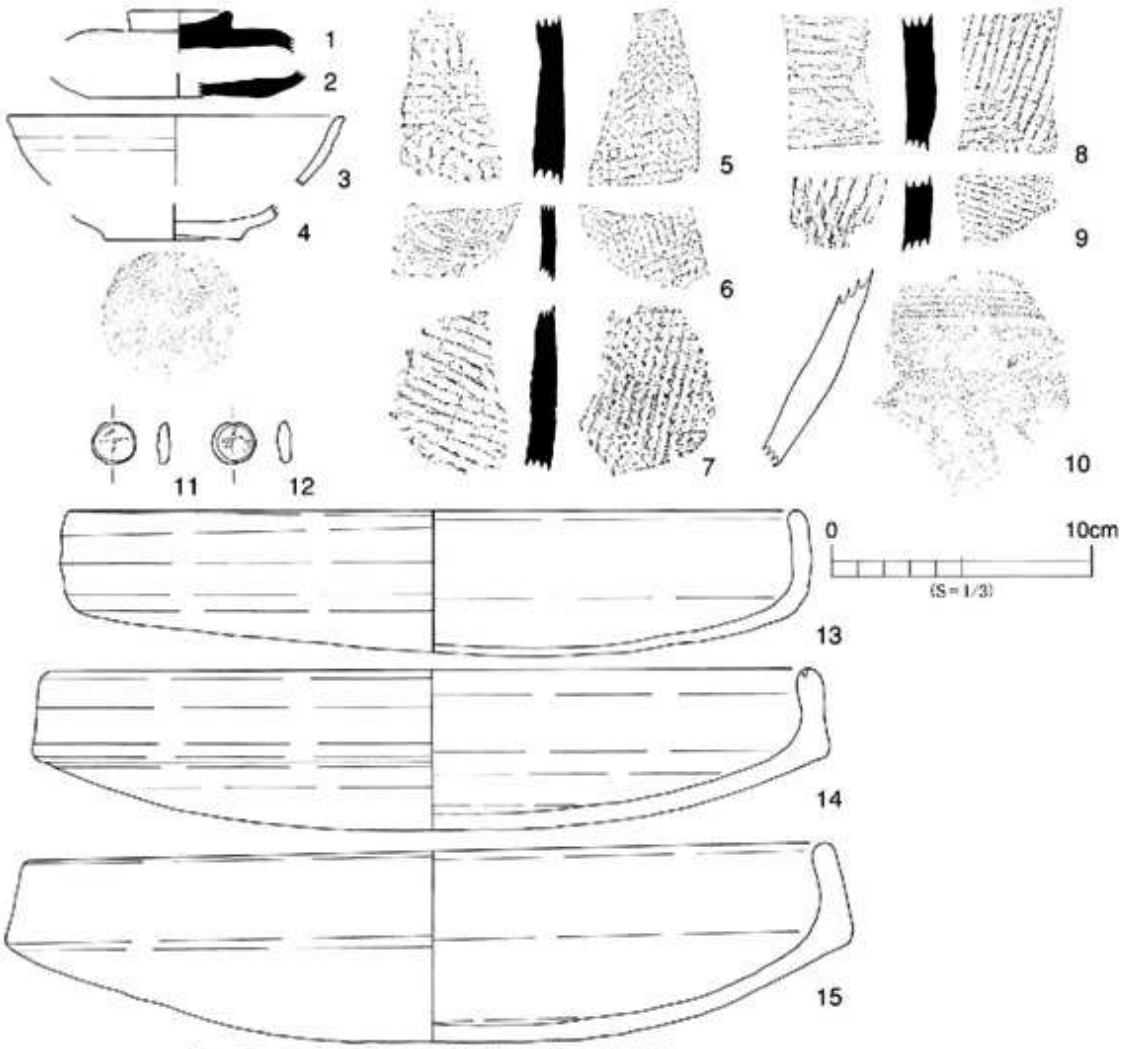
項　　目	昭和61年度 小計	昭和61年度 範囲等確認調査	昭和61年度 本格調査	平成4年度	平成5年度	計
職員手当	63,528	0	63,528	0	0	63,528
共済費	13,099	5,637	7,462	286,683	320,576	620,358
賃金	3,589,728	2,067,124	1,522,604	1,962,000	2,230,464	7,782,192
報償費	36,000	0	36,000	0	0	36,000
旅費	248,157	91,963	156,194	0	0	248,157
消耗品費	230,950	120,702	110,248	16,196	13,348	260,494
印刷製本費	403,106	123,270	279,836	0	1,897,053	2,300,159
使用料及び賃借料	1,104,800	1,104,800	0	0	0	1,104,800
計	5,689,368	3,513,496	2,175,872	2,264,879	4,461,441	12,415,688

第7節　その他

平成4年度に個人住宅建設予定地の確認調査を行い、遺物包含層・遺構を確認した。位置は昭和61年に本格調査をした東端から約20mの直り山集落内である。宅造による地面掘削が遺物包含層・遺構の深さまで達しないため、本格調査は実施していない。文献28から調査結果の一部を転載する（第6・7図）。北トレンチで確認された遺構は掘立柱建物の柱穴の一部と考えられ、1の須恵器杯蓋が出土した。1～10が平安時代、11～15が近世以降の遺物である。



第6図　平成4年度範囲等確認調査試掘坑配置図及び土層柱状図（文献28第8図を加筆転載）

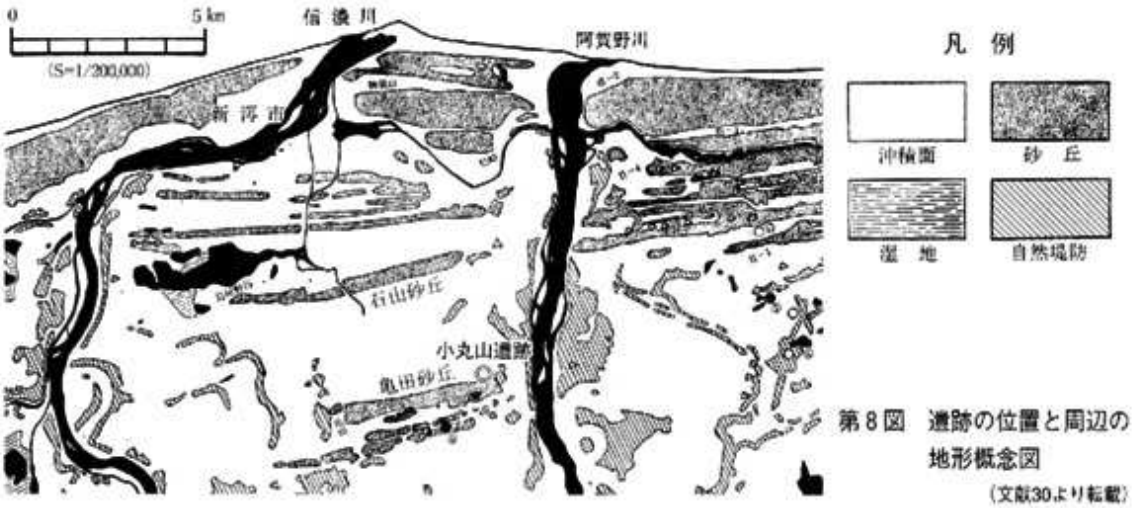


第7図　平成4年度範囲等確認調査出土遺物（文献28第4図より修正転載）

第２章　遺跡の立地と環境

第１節　地理的環境

新潟市のある越後平野は、信濃川と阿賀野川の運ぶ土砂により形成された沖積平野である。海岸平野部の地形は砂丘列、自然堤防による微高地、砂丘列の後背湿地に分けられる（第8図）。砂丘列が内陸側にも分布すること、一般の沖積平野と同様微高地が狭いことが特徴で、古くからの集落は砂丘列と微高地に立地している。遺跡は砂丘地に立地するものが多く、微高地は少ない。砂丘列は海岸線に平行して何列にも弧状に連なって発達し、内陸側から新砂丘Ⅰ、新砂丘Ⅱ、新砂丘Ⅲに大別されている。



第８図　遺跡の位置と周辺の地形概念図
（文献30より転載）

小丸山遺跡は、新砂丘Ⅰに分類される亀田砂丘の後列東端付近に所在する。現在の海岸線より約９km内陸に位置し、南側には旧地形図で標高17.4mの最高位（現大江山中学校付近、第10図参照）を持つ亀田砂丘後列が連なり、北側は幅約3kmの後背湿地を隔てて新砂丘Ⅱ（石山砂丘）を望む位置にある。また、東側約１kmには現在の阿賀野川河道がある。遺跡は、亀田砂丘後列が北西に小さく分かれて回りこんだ小砂丘上にあり、前列本体とは小さなくぼ地を隔てている（第1・9図）。この小砂丘は新砂丘１－４列に属し、後列とは別の砂丘である可能性が考えられている（文献25）。遺跡の調査時の地表面は２m前後と後列に

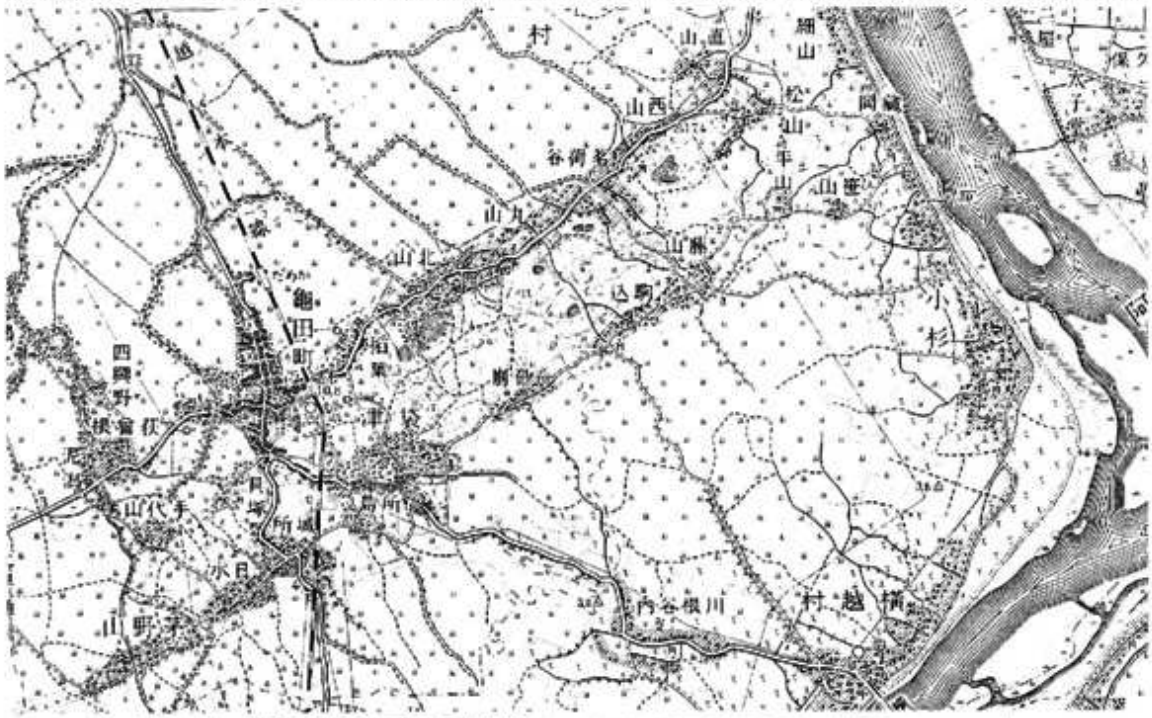
第９図　遺跡周辺の旧地形（図中の96が小丸山遺跡、61が寺り山B遺跡
文献25第4図より一部を転載 S=1/30,000）

比べ10mほど低く、周囲の水田面との比高は2mに満たない。調査地は大半が畑地となっており、ほぼ平坦である。畑地中央の高まりに南北方向の道路があり、この道路はかつては大江山中学校側へ通じていた。

第2節　周辺の遺跡

亀田砂丘は、新潟市・亀田町・横越村に広がる大きな砂丘である。このうち新潟市域は旧大江山村の範囲であり、大江山地区と呼ばれている。亀田砂丘及びその周辺地域には遺跡が多く分布しており、これまでに、新潟市では昭和47年に茗荷谷遺跡（第11図6）、横越村では昭和56年に小丸山遺跡（同27）、亀田町では昭和56年に中の山遺跡（同40）、平成元年に荒木前遺跡（同39）などで発掘調査が行われている。しかし調査されているのは一部の遺跡で、発掘調査の実施が一般化される以前に、宅地造成や砂採取などのために砂丘が崩されて、主要部分を失ったものが多い。

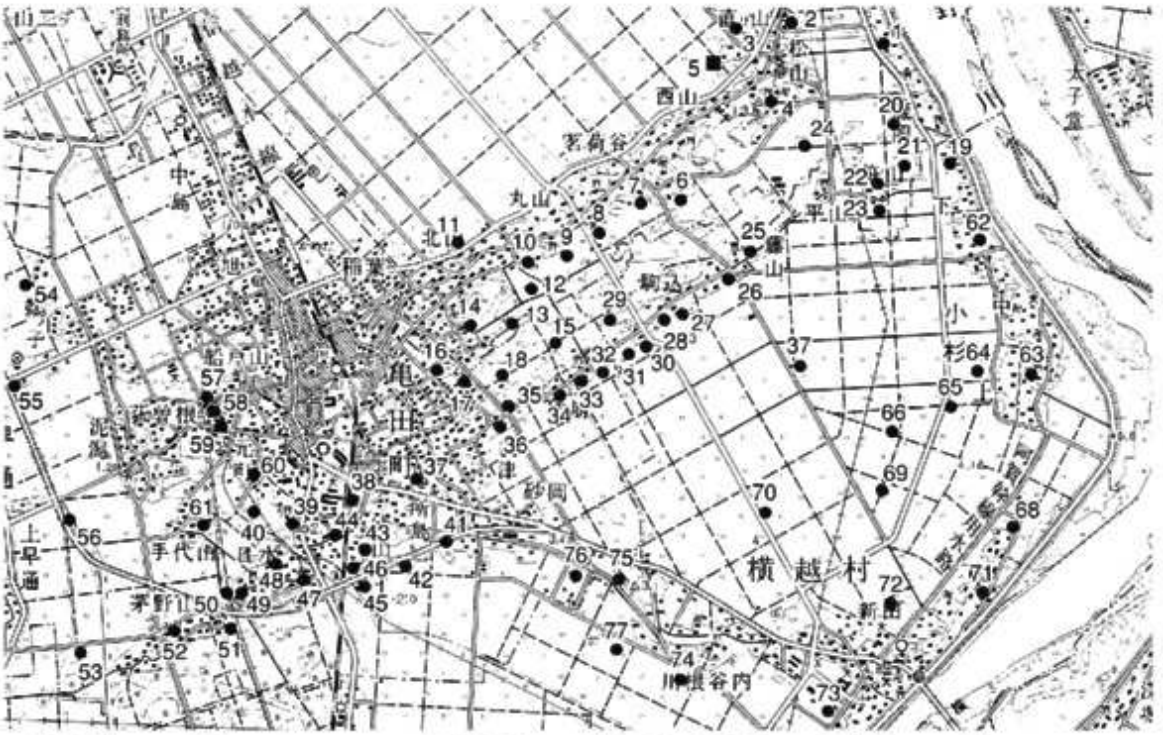
亀田砂丘周辺の遺跡の時期は、前列南斜面に立地する亀田町城山遺跡（同21）の縄文前期（円筒下層ｄ式）の土器が最も古く、それ以降近世までの各時代の遺跡が認められる。遺跡を時期や砂丘列別に見ると、縄文・弥生時代の遺跡が亀田砂丘前列に偏在する。市域では中山遺跡（同20）で縄文時代中期後葉（大木10式）の深鉢形土器が出土している。また、多量の石錘が出土したともいわれている。亀田町砂崩遺跡（同33）で縄文中期前葉（新保式）や、横越村前郷遺跡（同31）で縄文晩期後半の土器が採集されている。横越村小丸山遺跡（同27）では弥生時代中～後期の竪穴式住居が確認され、山ん家遺跡（同30）なども近接する時期に成立していたと推定されている。古墳時代には砂丘前後列とも遺跡数は減少し、周辺の自然堤防上に立地するものが若干目立つようになる。古墳時代初頭から前期の遺跡として、亀田町手代山排水路遺跡（同50）があげられるが、住居などの遺構を伴うものは少ない。その後中期から後期にかけてさらに減少する。新潟市茗荷谷遺跡（同6）



第10図　昭和6年の亀田砂丘と周辺（国土地理院地形図「新潟」昭和6年修正　S=1/50,000）

や亀田町荒木前遺跡（同39）など、奈良・平安時代は遺跡が最も多い時代である。しかし、奈良時代に成立したと思われる遺跡は少数で、平安時代半ばごろ成立する遺跡が大半である。ほとんどの遺跡において当該期の遺物が認められ、各遺跡の主要時期を占めるなど、平安時代半ばは亀田砂丘周辺において遺跡密度が最も高くなる時期である。しかし、ほとんどの遺跡が平安時代後半には途絶し、平安時代末～鎌倉時代以降まで存続する遺跡は今のところ確認されていない。再び遺跡がみられるようになるのは13世紀以降である。平安時代よりも遺跡数は少ないが、立地状況は似ている。亀田町三王山遺跡（同38）・中の山遺跡（同40）などで竪穴状遺構などが確認されている。

亀田砂丘前列以北の沖積地には今のところ遺跡は発見されておらず、後列以南とは対照的である。



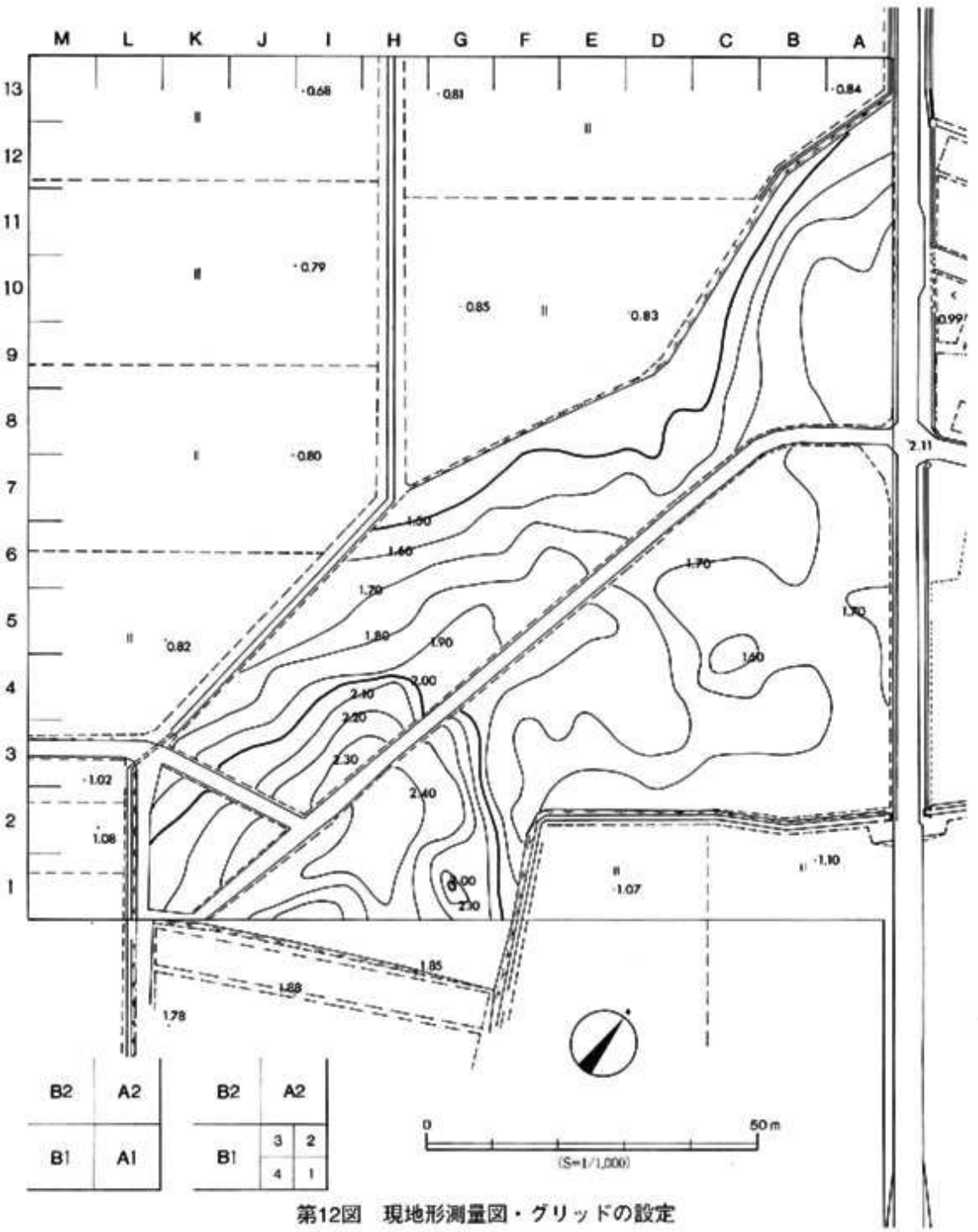
1	細山石仏	中世	27	小丸山遺跡	縄文・弥生・奈良・平安	53	早通南遺跡	平安
2	真り山A遺跡	平安	28	駒込島所遺跡	奈良・平安	54	鵜ノ子遺跡	平安
3	真り山B遺跡	平安	29	屋敷郷遺跡	奈良・平安	55	下西遺跡	古墳
4	鉄山遺跡	縄文・中世	30	山ン東遺跡	縄文・弥生・奈良	56	泥湯遺跡	平安・中世
5	小丸山遺跡	縄文・平安・中世・近世	31	前郷遺跡	縄文・弥生・奈良・平安	57	市助裏遺跡	平安・中世
6	茗荷谷遺跡	縄文中期・平安・中世	32	逢山遺跡	縄文・奈良・平安	58	川西遺跡	平安・中世
7	茗荷谷島珠遺跡	平安	33	砂崩遺跡	縄文・奈良・平安	59	孤山遺跡	奈良・平安
8	丸山遺跡	平安	34	前郷遺跡	縄文・平安・近世	60	目塚遺跡	縄文・奈良・平安・中世
9	清水が丘遺跡	平安	35	上ノ山遺跡	奈良・平安・近世	61	日水南遺跡	縄文・後期・奈良
10	大道外遺跡	平安	36	砂岡遺跡	平安	62	屋敷C遺跡	
11	北山遺跡	平安	37	茨島遺跡	平安	63	松龍寺遺跡	平安
12	彦七山遺跡	奈良・平安	38	三王山遺跡	古墳・平安	64	屋敷A遺跡	平安・中世
13	金塚山遺跡	奈良・平安	39	荒木前遺跡	平安・中世	65	山のハサバ遺跡	平安
14	前山遺跡	奈良・平安	40	中の山遺跡	奈良・平安	66	上田遺跡	縄文・奈良・平安
15	塚ノ山遺跡	平安	41	四田遺跡	平安	67	江尻遺跡	平安
16	向山遺跡		42	堰遺跡	平安	68	下郷遺跡	平安
17	塚ノ山遺跡	平安・近世	43	斉勝山遺跡	縄文・弥生	69	宮尻郷遺跡	奈良・平安
18	三篠岡遺跡	奈良・平安・中世	44	城山B遺跡	中世・近世	70	新田郷遺跡	奈良・平安
19	居附B遺跡		45	城山A遺跡	縄文・弥生・奈良・平安	71	下郷経塚	近世
20	中山遺跡	縄文・平安	46	牛道遺跡	平安	72	曽我島緑	平安
21	城山遺跡	縄文・古墳・平安・中世	47	手代山遺跡	弥生・古墳	73	横越館遺跡	中世
22	神明社裏遺跡	平安	48	日水遺跡	奈良・平安・中世	74	上郷C遺跡	平安
23	後山前遺跡	縄文・弥生・古墳・平安・中世	49	武左衛門裏遺跡	奈良・平安	75	川根谷内遺跡	平安
24	松山向山遺跡	平安	50	手代山排水路遺跡	古墳	76	上沼遺跡	奈良・平安
25	藤山遺跡	平安・中世	51	八幡前遺跡	中世	77	川根谷内島所遺跡	平安・中世
26	上の山遺跡	弥生・平安	52	姿源山遺跡	平安			

第11図　周辺の遺跡分布図（国土地理院地形図「新潟」昭和55年修正に加筆　S=1/50,000）

第３章　本格調査の概要

第１節　調査区の設定と調査方法

本調査に関わる開発地は、直り山集落南西に隣接する畑地大半を含むほぼ方形の区画と道路拡幅



第12図　現地形測量図・グリッドの設定

部の約2.1haである（第12図）。そのうち畑全域と水田の一部が遺跡に相当し、推定範囲は約8,700㎡である。調査区には、開発区画ラインを基に、その南東端を起点として一辺10m単位の大グリッドを設定した。グリッドの方向は、A列のラインが真北より約36度西偏する。また、このグリッドを四分する１辺５ｍの小グリッドを設け、「A1-1グリッド」と呼称した。遺物注記は「A1-1区」とした。当初の発掘予定地は2B･2D地区を中心とする約3,500㎡である（第2･4図）。調査の進行により、遺物の出土範囲が予想より北東側へ広がることがわかった。平安時代の遺構が認められる部分を調査拡大した結果、遺跡推定範囲約8,700㎡のうち、遺跡中心部にあたる約5,000㎡を調査した。

遺物包含層より上は重機で除去し、遺物包含層掘り下げ以降の作業は人力によって行った。包含層の遺物は小グリッド一括で取り上げた。遺構の遺物は、井戸や土坑については層位ごとに取り上げ、溝の一部については小区画を設けて取り上げた。

第２節　層序

第13図に基本層序を示す。上段は基盤砂層が傾斜し、落ち込んでいくところで、遺跡の北西端部付近、中･下段は遺跡中心部の層序である。基本層序はⅠ層が表土層、Ⅱ層暗～茶褐色層、Ⅲ層が青灰色あるいは淡茶褐～暗灰褐色粘土層、Ⅳ層が基盤砂層である。このうちⅢ層が平安時代の遺物包含層である。Ⅱ･Ⅲ層は、基盤砂丘が高い標高2.4m周辺（第12図）ではほとんど認められない。Ⅱ･Ⅲ層は色調の差により数枚に分けられ、やや暗味を帯びる腐食植物層を間にはさむ。Ⅲ層の色調は、調査区北西端側では上部黄灰色、下層になるにつれて灰白色であるが、そこより標高が0.8ｍほど高いD4-2グリッド付近では灰褐色、E4-1グリッド付近では暗灰褐色である。このように土層の色調が一様でなく同層中における遺構確認が困難であったため、Ⅳ層上面で遺構を確認した。また、Ⅲ層中に出土する遺物は、Ⅳ層上面で確認できる遺構と出土傾向が符合しており、原位置を保っているものと思われる。Ⅳ層上面（Ⅳa層）は黒褐色の砂層で、その下は茶～黄褐色砂層（Ⅳb層）、さらに下は灰褐色砂層と漸移的に変わる。黒褐色砂層は黄褐色砂層の上に平均して20～30cmの厚さで安定して認められる。その上の河川堆積物と推定されるⅢ層が堆積した微高地上に当時の人々は生活していたものと思われる。なお、水田部分のA1～F1グリッドでは、後世の開田によってⅣb層まで削平されていた。

第３節　調査の経過

調査開始時には開発地の作付けは停止され、開発に関わる周辺の土留め等基礎工事が行われていた。発掘地の表土とⅡ層を除去し、排土で水田を埋めたてる工事も、造成工事の一環として先行して行われた。畑地内には、確認調査で設定された第1トレンチが仮水路となり、第2～4トレンチはまだ調査未了の状態であった。開発工程には時間の余裕がないことが示されていたため、６月14日から７月１日までは、事前土工として実施した。また調査は地区（第4図１Ａ～４Ｃ地区）ごとに、工事と並行して着手していくことになり、調査地については発掘終了区から順次埋め戻すこととした。当初見込みより包含層が厚く残っており、また、遺構も良好に保存されていたことから、調査は長期化することが予測されたため、7月上旬に県教委に調査の進行及び遺跡の状況を報告し、下旬に公社と調査期間の延長について協議した。この時点で畑地ほぼ全域で遺物が確認され、また約1,000㎡

の調査未了地区を残して調査を終了できないことを伝え、8月上旬を期限として調査を延長することとした。しかし、延長期間でも調査は終了せず、結果的に最終造成工事の直前まで調査を継続した。16日に現地説明会を行い、23日に調査を終了した。

以下に調査経過を作業日誌より抜粋する。遺構番号は、確認当初の番号から整理後の番号へ訂正したものである。

6月14日　重機により２Ａ・２Ｃ・３Ａ地区遺物包含層上面まで除去終了。

18日　C4・C5・D5・E5・D6・E6・F6グリッドの遺物包含層上面まで除去終了。

20日　１Ａ・２Ａ地区精査井戸1基、土坑１基確認。４Ｂ地区遺物包含層上面まで除去。

23日　1号土坑より墨書土器・くるみ・木片出土。

24日　2号井戸半裁し、土層堆積状況確認。ポンプを入れて排水したが、湧水量多し。3号井戸掘り下げ。3層より須恵器破片、5層より木皿、6・7層にかけて斎串数本出土。

26日　雨のため現場作業中止。遺物の水洗。

28日　３Ａ・３Ｂ地区精査。

7月１日　5号井戸を掘る。1層から曲物出土。I4・5グリッド、J4グリッド遺物包含層掘り下げ。井戸と思われる遺構を確認。

２日　表土除去全区画終了。

３日　３Ａ・３Ｂ地区精査。小穴多数掘り終えた後、全測図作成。撹乱状の小穴多し。

４日　B2-2・3グリッド、C2-2グリッド遺物包含層掘り下げ。遺物多量。

12日　１Ｂ地区の遺構実測終了。

14日　2号溝掘り下げ終了。確認調査時に第4トレンチ集中区2としたものと同一であることが判明。G2・3グリッドに7号井戸確認。完形の須恵器無台杯、木片などが出土した。

15日　雨のため現場作業中止。

16日　7号井戸から須恵器折縁杯出土。底部に墨書あり。博物館実習生参加。

21日　２Ｄ地区小穴多数掘り下げ終了。2間×3間の1号掘立柱建物検出。新潟北高校石原先生、羽二生先生ほか高校生4名遺跡見学。

22日　２Ｂ・２Ｄ地区の平板実測開始。

24日　１Ｃ地区精査終了。土坑や多数の柱穴見つかる。江南高校坂井氏土壌サンプル採取。

25日　A4・5グリッドに5間×2間の12号掘立柱建物検出。柱根の残存状況良好。

26日　12号掘立柱建物の北西側に庇の柱穴列確認。また、4号溝が大きく取り巻くように走っている模様。並行して４Ｂ・４Ｃ地区精査始めたが、遺構少ない。

30日　３Ａ区9号井戸で方形の井戸枠が出土。

31日　１Ｃ地区北側溝状遺構掘り下げ終了。重複しているものあり。

8月１日　１Ｃ地区の全体写真撮影。

２日　２Ｄ地区小穴群のエレベーション図作成。建物を少なくとも2棟確認。

４日　１Ｃ地区北西側へ遺構が広がっていたため拡張。

６日　9号井戸から斎串、ひょうたん、箸、くるみや梅の種子など多数出土。

８日　大江山中学校屋上より遺跡全体写真撮影。

9日　４Ｂ・４Ｃ地区のエレベーション図終了。平板実測開始。

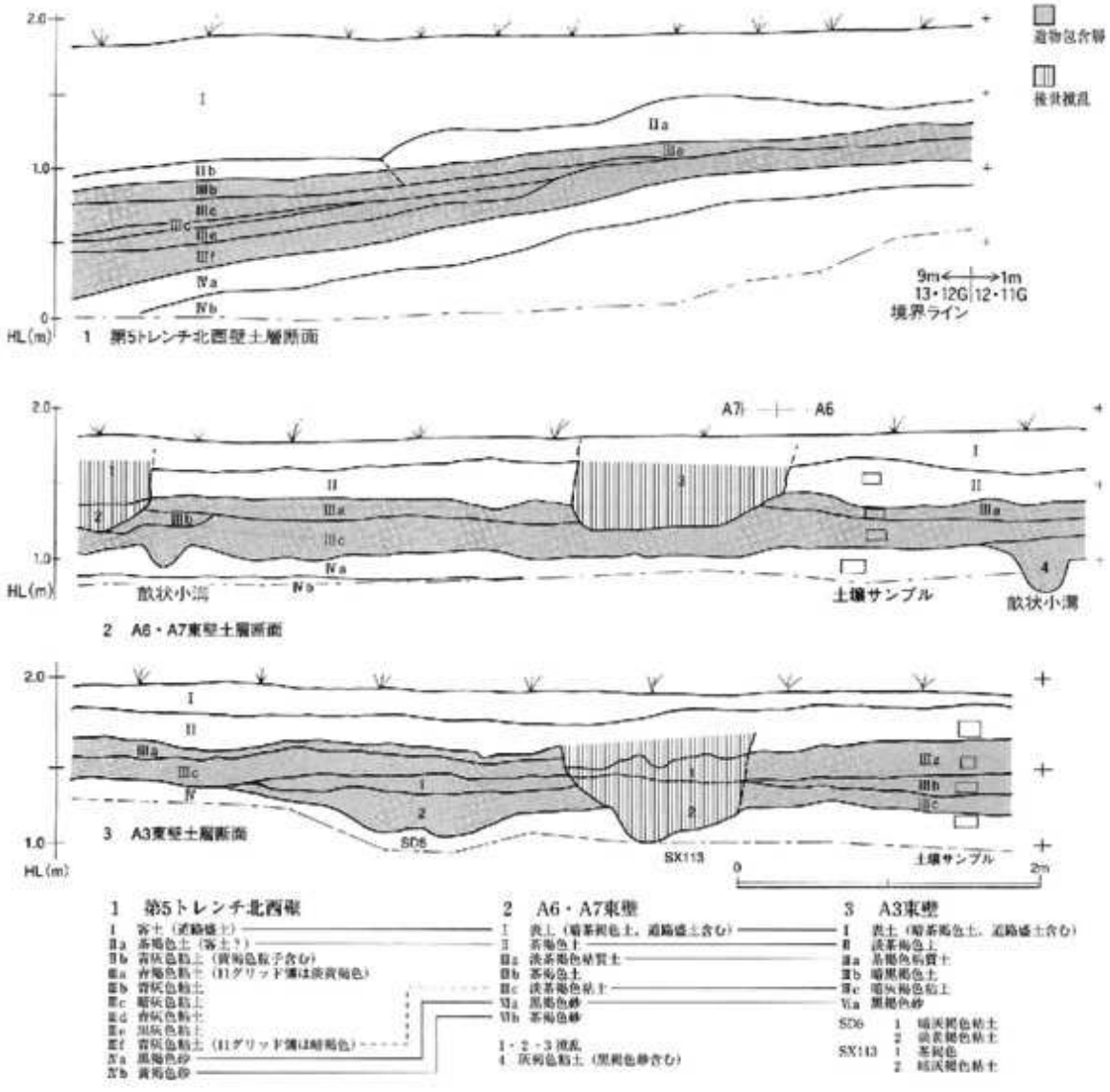
11日　調査区道路側セクション図作成。

13日　12号掘立柱建物と雨落溝（4号溝）の実測。

16日　午後2時より現地説明会。見学者多数。

20日　遺物及び機材一部撤収。

23日　レベリング・エレベーション図作成。本日をもって終了。



1　第5トレンチ北西壁土層断面

2　A6・A7東壁土層断面

3　A3東壁土層断面

1　第5トレンチ北西壁

2　A6・A7東壁

3　A3東壁

第13図　基本層序（文献26より転載　S=1/50）

第４章　検出した遺構

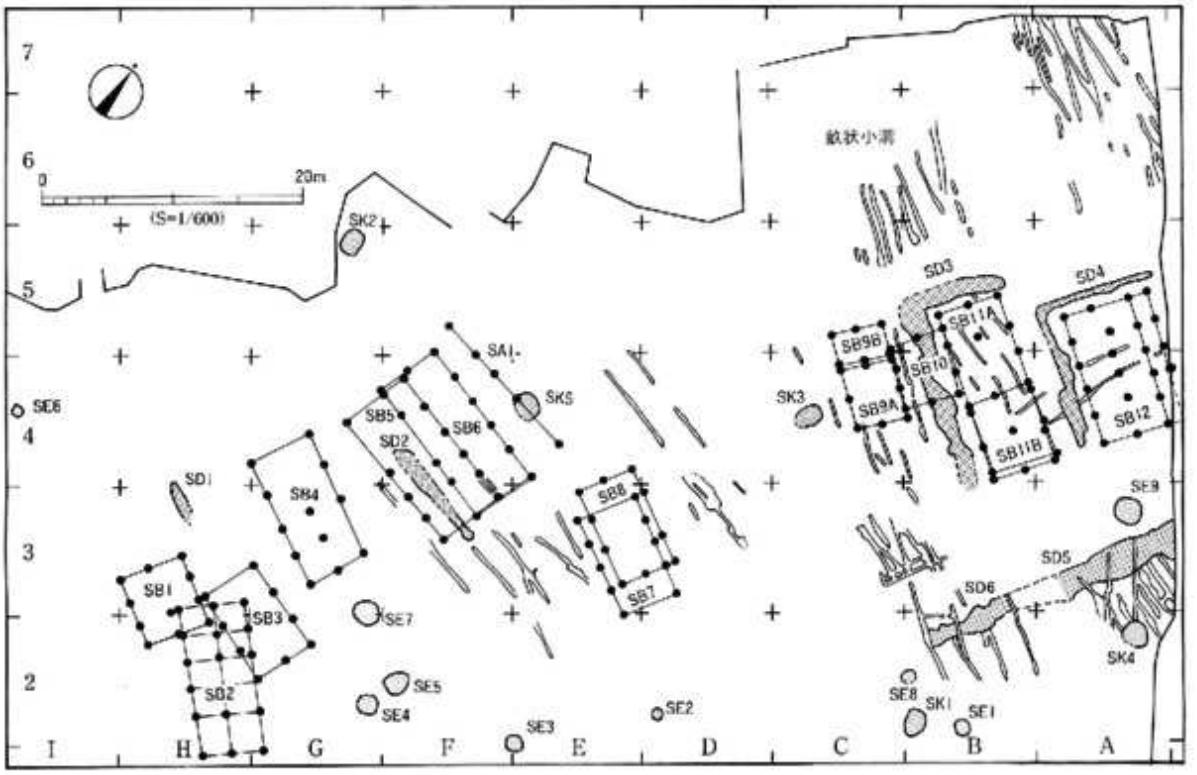
第１節　平安時代

検出した遺構のほとんどが平安時代に属し、掘立柱建物14棟・柵列１列・井戸９基・溝６本・土坑5基・畝状小溝多数・性格不明遺構9基等がある。なお、範囲等確認調査で遺物集中区としたもののうち、本格調査で遺構の一部であることが判明したものは、当該遺構の中に含め記載した。また、SD2～4については掘立柱建物に伴う施設と考えられるため、当該掘立柱建物の項で記載した。

遺構の多くは、Ⅳ層黒褐色砂層上面で確認されており、遺構確認面の標高は1.1～1.5mである。概ね調査区北東から南西方向に広がり、掘立柱建物は微高地の南東側緩斜面に西側と東側に大きく2群に分かれている。それぞれの建物群の東側に井戸があり、建物に近接して畝状小溝が数本を単位として存在する。土坑は不規則に散在している。一部の畝状小溝は北東部へ広がる。

第１項　掘立柱建物

14棟を識別した。柱間の多い方向を桁行（長軸）、少ない方向を梁行（短軸）とし、間数が同じ場合は長辺を桁行とした。柱穴の平面形は確認面での形状を記した。長軸の向きは、SB9Bを除き北から45～74度西偏する東西棟建物である。14棟の建物以外にも多くの柱穴状の遺構があり、さらに数



第14図　遺構配置図（文献26第32図に加筆）

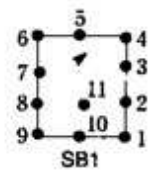
棟の建物が存在した可能性がある。建物の規模・方位等については第2表、柱根については第3表にまとめた。奈良国立文化財研究所光谷拓実氏に遺存状況のよい柱根の樹種同定をして頂き、第3表に示した。

第2表　掘立柱建物・柵列一覧

遺構名	柱間数(桁×梁)	北側桁行寸法(m)	東妻梁行寸法(m)	柱穴掘形(cm)	付帯施設等
	面積(㎡)	南側桁行寸法(m)	西妻梁行寸法(m)		
SB1	3×2	5.7 (1.8・2.1・1.8)	4.8 (2.4等間)	不定形　径40～50・深さ22～25	
	27.44	5.7 (2.1・1.8・1.8)	4.8 (2.4等間)		
SB2	5×2	11.4 (2.1・1.9・2.1・2.3・3.1)	4.7 (2.35等間)	円形　一辺40～50・深さ24～57	
	55.53	11.3 (2.1・2.0・2.0・2.3・2.9)	5.0 (2.4・2.6)		
SB3	3×2	7.4 (2.7・2.4・2.3)	4.7 (2.3・2.4)	円形　径20～40・深さ25～45	
	34.27	7.5 (2.5・2.4・2.6)	4.5 (中柱なし)		
SB4	4×2	10.3 (2.5・3.1・2.3・2.4)	4.8 (2.4等間)	円形　径30・深さ30～45	
	50.62	10.3 (2.8・2.9・2.1・2.6)	5.0 (中柱なし)		
SB5	5×1	11.6 (2.7・2.5・2.2・2.1・2.4)	5.0	円形・隅丸方形　一辺40～60・深さ21～40	庇付か
	61.76	11.8 (5.0・2.4・2.1・2.3)	5.5		
SB6	5×2	12.2 (2.5・2.3・2.3・2.3・2.8)	5.2 (中柱なし)	円形・不定形　一辺40～60・深さ34～62	雨落溝 (SD2)
	60.26	12.1 (2.5・1.9・2.4・2.5・2.8)	4.8 (2.4等間)		
SB7	4×1	8.1 (2.0・1.9・2.0・2.3)	4.6	円形　径30～50・深さ25～30	
	35.23	7.9 (1.9・2.0・1.9・2.1)	4.7		
SB8	3×2	7.9 (2.3・2.5・2.0)	4.4 (2.4・2)	隅丸方形　一辺30～50・深さ20～36	
	34.32	7.9 (2.4・2.5・3.0)	4.4 (2.4・2)		
SB9A	2×2	4.6 (2.3・2.3)	3.8 (1.9等間)	円形　径30～50・深さ24～43	
	16.5	4.4 (2.3・2.1)	3.8 (1.9等間)		
SB9B	2×1	3.8 (1.8・2.0)	2.4	円形　径30～50・深さ22	
	9.34	3.8 (1.8・2.0)	2.5		
SB10	3×2	5.0 (1.6・1.6・1.8)	4.2 (2.1等間)	円形　径40・深さ24～38	
	20.79	4.7 (1.7・1.6・1.4)	4.2 (2.0・2.2)		
SB11A	5×2	13.2 (2.4・1.9・3.2・2.1・3.6)	4.8 (2.2・2.6)	円形・隅丸方形　一辺50～70・深さ43～70	雨落溝 (SD3)
	65.66	13.2 (2.3・2.5・3.0・2.2・3.2)	4.8 (2.4等間)		
SB11B	2×2	5.8 (3.2・2.6)	5.0 (中柱なし)	隅丸方形　一辺50・深さ35～60	
	29.07	6.1 (3.4・2.7)	5.1 (2.8・2.3)		
SB12	5×2	10.2 (2.1・2.0・2.0・1.9・2.2)	5.0 (2.5等間)	円形・隅丸方形　一辺80～100・深さ54～70	北側庇付、雨落溝 (SD4)
	66.30	10.2 (2.2・1.8・1.9・2.0・2.3)	5.0 (2.5等間)		
	庇部分3 (以上)	残存長6.1 (2.1・2.2・1.8)	庇部分1.5	円形　径40～60・深さ44～48	
SA1	4	12.4 (3.0・2.0・2.6・4.8)	—	円形　径25～50・深さ30～50	

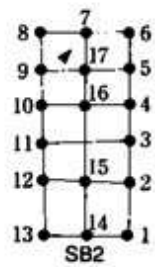
注　＊1　桁行の寸法は西側から数えた。　＊3　SB5の南側桁行西から2番目柱穴なし。
　　＊2　梁行の寸法は北側から数えた。　＊4　SB9Bのみ南北棟。

SB1（第34図・写真図版2･4）　H2･3グリッドにある3間×2間の東西棟建物で、方位はN－58°－Wである。柱間寸法は、梁行は等間隔であるが桁行はばらつきがある。なお、東側1間目の棟通りに間仕切りと思われる柱穴が存在する。柱穴は径40～50cm、深さ22～28cmで、平面形は円形または隅丸方形である。SB2・SB3と重複し、SB1第10柱穴がSB2第9柱穴に切られていることから、SB1がSB2より古いと考えられる。



SB1

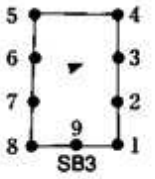
SB2（第34図・写真図版2･4）　G1･2、H1～3グリッドにある5間×2間の東西棟建物。方位はN－45°－Wである。桁行の北から3間分の柱列と南から2間分の柱列の軸方向がわずかにずれており、北側3間×2間の総柱建物1棟目と別の建物1棟が重複している可能性も残るが、ここでは1棟の総柱建物として扱った。



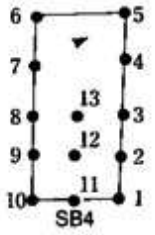
SB2

南から3間目の束柱は検出されなかった。柱穴は、円形で径40～50cm、深さ24～57cmである。また、第3柱穴がSB3第3柱穴を切ったと思われることから、SB2はSB1・SB3よりも新しいと考えられる。

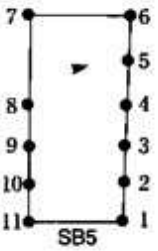
SB3（第34図・写真図版2・4）　G2・3、H2・3グリッドにある3間×2間の東西棟建物。方位はN－70°－Wである。柱穴の平面形は円形で、径20～40cm、深さ22～45cmである。



SB4（第35図）　F3・4グリッドにある4間×2間のやや歪んだ東西棟建物で、方位はN－61°－Wである。東側1間目と2間目の棟通りには各々柱穴が存在する。柱穴は円形で径約30cm、深さ30～45cmである。昭和60年時の事前調査で検出したNo.10トレンチの落ち込み（第2図、図中の●）が第2柱穴にあたる。

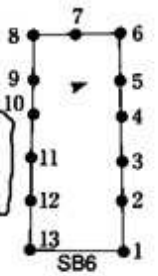


SB5（第36図・写真図版2・4）　F3・4グリッドにある5間×1間の東西棟建物。方位はN－74°－Wである。柱穴の形状は、径40～60cmの不整円形のものや隅丸方形のものが混在する。深さ21～40cmである。第10～12柱穴の南側約0.9mの位置に径20～30cmの柱穴状の穴が3基並び、庇の可能性がある。SB6と重複するが、新旧関係は不明である。

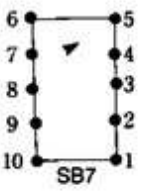


SB6付SD2（第36図・写真図版2・4）　E4、F3・4グリッドにある5間×2間の東西棟建物で、方位はN－74°－Wである。東妻中柱は検出されなかった。柱間寸法は、梁行が西妻で2.4m等間、桁行は西側1間目と5間目は北側柱列・南側柱列とも2.5m・2.8mと等しい。2～4間は南北で一致しないが、北側柱列の西から第2～4間がいずれも2.3mと等しく、規則性がうかがえる。柱穴は径40～60cmの円形や不定形で、深さ34～62cmである。

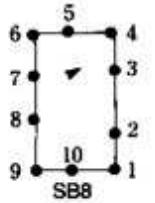
SD2は、SB6南側柱列の南方約1mのところにある。長さ5.8m、最大幅1.2m、深さ0.3mの溝で、位置関係からSB6に伴う雨落溝と判断した。確認調査時の第4トレンチ第2集中地点とほぼ重なり、ここから出土した遺物はSD2出土として取り扱った。覆土は4層に分かれ、2・3層に遺物を多く含む。



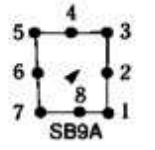
SB7（第35図・写真図版2）　D3、E3グリッドにある4間×1間の東西棟建物で、方位はN－61°－Wである。柱穴は、径30～50cmの円形で、深さ25～30cmである。SB8と重複するが、切り合う柱穴がなく、新旧関係は不明である。SB8とほぼ同規模・同方向を示すことから、建て替えの可能性がある。



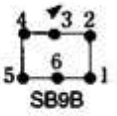
SB8（第35図・写真図版2）　D3、E3・4グリッドにある3間×2間の東西棟建物で、方位はN－61°－Wである。柱穴は径30～50cmの円形で、深さ20～36cmである。第3・第4柱穴に柱根が残っていたが、遺存状況が悪く、図示していない。



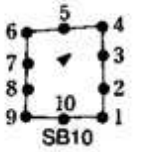
SB9A（第37図）　C4グリッドにある2間×2間の東西棟建物で、方位はN－46°－Wである。柱穴は径30～50cmの円形で、深さ24～43cmである。第7柱穴から柱根が出土した。またSB9B・SB10に切られており、より古いと思われる。またSB9Bと合わせて1棟の建物であった可能性を残し、第4柱穴がSB9Bの第6柱穴に切られていることから、西妻が建て替えられた可能性がある。



SB9B（第37図）　C4・5グリッドにある2間×1間の南北棟建物で、方位はN－37°－Eである。東西方向の柱筋がSB9Aと揃う。柱穴は、円形で径30～45cm、深さ22cmである。SB9Aと合わせ、1棟の建物であった可能性を残す。

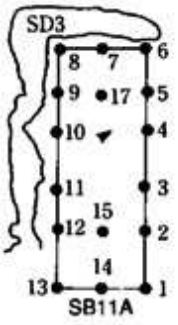


SB10（第37図）　B4・5、C4グリッドにあるやや歪んだ四角形の3間×2間の東西棟建物である。方位はN－49～52°－Wである。柱穴は円形で径40cm、深さは24～38cm前後である。第5・第7・第9柱穴に柱根が遺存していたが、いずれも劣化していた。第5柱穴出土の柱根は、遺存径6.4cmの芯持材で下端はやや平らに加工されていた。第7・第9柱穴より出土したものは、加工痕は確認できなかった。SB9A・SB9B・SB11Aと重複し、SB9Aより新しいと思われる。SB9B・SB11Aとの新旧関係は不明である。

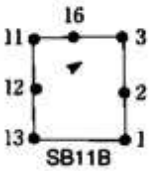


SB11A付SD3（第37図・写真図版3·5）　B4・5グリッドにある5間×2間の大形の東西棟建物で、方位はN－55°－Wである。南側3間がSB11Bと重複するが、新旧関係はわからない。柱穴は、1辺50～70cmの隅丸方形または円形である。第15・第16柱穴は間仕切りと思われる。第5柱穴から、土師器無台椀（65）が柱穴中央付近から出土し、建物廃絶に伴う埋納の可能性がある。

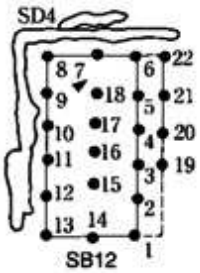
SD3は、SB11Aとの位置関係からこれに伴う雨落溝と判断した。建物北西側をSD3A、南側をSD3Bとした。SD3Aの南端が確認調査時のトレンチで壊されている。建物の西から南側にかけてL字型にめぐり、総延長約22m、幅0.5～0.7m、深さ0.4mである。断面形は逆台形状となる。西妻柱列との間隔は0.8～0.9m、南側柱列との間隔は0.9～1.3mである。SD3Aに比べ、SD3Bは幅が一定しない。SD3Aの覆土は4層に分けられるが、4層は調査時に掘り過ぎた可能性がある。SD3Bの覆土は3層に分けられ、1層に遺物を含む。



SB11B（第37図・写真図版3·5）　B4-1·2グリッドにある2間×2間の建物である。柱穴は1辺50～70cmの隅丸方形である。第1・第2柱穴に柱根が残る。第1柱穴出土の柱根は遺存状況が悪く、加工痕は不明である。第2柱穴出土の柱根は、一辺約20cm程度の角柱状で、下端を平らに加工している。柱穴の大きさがSB11Aとほぼ等しく、SB11Aの桁行南側3間分を建て替えた可能性も残る。



SB12付SD4（第37·38図・写真図版3·6～8）　A4・5グリッドにある身舎5間×2間の北面庇付東西棟建物で、方位はN－54°－Wである。東妻柱列をSB11Aと揃える。庇部分は調査区外へ延びており、北東角の柱穴は確認できなかった。桁行の柱間寸法は1.8～2.3mと不揃いである。身舎の柱穴は一辺80～100cm、深さ60～70cmの方形ないしは隅丸方形で、東妻の柱穴はやや小ぶりである。柱穴の覆土には黒褐色砂と青灰色砂が互層に堆積しているものもみられた。柱根が良好に遺存しており、身舎の柱根は一辺15～20cm程度の角柱状のものと円柱状もしくは多角形に外周を加工されているものとがある。上端は腐蝕のため不明である。下端は平らに加工されているものが多い。また、第4・第9柱穴では礎板が遺存していた。第4柱穴は最大厚7.6cmほどの厚い板が1枚、第9柱穴は厚さ1～1.5cm、長さ16～



第3表　柱材一覧

図版番号	図示番号	分析資料番号	遺構番号	種類	樹種	寸法(残存値　単位cm) 長	幅(径)	厚さ	備考
		分析せず	SB8　p3	柱根					劣化により計測・同定できず
		分析せず	SB8　p4	柱根					劣化により計測・同定できず
37	1	15	SB10　p5	柱根	広葉樹	28.8	径6.4		芯持材　乾燥のため同定できず
写真のみ		16	SB10　p7	柱根	広葉樹				乾燥のため同定できず
写真のみ		17	SB10　p9	柱根	クリ				
	2	18	SB11A　p2	柱根	スギ	36	径19.6		断面一辺約20cmの角柱状
		19	SB11A　p1	柱根	クリ				
	3	1	SB12　p1	柱根	スギ	25.6	15.6	8.8	
	4	2	SB12　p2	柱根	スギ	25.6	22.4	17.6	断面一辺約18cmの角柱状
	5	3	SB12　p3	柱根	クリ	24.8	径22.0		芯持材
	6	4	SB12　p4-1	柱根	スギ	21.8	22.8	11.2	断面一辺約17cmの角柱状
	7	5	SB12　p4-2	礎板	コナラ亜属	32.4	径28.8	7.6	板目　樹皮わずかに残る
	8	6	SB12　p5	柱根	スギ	51.6	23.6	25.2	
	9	7	SB12　p6大	柱根	スギ	35.8	24.2	11.6	
	10	分析せず	SB12　p6小	礎板		37.2	14.4	4.4	
	11	8	SB12　p8	柱根	クリ	29.6	径20.8		芯持材　断面円に近い多角形
	12	9	SB12　p9	柱根	スギ	25.2	17.8	13.2	
		分析せず	SB12　p9-1	礎板		21.6	9.8	1.4	
		分析せず	SB12　p9-2	礎板		16.1	5.1	1.4	
		分析せず	SB12　p9-3	礎板		30.8	7.8	1.6	
		分析せず	SB12　p9-4	礎板		24.1	8.2	0.8	
38	17	10	SB12　p10	柱根	クリ	22.8	18.0		芯持材　断面円に近い多角形
	18	11	SB12　p11	柱根	クリ	42	21.4		
	19	12	SB12　p12	柱根	クリ	47.6	20.2		芯持材　断面円柱状
	20	13	SB12　p21	柱根	スギ	33.8	18.0		
	21	14	SB12　p22	柱根	クリ	16.5	12.8		

31cmの長さの異なる板が4枚使われている。樹種同定によると、スギとクリが使用されており、スギは板目材、クリは芯持材が用いられている。身舎の棟通りには不規則に円形の小穴が4基確認されており、束柱であった可能性がある。庇部分の柱穴は、径40～60cm、深さ40～48cm程度の円形で、身舎よりやや小ぶりである。庇の柱根は、遺存状態が悪く図示できなかった。

SD4は、SB12との位置関係からこの建物に伴うSB12の雨落溝と判断した。西側をSD4A、南西側建物よりの細い溝をSD4B、同じく南側の不定形に広がる溝をSD4Cとした。西妻柱列との間隔0.8～0.9m、南側柱列との間隔は0.9～1.3mで、建物の西から南側にかけてL字型にめぐる。総延長約19.4m、幅0.5～0.7m、深さ0.4mで、断面逆台形である。覆土は上層に遺物や炭化物を含む灰褐色粘土、下層に粘土を含む灰褐～黒褐色砂が堆積していた。遺物はA4-3・4グリッドに集中し（第37図）、出土状況から一括廃棄された可能性が高い。SB12は当遺跡で検出された掘立柱建物の中では最も広い面積を持ち、柱穴も大きく、庇や雨落溝がつくなど、卓越した内容を示す。

第2項　柵列

SA1（第36図・写真図版2･4）　確認できたのはSA1の1列のみである。E4、F4･5グリッドにあり、柱間4間で、方位はN－81°－Wである。柱穴は径35～45cmの不整円形で、深さ30～50cmである。柱穴の間隔が揃わず、第4柱穴と第5柱穴の間隔が大きく開く。SK5と重複し、SK5より新しいものと思われる。SB6に伴う可能性がある。

第3項　溝

6本の溝を検出した。雨落溝としたSD2～4以外について記述する。

SD1　H3グリッドにあり残存長3m、最大幅1m、深さ0.06～0.07mの東西溝（N－53°－W）である。他の溝と比べ、出土遺物が少なく浅いことなどから、近世以降の可能性が残る。

SD5（第39図・写真図版12）　A3グリッドにあり、SB11A･SB11B･SB12の東妻から東側約9mに

位置する、方位N－72°－Wの、南北方向の区画溝である。位置や規模から、これらの建物群に関する区画溝と考えられるが、東妻とは方位が8度異なる。SX2～5の調査後、その下層から検出された。幅1～2.5m、深さ0.2～0.3mで、断面形は逆台形である。北端は調査区外へ延びている。土層は2層に分かれ、1層下部から2層にかけて遺物が含まれていた。平面的にはA3-2·3グリッドに集中し、一括廃棄の可能性が高い。

SD6（第39図）　B2·3グリッドにある、方位N－22°－Eの南北溝である。第1トレンチを挟み、SD5の延長線上にあるが、同一遺構であるか不明である。溝幅0.9～2.0mと一定しない。遺物はほとんど出土しなかった。

第4項　井戸

井戸は9基確認された。井戸枠のないもの6基、円形枠・方形枠使用のもの各1基、水溜に曲物を用いるもの1基である。井戸の平面形の寸法は、形状が円形に近いものは最大径、四角形に近いものは長辺·短辺を記し、深さは確認面から最深部までの計測値を記し、括弧内数値は、底面の標高を示す。なお、SE1～3周辺は調査時には水田になっており、耕作のため上部が削平されていた。本来の掘り込み面は検出面より0.3～0.4mほど高いと思われる。SE2·SE3·SE4·SE9で井戸の埋め戻しなどに伴うと思われる遺物の出土及び土層堆積が確認された。一括性の高い資料と考えられる。

第4表　井戸部材一覧

図版番号	図示番号	遺構番号	遺物番号	井戸側の形状	木取	寸法（cm） 残存長	幅	厚	備考
40	22	SE2	SE2-1	円形刳抜枠	板目	61.5	63.0	6.7	SE2-1～5同一材を分割　ちきり穴あり
	23	SE2	SE2-2	円形刳抜枠	板目	55.5	40.5	6.0	
	24	SE2	SE2-3	円形刳抜枠	板目	61.5	31.8	6.0	
	25	SE2	SE2-4	円形刳抜枠	板目	59.3	36.0	6.2	
	26	SE2	SE2-5	円形刳抜枠	板目	63.8	33.0	6.3	ちきり穴あり
	27	SE2	SE2-6	縦板	板目	51.6	7.5	4.8	
	28	SE2	SE2-6	縦板	板目	35.6	8.3	2.4	
	29	SE2	SE2-6	縦板	板目	40.2	12.0	2.0	
	30	SE2	SE2-6	縦板	板目	33.0	12.0	1.7	
	31	SE2	SE2-6	縦板	板目	43.2	21.3	3.0	
		SE5		曲物	不明	径40	高22		状態が悪く図化できない
42	32	SE7	②	不明	板目	63.0	6.2	1.4	
	33	SE7	④	不明	板目	42.9	11.0	5.9	
	34	SE7	③	不明	柾目	32.7	8.7	1.2	
	35	SE7	⑥	不明	板目	26.9	4.4	2.0	
	36	SE7	⑤	不明	板目	10.8	9.8	1.5	
	37	SE7	1①	不明	柾目	第42図参照			
43	38～48	SE9	1～11	方形木枠	板目	第44図参照			11枚以上で1組
	49	SE9	W1	縦板	板目	39.3	9.0	1.5	井桁北面
	50	SE9	W2	縦板	板目	39.0	10.2	3.8	井桁北面
	51	SE9	W3	縦板	板目	49.2	8.7	0.9	井桁北面
	52	SE9	W4	縦板	板目	57.6	6.2	2.0	井桁北面
	53	SE9	W5	縦板	板目	34.8	5.7	1.5	井桁北面
	54	SE9	W6	縦板	板目	49.8	10.8	1.8	井桁北面
	55	SE9	W7	縦板	板目	87.3	11.0	1.5	井桁北面
	56	SE9	W8	縦板	板目	52.5	9.6	2.4	井桁北面
	57	SE9	W9	縦板	板目	48.0	5.6	2.1	井桁西面
	58	SE9	W10	縦板	板目	35.1	9.6	1.8	井桁西面
	59	SE9	W11	縦板	板目	43.5	9.0	1.4	井桁西面
	60	SE9	W12	縦板	板目	48.9	21.0	1.2	井桁西面　2つに割れている。数字は接合時のもの
	61	SE9	W13	縦板	板目	30.3	17.3	2.1	井桁西面　2つに割れている。数字は接合時のもの
	62	SE9	W16	縦板	板目	56.1	11.9	1.2	井桁南面
	63	SE9	W17	縦板	板目	24.0	6.5	0.9	井桁南面
	64	SE9	W18	縦板	板目	25.8	11.4	3.0	井桁南面　他の縦板に比べ厚い。井桁の欠損部分か
	65	SE9	W19	縦板	板目	56.1	7.8	1.1	出土位置不明
	66	SE9	W01	縦板	板目	72.5	12.3	2.3	出土位置不明
	67	SE9	W02	縦板	板目	59.1	8.3	1.8	出土位置不明
	68	SE9	W03	縦板	板目	52.8	14.7	2.1	出土位置不明
	69	SE9	SE9-4	縦板	板目	67.2	9.0	2.4	出土位置不明
	70	SE9	A Ⅲ東	方形木枠	板目	83.3	7.5	1.2	東面1段目か
	71	SE9	井戸枠外	縦板	板目	23.7	5.6	1.2	

SE1（第40図・写真図版9）　B2グリッドにある。平面形は1.2～1.3mの不整円形で、深さは約0.65m（0.15m）である。覆土は、全て植物遺体を多く含む粘土質層で、2･4･6層では砂質がやや勝る。遺物は少ない。最下層から「く」の字形の木製品が出土した。

SE2（第40図・写真図版9･13）　D2グリッドにある。平面形は0.85～1.0mの不整円形で、深さ約1.3m（－0.3m）である。直径約0.8mの丸太を分割した刳抜材5枚が、中央に歪んだ円形状に据えられている。刳抜材は残存長60cm、幅30～60cm、厚さ6～7cmで、ちきり穴を有するものが2枚あった。井戸の構築材としては不要な穴であり、転用前の加工痕と思われる。周縁にはさらに縦板を巡らせていた。上部が開田時に失われているため、ほぞ穴など組み合わせ加工の有無は不明である。文献15ではＢＩb類に分類される。井戸枠内2・3層からは大きな木の根、底面近くからは径20cm前後の円礫が出土した。井戸廃棄の際に石を入れ、埋め戻したものであろう。遺物量は少ない。

SE3（第41図・写真図版9）　E1･2、F1･2グリッドにある。平面形は1.25×1.15mの隅丸方形で、深さ1m（－0.3m）である。確認面から0.5～0.6mの深さで段があり、それより下方は狭くなり、一辺0.5m程度の隅丸方形となる。3・4層間、4・5層間にそれぞれ0.5cmほどの厚さの木葉など植物遺体を含む黒褐色腐植土層が観察された。段から底までは単一層で、植物遺体を多く含む粘土混じりの黒褐色砂質土が堆積しており、一気に埋められた可能性がある。遺物は、5層から木製高台皿（285）と、須恵器無台杯（282）が1点ずつ、6・7層から斎串（283･284）が2点ほぼ同じ地点から出土している。これらは、井戸廃棄に伴い埋納したと思われる。

SE4（第41図・写真図版9）　G2グリッドにある。平面形は1.55×1.40mの隅丸方形で、深さは1.1m（0m）である。確認面から0.5～0.6mのところでゆるい段があり、底部に向かって狭くなり、一辺0.7m程度の隅丸方形となる。1層に多く炭化物を含み、2層にも少量含まれる。3層は植物遺体を非常に多く含む。また、1層からは比較的多くの遺物が出土し、上部からは油煙の付着したほぼ

第5表　井戸出土の主な遺物

遺構名	形態	覆土上部	覆土中位	井戸底部	土層	備考
SE1	素掘り			木製品(用途不明)1点	植物遺体を多く含む1･3･5層とやや砂質が勝る2･4･6層の互層をなす	遺物量少
SE2	丸太刳抜		2･3層:木の根	径20cm円礫1点	水平堆積をなす	
SE3	素掘り		5層:木製高台皿1点、須恵器無台杯1点、6･7層:斎串2点		3～5層間に層厚5mmほど黒褐色腐植物層あり、8層に植物遺体多く含む	
SE4	素掘り	1層:土師器無台椀(完形)1点、土師器長胴甕破片	2層:棒状木製品2点、須恵器無台杯(墨書)1点、3層:棒状木製品1点、板状木製品1点	3層:木製皿1点、須恵器無台杯(墨書)1点	1･2層に炭化物含む	
SE5	不明･水溜に曲物使用	1層:土師器･須恵器小破片			5層埋め土か	遺物量少
SE6	素掘り	棒状木製品、土師器破片			各層で木葉･種子など植物遺体多量含む	
SE7	素掘り	1層:須恵器無台杯1点ほか須恵器･土師器破片多数	2層:須恵器無台杯(完形)2点、8層板材等6点		7層に植物遺体含む	
SE8	素掘り					水路により半壊
SE9	横板井籠組		2層須恵器鉢破片、3層径30cm円礫1点、4層以下ヒョウタン･モモ(ウメ)16点･クルミ6点、須恵器甕破片、茎、炭化物	モモ(ウメ)2点･クルミ2点、木製品	4層に植物遺体含む	掘形と枠の間に斎串1点、モモ(ウメ)1点･クルミ1点

完形の土師器無台椀（294）が1点、中央からやや南西寄りに正置された状態で出土した。井戸廃絶後に掘りくぼめて置かれた可能性が高い。2層からは墨書のある須恵器無台杯の底部（289）、同層下部の段から杭状木製品（306･307）が2本並んだ状態で出土した。また、3層上部から杭状木製品（308）と板材（309）が出土している。3層の底面付近では、木製挽物のⅢ（325）と、伏せた状態の完形の須恵器無台杯（288）があった。3層出土の遺物は、井戸廃棄に伴い埋納されたと思われる。

SE5（第41図・写真図版10･13）　F2グリッドにあり、SE4の北側1mのところに位置する。平面形は1.7～1.9mの不整円形で、深さは約1.3m（0.25m）である。断面はすり鉢状を呈し、ほぼ中央に径約0.4m、深さ0.4mの水溜部分がある。その上部に残存高22cmの曲物が残っていたが、腐食が進んでおり、図化できなかった。

SE6（第41図・写真図版10）　I4グリッドにある。平面形は1辺0.8～0.9mの西側隅がやや歪んだ隅丸方形で、深さは約0.7m（0.3m）である。0.35～0.4m深さで北側にゆるく段を持ち、径0.4mほどの円形である。覆土は6層に分けられ、種子など植物遺体が多量に含まれていた。遺物は少量である。

SE7（第42図・写真図版10･14）　G2・3グリッドにある。Ⅲ層中から検出された。平面形は1辺1.85mの隅丸方形で、深さは約1.15m（0.25m）である。中～下位にかけてわずかな段があり、底面はすり鉢状である。覆土は10層に分かれる。井戸側は残っていなかったが、7層から井戸部材の可能性がある板がほぼ同じ深さで6点出土している。1～2層からほぼ完形の墨書のある須恵器無台杯2点とふいごの羽口などを含む多くの遺物が出土した。2～3層にかけて径15～20cm前後の石が2点出土している。3層からは完形の須恵器無台杯（313）と折縁杯（318）が正位の状態で出土し、そのうち折縁杯の底部外面に符号と思われる墨書があった。土層の堆積状況や、埋没後に遺構の中央部を掘削していることなどから、1～3層はSE7が埋め戻された後に掘られ、遺物が廃棄されたものと解釈したい。なお、本来の井戸の覆土である4層以下からは土器が出土しておらず、明確な井戸の使用時期については不明である。

SE8（第41図・写真図版11）　B2グリッドにある。SK1の北西約1.5mにある素掘りの井戸。残存する形から、平面形は1辺1.3mほどの隅丸方形と推定される。深さ0.65m（0.3m）である。水路により半分以上が破壊されており、その時に上部が削平された可能性がある。

SE9（第42～44図・写真図版11･14）　A3グリッドにある。平面形は1辺2.1mの隅丸方形で、深さは1.2m（－0.1m）である。掘形は確認面から0.4mほどでゆるい段があり、その下方で1辺1.2mほどの隅丸方形をなす。覆土は4層まで確認したが、確認面から0.6mより下の土層堆積は湧水が著しく、確認できなかった。底部付近の覆土に長さ0.5～2cm程度の炭化物が少量含まれていた。掘形内側には、井桁状に組んだ内法70cmの方形井戸枠を据え、その周りに縦板を巡らせていた。井戸枠は3段遺存していたが、3段目上端にも切込があり、当初はさらに上に組まれていたものと思われる。また、井戸枠の横板外面には、下段から順に鋭利な線刻によって「Ⅰ」「Ⅱ」「Ⅲ」の記号が刻まれ、組み立てる時の順番を示している。この形式の井戸枠は、BⅥ類横板井籠組井戸に分類され、7～9世紀代に盛行するとされている（文献1）。

井戸枠内の3層上面に径20～30cmの扁平な大形礫や、須恵器甕破片がみられる。3層から4層にかけて須恵器無台杯（331・332）・有台杯（333）が出土した。また、底部付近の覆土から須恵器・

土師器破片のほかにウメ（モモか）・クルミ・ヒョウタン等の植物遺体、箸・棒状製品などの木製品、毛髪状の細い繊維が出土した。井戸の廃絶時に植物や木製品などを入れて3層まで埋め、大形鉢や須恵器甕を入れたものと思われる。井戸枠と掘形の間から斎串等が出土しており、井戸枠を据える際に埋納したと考えられる。今回調査された井戸の中で、井戸を作る際の埋納行為が確認されたのは、この1基だけである。

第5項　土坑

土坑は5基確認した。土坑等の平面形の寸法は、形状が円形に近いものは最大径、四角形に近いものは長辺・短辺を記した。深さは確認面から最深部までの計測値を記した。

SK1（第45図・写真図版11・12）　B2グリッドにあり、平面形は2.1m×1.6mほどの楕円形で、深さは0.6mである。掘形は、北側壁面がややゆるく傾斜し、丸底状になる。下層調査時に湧水した。昭和60年12月調査時の14ピットと位置が重なっているため、遺物は同一遺構出土として合わせて掲載した。

SK2（第45図・写真図版12）　G5グリッドにある。平面形は2.05m×1.45mのやや角ばった楕円形で、深さは0.4mである。断面はなだらかに立ちあがる。遺物の多くは1層より出土した。

SK3　C4-3・4グリッドにあり、SB9の南に位置する。南端を第4トレンチに切られており、平面形は残存する長軸1.8m、短軸1.4mのややゆがんだ楕円形である。深さは0.6mである。

SK4　A2グリッドにある。平面形は径1.8mの円形で、深さは0.3mである。断面逆台形である。

SK5（第45図・写真図版12）　E4グリッドにある。平面形は円形で径約2m、深さ0.4mである。トレンチで南端を壊されており、全容は不明である。なお、SA1の柱穴に切られている。遺物は土器小破片であり、ゴミ穴として利用されていた可能性が高い。

第6項　畝状小溝

長さ1～8m、幅20～50cm、深さ4～32cmほどの細長い溝で、数本ずつ平行して単位をなしている。溝の方向は北から37～73度西偏したものが大半で、東西溝が過半数を占める。G列以西には分布しないが、Ⅲ層がほとんど認められない地区であるため、本来は存在していた可能性がある。分布状況から7群に分けられ、さらに溝の方向により細分できる。西側から順に番号を付した（第15図及び全測図）。遺物は、少量ではあるが平安時代のものに限られ、他の時代のものは出土していない。上越市一之口遺跡などで類例があり、畑の畝跡の可能性がある。

1群　E2・3、D3グリッドにある東西溝で、方位は①N－73°－Wと②N－52～53°－Wの2方向がある。幅26～36cm、深さ8～16cmである。②は間隔が2.0～2.6mほどあき、6群と同じ方向を示す。②はSB7・8の桁行とほぼ方位が合い、これに伴う可能性がある。①・②はSB5・6と近世遺構に切られる。

2群　D3・4、E4グリッドにある東西溝で、方位はN－73°－Wである。幅18～26cm、深さ6～16cmで、間隔が2.4mあく。SB5・6と方向がほぼ一致しているが建物域にかからないことから、これらの建物に伴っていた可能性がある。

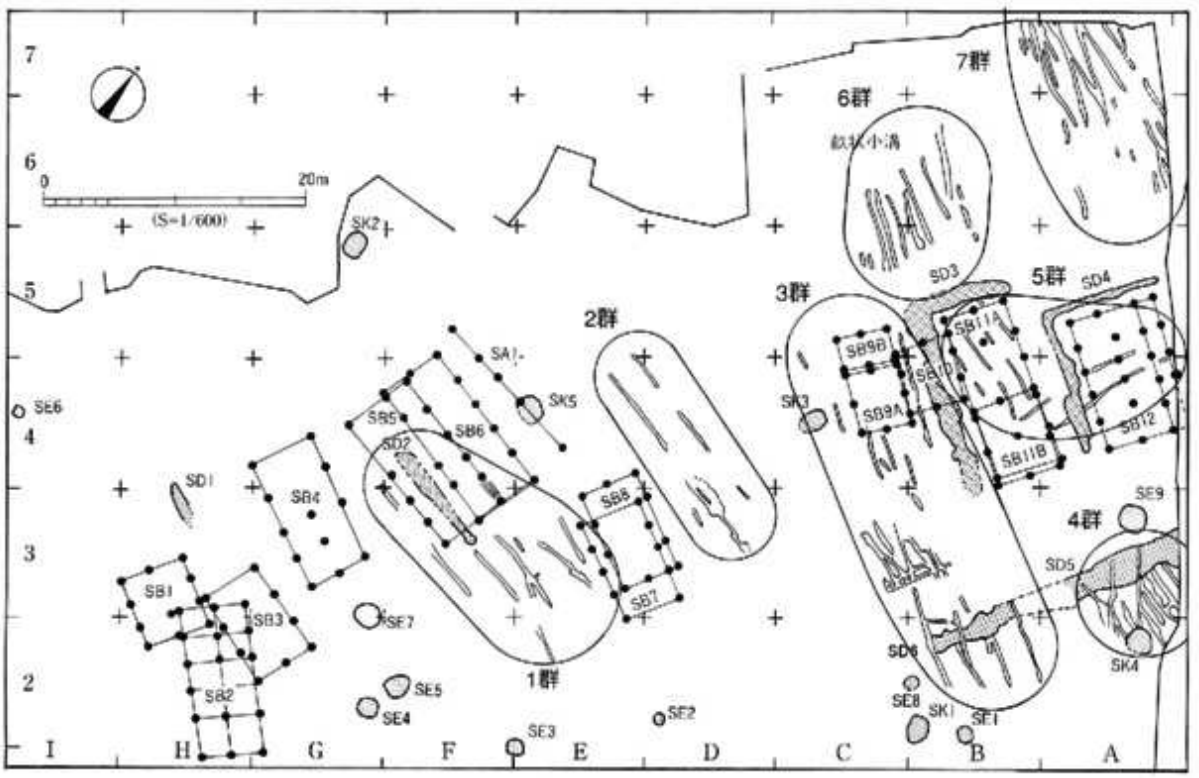
3群　B2・3、C3・4グリッドにあり、東西溝と南北溝がある。東西溝の方位は①N－53～54°－Wと②N－67～68°－Wの2方向があり、南北溝は②にほぼ直交する。幅20～34cm、深さ14～17cmで

ある。B2-2·3グリッドにある溝は、Ⅲ層中から掘り込みが確認されたSX2～5の下から検出されている。②の東西溝はSD3に平行し、西端はトレンチや撹乱、東端は水田開削時の掘削を受けている。SD6を切り、近世遺構に切られる。SD6にかかる溝のうち東から2本目の溝にピットが2基あり、土師器無台椀（502・505）が1点ずつ出土している。南北溝は2条あり、北端がトレンチに切られているため、残存長4～5mである。

4群（写真図版3）　A2・3グリッドにあり、①N－37～38°－Wと②N－67～68°－Wの2方向がある。残存長2.4～3.6m、幅25～50cmである。①は2本の溝がSD5を切る形で伸びており、②はほとんどの溝が西端はSD5に切られ、東端は調査区外に延びる。約1m程度の間隔である。また、①・②ともSK4に切られる溝が含まれており、その切り合いから、古いほうから②、SD5、①と推測される。さらにこの上層にSX2～5がある。周辺に同じ方向の建物はない。

5群　A4・5、B4・5グリッドにあり、方位N－72°－Wの東西溝とそれにほぼ直角に交わる形で南北溝が3条ある。東西溝は長さ1.2～3.6mで、南北溝は最長約10mである。幅は14～27cmで、20cm前後が中心となる。深さは7～18cmである。SB10・11・12・SD4に切られる。周辺に同じ方位の建物はない。

6群　B5・6、C5・6グリッドにある東西溝で、方位はN－50～60°－Wである。長さ4.8～6.4m、幅20～56cm、深さ4～22cmと差があり、間隔も不揃いである。SD3Aより2.4mほど西側へ離れた位置にある。覆土が白っぽく粘性があり、近世以降の土坑覆土と似ていることや、曲がり気味の溝が多い点など他の小溝群と様相を異にする。



第15図　畝状小溝配置図（文献26第32図に加筆）

7群（第46図・写真図版3）　A6・7グリッドにある東西溝で、①N－52°－Wと②N－69～70°－Wの2方向がある。北西端は調査区外へ延び、南東端はSD4Aの北西約5.6mのところで終っている。残存長3.2～8m、幅22～32cm、深さ5～13cmである。①は間隔が2mほど空く。近世以降の土坑に切られる。②はSB12とほぼ軸方向を揃える。①より間隔が狭く、不揃いである。

第7項　性格不明遺構

平面形が確認されたが、明確に人為的な掘り込みが認められなかったものや、くぼ地状のものを性格不明遺構とした。覆土は、暗褐～黒褐色の炭化物混じりの土で、単層である。深さはⅣ層まで達しない。

SX1　C3グリッドにあり、平面は長さ2.4m、幅0.5mの溝状である。深さは確認面から約0.2mである。覆土は黒褐色粘土である。

SX2（第45図）　B2･3グリッドにあり、淡茶褐色粘土層（Ⅲbもしくは Ⅲc層）上面で検出された。平面形は長軸4.6m・短軸3.3mの不定形である。覆土は黒褐色粘土である。

SX3（第45図・写真図版12）　B3グリッドにあり、淡茶褐色粘土層（Ⅲbもしくは Ⅲc層）上面で検出された。平面形は長軸2.7m・短軸1.7mの楕円形で、深さは確認面から約0.15mである。他のSXに比べ掘り込みが比較的明瞭である。

SX4（第45図）　B2･3グリッドにあり、淡茶褐色粘土層（Ⅲbもしくは Ⅲc層）上面で検出された。北側の一部を範囲等確認調査時のトレンチによって掘削されている。残存部分からは径1.6m程度の不整円形と推定される。

SX5（第45図）　B2･3グリッドにあり、淡茶褐色粘土層（Ⅲbもしくは Ⅲc層）上面で検出された。北側の約1／5程度を範囲等確認調査時のトレンチによって破壊され、残存部分からは長軸2.6m・短軸1.8m程度の不定形と推定される。

SX6　D3グリッドにあり、淡茶褐色粘土層（Ⅲbもしくは Ⅲc層）上面で検出された。長軸1m・短軸0.7mの楕円形状で、深さは約0.2mである。覆土に炭化物を含む。

SX7　G3-2グリッドにあり、SD2の南西1mに所在する。径約0.7mほどの不整円形である。

SX8　D4-1･4グリッドにあり、不定形である。

第2節　近世以降

遺構は土坑状のものと、幅の広い不定形のものがある。平安時代の遺構と識別するために100番台の遺構番号を付した。遺物はテンバコ2箱の陶磁器土器片と木片があるが、その大半は遺構から出土した。以下に一括して記す。

第1項　土坑

SK101～107（第46図）の7基あり、直り山集落寄りのA5～A7グリッドに集中している。覆土は砂混じりの灰褐色粘土が主体で、平安時代のものと異なる。Ⅲ層を掘り込んでいるが、同層中では判然としないものが多い。遺物は雑多な木片類と陶磁器片が混ざって出土し、投棄されたものと想定される。多くはゴミ穴と思われるが、SK106のように杭を打っているものもある。SK104～106か

らは、18世紀後半から19世紀初頭の磁器を含む遺物が出土し、近世の所産と考えられる。そのほかの土坑では、近現代のものと思われる磁器が混ざり、SK104～106より新しい。また、範囲等確認調査ではE8・D9・B12グリッドの畑地水田境界部で、Ⅳ層に達する杭列が検出されている。この杭はSK106と同じ形状をしており、近世と考えられる。

第2項　性格不明遺構

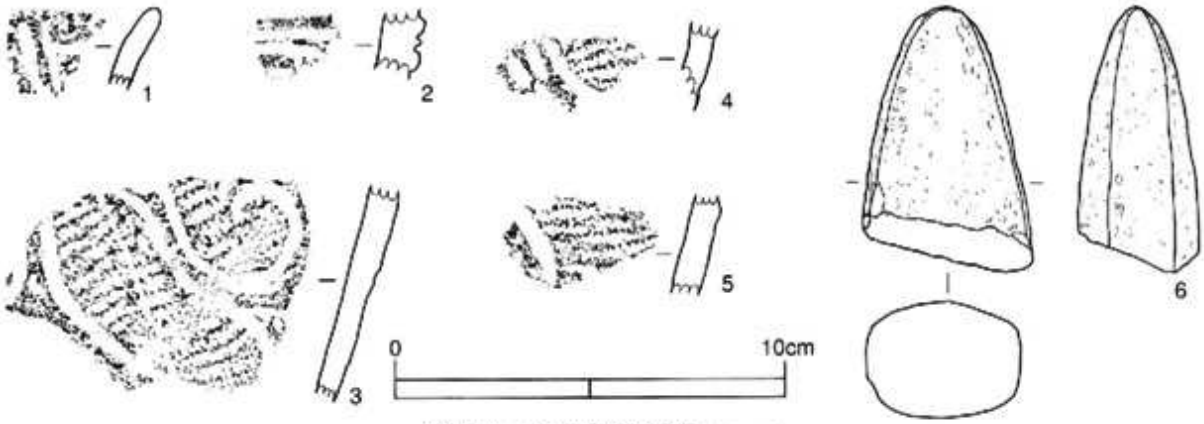
不定形のものを性格不明遺構とした。SX101～113の13基がありほぼ全域に散在する。形態は、いずれも幅が広く、深さは数十cmでⅢ層を掘り込み、底部は平らである。覆土は青みがかった灰褐色粘土である。幅2.7～2.8m程度の溝状のSX105・106などは連続した方形区画ともみられ、耕土の天地返しなど耕作に関するものと思われる。遺物は、平安時代土器と近世以降の陶磁器細片が混在して出土した。木片は含まれない。SX101・102から出土した遺物には近現代の陶磁器が多く含まれ、SX103～111では18世紀後半から19世紀代のものと近現代のものが混在して出土し、18世紀後半以降に作られたものと考えられる。

第５章　出土した遺物

第１節　縄文時代

遺構は検出されず、土器片5点と石器1点が出土した（第16図・写真図版15）。小丸山遺跡で最も古い生活痕跡を示す遺物である。特に集中する地点はみられない。１はSD5から出土した深鉢である。口縁部が外反し、浅い沈線による文様が施されている。２はE3-3グリッドから出土し、半裁竹管による二条の半隆起線文が横に引かれている。３～５は同一個体と考えられるもので、A3-2グリッド及びその周辺から出土している。沈線で渦巻文が描かれ、その文様の内側には0段多条のＲＬ縄文が施されている。２は中期前半の北陸系と思われる。３～５は中期後半で、東北地方南部の大木9b式土器の系統である。１もそれらに近い時期と考えられる。

６は閃緑岩製の磨製石斧でB4-2グリッドから出土した。刃部側の半分を欠損している。頭部が少しとがり、断面は丸みを帯び厚ぼったい。表面は風化が進み、製作及び使用の痕跡は観察できない。



第16図　縄文時代の遺物（S=1/2）

第２節　平安時代

第１項　遺物の概要

平安時代の遺物は、Ⅲ層及び遺構から出土した。分類・接合した後で、長さ60cm・幅40cm・高さ15cmのテンバコ換算にして約90箱である。遺物の大半は土器で、須恵器と土師器が多い。黒色土器は少量、緑釉陶器素地や製塩土器は微量で、灰釉陶器は出土していない。また、墨書土器が100点以上出土した。実測図の図示番号に続く（　）に墨書土器の整理番号を記した。木製品は井戸や土坑などの遺構から出土し、皿や曲物、斎串などがある。

（１）　土器の概要

土器の用途は、食膳具・煮炊具・貯蔵具・調理具に分け、調理に使用する器種のうち火にかけて使用するものを煮炊具とした（文献２）。須恵器杯・盤・椀類、土師器及び黒色土器の椀・皿類が食膳具で、須恵器1に対し土師器３～４の割合である。土師器小甕・長胴甕・鍋が煮炊具、須恵器甕・壺

類が貯蔵具、須恵器鉢が調理具に該当する。

土器の製作は、佐渡型甕や製塩土器を除き大半がロクロ使用によるものである。製作・調整に関する用語は、文献19を参考とした。杯・椀類や小甕などは粘土塊から挽き出しもしくは粘土板に粘土紐を積み上げて成形されている。成形後は、須恵器の杯類や壷類は回転ヘラ切り（以下「ヘラ切り」と略）、土師器の椀や小甕は回転糸切り（以下「糸切り」と略）によってロクロ台から切り離される。黒色土器は、糸切り後ロクロケズリを行うものが多い。須恵器横瓶・甕や土師器長胴甕・鍋は、粘土紐を積み上げ、タタキ出して成形した後、ロクロを利用して板などで成形している（文献20）。

胎土については、肉眼で焼成や色調、混入される粒子（大きさ・色調・量）などを観察し、遺物一覧表に記載した。資料の一部について、奈良教育大学三辻利一氏から蛍光X線分析による産地同定をして頂き、その報告を第7章に記載した。須恵器杯類の胎土は、比較的精良で径1mm以下の白色粒子を含むものが9割近くを占める。佐渡郡真野町大木戸窯産や佐渡郡羽茂町小泊窯産の胎土とよく似ていることから、ここでは佐渡産と表記した。また、胎土が粗く径1～3mm程度の石英と思われる半透明粒子が多く含まれるものが全体の1割近くあり、北蒲原郡笹神村狼沢窯出土須恵器によく似ていることから笹神産と表記した。本遺跡に近い産地としては、新津丘陵（新津市・五泉市）や角田山麓（西蒲原郡巻町周辺）などがあるが、その製品である可能性をもつものは10点に満たない。また、壷や甕などに含まれる白・半透明色粒子は、杯類に比べ径1～3mm程度とやや大きめのものが多い。

土師器は、須恵器に比べ生産地の状況が明らかでないことから、産地の特定は難しい。椀類の胎土は大きく2種類に分けられ、きめの細かい胎土に径0.5～2mm程度の白色（長石）・半透明～灰色（石英・チャート）・茶～橙色（焼粘土）・金色（雲母）・黒色（角閃石）粒子が少量含まれるものと、割れ口ががさがさする粗い胎土に径1mm程度の白色・半透明～灰色・黒色の粒子が多量に含まれるものとがある。小甕は比較的きめの細かい胎土に径1～2mm程度の白色・半透明～灰色・茶色・黒色粒子が少量入るものが多い。長胴甕や鍋は、椀類よりやや粗い胎土に径2～3mm程度の粒子が入るものがほとんどである。これらの傾向から椀類、小甕、長胴甕・鍋について胎土を使い分けていた可能性がある。また、土師器の内面または内外面に黒色処理したものを、黒色土器とした。胎土は精良で、混入される粒子は少ない。尚、表中径0.5㎜より小さい粒子は「微細」と表現した。

以下に須恵器・土師器・黒色土器の主な器種の出土量や形態的特徴などを記す。

須恵器

無台杯　須恵器食膳具の中ではもっとも多い。口径12～13cm台が主体である。器形は底部から口縁部まで直線的に立ち上がるものが多い。厚手のa類と、全体に薄手でロクロ痕が残るb類に大別され、後者が9割ほどを占める。胎土の観察結果と合わせてみると、前者が笹神産、後者が佐渡産である可能性が高い。底部外面が糸切りのものが3点確認された。灯明器として使用したものが少量みられる。

盤　1点出土した。無台杯に似るが、器高が低く底径指数（底径÷口径×100）が杯より大きい。

杯蓋　口径14～15cm台が主体である。天井外面はヘラ切りとヘラ切り後ロクロケズリを行っているものの両方が確認された。摘みの中央がへこむボタン状のものと、中央が出っ張る擬宝珠状のものがある。蓋の内側を硯として利用したものが少量みられる。

有台杯　無台杯に比べ少ない。口径12cm前後の小形品a類と、口径13～14cm台の大形品b類があり、いずれも無台杯に比べ深身である。b類が大半を占める。高台部分を硯に利用したものが少量

みられる。

有台椀　底部のみ2点出土した。有台杯に比べ足高で、腰部が丸みを帯び、内湾気味に立ち上がる器形を有台椀として分別した。

折縁杯　4点確認されている。口径11.7～13.6cmで有台杯より全体に小さめである。口縁部を短く内側へ折り曲げる。底部ヘラ切りで、高台は有台杯より足高である。

壷　口縁部の形態から24個体が確認されたが、完形品はない。長頸壷・短頸壷・細頸壷がある。頸部の形態により区別し、短いものを短頸壷、長いもののうち、口縁部がラッパ状に開くものを長頸壷、開かないものを細頸壷とした。長頸壷が多い。細頸壷は底部静止糸切りで、平城京分類の壷Gに相当する。

横瓶　完形品はないが、7個体以上識別した。高台付横瓶が1点確認されている。

甕　完形品はなく、口縁部の形態の違いから約40個体を識別した。口径20cm台の中形品が多い。

鉢　口径46cmのものを1点確認した。口縁部のみの出土であり、底部の形態は不明である。タタキ出して成形する。

土師器

無台椀　最も多く出土した器種である。底径指数が杯より小さく、立ちあがりは丸みを帯びる。口径11～12cm、12.5～14cm、15.5～17cm前後のものがある。底部外面は糸切りが主体で、ロクロケズリを用いるものが数点みられる。比較的精良な胎土を用い、器面をロクロナデして凹凸が残らないa類、粗い胎土を用い、器面調整されないb類に分けられる。灯明器や漆入れとして使用されたものが少量みられる。

有台皿　2点確認した。口径13.5～13.6cmで、底部調整は、高台を付ける際になでられているため不明である。高台端部は少し丸みを帯びる。

小甕　口縁部の形態から43個体を確認した。口径12～13cm台が多い。椀類に比べて底部が厚く、底部内面から器壁にかけてロクロ痕の凹凸が残っている。口縁部形態は、「く」の字状に外側へ屈曲し、口縁端部が丸味を持つもの、もしくは角状を呈するa類と、「く」の字状に外側へ屈曲し、さらに上方内側へつまんで屈曲するb類の2種類に大別され、b類が全体の7～8割を占める。

長胴甕　口縁部の形態から47個体を確認した。口径19～23cm台が多い。体～底部をタタキ出して成形し、底部は丸底で体部より厚めである。破片数は多いが、完形品はなく、復元された個体数は少ない。口縁部形態は口縁部を「く」の字状に外側へ屈曲し、口縁端部は丸もしくは角状のa類、「く」の字状に外側へ屈曲し、さらに内側に屈曲したb類の2種類に分けられる。b類は口縁端部が丸いものと、細くつままれるものがみられる。b類が8割程度を占める。

鍋　口縁部の形態から69個体を識別した。口径35～40cm台が多い。口縁部形態は頸部から外側へ屈曲し、口縁端部までが短いa類、外側へ屈曲したあと、口縁部がさらに内側へ屈曲するb類、頸部の屈曲がゆるやかなc類に分けられる。完形品はない。

佐波型甕　口縁部破片を3点確認した。ほかの器種に比べ砂粒の多い胎土を用い、色調は茶色味が強い。口縁部に横、胴部に縦方向のハケ目がある。

黒色土器

無台椀　口径13～16cm台である。成形方法は土師器と共通するが、底部調整はロクロケズリされる

ものが多く、糸切りが残るものは少ない。また、内外面に丁寧なロクロナデが施されるものが多い。

有台椀　糸切り後高台を貼り付けたものと、底部を削り出してロクロケズリしたものがある。前者は4点確認され底径6.4～7.0cmである。須恵器や土師器の高台に比べ低い。後者は内外面黒色処理されたものが2点出土している。

皿　内外面黒色処理の皿の口縁部破片が1点確認されている。

第2項　遺構出土遺物

遺構出土遺物は、須恵器甕など同一個体の破片が多い場合は特徴がよくあらわれているものを図示した。小破片や自然礫は図示していない。

（1）　掘立柱建物

柱穴からの出土遺物と、建物の雨落溝から出土した遺物を併せて記した。

SB1　土師器椀・長胴甕・小甕が出土した。図示できる遺物はない。

SB2（第47図1～9・写真図版15）　須恵器無台杯(1)・杯蓋(2)、土師器無台椀(3)・小甕(4)・長胴甕(5～8)・鍋(9)が出土した。6・7の土師器長胴甕は同一個体であろう。

SB3　土師器長胴甕、須恵器甕が出土した。図示できる遺物はない。

SB4（第47図10・写真図版15）　須恵器有台杯、土師器長胴甕(10)・鍋が出土した。

SB5（第47図11）　須恵器無台杯(11)、土師器長胴甕が出土した。11は器高が2.2cmと低く、浅身で小形である。

SB6付SD2（第47図12～第49図60・写真図版15･16）　柱穴から須恵器無台杯(12)・壺・甕(13)、土師器無台椀・長胴甕が出土した。

SD2からは須恵器無台杯(14～22)・杯蓋(23・24)・有台杯(25～27)・甕(58)、土師器無台椀(28～34)・小甕(35～48)・長胴甕(49～53)・鍋(54～57)、砥石(59)、羽口(60)、鉄滓など合わせてテンバコ2箱程度の遺物が出土している。確認調査時の第4トレンチ第2集中地点とほぼ重なり、ここから出土した遺物もSD2出土として取り扱った。14は底径が大きく厚手で、立ち上がりが丸みを帯びる。笹神産と思われる。土師器無台椀はa類とb類が半々である。32は器高が高く、直線的な器形で、b類である。底部から立ち上がりにかけて手持ちヘラケズリ調整されるものは、当遺跡ではこの1点のみである。33は内外面口縁部に煤が付着し、2か所に打ち欠きがあり、灯明器として使用されたと思われる。二次的な被熱により赤化している。4点の墨書土器が出土しているが、いずれも判読不明である。煮炊具は小甕・長胴甕・鍋があり、中でも小甕の個体数が多く、口縁部形態の違いから13個体を識別した。48が口径15.6cmと大きいほかは口径11～13.6cmにおさまる。35と40は胎土がよく似ており、同一個体の可能性がある。長胴甕を3個体、鍋を4個体図示した。残りはほとんどが体部破片である。貯蔵具は少なく、図示できたのは甕体部破片(58)1点のみである。また、鍛冶関連遺物として砥石(59)と羽口(60)、鉄滓が259g出土した。砥石は386.3gあり、当遺跡では大きいものである。

SB7　土師器椀が出土した。図示できる遺物はない。

SB8（第49図61･62・写真図版16）　須恵器無台杯、土師器小甕(61)・長胴甕(62)が出土した。

SB9A　須恵器杯類が出土した。図示できる遺物はない。

SB9B　遺物は出土しなかった。

SB10　須恵器無台杯、礫が出土した。図示できる遺物はない。

SB11A付SD3（第49図63～第50図87・写真図版16）　柱穴からは須恵器無台杯(63)・有台杯(64)、土師器無台椀(65·66)・長胴甕が出土した。65は柱穴中央寄りに正置された状態で出土した。底部外面に「七」と墨書がある。口縁部が1か所打ち欠かれ、煤が付着している。灯明器として利用されたものと思われる。66の内面は丁寧になでられ、ロクロ痕が残らないａ類である。

SD3は、SD3AとSD3Bに分けて遺物を取り上げており、須恵器無台杯(67～73)・杯蓋(74)・有台杯(76)・長頸壺(85)・細頸壺(86)、土師器無台椀(77・79)・小甕(80)・長胴甕(81・82)・鍋(83・84)、軽石(87) などテンバコ2箱分の遺物が出土した。SD3BはSD3Aの２倍ほどの量がある。須恵器杯類は、ａ類(68·69·72)と、ｂ類(67·70·71)に分けられる。また、図示していないが、灯明器に使用されたと思われる須恵器無台杯の口縁部破片が1点確認されている。土師器椀類は、量が少なく、1～2cmほどの小片が大半のため、図示できたものは少ない。ａ類が多いようである。77は外面赤彩されている。貯蔵具は、長頸壺・細頸壺があり、甕や横瓶はない。86の細頸壺は、SD3Aから出土した。平城京分類(文献15)の壺Gとされるものである。胎土は軟質で多孔質状を呈し、底部には静止糸切り痕が残り、歪みが大きい。当遺跡周辺の窯跡では出土例がなく、搬入されたものであろう。第56図225と同一個体の可能性がある。県内では上越市今池遺跡で類例がある。煮炊具はSD2やSD4に比べて少ない。墨書土器(69·72·73·79)が４点確認されている。土器以外には軽石（87）が1点あり、一端に打ち欠いた痕跡が残る。

SB11B　土師器長胴甕、礫が出土した。図示できる遺物はない。

SB12付SD4（第50図88～第57図232・写真図版16·17）　柱穴からは須恵器無台杯(88·89)・有台杯(90)·杯蓋(91)・甕、土師器小甕(93)・長胴甕(92·94) が出土した。

SD4からは、テンバコ３箱分の遺物が出土した。溝の中では最も遺物量が多い。須恵器無台杯(95～134)・杯蓋(135～141)・有台杯(142～146)・長頸壺(220～224)・細頸壺(225)・甕(228)、土師器無台椀(147～171)・小甕（179～202)・長胴甕(203・204・206～210)・佐渡型甕(205)・鍋(211～219)、黒色土器(178)、土製品(229・231)、製塩土器(230)、砥石(232) がある。遺物は北西側のSD4Aと、南西側のSD4B·SD4Cで分け、さらにSD4B·SD4Cの A4-3·4グリッドにかかる遺物集中地点に１ｍグリッドを設定して遺物を取り上げた(第37図)。SD4B·SD4Cの出土遺物のほとんどはこの集中地点から出土した。SD4Aからは須恵器無台杯、土師器無台椀・長胴甕がごく少量出土しただけである。須恵器杯類はａ類が多く、100·114などのｂ類は少ない。113・114は口縁部内部に煤が付着しており、灯明器として使用された可能性がある。122は底部が厚い。136・137・139は転用硯である。土師器無台椀は、ａ類が９割近くを占める。図示した中では174だけがｂ類である。147は内面に漆が付着している。166は器壁が薄く、底部ロクロケズリである。171も底部ロクロケズリで、内面に漆が付着していた。黒色土器は、口縁部を外側に少し屈曲させるものがある。205は佐渡型甕である。207～209は同一個体の可能性がある。229は製塩土器の口縁部である。230は須恵器甕体部破片を打ち欠いた土器片円盤である。新潟市山木戸遺跡（文献27）に類例がみられるが、用途不明である。231は土製品で、摩滅して調整は不明である。用途はわからない。232は砥石である。きめの細かい凝灰岩で、下端を除いた全ての面に擦痕が残る。また、墨書土器が31点確認されている。

（2） 柵列

SA1（第57図233·234） 土師器無台椀・小甕(233)・長胴甕(234)が出土した。

（3） 溝

SD1（第57図235～237） 出土遺物は少ない。235は土師器小甕、236·237は土師器長胴甕の口縁部である。

SD5（第57図238～第58図278・写真図版17） テンパコ1箱分ほどの遺物が出土した。須恵器無台杯(238～246)・杯蓋(247・248)・有台杯(249～251)・有台椀(252)、土師器無台椀(253～272)・小甕(274～276)・長胴甕・鍋(277・278)、黒色土器(273) がある。須恵器食膳具は多くが佐渡産と思われるが、240・243・252など笹神産も少量含まれる。247は内面に墨がわずかに付着している。252は有台椀で、体部を打ち欠いた可能性がある。268と269は胎土がよく似ている。墨書土器は11点出土した。SD4出土遺物と食膳具の構成及び形態がよく似ている。

SD6 須恵器無台杯・土師器無台椀・長胴甕がごく少量出土した。図示できるものはない。

（4） 井戸

SE1（第59図279·280） 遺物は少量で、須恵器無台杯、土師器鍋(279)、木製品(280)が出土した。また、最下層から出土した「く」の字形の木製品(280)は、全面に加工痕が残っており、完形である。

SE2（第59図281） 遺物は少量で、図示できるのは須恵器横瓶の体部破片(281)のみである。外面に淡緑色の自然釉がかかる。

SE3（第59図282～285・写真図版17·18） 須恵器無台杯(282)、斎串(283·284)、木製高台皿(285)が出土した。土器類は少なく、木製品類が多い。283·284はいずれも上端を圭頭状にし、下端を剣先状に尖らせ、上端近くの側面から切り込みを二回以上いれたもので、文献16でＣⅡ形式としているものにあたる。285は挽物製で、器壁はやや厚手で底部内外面に刃先痕が残る。横木取りの板目材である。

SE4（第59図286～第60図309・写真図版18） 須恵器無台杯(286～291)・杯蓋(292)・有台杯(293)·壷(296)·甕(298～304)、土師器無台椀(294)・小甕(297)・長胴甕(295)・鍋、木皿(305)·杭状木製品(306・307)・板状木製品(308·309)など多くの遺物が出土した。305は薄手の挽物製で、底部内外面に刃先痕が残る。劣化が進行している。新潟市的場遺跡で類例がある。

SE5（第60図310・311） 遺物は少量で、須恵器無台杯・壷・甕(311)、土師器無台椀・小甕・長胴甕(310) が出土した。

SE6（第60図312・写真図版18） 遺物は少量で、土師器長胴甕、棒状木製品(312)が出土した。棒状木製品は長さ22.5cmで、出土時には樹皮がついていた。

SE7（第60図313～第61図327・写真図版18） 須恵器無台杯(313～316)・有台杯(319)・折縁杯(317·318)・甕(322～327)、土師器無台椀·長胴甕・鍋が出土した。313～315·317·318は笹神産、319は新津丘陵産と思われる。322·323はやや粗い胎土で、外面擬似格子状タタキ具、内面格子状のあて具を用いている。同一個体と思われ、SK4·SK5・4T-3集中区でも同一個体と思われる破片があり、広く分布する。甕の生産地は不明である。須恵器食膳具に佐渡産須恵器の割合が少なく、当遺跡のなかでは古い様相を示す土器群である。

SE8 遺物は少なく、土師器小片が出土したのみで図示できるものはない。

SE9（第61図328～第62図348・写真図版18） 須恵器無台杯(328～332)・杯蓋・有台杯(333)・壷

(336～338)・甕(339)・鉢(340)、土師器無台椀・小甕(334・335)、礫・砥石(348)、箸等木製品(342～347)、クルミ・モモ等植物遺体が出土した。当遺跡の井戸の中では遺物量が最も多い。334・335は胎土がよく似ており、同一個体の可能性がある。340は、SD4からも同一個体と思われる破片が出ている。342・343は厚さ約1.8～2.1cmの板材で、形状から井戸部材の一部と思われる。346は周縁部が傷んでいるが、SE3出土の斎串とよく似た形状で、文献16でCⅣ形式としているものにあたる。347は小形品の粗型の可能性がある。348は砂岩製の砥石で、砥面は一面である。このほかに井戸枠外からモモ(あるいはウメ)1点、クルミ11点、底部付近からモモ(あるいはウメ)2点、クルミ2点、その後覆土を水洗したところ、ヒョウタン、モモ(ウメ)16点、クルミ6点、その他不明の種子類多数、繊維14本等が出土した。繊維は、毛髪と同じ程度の太さで長さ6～15cm、淡褐～褐色である。富岡正人氏による肉眼観察では、人毛ではなく植物質の可能性があることをご教示頂いた。

(5)　土坑

SK1（第63図349～第64図386・写真図版19)　昭和60年12月調査時出土遺物（№14ピット一括資料)も合わせて掲載した。遺物量は多く、須恵器無台杯・杯蓋(349)・壷(373)・横瓶(377)・甕(376・378・379)、土師器無台椀(350～368・371)・長胴甕(372)、黒色土器椀(369・370)、軽石(380)、曲物等木製品(381～386）がある。土師器無台椀の多くはb類と思われる。355・356は口縁部外面に煤が付着する。360・363は底部内面に煤が付着している。369は内外面黒色土器椀で、底部は削り出し高台である。373は長頸壷の底部で、硯に転用されている。377は横瓶の肩部で、閉塞部が焼き歪んで剥がれている。380は一部欠損し、明瞭な加工痕は見られない。381は曲物体部の一部である。382は糸巻の枠木で、一端を欠損する。枘孔部分の腹面は平らで、外面は丸みを帯びる。枘孔部分以外は腹面側を削って細くしている。県内では和島村八幡林遺跡で類例がある。383は曲物の底板で、木釘の跡が3か所残る。384は、薄く先端を尖らせており、斎串の可能性がある。385は一端を尖らせようとした加工痕が残る。386は曲物で、タガの外面から木釘が5か所に打たれ、底板がはまった状態で出土した。上部は腐蝕により欠損している。本体は柾目材で、内面にケビキが縦方向に約6～8mm間隔で入っている。

SK2（第64図387～393・写真図版19)　須恵器無台杯(387・388)・有台杯(389)・甕(392)、土師器小甕・長胴甕（390・391)、砥石（393）が出土した。390と391は、同一個体と思われる。393は凝灰岩製の砥石で、砥面が四面あるうち、特に磨り減った面が一面あり、置いて使用した可能性がある。

SK3　遺物は出土しなかった。

SK4（第65図394～397)　遺物量は少なく、須恵器無台杯・甕(396)、土師器無台椀(355・356)・小甕・鍋（397）が出土した。

SK5（第65図398～402）須恵器無台杯(398・399)・短頸壷・甕(401)、土師器無台椀・長胴甕(400)・鍋(402)の破片が出土した。401はSK1出土の須恵器甕と同一個体であろう。

(6)　遺物集中区

範囲等確認調査時の集中区である。出土層位はⅢ層で、遺物がまとまって出土している。掘り込みが不明瞭なため、「遺物集中区」とした。一覧表中「T」はトレンチ、「S」や「集」は「集中区」の省略である。文献24に詳細が記載されている。

第1T集中区（第65図403～409)　トレンチ東端から11mの地点である。A3-4グリッドのSD5の延

長線上にある。須恵器無台杯(403)・杯蓋(404)・有台杯(405)・壷(408)・甕(409)、土師器無台椀・小甕(406)・長胴甕・鍋が出土した。404は転用硯である。

第2T集中区（第65図410～第66図423・写真図版19）　トレンチ南端から20～27mの地点（D3-1・2グリッド）で、SB7・8の北東側にある。本調査時もこの集中区にかかるグリッドから土師器食膳具や煮炊具など多くの遺物が出土した。遺物は須恵器無台杯・壷(423)・甕、土師器無台椀（410～421)・長胴甕・鍋、内外面黒色土器(422)が出土した。412は内面に油煙状の固形物が厚く付着している。成分は不明である。422はSK1出土のものと同一個体の可能性がある。土師器椀類はｂ類が多い。

第4T集中区1（第66図424・425）　トレンチ東端から32mの地点(D4-1グリッド)である。2T集中区の北側に近接する。須恵器無台杯(424)・壷・甕、土師器無台椀・小甕(425)・長胴甕が出土した。

第4T集中区3（第66図426～432）　トレンチ東端から59mの地点(F4-4、G4-1グリッド)である。SB5第９柱穴に近接する。須恵器無台杯(426～429)・横瓶(430)・甕(431・432)、土師器無台椀・長胴甕が出土した。432はSK2・SE7でも同一個体と思われる破片が出土している。

第4T集中区4（第66図433～437・写真図版19）　トレンチ東端から48mの地点(E4-4グリッド)である。SB6第１柱穴の東側に近接する。須恵器無台杯(433～435)・有台杯(436)・折縁杯(437)、土師器無台椀が出土した。433・437は笹神産であろう。

第4T集中区一括（第66図438・439・写真図版19）　トレンチ西端から13.5mの地点(J4-4グリッド近く、本格調査区外)である。須恵器無台杯・甕、土師器小甕(438)が出土した。須恵器長頸壷(439)は口縁部が欠損している。

（７）　性格不明遺構

出土遺物は土器の小破片が多い。特にSX2・3・6では主体をなす土師器無台椀の大半が小片であり、遺物量に比べ、図示できたものが少ない。

SX1（第66図440・441）　遺物量は少なく、須恵器壷(441)・甕、土師器無台椀(440)、黒色土器無台椀、礫が出土した。礫は長さ8.5cm・幅6.8cm・厚さ4.5cmで用途不明である。小片のため図示していないが、タール状のものが付着した土師器椀口縁部破片が1点ある。

SX2（第67図442～456）　遺物量は多く、須恵器無台杯(442・443)・杯蓋(444)・有台杯(445)・甕(455)、土師器無台椀(446～449)・皿(452)・小甕(453)・長胴甕(454)・鍋(456)、黒色土器無台椀(450・451)が出土した。土師器無台椀が多く、ｂ類がほとんどである。胎土に海面骨針が含まれるものがごく少量みられる。450・451は、いずれも底部ロクロケズリである。

SX3（第67図457～466）　須恵器無台杯・甕、土師器無台椀(457～463)・小甕(464)・長胴甕(465)・鍋(466)、軽石、微量の炭化材などが出土した。土師器無台椀が多く、口縁部が外反するものが多い。また、胎土はｂ類が多く、精良なものは小片のみである。

SX4（第68図467～469）　遺物量は少ない。須恵器無台杯・壷、土師器無台椀(467・468)・長胴甕・土師器鍋(469)、黒色土器椀が出土した。土師器無台椀は、口縁部端部を丸く収め外反もしくは内湾するもの、端部をつまむようにして外反するものなどバラエティに富む。また、胎土に海面骨針が含まれるものや、径2～3mmの石英などを含むものなどが少量ある。

SX5（第68図470～472）　須恵器無台杯(470)、土師器無台椀(471・472)、黒色土器椀が出土した。土師器無台椀ｂ類が多い。図示していないが、口縁内部に煤が付着し、灯明器に用いられたと思わ

れる土師器椀破片が1点ある。

SX6（第68図473～480）　遺物量は多く、須恵器無台杯(476)・長頸壷(480)・甕、土師器無台椀(473～475・477)・小甕(478)・長胴甕・鍋(479)、黒色土器椀、軽石が出土した。476と477は墨書されている。土師器無台椀が多く、形態は口縁部を外反するものが多い。口縁内部に煤が付着した土師器椀破片も2点みられた。

SX7（第68図481～485）　遺物量は少ない。須恵器無台杯・杯蓋(481・482)・甕(484・485)、土師器長胴甕・鍋、黒色土器椀(483)が出土した。

SX8（第68図486・487）　須恵器無台杯・壷(487)・甕、土師器無台椀(486)・長胴甕・鍋、黒色土器椀が出土した。土師器無台椀はb類が多い。486は底部ロクロケズリである。

SX9（第69図488～491）　遺物量は少なく、須恵器無台杯(488・489)・甕、土師器無台椀・小甕(490)・長胴甕(491)が出土した。

（8）　ピット

掘立柱建物以外の小穴から出土したものを記した（第69図492～512)。須恵器無台杯(492～496・500)・杯蓋(497・498)・有台杯(499・501)・甕(512)、土師器無台椀(502～505)・小甕(506・507)・長胴甕(508・509)・鍋(510・511）がある。食膳具と煮炊具が多い。495の口縁部に打ち欠きが1か所あり、内側に煤が付着する。灯明器として使用されたと思われる。498は笹神産と思われる。503は口縁部から体部にかけて内外面に煤が付着し、灯明器として使用されたと思われる。504の口縁部外側には油染みのような暗褐色に変色した部分が残る。505は遺存状況がよく、埋納された可能性がある。507は土師器小甕の底部で、胎土が非常に精良で、底部内面中央が丸くふくらみ、SD2などにみられる小甕とは形態や胎土が異なる。

第3項　遺構外出土遺物

遺構外出土のものは、遺存状況の良いもの、あるいは遺構出土で数が少なかったものを中心に示すようしたが、結果的に須恵器無台杯など復元されやすいものが多くなった。したがって図示された点数が遺跡の器種構成をそのまま反映するものではない。なお、調理具は遺構以外での出土は確認されていない。

食膳具（第70図513～第75図700・写真図版20・21）　須恵器は無台杯(513～565)・杯蓋(566～581)・有台杯(582～613・617)・折縁杯(614～616)・有台椀(618)がある。565は、胎土がやや白っぽく厚手の作りで、新津丘陵産と思われる。616はSE7出土の317と同一個体の可能性がある。いずれも笹神産である。ほかは佐渡産であろう。617は細い沈線が2条一組として施される。上越市今池遺跡SK24出土の有台杯に似る。

土師器は無台椀(619～671)・有台皿(672・673)・器種不明の高台部分(674～676)がある。図示した椀のうち、a類が27点、b類が26点とほぼ二分される。有台皿及び高台は無台椀b類の胎土に似ており、調整はそれらよりていねいにロクロナデされる。629・643・653は特に硬質な焼成で、断面が灰褐色である。628・631・668は底部ロクロケズリで、652は静止糸切りの可能性がある。624・637は口縁内部にタール状の付着物があり、いずれも灯明器として利用されたと思われる。634は内面に蛇の目状に漆状の付着物がある。

黒色土器は無台椀（679～694）・有台椀（695～699）、内外面黒色処理皿（700）がある。底部に糸切り痕が残っているものは689・697・698の3点で、ほかはすべてロクロケズリされている。699は内外面黒色で平高台椀である。369より高い高台を持つ。胎土は他の黒色土器より精良である。700は内外面にミガキの痕跡が認められ、皿の口縁部と思われる。

緑釉陶器素地の椀底部（677）が1点確認された。色調は明褐色で、土師器に比べ精良で緻密な胎土を用いる。釉薬がかかっていない。削り出し成形された平高台を持つ。

煮炊具（第75図701～第82図772・写真図版21）　土師器の小甕(701～712)・長胴甕(713～740)・把手(741・742)・鍋(743～772)がある。小甕は長胴甕や鍋に比べ破片数が少ない。図示したもののうち704の口縁部が内側へ明瞭に屈曲しないことからａ類に分類し、ほかはすべてｂ類とした。

長胴甕は口縁部形態から35個体を識別し、体・底部も含め25点を図示した。ａ類6個体（717・721・727・728・730・731）、ｂ類8個体（715・718・719・723・725・726・729・732）、ｃ類8個体（713・714・716・720・722・724・733・734）である。

738～740は当遺跡に一般的にみられる長胴甕などと器形や調整が異なる。738は、頸部で屈曲しそのまま外反する。内面は縦横方向にハケ目、外面はカキ目痕が残る。径2～3mmの石英等が多く含まれる、粗雑な胎土である。当遺跡ではこの1点のみである。739・740は佐渡型甕である。741・742は把手である。どのような器形につくものかわからない。

鍋は45個体以上を識別し、そのうち口径が復元できた31点を図示した。口径40cm前後が多い。ａ類10個体（747・749・754・758・759・765・766・768・769・771）、ｂ類12個体（745・748・750・751・756・757・761・763・764・767・769・772）、ｃ類9個体（743・744・746・752・753・755・760・762・770）である。また、ａ・ｂ類は調査区内に散在するのに対し、ｃ類はA～C列に多く分布する。

貯蔵具（第83図773～第88図830・写真図版22・23）　須恵器の壺・甕等破片が多量に出土した。タタキ具痕やあて具痕の組み合わせにより個体識別を行い接合を試みたが、復元された個体は少ない。

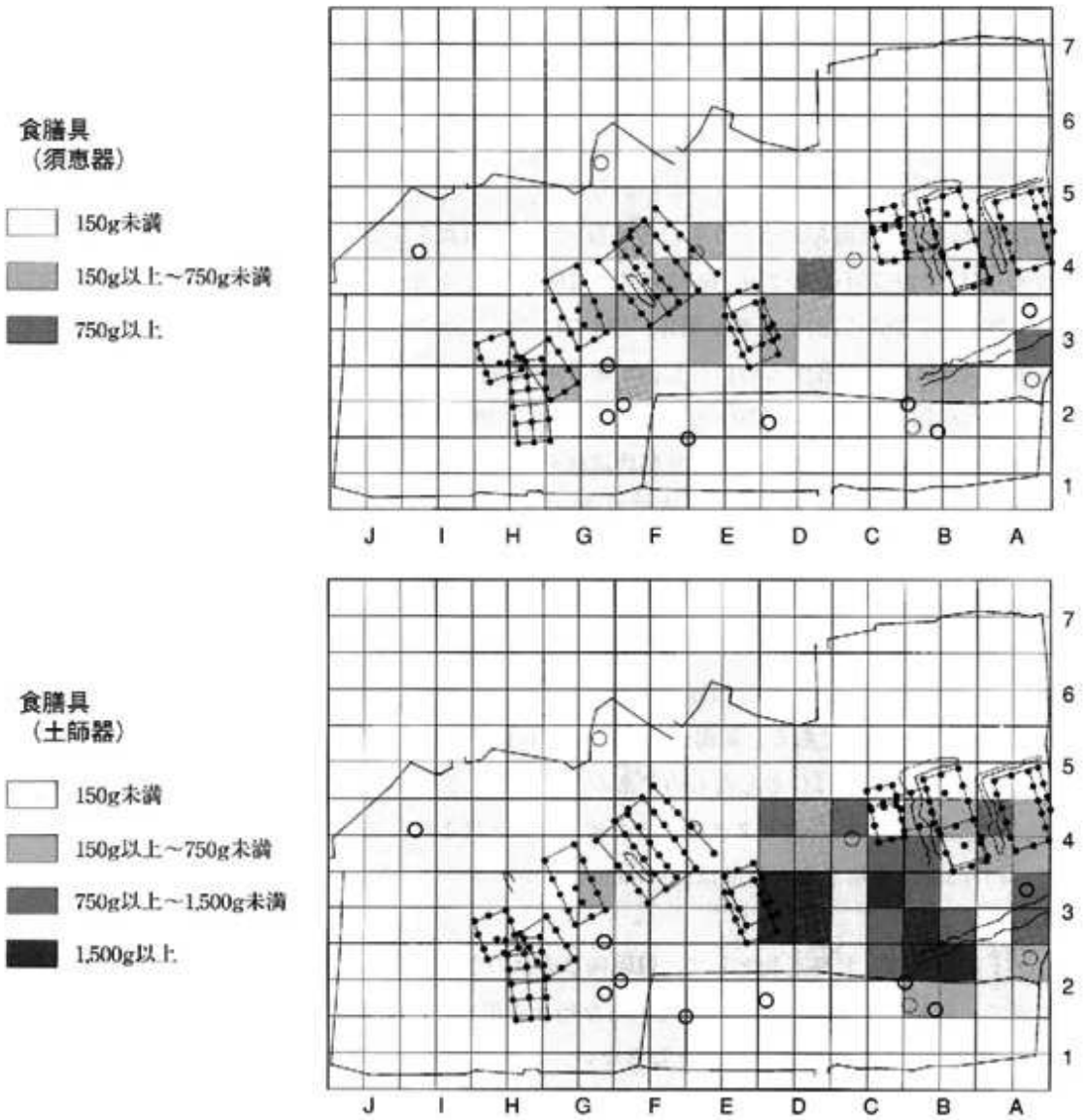
壺類は、口縁部識別により20個体、底部の識別により18個体以上を識別した。長頸壺が多く、短頸壺は少ない。795は胎土が粗く、笹神産の可能性がある。797は体部外側に刻書がある。799・800は内端接地の高台を持つ。横瓶は、口～頸部の形状、閉塞部分などにより7個体を識別した。817は横瓶としたが、口径が大きく、広口壺の可能性が残る。818は範囲等確認調査時に、ほぼ1個体分がそのままつぶれた状態で出土した。口縁部は欠損している。819は高台付横瓶で、やや薄手である。当遺跡では1点だけの出土である。新潟市的場遺跡でも1点確認されている（報告書未掲載）。821の断面図右上の破片は焼成時に付着したものである。

甕は、体部破片をあて具痕とタタキ具痕の組み合わせにより、35個体を識別した。口径20cm台が主体で、口径30cmを超える大形品は829・830などがあるが、少数である。828は頸部に「×」の刻書がある。

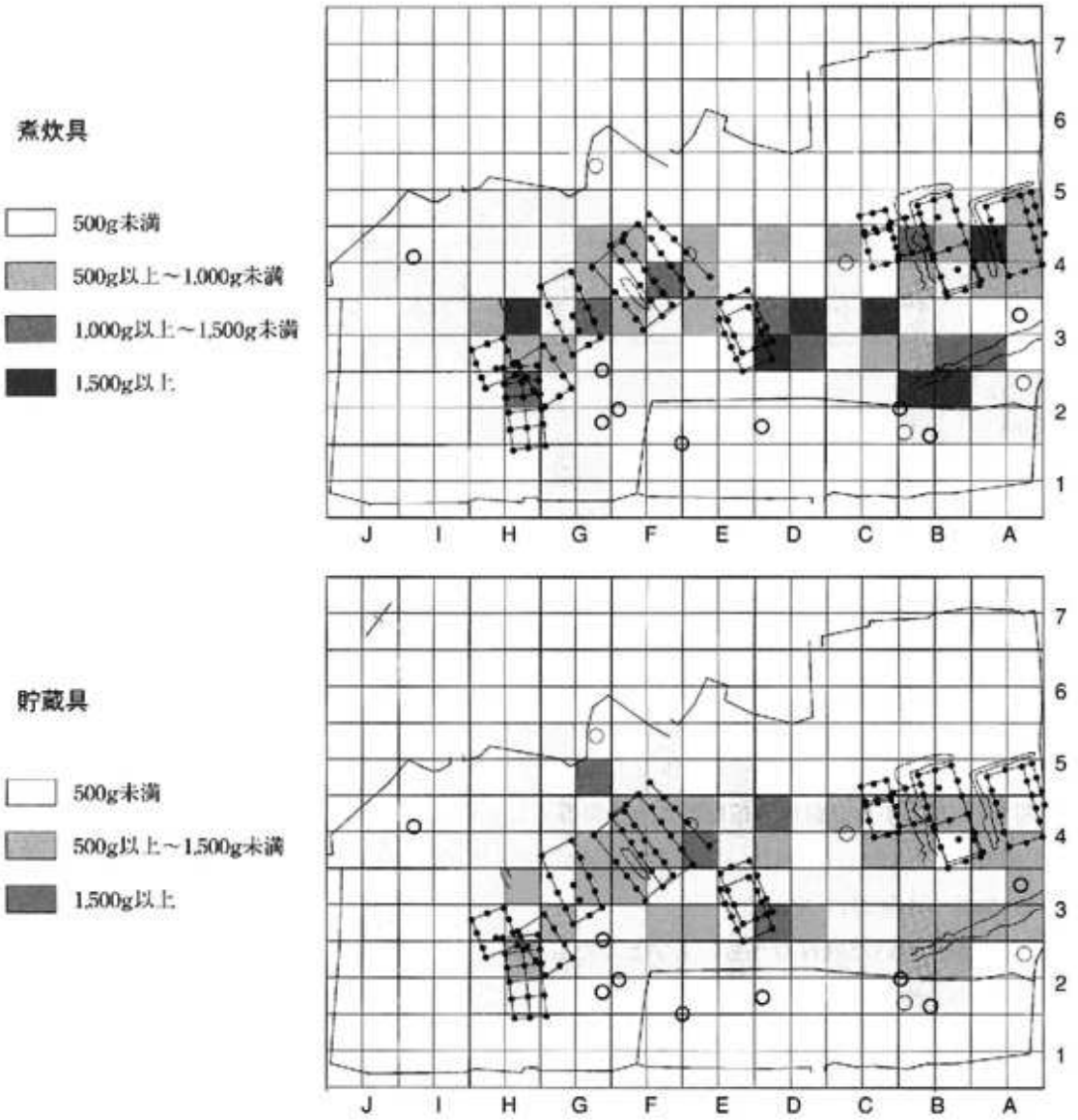
また、上記の他に、特殊遺物として、緑釉陶器素地の小型薬壺の蓋(678)が1点確認された。色調は明褐色で、在地の土師器に比べ精良で緻密な胎土を用い、釉薬はかかっていない。677と合わせ、いずれも現在のところ県内では類例をしらない。京都市埋蔵文化財調査研究所の平尾政幸氏より、胎土及び成形から、京都産で9世紀後半に位置付けられるとご教示頂いた。

土器の分布　第17·18図に調査区内の遺構外出土遺物のグリッド別重量分布状況を示した。調査区南側のA1～E1グリッドは、包含層が後世の開田によって失われていたため、遺物がほとんどみられない。須恵器食膳具は調査区全体に分布している。土師器食膳具はD列とE列を境に調査区西側のE～J列では減少し、調査区東側のA～D列にかけて集中する。煮炊具は掘立柱建物近辺に多い。貯蔵具はSB5·6、SB7·8付近に比較的多く、I·J列で減少する。なお、北側のA5～A7·B5～B7·C5～C7グリッドではほとんど遺物がみられない。井戸や建物など日常的に土器を使用する場所から離れていることが原因と思われる。

上記のことから、①須恵器が食膳具の主体である居住域と、土師器が主体の居住域が異なる可能性が高いこと、②平安時代に食膳具が須恵器から土師器に替わるとされていることから、居住域の中心が西から東へ移行したことが推測される。



第17図　用途別遺物分布図（1）（S=1/1,000）



第18図　用途別遺物分布図（2）（S=1/1,000）

第4項　墨書土器

墨書土器と判断したものは107個体である。（写真図版24～28）墨書点数は墨書1か所につき、1点と数えた。小林昌二氏・相沢央氏の両氏に文字や符号の解釈についてご教示頂いた。

器種と墨書部位　器種別内訳は須恵器69個体（無台杯64・杯蓋2・有台杯2・折縁杯1）、土師器38個体（無台椀38）である。須恵器が土師器の2倍近い量である。書かれている部位は、整理番号5と17にはそれぞれ体部と底部に墨書が1点ずつあり、ほかは全て1個体に1か所ずつである。全て外面に書かれ、須恵器無台杯体部8点・底部57点、杯蓋天井部2点・有台杯底部2点・折縁杯底部1点、土師器無台椀体部9点・底部30点である。

出土位置　調査区のほぼ全域から出土した（第19図）。遺構出土が68個体、遺構外出土が39個体で

第6表　出土位置別墨書一覧　（□は釈不明）

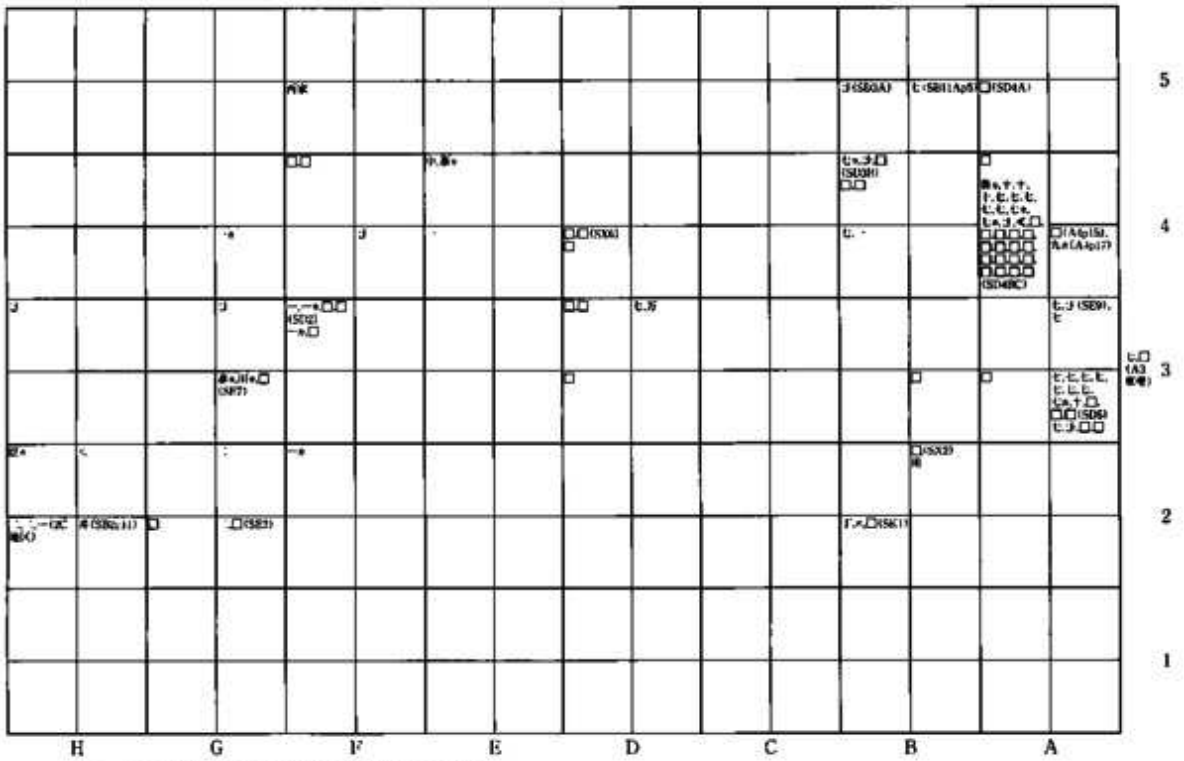
出土地	文字（　）内は点数	計	符号（　）内は点数	計	不詳	合計
SB2	井(1)	1				1
SB11A	七(1)	1				1
SD2	一(2)、【□(1)】	3			1	4
SD3	七(1)、寸(2)	3	【□(1)】	1		4
SD4	七(7)、十(3)、新(1)、寸(1)、【□(8)】	20	〈(1)、【□(1)】	2	9	31
SD5	七(8)、十(1)、【□(1)】	10			2	12
SE4	二(1)	1			1	2
SE7	田(1)、奉(1)	2	【□(1)】	1		3
SE9	寸(1)	1			1	2
SK1	丁(1)	1	×(1)	1	1	3
SX2					1	1
SX6	【□(1)】	1			1	2
A4p15	【□(1)】	1				1
A4p17	九(1)	1				1
遺構外	七(5)、一(7)、寸(4)、二(3)、西家(1)、奉(1) 臣(1)、中(1)、万(1)、田(1)、【□(3)】	28	〈(1)、【□(3)】	4	9	41
合計		74		9	26	109

＊表中「〔〕」や「ヵ」は省略した。

ある。遺構別では、多い順にSD4から31個体（須恵器21・土師器10）、SD5から12個体（須恵器4・土師器8）、SD2から4個体（須恵器3・土師器1）、SD3から4個体（須恵器3・土師器1）、SE7から3個体（須恵器3）、SK1から3個体（土師器3）、SE4から2個体（須恵器2）、SE9から2個体（須恵器2）、SX6から2個体（須恵器1・土師器1）、SB2から1個体（須恵器1）、SB11Aから1個体（土師器1）、SX2から1個体（須恵器1）A4グリッドp15から1個体（須恵器1）、A4グリッドp17から1個体（土師器1）である。

釈文　書かれていた内容のうち、文字としたものは、文字の可能性を持つもの（釈文を〔〕付で表記したもの）や鏡文字と思われるものを含めて74点、符号としたものは則天文字に似ているものや、釈は不明だが符号の可能性が高いものを含め9点、いずれとも判断のつかなかったものは26点である。符号の可能性もあるが、釈がある場合は文字の可能性を優先して数えた。整理番号45・102～104が該当する。文字として判断したもののうち、判読できたものは55点である。また、文字数は1字がほとんどで、2字以上記かれているものは2点あり、そのうち判読できたものは「西家」1点のみである。他は1字か1字以上の可能性があるもので、推定判読も含めた文字種の内訳は「七」及び「〔七ヵ〕」を合わせて22点、「寸」8点、「一」7点、「十」4点、「二」4点、「〔奉ヵ〕」「〔田ヵ〕」2点、「井」「〔臣ヵ〕」「丁」「中」「万」「〔新ヵ〕」「〔九ヵ〕」が1点ずつである。的場遺跡で多く出土した人名はみられない。「寸」は、これ以外の鏡文字が見られないことから、「七」を書こうとして誤った可能性がある。「七」「寸」はSB11A・SD3～5・SE9などの調査区東側にある遺構に多く、また、時期的にも第3項で2期としたものに全て含まれる。SE7出土の「〔奉ヵ〕」は、文字の下部が省略されており、「秦」や「奏」等の可能性を残す。「西家」は唯一出土した施設名であり、SB6の北側から出土した。

推定判読を含めた符号は、「＜」「〈」「×」が各1点である。諸橋大漢和辞典によると「＜」は大溝の意を示すとされているが、調査区内では該当するような大型の溝は検出されていないため、溝



注1　整理番号25・110は調査区外のため記載していない。
注2　□は釈不明のものをさす。
注3　()は省略した。

第19図　墨書土器分布図

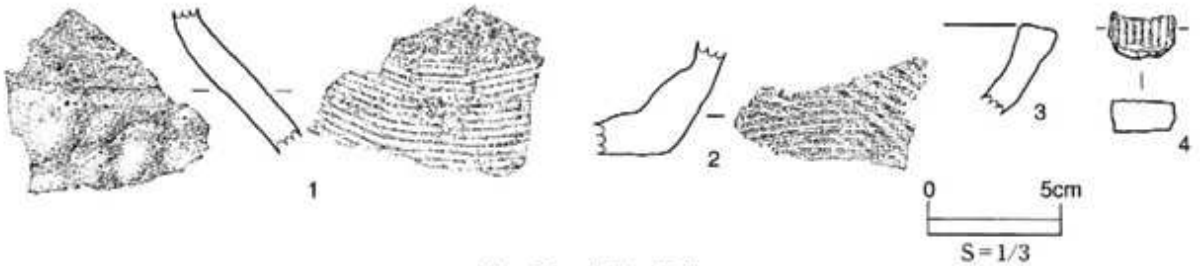
の意味で書かれたものか不明である。整理番号31の墨書土器は則天文字の「朩」の一部に似る。また「井」について今回は文字としての扱いを優先したが、はらいが明確でなく、符号である可能性も残る。また、「二」「七」「十」なども、数字ではなく符号としての役割があった可能性があることを相沢氏より御教示頂いた。

小丸山遺跡出土の墨書土器は、点数が多い割には文字種が少ないことや、単一字句が多く、中でも「七」や「十」などの数字が多いことが特徴である。また、的場遺跡出土の墨書土器と比べ、字が稚拙で画数の多い漢字が少なく、符号の墨書土器も位置にまとまりがない。このことから小丸山遺跡では習熟した書き手の存在は認められない。

第3節　中世

遺構は検出されず、珠洲焼4点（第20図・写真図版28）が出土しただけである。断面図の右に外面、左に内面を示した。

1・2は甕または壺の破片である。1は肩部、2は底部である。1、2は外面に平行タタキ目、1は内面に無文あて具痕が残る。3は鉢の片口部分付近である。内外面ともロクロナデ調整で、胎土は灰褐色である。吉岡編年のⅣ期（文献32）に類似し、時期は14～15世紀とみられる。4は壷か甕の体部破片を打ち欠いて土器片円盤としたのち、欠損したものである。新潟市山木戸遺跡に類例がある。



第20図　中世の遺物

第4節　近世

テンバコ3箱分の陶磁器片と木片がある。これらの遺物は主に遺構内から出土した。近世前半のものは少なく、電気絶縁の碍子など現代の遺物もある。主な近世の陶磁器類について記す。

第90図11（写真図版29）は遺構外出土の陶器で、近世遺物の中で最も古いと思われる唐津焼の溝縁皿である。内面に胎土目積みの跡がある。年代は1600～1630年であろう。緑がかった灰釉が掛けられている。外面の底部付近は無釉で、削り出し高台である。

第90図1～10（写真図版29～31）は、時期的に一括性が認められるSK105から出土した。1は生産地不明の陶器碗で、外面にはイッチン描きで草花と思われる文様が施される。2～4は肥前磁器の染付で、2は丸形碗である。3は広東碗で、外面に2種の花文を交互に1対ずつ描き、唐草状につなぐ。見込に唐草文が描かれる。4は深皿で、底部は蛇の目凹形高台を持つ。蛇の目部分は釉剥ぎされている。5は内外面黒色の瓦質土器で、外面は光沢をおび、内面に煤が付着する。手焙りなど火鉢の類であろう。6～8は鉄釉擂鉢で、生産地は不明である。いずれも丸縁状の口縁部を持ち、おろし目の上端が横なでにより揃えられている。9・10は土師質土器で、焙烙である。丸底で、底部から体部への屈曲部分の外面に横位のなでがみられる。外面に煤が付着する。体部にはいずれも径0.9cmの穴があけられている。SK105は、広東碗に代表される1800年を前後する時期と考えられる。

12～26（第90図12～19・写真図版29～31）は、他の遺構や遺構外出土遺物である。12～15・17・18・20～25は肥前磁器の染付である。12は丸形碗で、外面に草木文、内面に二重圏線が描かれる。13・14は深皿で、13は口縁部が丸縁、底部が蛇の目凹形高台である。蛇の目部分は釉剥ぎされ、見込みも蛇の目釉剥ぎである。14は外面に唐草文、内面に松竹文が描かれている。15は丸形皿で、内面に花が描かれる。17は小型の壷で、17は外面に草木を描いたものと思われる。18は小型の瓶である。20

は広東碗で、見込みと外面に染付文が施される。呉須の色調がやや明るい。21は染付皿で、見込みが蛇の目状に釉剥ぎされている。内面は二重格子日文と思われる。22は筒形碗である。23は鉢と思われるもので、底部が厚く、見込みは釉剥ぎされている。22·23はいずれも見込みにコンニャク印判による五弁花文がある。24は腰が張る丸形碗で、見込みに星梅鉢が描かれる。25は壷の底部で、高台に三重の圏線が描かれる。16は肥前陶器の鉢で、内面に刷毛目文が施されている。19は肥前産と思われる陶器の壷の底部である。26は陶器で、須佐唐津産と思われる擂鉢底部である。高台は、断面台形である。高台内側にはノミ痕と思われる列点状の痕跡がみられる。仮排水路立合調査で採集されている。以上の陶磁器は11を除き、18世紀後半から19世紀に属する遺物と考えられる。

第5節　時代不明遺物

土製品・石製品等時代が特定できない遺物について記述する。ふいごの羽口、砥石は平安時代の遺構からも出土しているので、その多くは平安時代の可能性がある。

土錘（第91図1～19・写真図版32）　27点出土した。すべて細形である。完形品は長さ5cm台が多い。土師質であるが、的場遺跡出土のものと比べ、焼成が硬質である。I3-2グリッド第4ピットから19点まとまって出土した（1～19）。

ふいごの羽口（第91図20～23・写真図版32）　十数点出土した。いずれも端部で、一部溶解しているものが多い。包含層中に数か所まとまって出土した地点があり、その周辺から鉄滓が出土している。鍛冶関連の遺構は確認されなかったが、小規模な鍛冶が行われたと思われる。

石製品（第91図24～35・写真図版32）　砥石・紡錘車などがある。砥石（24～32）は、25のように厚さ5cmほどのやや大型のもの、24·27～29のように厚さ1～2cm程度のもの、31·32のように厚さ1cm未満の薄手のものなどがある。33は、砥面がなく、中央にくぼみがある。縄文時代の凹石の可能性がある。34·35は軽石製である。34には擦痕がある。35は軽石製の紡錘車である。径7cm·厚さ1.5cm程の円形で、中央に約1cmの孔がある。半分欠損している。

鉄製品（写真図版32）　二十数点出土した。遺存が不良で形が不明なものが多い。釘などが多いようである。

第6章　まとめ

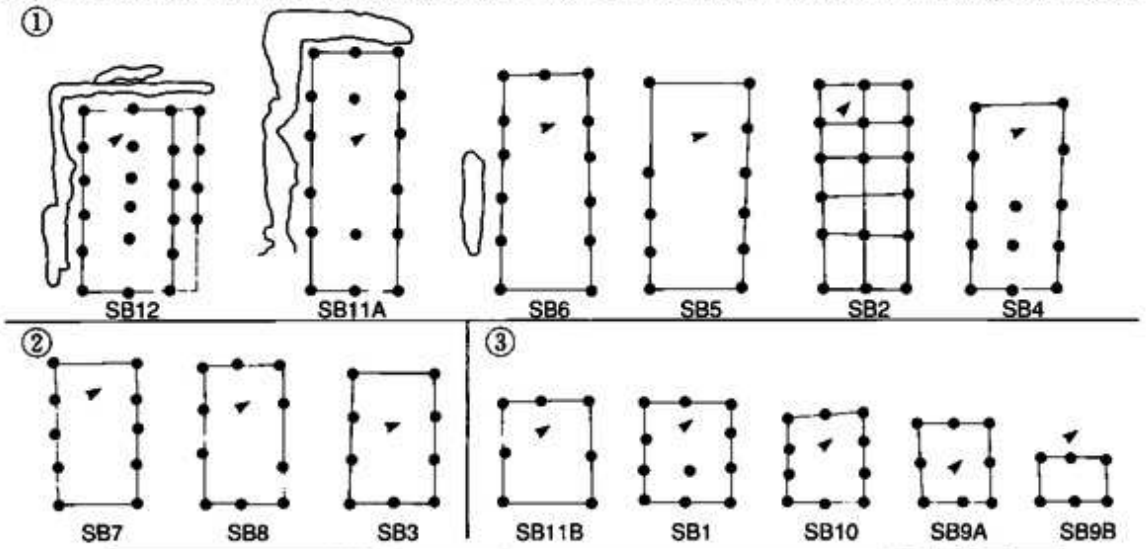
第1節　平安時代の様相

第1項　掘立柱建物群について

当遺跡の掘立柱建物群の性格について、建物の規模を中心に検討する。掘立柱建物は14棟検出されており、面積と平面形によって①51～66㎡・②35㎡前後・③9～29㎡に三分できる（第21図）。①類が6棟、②が3棟、③が5棟である。

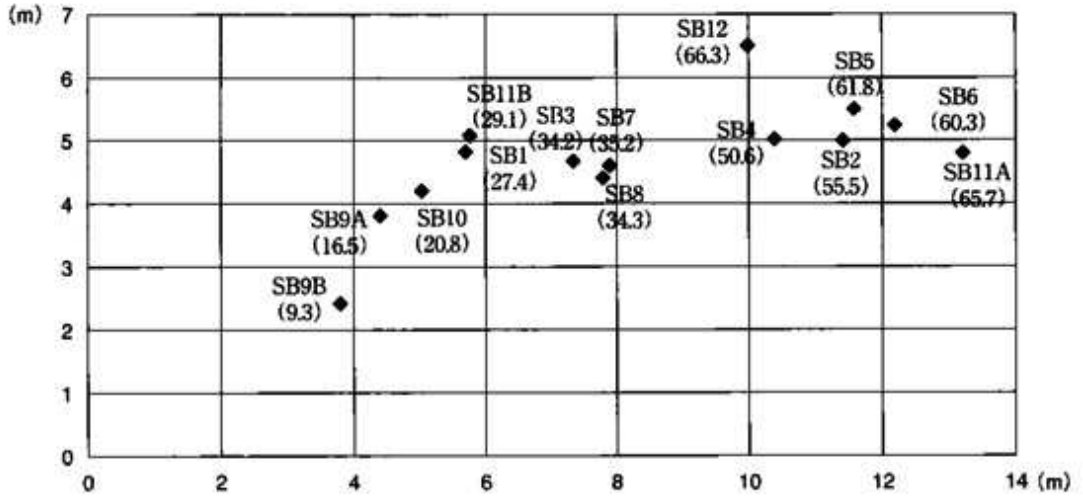
①類は面積が51～66㎡と大きく、平面形は長方形である。片面庇・雨落溝付建物1棟（SB12）、雨落溝付建物（SB6・11A）が含まれる。柱穴は、SB4が径30cmとやや小形だが、その他はすべて径あるいは1辺が40cm以上である。特にSB12は一辺が80～100cmと大きい。②類は面積が35㎡前後で、平面形は長方形である。③類は面積が9～29㎡で、主に正方形を基本とする。②・③類の柱穴は、径もしくは1辺が30～50cmのものが多く、①類より小ぶりである。

川村浩司氏が柱間数に基づいて分類した新潟県内の掘立柱建物集成（文献7）によると、最も多いのが3間×2間であり、その後の調査件数の増加によっても大きな変化はない。また、北陸地方の古代掘立柱建物については、岸本雅敏氏、田嶋明人氏、湯尻修平氏らによって集成、検討されており（文献8・14・31）、それらによると富山県や石川県などの古代集落遺跡においても、面積30㎡前後、3間×2間の建物が普遍的にみられる点で共通する。これらの成果をふまえて小丸山遺跡の建物をみ



分類	面積	棟数	
①	51～66㎡	6棟	5間×2間 4棟（SB2・6・11A・12）、5間×1間 1棟（SB5）、4間×2間 1棟（SB4）
②	35㎡前後	3棟	4間×1間 1棟（SB7）、3間×2間 2棟（SB3・8）
③	9～29㎡	5棟	3間×2間 2棟（SB1・10）、2間×2間 2棟（SB9A・11B）、2間×1間 1棟（SB9B）

第21図　掘立柱建物の分類（S=1/400）



第22図　掘立柱建物の寸法と面積（（　）内は面積・単位㎡）

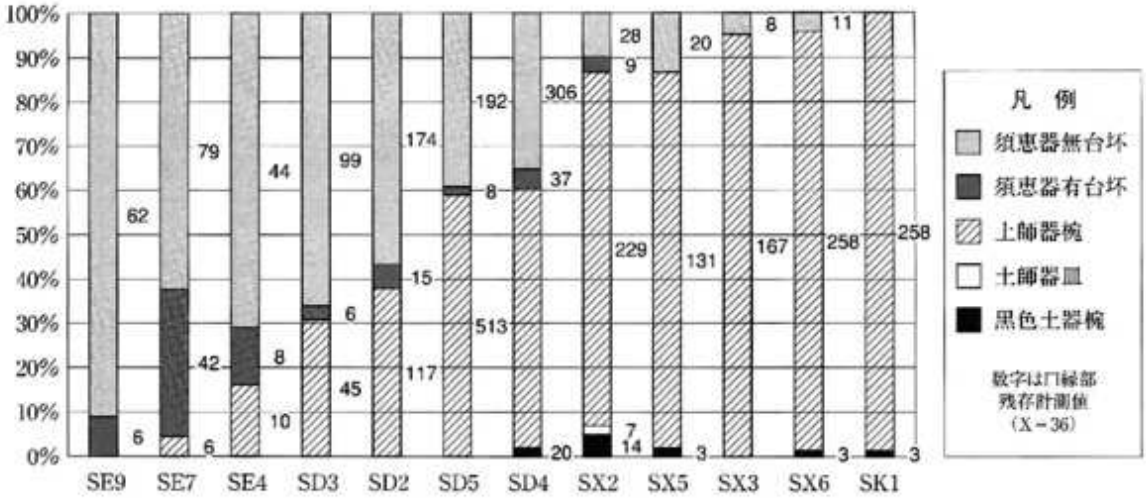
たとき、50㎡以上の建物が6棟あり、大形の建物が多いことが遺跡の性格を考える上で注目される。北陸地方で普遍的な規模の建物は少なく、30㎡に満たない小形の③類が5棟存在する。

掘立柱建物群は、調査区の西側の建物群（SB1～8）と東側の建物群（SB9～12）に大きく分かれて分布している。両群とも、大形建物や小形建物の建て替えや重複が認められ、一定期間存続していたことが確認されている。建物の大小の差は東側建物群の方が大きい。また両群とも、複数の井戸と数条の畝状小溝を近くに配している点で共通する。当初より大小数棟の建物群と井戸と畝状小溝で構成され、維持されていたのであろう。これらのことから、両建物群はそれぞれが一つの単位集団であり、各建物は単位集団に属する人々の家だったと考えられる。また、建物規模の差からは、単位集団が支配的立場の富裕層とそれに従属する立場の人々により構成されていたことが想定できる。

第2項　土器の様相

当遺跡の食膳具は、須恵器1に対し土師器3～4の割合で構成されている。しかし、遺構によってその割合は異なる。食膳具構成比率の差は、遺構の性格や時期差によるものと考えられる。ここでは遺物量の多い遺構について、構成比率（口縁部残存計測法により算出）と、土器の産地・法量などの比較によりその変遷を追うこととする。なお、口縁部残存計測法は、口縁部の残存率（残存する口縁周の長さ÷復元される口縁周の全長）を計算し、種別・器種ごとに合計するものである（文献3）。

時期が新しくなるにつれて、食膳具の主体が須恵器から土師器（黒色土器を含む）に移行することが上越市今池遺跡群などで確認されている（文献12ほか）。計測した遺構を、蓋を除いて須恵器の割合の多い順に並べると、SE9（100%）、SE7（95%）、SE4（84%）、SD3（70%）、SD2（62%）、SD5（41%）、SD4（39%）、SX2・5（13%）、SX3（5%）、SX6（4%）、SK1（0%）となる（第23図）。これらは須恵器主体のもの（SE9・7）、須恵器が6～8割前後、土師器が2～4割のもの（SE4・SD2・3）、須恵器が4割前後、土師器が6割前後のもの（SD4・5）、土師器主体のもの（SX2・3・5・6・SK1）に分けられる。



第23図　遺構別食膳具構成比率

最初に、須恵器が主体で古い段階と思われるSE9とSE7を見る。小丸山遺跡周辺における須恵器生産は、笹神丘陵や新津丘陵で8世紀代から須恵器生産が始まり、9世紀半ばを境に減少する。それに代わるように佐渡から須恵器が大量に流入し、9世紀後半台にはほぼ佐渡産で占められることが先行の研究により掌握されている（文献20）。両遺構を比較すると、SE7は笹神産と新津産で、佐渡産須恵器はみられない。器種は無台杯・有台杯のほかに折縁杯がある。折縁杯は笹神丘陵において8世紀後半から9世紀半ばにかけて作られる特徴的な器種である（文献20）。また、SE9は佐渡産が主体で、無台杯・有台杯があるが、折縁杯は見られない。このことからSE7がSE9より古く、当遺跡の中では最古段階を示すと考えられる。

次に、SE4、SD2～5をみる。これらの遺構からも笹神産の須恵器が少量出土しているが、主体は佐渡産である。佐渡の小泊窯跡群では、下口沢窯・カメ畑1～3号窯・江ノ下窯出土の須恵器杯類は、時期が下るにつれて須恵器杯類の法量分化が進む傾向が指摘されている（文献13）。SD2・3出土の須恵器無台杯は、器高指数24・25を中心として20～30の間に収まり、法量の差も小さいが、SD4は器高指数19～26・28、SD5は21～24・35と差が開くことから、SD2・3が古く、SD4・5が新しいと考えられる。また、SE9の須恵器無台杯の器高指数も18・24・26と差が開くことから、SD4・5により近い時期のものと考えられる。

SK1、SX2・3・5・6については、須恵器が1割以下で、土師器が主体を占めることから、最も新しい段階と思われる。

上記のことから、土器の変遷は次の4段階が想定できる。

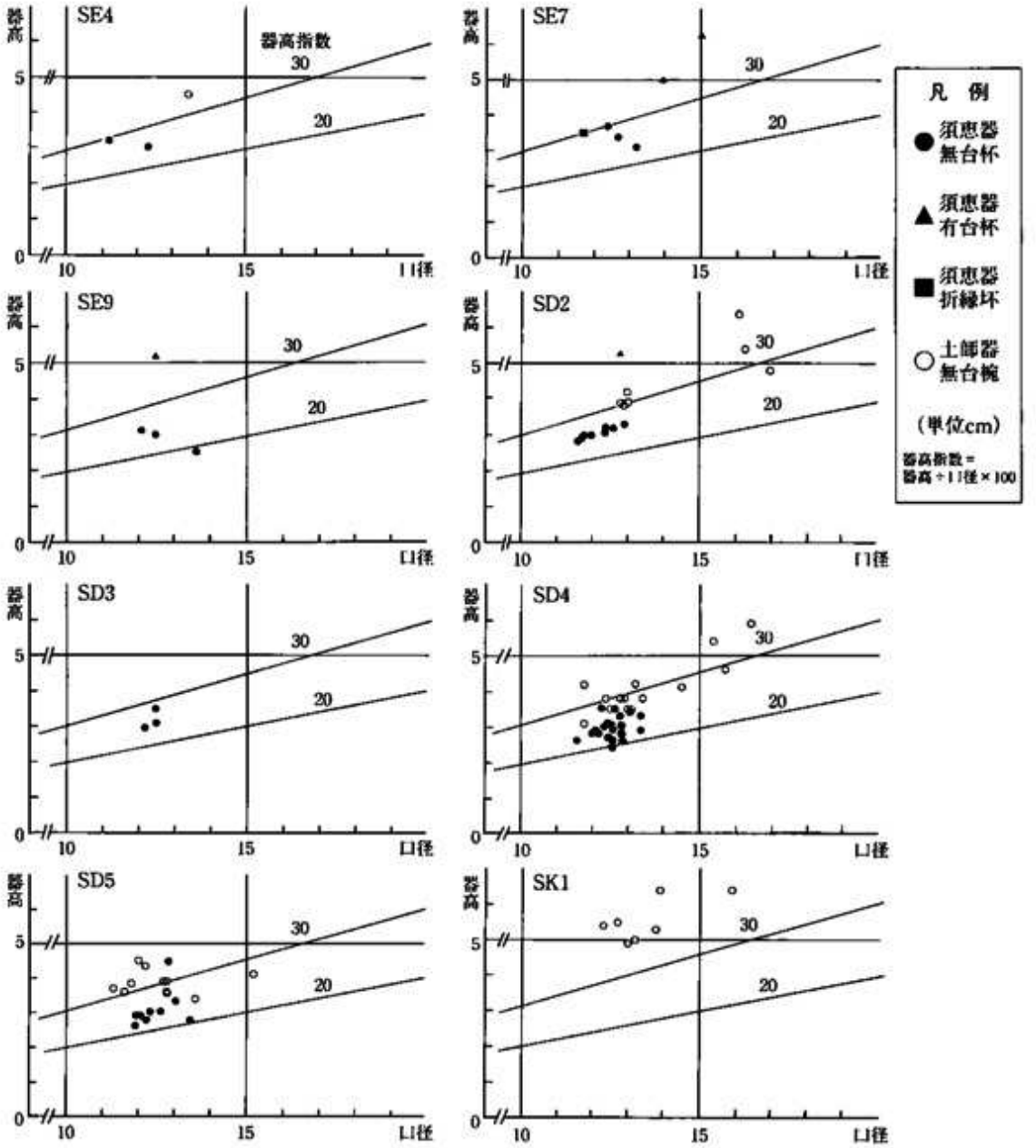
第1段階　SE7出土遺物に表徴される。須恵器が土器食膳具のほとんどを占め、笹神や新津丘陵産などの須恵器が主体である。特徴的な器種として折縁杯がある。これらの特徴から、山三賀遺跡Ⅳ期に相当すると思われる。

第2段階　SE4、SD2・3出土遺物に代表される。須恵器が土器食膳具の7割前後を占める。佐渡産須恵器が主体である。また、土師器椀類は粒子が細かく精良な胎土で、内外面ロクロナデされるa類が多い。

第3段階　SD4・5、SE9出土遺物に代表される。須恵器が土器食膳具の3～4割前後と減少し、佐渡産須恵器が主体である。

第4段階　SK1、SX2・3・5・6出土遺物に代表される。土師器無台椀が土器食膳具のほとんどを占める。

中でも胎土の粗いb類が多い。須恵器は甕・壺などの貯蔵具が主となる。また、第1～4段階を通して煮炊具や貯蔵具が出土し、全期間通じて使用されていた様子がうかがえる。比較的遺構出土点数の多い小甕について出土量の多いSD2とSD4で比較すると、SD2ではa類が4割弱であったが、SD4では1割程度である。これも時期差を示している可能性がある。



第24図　主な遺構の食膳具法量分布

第7表　遺構別器種構成(1)

SE4	器種	口縁部計測値		重量(g)
種類		X/36	比率(%)	
食膳具	須恵器無台杯	44	64.7	140.6
	須恵器杯蓋	6	8.8	
	須恵器有台杯	8	11.8	
	土師器無台椀	10	14.70.0	102.9
	黒色土器椀	0	0	
煮炊具	土師器小甕	口縁無	−	348.9
	土師器長胴甕	口縁無	−	
	土師器鍋	0	0	
貯蔵具	須恵器壷	0	0	510.9
	須恵器横瓶・甕	0	100.0	
合計		68		1103.3

SE7	器種	口縁部計測値		重量(g)
種類		X/36	比率(%)	
食膳具	須恵器無台杯	79	59.9	1112.8
	須恵器杯蓋	5	3.8	
	須恵器有台杯	42	31.8	
	土師器無台椀	6	4.5	28.8
	黒色土器椀	0	0	
煮炊具	土師器小甕	口縁無	−	252.1
	土師器長胴甕	0	0	
	土師器鍋	0	0	
貯蔵具	須恵器壷	口縁無	−	1221.3
	須恵器横瓶・甕	口縁無	−	
合計		132	100.0	2615.0

SE9	器種	口縁部計測値		重量(g)
種類		X/36	比率(%)	
食膳具	須恵器無台杯	62	73.8	231.7
	須恵器杯蓋	0	0	
	須恵器有台杯	6	7.1	
	土師器無台椀	口縁無	−	73
	黒色土器椀	0	0	
煮炊具	土師器小甕	3	3.6	96.4
	土師器長胴甕	0	0	
	土師器鍋	口縁無	−	
貯蔵具	須恵器壷	口縁無	−	735.3
	須恵器横瓶・甕	0	0	
調理具	須恵器鉢	13	15.5	340.6
合計		84	100.0	1477.0

SD2	器種	口縁部計測値		重量(g)
種類		X/36	比率(%)	
食膳具	須恵器無台杯	174	44.3	887.4
	須恵器杯蓋	口縁無	−	
	須恵器有台杯	15	3.8	
	土師器無台椀	117	29.8	874.8
	黒色土器椀	0	0	
煮炊具	土師器小甕	68	17.3	6200.3
	土師器長胴甕	13	3.3	
	土師器鍋	6	1.5	
貯蔵具	須恵器壷	口縁無	−	106.2
	須恵器横瓶・甕	0	0	
合計		393	100.0	8068.7

SD3	器種	口縁部計測値		重量(g)
種類		X/36	比率(%)	
食膳具	須恵器無台杯	99	55.3	496.1
	須恵器杯蓋	11	6.1	
	須恵器有台杯	6	3.4	
	土師器無台椀	45	25.1	281.7
	黒色土器椀	口縁無	−	11.6
煮炊具	土師器小甕	10	5.6	708.0
	土師器長胴甕	3	1.7	
	土師器鍋	5	2.8	
貯蔵具	須恵器壷	口縁無	−	787.6
	須恵器横瓶・甕	0	0	
その他	製塩土器	口縁無	−	5.6
合計		179	100.0	1653.0

SD4	器種	口縁部計測値		重量(g)
種類		X/36	比率(%)	
食膳具	須恵器無台杯	306	26.8	2429.4
	須恵器杯蓋	34	3.0	
	須恵器有台杯	37	3.2	
	土師器無台椀	513	45.0	2736.2
	黒色土器椀	20	1.8	192.1
煮炊具	土師器小甕	0	0	6508.6
	土師器長胴甕	34	3.0	
	土師器鍋	189	16.6	
貯蔵具	須恵器壷・瓶	4	0.4	2081.5
	須恵器横瓶・甕	2	0.2	
調理具	須恵器鉢	口縁無	−	104.3
合計		1139	100.0	14052.1

第8表　遺構別器種構成(2)

SD5	器種	口縁部計測値		重量(g)
種類		X/36	比率(%)	
食膳具	須恵器無台杯	192	35.8	816.2
	須恵器杯蓋	20	3.7	
	須恵器有台杯	8	1.5	
	土師器無台椀	289	53.9	1086.1
	黒色土器椀	口縁無	−	17.1
煮炊具	土師器小甕	24	4.5	719.5
	土師器長胴甕	2	0.4	
	土師器鍋	1	0.2	
貯蔵具	須恵器壺	口縁無	−	226.3
	須恵器横瓶・甕	0	0	
合計		536	100.0	2865.2

SK1	器種	口縁部計測値		重量(g)
種類		X/36	比率(%)	
食膳具	須恵器無台杯	口縁無	−	5.9
	須恵器杯蓋	4	1.4	
	須恵器有台杯	0	0.0	
	土師器無台椀	258	88.91.0	1526.3
	黒色土器椀	3	0	51.9
煮炊具	土師器小甕	0	0	147.0
	土師器長胴甕	口縁無	−	
	土師器鍋	0	6.6	
貯蔵具	須恵器壺	19	2.1	1005.5
	須恵器横瓶・甕	6	100.0	
合計		290		2736.6

SX2	器種	口縁部計測値		重量(g)
種類		X/36	比率(%)	
食膳具	須恵器無台杯	28	9.1	154.9
	須恵器杯蓋	口縁無	−	
	須恵器有台杯	9	2.9	
	土師器無台椀	229	74.0	1967.0
	土師器皿	7	2.3	
	黒色土器椀	14	4.5	155.7
煮炊具	土師器小甕	4	1.3	1280.5
	土師器長胴甕	8	2.6	
	土師器鍋	7	2.3	
貯蔵具	須恵器壺	0	0	132.8
	須恵器横瓶・甕	3	1.0	
合計		309	100.0	3690.9

SX3	器種	口縁部計測値		重量(g)
種類		X/36	比率(%)	
食膳具	須恵器無台杯	8	4.2	2.2
	須恵器杯蓋	0	0	
	須恵器有台杯	0	0	
	土師器無台椀	167	87.0	1144.3
	黒色土器椀	口縁無	−	13.2
煮炊具	土師器小甕	11	5.7	403.2
	土師器長胴甕	4	2.1	
	土師器鍋	2	1.0	
合計		192	100.0	1562.9

SX5	器種	口縁部計測値		重量(g)
種類		X/36	比率(%)	
食膳具	須恵器無台杯	20	12.7	90.5
	須恵器杯蓋	0	0	
	須恵器有台杯	0	0	
	土師器無台椀	131	83.6	801.8
	黒色土器椀	3	1.9	
煮炊具	土師器小甕	1	0.6	198.3
	土師器長胴甕	1	0.6	
	土師器鍋	1	0.6	
合計		157	100.0	1090.6

SX6	器種	口縁部計測値		重量(g)
種類		X/36	比率(%)	
食膳具	須恵器無台杯	11	3.8	60.6
	須恵器杯蓋	0	0	
	須恵器有台杯	0	0	
	土師器無台椀	258	90.4	1526.1
	黒色土器椀	3	1.0	
煮炊具	土師器小甕	9	3.1	679.1
	土師器長胴甕	0	0	
	土師器鍋	3	1.0	
貯蔵具	須恵器壺	2	0.7	26.0
	須恵器横瓶・甕	0	0	
合計		286	100.0	2291.8

第3項　遺構の変遷

平安時代における遺構の変遷を検討する。掘立柱建物に近接して井戸や土坑、畝状小溝などが存在しており、上越市一之口遺跡西地区などで見られるように、これらの遺構が組み合わされて一つの単位をなすものと思われる。位置関係や出土遺物から、大形建物を中心とする遺構の組み合わせは、次の6群が想定される。

a群　SB1・SB4、SE7、畝状小溝1－①群

b群　SB3・SB6付SD2・SB8、SA1、SE3・SE4・SE5、畝状小溝1－②群・2群

c群　SB5・SB7、SE2、畝状小溝1－②群・2群

d群　SB9A・SB9B・SB11A付SD3、SE1・SE8、畝状小溝3－①・②群・4－②群

e群　SB10・SB12付SD4、SE9、SD5、畝状小溝7－①・②群

f群　調査区内に該当する建物なし、SK1、SX2・SX3・SX5・SX6、畝状小溝4－①群・5群

以上のうち、畝状小溝1－②群・2群は、建物と畝状小溝の方向や配置からSB5・6のどちらかに伴うものと思われるが、いずれか一方に判断できないため、両方に記載した。また、近世の可能性があるSD1や畝状小溝6群、遺物量がきわめて少ないSE6・SK3は検討の対象外とした。

また、掘立柱建物のうち、同規模・方向で重複しているSB5・6とSB7・8は同時期に建て替えたと仮定した。

建物の存続年数を20～25年程度と見ると（文献19）、SB1～3、SB9～11など3棟以上の重複があることから、約60～75年の間存続したものと思われる。このことから成立した年代が9世紀半ばであれば、10世紀第1四半期を前後する頃まで存続していたと推定される。これを1期（成立期）・2期（拡張～最盛期）・3期（終焉期）の三期に区分し、さらに遺構の新旧関係や土器様相の検討結果から、2期を細分した。

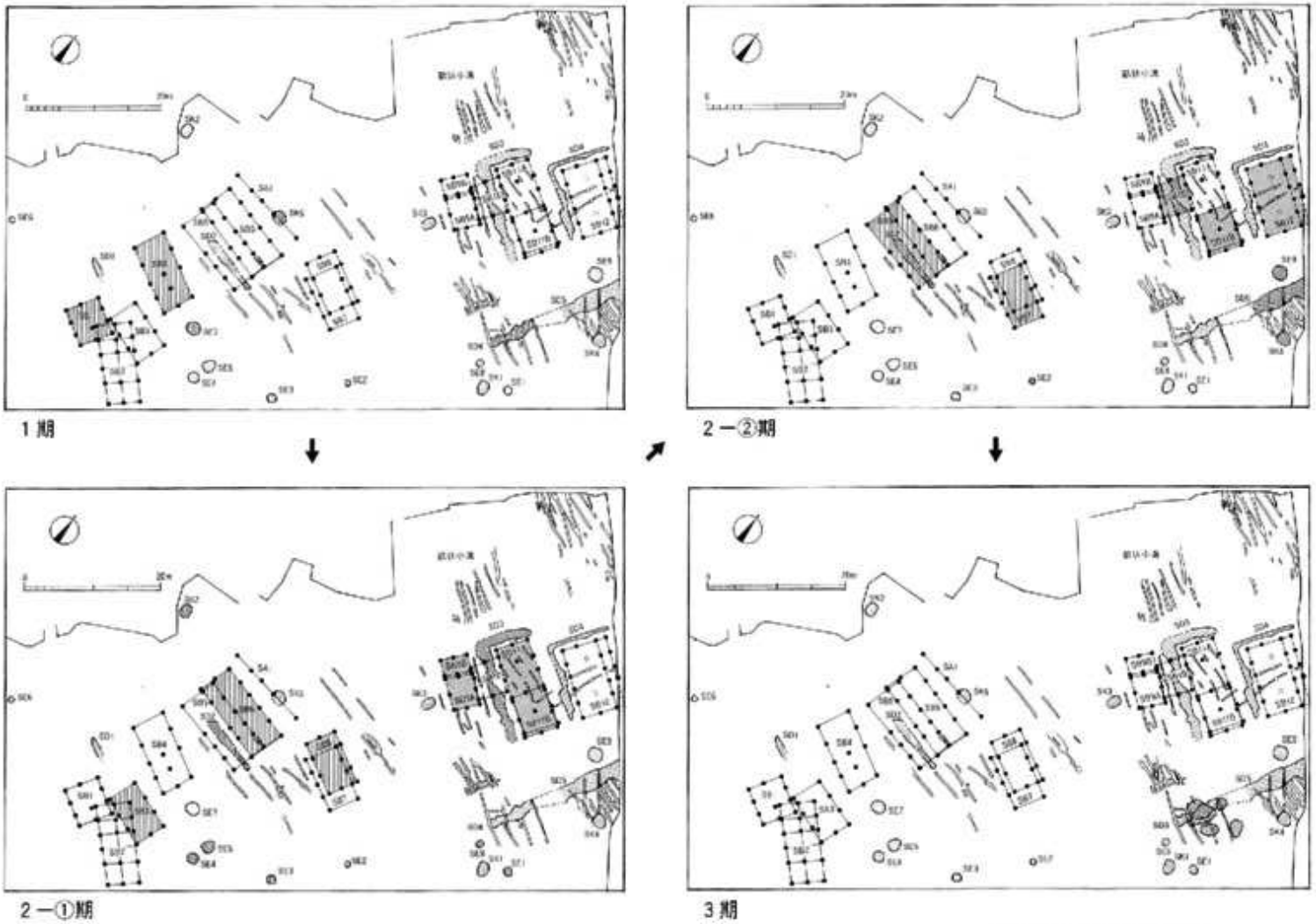
1期　（成立期）

SE7が本遺跡では最も古い様相を示し、位置関係からSB1・SB4、畝状小溝1－①群が同時期に存在したものと思われる。調査区西側の砂丘頭頂部寄りの微高地が主要な居住域と想定される。SE7周辺の包含層から、笹神産と思われる須恵器食膳具が出土していることも、これを補足する。SK5がSA1に、SD6が畝状小溝3－②群にそれぞれ切られることから、これらの遺構も1期の可能性がある。土器様相は須恵器が食膳具のほとんどを占める第1段階であり、実年代は9世紀半ば頃と想定される。

2期　（拡張～最盛期）

集落規模が大きくなり、居住域が調査区全域に広がる時期である。土器の様相及び遺構の新旧関係から2時期に細分し、2-1期・2-2期とした。9世紀後半から10世紀初頭の頃である。

2－1期　西側のSB3・SB6付SD2・SB8、SA1、SE3・SE4・SE5、SK2、畝状小溝1－②群・2群、東側のSB9A・SB9B、SB11A付SD3、SE1・SE8、畝状小溝3－①・②群・4－②群からなる遺構群が存在する時期と考えられる。中心となる建物はSB6とSB11Aで、特にSB11Aは雨落溝（SD3）がつく大形建物で、溝からは壺Gが出土するなど、当期の中心的な建物と考えられる。土器様相は須恵器が減少し始める第2段階である。



第25図　遺構の変遷想定（S=1/1000）

2－2期　西側のSB5・SB7、SE2、畝状小溝1－②群・2群からなる遺構群と、東側のSB11B・SB12付SD4、SE9、SD5、SK4、畝状小溝7－①・②群からなる遺構群が存在する時期と考えられる。また、SB2はSB1・3と重複しており、SB1を1期、SB3を2－1期と想定したことから、これに後続する2－2期に存在した可能性を考えておきたい。この段階ではSB12の南東側に区画溝（SD5）が掘られ、全体に軸方向が整っている。当遺跡の最盛期といえよう。土器様相は、土師器が須恵器を上回る第3段階である。

3期　（終焉期）

調査区内に該当する掘立柱建物がなく、土坑や性格不明遺構が確認されている。SK1、SX2・SX3・SX5・SX6、畝状小溝4－①群があげられる。畝状小溝5群もSD4に切られていることからこの時期のものと想定される。西側にはこの時期に該当する遺構は見られず、居住域を調査区外北東側へ移したものと推測される。平成4年度調査時検出の方形柱穴もこれを裏付けるものであろう。土器様相は土師器が主体となる第4段階で、10世紀初頭～第1四半期前後と思われる。

第2節　調査結果

遺跡は亀田砂丘後列から100メートルあまり北にある微高地に立地する。生活面の標高は1m前後で、遺跡の北側一帯は砂丘間低地が広がっている。今回の調査では、縄文・平安・中世の3時期と近世以降の資料が得られた。このうち建物が存在し、当地に長期にわたって居住したと思われるのは平安時代のみである。

（1）　縄文時代

縄文時代中期の遺物が微量出土した。時期は中期前半と後半である。遺構がないことから、定住にいたらなかったと思われる。今まで、亀田砂丘後列（新砂丘Ⅰ-3列）では、中期までさかのぼる発掘資料がなかった。小丸山遺跡の基盤は、新砂丘Ⅰ-4列相当の砂丘砂ではないかと推定されている（文献25）ことから、砂丘形成の年代的評価の目安となるほか、今後、亀田砂丘後列周辺でも新たな縄文時代の遺跡が発見される可能性を高めるものである。

（2）　平安時代

集落跡の一部が良好な状態で検出された。今回の調査地内では、9世紀半ばに始まり、10世紀前半に消滅している。9世紀半ばは越後平野で遺跡が急増する時期、10世紀前半は激減する時期に当たる。遺跡の増減は低地帯で特に顕著であったことから、今回の調査で検出された集落跡は、この時期低地に営まれた数多くの集落の典型的な姿を示している可能性がある。また、遺構から出土した一括性の高い遺物は、亀田郷周辺の土器編年上において良好な資料といえる。

（3）　中世

珠洲焼が微量出土した。時期は14～15世紀と考えられる。遺構がなく、居住していた様子はみられない。13世紀以降亀田砂丘周辺でも再び集落が散在するようになることから、近隣に存在した遺跡からもたらされたものかもしれない。

（4）　近世以降

ごみ穴と思われる土坑、耕作土の天地返しの跡と思われる遺構などが検出された。建物跡はない。出土した遺物は、17世紀前半の唐津焼が最も古く、主体となるのは18世紀後半から19世紀である。

また、近現代の遺物も多い。

発掘調査地の東隣には直り山の集落がある。直り山の史料上の初見は寛永16（1639）年で、「横越島絵図」に「なをり山新田」と記載されている。直り山集落の人々が開村から発掘時までの間に発掘地にもたらした遺構と遺物であろう。

第７章　小丸山遺跡出土遺物の胎土分析

奈良教育大学　三辻利一

第１節　はじめに

各地の窯跡出土須恵器の化学特性が地質構造に関連した地域差を持つことがわかってから、胎土分析によって須恵器の伝播・流通に関する研究が可能となった。しかし、初期の須恵器はともかく、律令体制下では窯跡や遺跡の数が多いので、分析データをコンピュータ処理するだけで簡単に産地を推定する訳にはいかない。窯跡や遺跡を何らかの形で整理しておく必要がある。そこで、筆者は産地推定をするための第一のステップとして、生産地である窯跡と、供給先である遺跡が同時に存在したことが需要供給の関係が成立するための必要条件であると考え、窯跡と遺跡を年代毎に整理することにした。長年の須恵器に関する考古学研究の成果により、須恵器の器形からおおよその年代が推定できるので、この作業は考古学者によって行われる。第二のステップでは、胎土分析によって地元産の須恵器を検出することになる。地元で須恵器生産が開始されれば、当然地元で消費されていると考えられるからである。この結果、地元産と推定されたものについては考古学者による器形観察でも吟味される。第三のステップとして、胎土分析によりでは外部からの搬入品であると推定された須恵器については、近距離の窯跡群の中から、逐次、産地を求めていく。近距離を優先するのは古代における運搬力の非力さを考えるからであり、また、窯跡群を対象とするのは、窯跡群こそ外部へ須恵器を搬出するための須恵器生産工場と考えられるからである。この結果もまた、考古学者による器形観察で吟味される。

このような考え方を基本として、各地で須恵器の伝播･流通に関する基礎研究が進められている。本項では小丸山遺跡および的場遺跡から出土した土器の胎土分析の結果について報告する。

第２節　分析法

試料はすべて表面を研磨したのち、200メッシュ以下に粉砕された。粉末試料は塩化ビニール製リングを枠として15トンの圧力を加えてプレスし、直径20ｍｍ、厚さ3～5ｍｍの錠剤とした。エネルギー分散型蛍光Ｘ線分析装置を使い、真空下でTiを2次ターゲットにしてＫ、Caを、また、Moを2次ターゲットにしてFe、Rb、Srを測定した。分析値は同時に測定した岩石標準試料ＪＧ－１で標準化された値で表示された。

第３節　分析結果

第9表には窯跡出土須恵器、第10表には遺跡出土土器の分析値を示す。これらのデータを解読した結果について以下に説明する。

はじめに、地元窯跡群間の相互識別の可能性について述べる。第26図には佐渡の小泊窯跡群と、狼沢窯・真木山窯の笹神窯跡群須恵器のRb—Sr分布図を示す。笹神群の須恵器は小泊群の須恵器に比べてRb量がやや多く、Sr量が少ない。この結果、一部に重複する領域があるものの、両群の相互識別の可能性は十分あることがわかる。第27・28図にはそれぞれＫ、Ca因子を比較してある。笹神

群の須恵器はK量が多く、Ca量が少なく、これらの因子も有効識別因子であることがわかる。なお、表9よりFe因子は有効でないことが容易にわかるので、Fe因子を除去し、K、Ca、Rb、Srの4因子を使って両群の重心からのマハラノビスの汎距離を計算し、D2（1）—D2（2）分布図を作成し、両群の相互識別の可能性を示すことにした。第29図にD2（1）D2（2）分布図を示す。D2（1）は笹神群からの、また、D2（2）は小泊群からのマハラノビスの汎距離の二乗である。2群間の判別を行うとき、筆者が提案した経験的帰属条件を入れると、笹神群への帰属条件はD2（1）＜10、D2（2）＞10であり、また、小泊群への帰属条件はD2（1）＞10、D2（2）＜10である。D2（1）＜10、D2（2）＜10は両群の相互識別が困難な不明領域である。そうすると、この不明領域に分布するものが若干あるものの、大部分のものはそれぞれ、笹神領域と小泊領域に分布しており、両者の相互識別は完全ではないまでも、十分可能であることが示された。

次に、小丸山遺跡出土須恵器の分析結果から、K、Ca、Rb、Srの4因子を使ってマハラノビスの汎距離を計算し、D2（1）—D2（2）分布図を作成したのが第30図である。笹神領域に分布したのはNo.1、2、3、4、9、19、24、27、28、35、36、38、39の13点であり、小泊領域に分布したのはNo.6、10、11、14、15、21、23、25、31、32の10点であった。No.5、7、12、16、20、26、33の8点は地元産とみられる不明領域に分布し、両群のいずれかへ帰属するかは判然としない。なお、No.8、13、17、18、22、29、30、37、40、41の10点は地元領域には分布せず、外部からの搬入品である可能性を示した。念のため、これらの試料のRb—Sr分布図を第32図に示す。この分布図の分布位置からみて、定性的に産地を推定すると、No.17、18、23の3点は同じ産地の須恵器と見られ、その産地は能登半島ないしは富山県である可能性をもつ。No.41は第32図での分布位置や、Fe量が少ないところから、岐阜県・愛知県産の可能性を持つ。これらの須恵器の産地については特定を急がず、器形観察なども含めて、今後、より総合的に検討していく必要がある。上述したように、小丸山遺跡の須恵器は約1/3が地元の笹神群産であり、また、1/3弱が佐渡の小泊群からの搬入品であり、残り1/3近くが北陸・中部地方の外部からの搬入品と推定された。

第31図には的場遺跡出土須恵器のD2（1）—D2（2）分布図を示す。笹神領域に分布するのはNo.8、13の2点のみ、また、小泊領域に分布するのもNo.15、16の2点のみであった。地元の不明領域にはNo.2、9、14の3点が分布したが、このうち、No.2、9の2点は笹神群産、また、No.14は小泊群産の可能性が強い。これらを含めると、15点の試料のうち、4点が地元の笹神群産、3点が小泊群産の可能性を持つことになる。No.1、4、5、6、7、10、11、12の過半数に相当する8点は地元領域には分布せず、外部からの搬入品とみられる。なお、これらの須恵器のRb—Sr分布図を第33図に示す。その分布位置より見て、No.10、11、12の3点は同一産地のものである可能性が強い。また、No.6とNo.7、No.4とNo.5もそれぞれ同じ産地のものであると推定される。これらの須恵器の産地についても、器形観察などの情報を参考にしつつ、その特定を進めたいと考えている。

（昭和63年9月）

第9表　小泊・真木山・狼沢窯跡出土須恵器の分析値

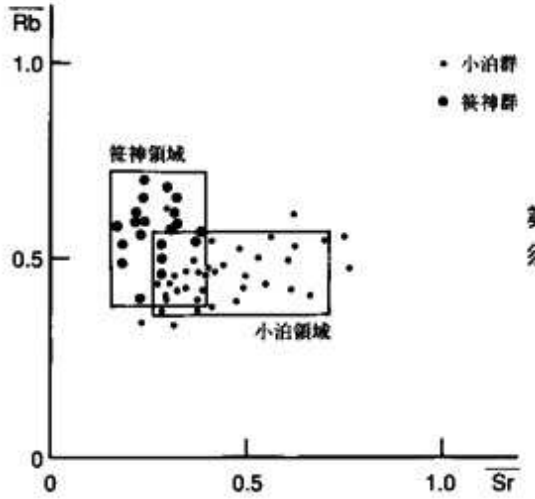
	番号	K	Ca	Fe	Rb	Sr
小泊窯	1	0.515	0.131	3.30	0.535	0.287
	2	0.343	0.180	3.35	0.416	0.321
	3	0.356	0.315	2.71	0.437	0.546
	4	0.430	0.287	1.87	0.550	0.557
	5	0.435	0.329	1.91	0.499	0.596
	6	0.424	0.169	1.51	0.549	0.410
	7	0.335	0.206	3.02	0.396	0.374
	8	0.319	0.161	3.71	0.371	0.284
	9	0.311	0.115	2.39	0.325	0.306
	10	0.354	0.166	1.98	0.460	0.386
	11	0.413	0.116	1.82	0.630	0.209
	12	0.378	0.338	2.51	0.426	0.610
	13	0.384	0.161	2.44	0.461	0.308
	14	0.347	0.222	2.39	0.462	0.492
	15	0.418	0.346	1.79	0.551	0.701
	16	0.308	0.151	3.09	0.428	0.344
	17	0.364	0.137	2.92	0.466	0.336
	18	0.373	0.238	1.97	0.505	0.526
	19	0.374	0.233	2.46	0.529	0.482
	20	0.298	0.269	2.20	0.443	0.493
	21	0.319	0.128	3.33	0.407	0.289
	22	0.374	0.168	2.01	0.476	0.396
	23	0.432	0.374	1.69	0.558	0.750
	24	0.425	0.217	2.12	0.491	0.444
	25	0.318	0.113	2.61	0.439	0.271
	26	0.328	0.227	2.97	0.379	0.410
	27	0.369	0.319	2.15	0.411	0.661
	28	0.369	0.124	4.37	0.403	0.286
	29	0.488	0.311	2.20	0.619	0.615
	30	0.401	0.427	2.01	0.481	0.759
	31	0.417	0.247	2.06	0.539	0.623
	32	0.381	0.178	3.81	0.420	0.376
	33	0.270	0.077	3.25	0.344	0.225
	34	0.380	0.156	2.69	0.504	0.357
	35	0.339	0.231	2.29	0.472	0.418
	36	0.294	0.247	2.97	0.374	0.368
	37	0.341	0.314	2.55	0.387	0.465
	38	0.380	0.200	2.00	0.450	0.400
	39	0.361	0.152	3.09	0.438	0.303
	40	0.383	0.165	2.34	0.467	0.371
真木山窯	1	0.386	0.076	1.84	0.395	0.230
	2	0.390	0.063	1.32	0.496	0.284
	3	0.443	0.165	2.09	0.550	0.373
	4	0.491	0.102	2.49	0.543	0.284
	5	0.491	0.139	2.36	0.579	0.311
	6	0.436	0.118	1.83	0.464	0.277
	7	0.497	0.100	2.01	0.657	0.317
	8	0.506	0.132	2.49	0.586	0.323
	9	0.465	0.149	2.21	0.563	0.376
	10	0.528	0.104	2.06	0.619	0.311
狼沢窯	1	0.656	0.112	2.65	0.621	0.217
	2	0.547	0.088	2.42	0.575	0.165
	3	0.608	0.104	2.10	0.698	0.236
	4	0.596	0.103	1.79	0.657	0.236
	5	0.449	0.060	1.68	0.493	0.178
	6	0.568	0.087	3.08	0.599	0.237
	7	0.666	0.120	1.45	0.572	0.225
	8	0.651	0.115	1.75	0.535	0.181
	9	0.581	0.114	3.48	0.598	0.222
	10	0.665	0.161	2.00	0.682	0.295

第10表　小丸山・的場遺跡出土土器の分析値

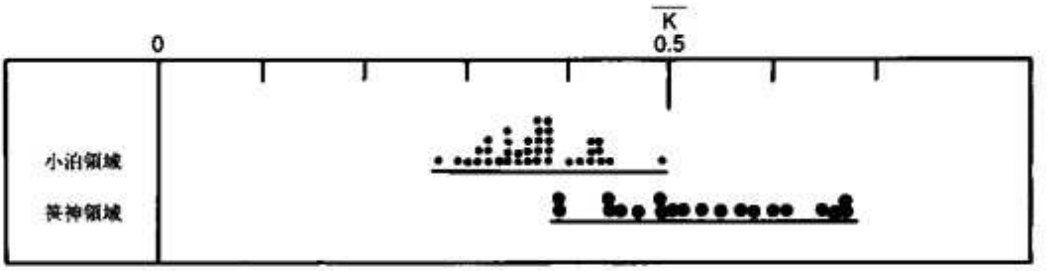
	番号	K	Ca	Fe	Rb	Sr	推定産地
小丸山遺跡	1	0.473	0.045	2.15	0.531	0.178	笹神群
	2	0.513	0.071	2.12	0.661	0.254	笹神群
	3	0.490	0.153	1.90	0.574	0.320	笹神群
	4	0.408	0.092	2.51	0.667	0.353	笹神群
	5	0.427	0.118	3.02	0.530	0.325	笹神群or小泊群
	6	0.344	0.179	5.12	0.347	0.319	小泊群
	7	0.389	0.092	3.26	0.474	0.292	笹神群or小泊群
	8	0.463	0.040	1.85	0.622	0.191	外来品
	9	0.554	0.068	1.84	0.566	0.201	笹神群
	10	0.371	0.169	2.04	0.474	0.405	小泊群
	11	0.364	0.168	2.31	0.488	0.388	小泊群
	12	0.407	0.120	1.66	0.535	0.317	笹神群or小泊群
	13	0.465	0.062	2.34	0.650	0.196	外来品
	14	0.353	0.165	2.05	0.467	0.394	小泊群
	15	0.417	0.269	1.67	0.517	0.436	小泊群
	16	0.361	0.152	1.75	0.530	0.425	笹神群or小泊群
	17	0.459	0.288	2.50	0.685	0.559	外来品
	18	0.408	0.245	1.47	0.598	0.624	小泊群（？）or外来品
	19	0.519	0.133	1.79	0.622	0.331	笹神群
	20	0.439	0.118	3.08	0.464	0.351	笹神群or小泊群
	21	0.404	0.320	1.72	0.550	0.655	小泊群
	22	0.590	0.111	1.55	0.702	0.348	外来品
	23	0.460	0.336	1.76	0.596	0.660	小泊群
	24	0.526	0.116	1.18	0.631	0.356	笹神群
	25	0.413	0.190	2.53	0.523	0.383	小泊群
	26	0.459	0.128	1.52	0.584	0.350	笹神群（？）
	27	0.454	0.069	2.06	0.598	0.220	笹神群
	28	0.519	0.175	1.77	0.566	0.334	笹神群
	29	0.476	0.168	1.61	0.439	0.343	外来品
	30	0.479	0.177	2.12	0.624	0.285	外来品
	31	0.414	0.176	1.67	0.533	0.314	小泊群
	32	0.358	0.097	2.25	0.499	0.192	小泊群
	33	0.373	0.093	1.73	0.449	0.277	笹神群or小泊群
	34	0.447	0.134	2.36	0.489	0.339	笹神群（？）
	35	0.540	0.107	0.956	0.664	0.346	笹神群
	36	0.467	0.104	1.85	0.576	0.258	笹神群
	37	0.432	0.509	1.09	0.513	0.890	外来品
	38	0.593	0.119	1.23	0.621	0.248	笹神群
	39	0.592	0.069	1.88	0.659	0.212	笹神群
	40	0.489	0.174	1.64	0.547	0.309	外来品
	41	0.635	0.096	0.880	0.757	0.288	外来品
的場遺跡	1	0.506	0.178	3.02	0.466	0.330	外来品
	2	0.476	0.151	1.30	0.534	0.318	笹神群（？）
	3						
	4	0.542	0.306	1.29	0.575	1.14	外来品
	5	0.451	0.287	1.60	0.411	1.00	外来品
	6	0.559	0.261	1.74	0.545	0.663	外来品
	7	0.478	0.525	2.18	0.449	0.716	外来品
	8	0.684	0.187	2.24	0.697	0.347	笹神群
	9	0.479	0.124	2.00	0.612	0.378	笹神群（？）
	10	0.638	0.101	2.41	0.791	0.271	外来品
	11	0.623	0.076	2.01	0.733	0.257	外来品
	12	0.567	0.087	1.98	0.725	0.309	外来品
	13	0.519	0.164	1.89	0.500	0.339	笹神群
	14	0.401	0.129	2.94	0.491	0.302	小泊群（？）
	15	0.380	0.189	3.05	0.456	0.458	小泊群
	16	0.388	0.172	2.21	0.441	0.347	小泊群

第11表　胎土分析試料一覧

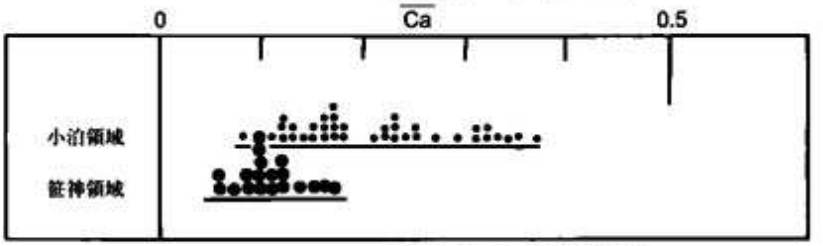
	資料番号	図版—図示番号	種別・器種	出土位置	備　考
小丸山遺跡	1	71-562	須恵器無台杯	F2・3区-1	白色胎土
	2	71-565	須恵器無台杯	F4・2区-1	
	3		須恵器無台杯	D3・2区	底部糸切り
	4	71-564	須恵器無台杯	G5・1区-1	
	5	70-532	須恵器無台杯	B4・4区-2	
	6	70-521	須恵器無台杯	B2・3区-1	
	7	70-533	須恵器無台杯	A3・1区-1	
	8	72-614	須恵器折縁杯	I 3・1区-1	
	9		須恵器有台杯	4T集中区	北薗的胎土
	10	72-603	須恵器有台杯	E3・3区-2	
	11	72-583	須恵器有台杯	A3・1区-1	
	12	72-589	須恵器有台杯	G3・4区-1	
	13		須恵器有台杯	F3・3区-1	白色胎土
	14		須恵器　蓋	SD4BC	白色胎土、内外面黒色
	15	84-795	須恵器短頸壷		胎土不良、自然釉
	16	84-797	須恵器　壷	A2・2区-1	
	17	84-791	須恵器短頸壷	4トレ集中区3	ケズリ調整、光沢あり、黒色1　1
	18	84-796	須恵器長頸壷	4トレ集中区3	ケズリ調整、光沢あり
	19	62-340	須恵器鉢	SE9	胎土良好
	20	50-86	須恵器細頸壷	SD3	底部糸切り
	21		須恵器大甕	SE9	
	22		須恵器横瓶	SE7	自然釉
	23		須恵器大甕	SK5	
	24		須恵器大甕	G5-1区	特に大型
	25		須恵器長頸瓶	1T-12	
	26		須恵器大甕		白色胎土、軟質
	27	73-629	土師器無台椀	B2・2区-1	断面須恵器質
	28	74-673	土師器有台皿	C4・4区-1	
	29	73-628	土師器無台椀	A3・1区-1	ミガキ
	30	73-636	土師器無台椀	B2・3区-1	砂質胎土
	31	74-674	土師器有台椀	B4・2区	
	32	74-668	土師器無台椀	D3・4区-3	大型
	33	73-639	土師器無台椀	A3・1区-1	
	34		土師器無台椀	SD4BC	大型、墨書「十」
	35	75-681	黒色土器無台椀	C3・4区-2	
	36		黒色土器有台椀	D3・2区-2	
	37		土師器　甕	C3・2区-3	小石多く含む
	38		土師器　鍋	H3・2区-2	
	39	77-729	土師器　甕	H2・2区-1	
	40	82-770	土師器　鍋	B2・2区-1	
	41		土師器小型甕	4T集中区2（SD2）	
的場遺跡	1	確認調査報告102	土師器無台椀	4T	須恵器無台杯に形態が似る
	2	確認調査報告44	土師器無台椀	4T-5区	大型
	3	確認調査報告81	土師器無台椀	5T-6区	
	4	確認調査報告49	黒色土器無台椀	4T-7・8区	
	5	確認調査報告48	黒色土器無台椀	4T	内外面黒色
	6	確認調査報告58	土師器鍋	4T-7・8区	
	7	確認調査報告3	黒色土器有台椀	3T	内外面黒色
	8	確認調査報告65	土師器甕	4T-7・8区	
	9	確認調査報告92	須恵器無台杯	7T	底部糸切り
	10	確認調査報告91	須恵器有台杯	7T-2区	
	11	確認調査報告17	須恵器無台杯	4T-7・8区	
	12	確認調査報告16	須恵器無台杯	4T-6区	
	13	確認調査報告12	須恵器無台杯	4T-7・8区	底部静止糸切り
	14	確認調査報告14	須恵器無台杯	4T-7・8区	
	15	確認調査報告21	須恵器無台杯	4T-7・8区	
	16	確認調査報告37	須恵器甕	4T-7・8区	



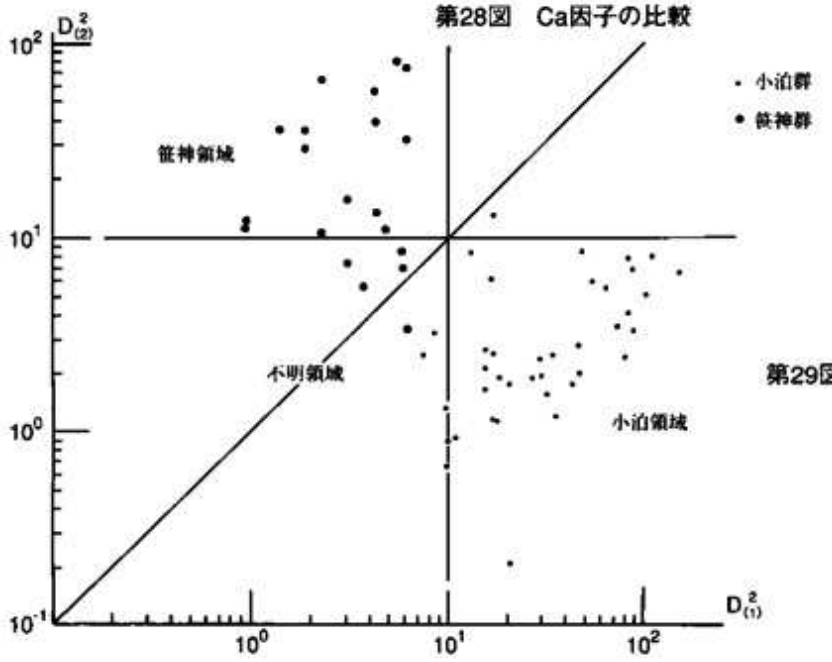
第26図　小泊群と笹神群の須恵器のRb-Sr分布図



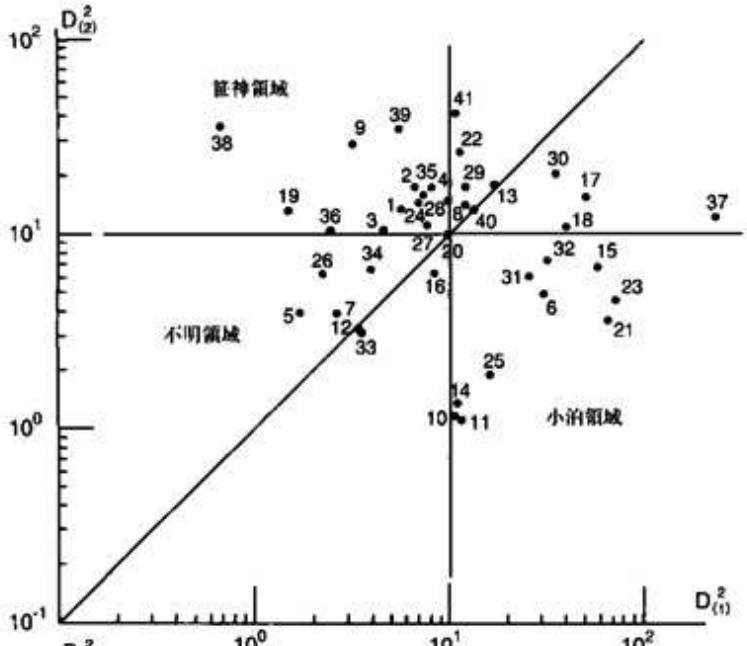
第27図　K因子の比較



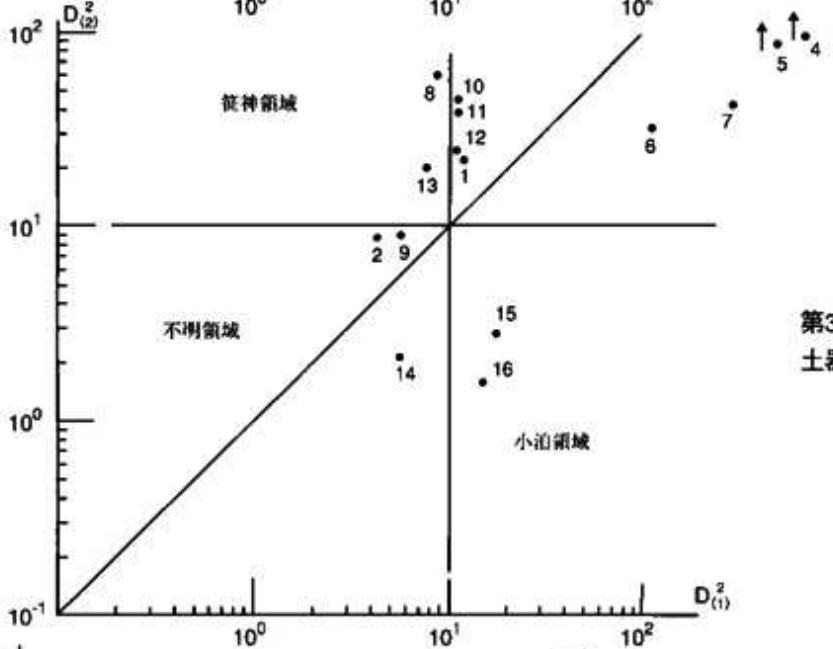
第28図　Ca因子の比較



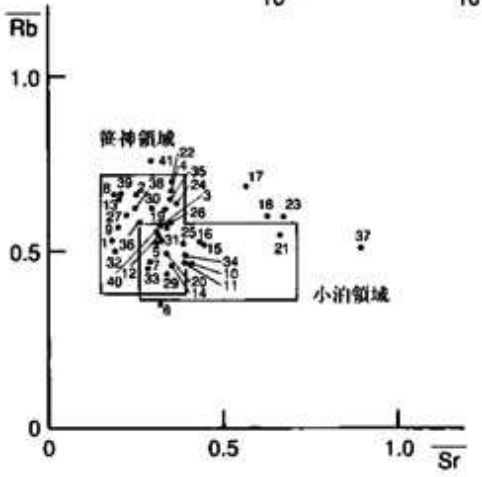
第29図　小泊群と笹神群の須恵器の相互識別



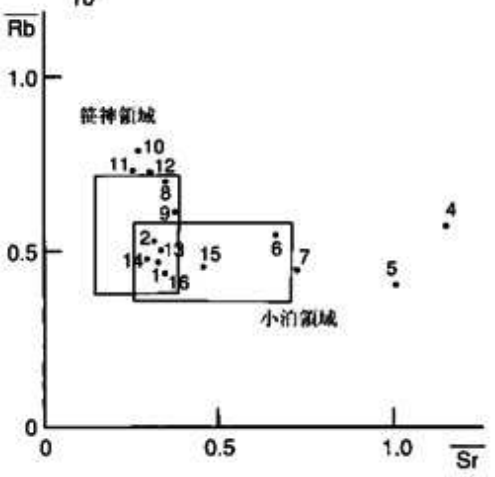
第30図　小丸山遺跡出土土器の産地推定



第31図　的場遺跡出土土器の産地推定



第32図　小丸山遺跡出土土器のRb-Sr分布図



第33図　的場遺跡出土土器のRb-Sr分布図

引用・参考文献

1 宇野隆夫 1989 「考古資料にみる古代と中世の歴史と社会」真陽社
2 宇野隆夫 1991 「律令社会の考古学的研究―北陸を舞台として」桂書房
3 宇野隆夫 1992 「食器計量の意義と方法」『国立歴史民俗博物館研究報告40集』国立歴史民俗博物館
4 春日真実 1993 「王朝国家期の越後―上越市一之口遺跡（西地区）・新潟市小丸山遺跡を事例として―」『新潟考古4』新潟県考古学会
5 金子裕之 1991 「律令期祭祀遺物集成」『律令制祭祀論考』塙書房
6 亀田町史編さん委員会 1990 『亀田の歴史 資料編』亀田町
7 川村浩司 1989 「越後の古代集落の素描―遺跡の類型とその展開―」『新潟県考古学談話会会報3』新潟考古学談話会
8 岸本雅敏 1986 『新町Ⅱ遺跡の調査』婦中町教育委員会
9 金沢市教育委員会 1987 『金沢市千木ヤシキダ遺跡』金沢市・金沢市教育委員会・金沢市疋田第二土地区画整理組合
10 黒埼町教育委員会 1994 『緒立C遺跡発掘調査報告書』
11 駒見和夫 1992 「井戸をめぐる祭祀―地域的事例の検討から―」『考古学雑誌77-4』日本考古学会
12 坂井秀弥 1990 「越後平安期土器編年素描」『東国土器研究3号』東国土器研究会
13 坂井秀弥ほか 1991 「佐渡の須恵器」『新潟考古2』新潟県考古学会
14 田嶋明人 1983 「奈良・平安時代の建物グループと集落遺跡―加賀・能登の掘立柱建物を中心とした覚書―」『北陸の考古学』石川県考古学研究会
15 奈良国立文化財研究所 1976 「別表6」『平城宮発掘調査報告Ⅶ 奈良国立文化財研究所学報第26集』
16 奈良国立文化財研究所 1985 『木器集成図録 近畿・古代編』
17 新潟県 1986 『新潟県史 通史編1』
18 新潟県教育委員会 1984 『新潟県埋蔵文化財調査報告書第35集 今池遺跡・下新町遺跡・子安遺跡』新潟県教育委員会
19 新潟県教育委員会 1986 『新潟県埋蔵文化財調査報告書第40集 一之口遺跡西地区』
20 新潟県教育委員会 1989 『新潟県埋蔵文化財調査報告書第53集 山三賀Ⅱ遺跡』
21 新潟県教育委員会・（財）新潟県埋蔵文化財調査事業団 1994『上郷遺跡Ⅰ』
22 新潟市 1986 『新潟市合併町村の歴史 第4巻』
23 新潟市 1994 『新潟市史 資料編1』
24 新潟市教育委員会 1987 『新潟市小丸山遺跡・的場遺跡範囲等確認調査報告書』
25 新潟市教育委員会 1987 『大江山地区の遺跡』
26 新潟市教育委員会 1987 『新潟市小丸山遺跡発掘調査概報』
27 新潟市教育委員会 1992 『新潟市山木戸遺跡第1次発掘調査概報』
28 新潟市教育委員会 1993 『平成3・4年度埋蔵文化財発掘調査報告書』
29 新潟市教育委員会 1994 『新潟市的場遺跡発掘調査報告書』
30 新潟古砂丘グループ 1974 「新潟砂丘と人類遺跡―新潟砂丘の形成史―」『第四紀研究13－2』第四紀学会
31 湯尻修平 1983 「加賀・能登における掘立柱建物の類型と性格」『東大寺領横江庄遺跡』松任市教育委員会・石川県考古学研究会
32 吉岡康暢 1989 「第3章日本海域における中世陶磁器の諸問題」『日本海域の土器・陶磁器 中世編』六興出版
33 渡辺ますみ 1990 「新潟県における古代・中世の井戸」『新潟県考古学談話会会報6』新潟考古学談話会
34 亀田町教育委員会 1991 『荒木前遺跡』

第12表　縄文時代出土遺物一覧

図版番号	図示番号	種別	器種	出土位置	寸法　(cm)	備考
16	1	縄文土器	深鉢	SD5№39	口縁部破片	にぶい橙　径1～2mm小石多量含
	2	縄文土器	深鉢	E3・3区	胴部破片	にぶい橙　径1～3mm小石多量含
	3	縄文土器	深鉢	A3・2区-1②	胴部破片	にぶい橙　径1～2mm小石多量含　縄文0条多段・RL
	4	縄文土器	深鉢	SD5セクション北	胴部破片	にぶい橙　径1～2mm小石多量含　縄文0条多段・RL
	5	縄文土器	深鉢	A3・2区-1②	胴部破片	にぶい橙　径1～2mm小石多量含　縄文0条多段・RL
	6	石器	磨製石斧	B4・2区-2	残存長6.8 残存幅4.4 残存厚3.0	淡緑灰色　凝灰岩製　刃部欠損　表面風化

第13表　平安時代遺構出土遺物一覧

図版番号	図示番号	種別	器種	出土位置	寸法 (cm) 口径	底径	器高	(分母36)	備考
47	1	須恵器	無台杯	SB2 p11埋め土	×	7.7	×	4/9	灰色　微細な白・灰・黒色粒子少量　墨書32
	2	須恵器	杯蓋	SB2 p11		摘み2.2		摘み完	灰色　粗　径0.5～1mm白・半透明・黒色粒子やや多量
	3	土師器	無台椀	SB2 p11	×	5.0	×	7/36	淡褐色　径0.5～1mm白・半透明・黒色粒子やや多量
	4	土師器	小甕	SB2 p12	×	6.3	×	底1/2	橙色　精良　径0.5～1mm白・茶色粒子少量
	5	土師器	長胴甕	SB2 p2	24.3 ×		×	1/12	浅黄橙色　粗　径0.5～3mm白・灰・半透明色粒子やや多量
	6	土師器	長胴甕	SB2 p3ほか	×		×		浅黄橙色　粗　径0.5～2mm白・灰・黒色粒子やや多量
	7	土師器	長胴甕	SB2 p3ほか	×		×		明黄褐色　径2mm以下白・灰・茶色粒子少量
	8	土師器	長胴甕	SB2 p2	×		×		明黄褐色　粗　径0.5～3mm白・灰色粒子やや多量
	9	土師器	鍋	SB2 p11	×		×		明褐色　径2mm以下白・灰・茶色粒子少量
	10	土師器	長胴甕	SB4	23.0 ×		×	1/12	橙色　粗　径0.5～3mm白・灰・半透明色粒子やや多量
	11	須恵器	無台杯	SB5 p9	12.3 ×	8.4	× 2.2	底1/4	灰色　粗　径0.5～3mm白・灰・半透明色粒子やや多量
	12	須恵器	無台杯	SB6 p5	11.6 ×	7.2	× 3.1	1/10	灰色　微細な白・灰・黒色粒子少量
	13	須恵器	甕	SB6 p2	42.2 ×		×	1/12	灰色　径1mm以下白・灰色粒子少量
	14	須恵器	無台杯	4T6S2 (SD2)	12.6 ×	7.1	× 3.2	2/9	青灰色　径0.5～3mm白・灰・半透明色粒子やや多量
	15	須恵器	無台杯	4T5S2 (SD2)	11.6 ×	7.3	× 2.8	5/9	灰白色　微細な白・灰・黒色粒子少量
	16	須恵器	無台杯	SD2	11.7 ×	8.1	× 2.9	1/6	灰色　径1mm以下白・灰色粒子少量
	17	須恵器	無台杯	4T5S2 (SD2)	11.8 ×	6.5	× 3	35/36	青灰色　微細な白・灰・黒色粒子少量
	18	須恵器	無台杯	SD2	12.0 ×	7.9	× 3	1/3	灰白色　軟　径1mm以下白・灰色粒子少量
	19	須恵器	無台杯	4T5S2 (SD2)	12.4 ×	7.0	× 3.2	13/36	青灰色　径1mm以下白・灰色粒子少量
	20	須恵器	無台杯	SD2ベルト	12.4 ×	7.4	× 3.05	11/36	灰白色　軟　微細な白・灰・黒色粒子少量
	21	須恵器	無台杯	SD2ほか	12.9 ×	6.3	× 3.3	1/3	灰白色　径1mm以下白・灰色粒子少量　墨書107
	22	須恵器	無台杯	4T6S2 (SD2)	×		×	–	灰色　径1mm以下白・灰色粒子少量　墨書46
	23	須恵器	杯蓋	SD2ベルトほか		摘み3.2		摘み完	灰色　径1mm以下白・灰色粒子少量　墨書47
	24	須恵器	杯蓋	4T6S2 (SD2)	×		×	–	灰色　径1mm以下白・灰色粒子少量
48	25	須恵器	有台杯	4トレ集中区 (SD2)	12.8 ×	7.5	× 5.25	1/9	外黒灰色、内青灰色 微細な白・灰・黒色粒子少量
	26	須恵器	有台杯	4トレ集中区 (SD2)	12.8 ×		×	1/6	明灰色　微細な白・灰・黒色粒子少量
	27	須恵器	有台杯	SD2	13.6 ×		×	5/36	外灰色、内灰白色　微細な白・灰・黒色粒子少量
	28	土師器	無台椀	SD2	12.8 ×	5.3	× 3.9	5/12	明橙色　軟　精良　径0.5～2mm白・灰・茶色粒子少量
	29	土師器	無台椀	SD2	12.9 ×	5.9	× 3.8	7/18	明橙色　軟　精良　径0.5～3mm白・灰・茶色粒子少量
	30	土師器	無台椀	SD2	13.0 ×	5.2	× 3.9	1/3	明橙色　軟　径0.5～3mm白・灰・茶・半透明色粒子やや多量
	31	土師器	無台椀	4トレ集中区 (SD2)	13.0 ×	5.1	× 4.2	13/36	外明茶色、内明橙色　軟　径0.5～3mm白・灰・茶・半透明色粒子やや多量　口縁内外スス
	32	土師器	無台椀	SD2ほか	16.1 ×	4.7	×	7/18	橙色　粗　径1～5mm白・茶・半透明色粒子多量
	33	土師器	無台椀	SD2	16.3 ×	5.5	× 5.4	3/8	にぶい橙色　軟　精良　径0.5～3mm白・灰・茶色粒子少量　口縁内外スス
	34	土師器	無台椀	4トレ集中区 (SD2)	17.0 ×	7.5	× 4.8	完存	明橙色　軟　径0.5～3mm白・灰・茶・半透明色粒子やや多量　墨書45
	35	土師器	小甕	4T3S2 (SD2)	×	6.7	×	底5/9	外明茶色、内明橙色　軟　径0.5～1mm白・灰・黒色粒子少量
	36	土師器	小甕	SD2	11.0 ×		×	5/12	橙色　径3mm白・灰・黒色粒子少量
	37	土師器	小甕	SD2	11.4 ×		×	1/6	明橙色　軟　径0.5～2mm白・灰・半透明色粒子少量
	38	土師器	小甕	SD2	11.4 ×		×	1/12	黄橙色　径1mm白・半透明色粒子少量
	39	土師器	小甕	SD2	11.6 ×		×	2/9	黄橙色　軟　径0.5～1mm白・灰・黒色粒子少量

	40	土師器	小甕	4H集中区（SD2）	11.6	×		×		1/4	淡橙色　径2mm白・茶・黒・半透明色粒子少量
	41	土師器	小甕	SD2	12.0	×		×		13/36	外暗褐色、内明橙色　軟　精　径2mm以下白・茶・黒・半透明色粒子少量
	42	土師器	小甕	SD2	12.4	×		×		1/4	外暗褐色、内明橙色　軟　径0.5～1mm白・灰・黒色粒子少量
	43	土師器	小甕	4H集中区（SD2）	12.4	×		×		5/18	黄橙色　精　径1mm以下白・茶・半透明色粒子少量
	44	土師器	小甕	SD2	12.8	×		×		1/6	外暗褐色、内明橙色　径0.5～2mm白・茶・半透明色粒子少量
	45	土師器	小甕	SD2ほか	12.8	×	6.2	×	15.8	1/4	淡褐色　径0.5～2mm白・茶・半透明色粒子少量
	46	土師器	小甕	4H集中区（SD2）	13.3	×	7.5	×	14.8	2/3	黄橙色　粗　径3mm以下白・半透明色粒子多量　内外スス付着
	47	土師器	小甕	4H集中区（SD2）	13.6	×		×		1/6	明橙色　精　径3mm白・茶・半透明色粒子少量
	48	土師器	小甕	SD2	15.6	×		×		1/9	明橙色　軟　粗　径3mm以下白・灰・茶・半透明色粒子多量
49	49	土師器	長胴甕	SD2	21.0	×		×		1/12	淡褐色　精　径0.5～2mm白・茶・半透明色粒子少量
	50	土師器	長胴甕	SD2		×		×			黄橙色　軟　粗　径3mm以下白・灰・半透明色粒子やや多量
	51	土師器	長胴甕	SD2		×		×			黄橙色　軟　粗　径3mm以下白・灰・半透明色粒子やや多量
	52	土師器	長胴甕	4H集中区（SD2）		×		×			黄橙色　精　径1mm白・灰色粒子少量
	53	土師器	鍋	SD2		×		×			明褐色　精　径1mm白・灰色粒子少量
	54	土師器	鍋	SD2	40.9	×		×		1/9	明褐色　精　径0.5～2mm白・灰・半透明色粒子少量
	55	土師器	鍋	4H集中区（SD2）		×		×			明褐色　軟　粗　径2mm白・半透明色粒子やや多量
	56	土師器	鍋	4T5S2（SD2）		×		×			黄橙色　軟　粗　径2mm白・半透明色粒子やや多量
	57	土師器	鍋	4H集中区（SD2）		×		×			黄橙色　軟　径0.5～3mm白・灰・茶・半透明色粒子多量
	58	須恵器	甕	4T6S（SD2）		×		×			薄灰色　径1mm以下白・灰色粒子ごく少量
	59	石製品	砥石	4T19S2（SD2）	長10.3	×	幅7.4	×	厚4.5		砂岩か　重さ386.3g
	60	土製品	羽口	4T6S2（SD2）		×		×			灰白色　軟　精　微細な白色粒子ごく少量
	61	土師器	小甕	SB8 p9		×		×			淡黄色　軟　径0.5～1mm白・灰・茶色粒子少量
	62	土師器	長胴甕	SB8 p1		×		×			淡黄白色　径1mm以下白・黒色粒子少量
	63	須恵器	無台杯	SB11 p3	12.1	×	7.0	×	3.1	5/36	灰色　微細な白・灰・黒色粒子少量
	64	須恵器	有台杯	SB11 p11		×	7.6	×		底完	灰色　径1mm以下白・灰・黒色粒子少量
	65	土師器	無台椀	SB11 p5	12.3	×	5.0	×	4.0	11/12	淡黄色　やや軟　精　径1mm以下白・灰・茶・半透明色粒子少量　墨書33
	66	土師器	無台椀	SB11 p11	15.3	×	4.7	×	4.1	5/36	淡黄色　径2mm白・灰・茶・橙・黒・半透明色粒子少量　口縁内部スス
	67	須恵器	無台杯	SD3B№3	12.2	×	8.0	×	2.95	1/5	灰白色　やや軟　径1mm以下白・灰色粒子少量
	68	須恵器	無台杯	SD3A	12.5	×	7.4	×	3.1	7/18	灰色　粗　径3mm白・灰・半透明色粒子やや多量
	69	須恵器	無台杯	SD3B	12.5	×	7.4	×	3.5	23/36	灰色　粗　径3mm白・灰・半透明色粒子やや多量　墨書49
	70	須恵器	無台杯	SD3B-2	12.5	×	8.2	×	3.1	1/9	明灰色　径1mm以下白・灰色粒子少量
	71	須恵器	無台杯	SD3B-5	13.6	×		×		1/9	明灰色　径1mm以下白・灰色粒子少量
	72	須恵器	無台杯	SD3A		×	7.0	×		2/3	灰色　粗　径3mm白・灰・半透明色粒子やや多量　墨書48
	73	須恵器	無台杯	SD3B		×		×			灰色　微細な白・灰・黒色粒子少量　墨書50
50	74	須恵器	杯蓋	SD3B	15.4	×		×		1/10	明灰色　微細な白・灰・黒色粒子少量
	75	須恵器	有台杯	SD3B-2ほか	11.8	×		×		1/6	外青灰色、内明灰色　微細な白・灰・黒色粒子少量
	76	須恵器	有台杯	SD3B		×	8.0	×		底1/4	外青灰色、内灰色　微細な白・灰・黒色粒子少量
	77	土師器	無台椀	SD3B		×	6.4	×		底1/6	外にぶい赤褐色、内灰白色　精　微細白・橙・黒・半透明色粒子ごく少量　外赤彩
	78	黒色土器	無台椀	SD3B		×	6.7	×		底5/36	外灰白色、内黒色　軟　径1mm以下白・灰・橙・黒色粒子少量
	79	土師器	無台椀	SD3B		×		×		破片	灰白色　径1mm以下白・灰・橙・半透明色粒子少量　墨書51
	80	土師器	小甕	SD3B	13.4	×		×		7/36	淡黄橙色　軟　粗　径4mm以下白・灰・半透明色粒子やや多量　口縁内部スス
	81	土師器	長胴甕	SD3B－7	24.2	×		×		1/36	淡黄色　軟　径1mm以下白・灰・茶・半透明色粒子少量
	82	土師器	長胴甕	SD3B	25.8	×		×		1/18	暗淡黄色　軟　粗　径2mm以下白・灰・黒・半透明色粒子やや多量
	83	土師器	鍋	SD3B	38.2	×		×		1/18	黄橙色　軟　径1mm以下白・橙・黒・半透明色粒子少量

	84	土師器	鍋	SD3BNo3	43.6	×		×		1/18	灰白色　軟　径1mm以下白・橙・黒・半透明色粒子少量
	85	須恵器	壺	SD3B		×		×			暗灰色　径1mm白・灰・黒色粒子少量
	86	須恵器	細頸壺	SD3A		×	5.2	×		底完	外黒灰色、内灰白色　軟　径1mm以下白・灰・黒色粒子少量
	87	石製品	軽石	SD3B	11.0	×	9.2	×	6.6		重さ253.8g
	88	須恵器	無台杯	SB12 p12	12.6	×		×		5/36	灰色　微細な白・灰・黒色粒子少量
	89	須恵器	無台杯	SB12 p8		×	7.1	×		11/18	灰色　微細な白・灰・黒色粒子少量
	90	須恵器	有台杯	SB12 p8	12.3	×		×		1/9	灰色　径1mm以下白・灰色粒子少量
	91	須恵器	杯蓋	SB12 p12		×		×			灰白色　径1mm以下白・灰色粒子少量
	92	土師器	小甕	SB12 p12		×		×			にぶい黄橙色　径1mm以下白・灰・橙・半透明色粒子少量
	93	土師器	小甕	SB12 p10	14.4	×		×		1/12	灰褐色　径1mm以下白・灰・橙・半透明色粒子少量　口縁部内スス
	94	土師器	長胴甕	SB12 p7		×		×			にぶい黄褐色　径2mm以下白・橙・半透明色粒子少量
51	95	須恵器	無台杯	SD4BCウ6 ベルト北	11.6	×	6.0	×	2.6	23/36	灰色　微細な白・灰・黒色粒子少量
	96	須恵器	無台杯	SD4BC ア-イ-0.1	12.0	×	7.2	×	2.8	1/18	灰色　径1mm以下白・灰色粒子少量
	97	須恵器	無台杯	SD4BC ア-3イ-3	12.1	×	7.7	×	2.9	1/6	明灰色　微細な白・灰・黒色粒子少量
	98	須恵器	無台杯	SD4BC ア3イ3	12.2	×	7.2	×	2.8	5/18	灰色　微細な白・灰・黒色粒子少量
	99	須恵器	無台杯	SD4BC オ-5-1	12.2	×		×		5/36	灰色　微細な白・灰・黒色粒子少量
	100	須恵器	無台杯	SD4BC No10、12	12.3	×	7.1	×	3.5	17/18	灰色　径1～3mm白・半透明粒子やや多量
	101	須恵器	無台杯	SD4BC	12.35	×	7.2	×	3.0	1/3	灰色　微細な白・灰・黒色粒子少量　墨書92
	102	須恵器	無台杯	SD4BC ア-イ-0.1	12.45	×	7.5	×	3.1	1/3	明灰色　径1mm以下白・灰色粒子少量　墨書53
	103	須恵器	無台杯	SD4BC No13	12.5	×	7.5	×	2.7	5/18	明灰色　径1mm以下白・灰色粒子少量
	104	須恵器	無台杯	SD4BC	12.6	×	6.2	×	2.6	1/12	オリーブ灰色　微細な白・灰・黒色粒子少量　墨書55
	105	須恵器	無台杯	SD4BC No2	12.6	×	6.8	×	2.9	3/8	オリーブ灰色　径1mm以下白・灰色粒子少量　墨書54
	106	須恵器	無台杯	SD4BC	12.6	×	7.7	×	2.4	5/8	青灰色　径1mm以下白・灰色粒子少量　墨書52
	107	須恵器	無台杯	SD4BC No4	12.6	×	8.25	×	2.9	3/4	灰色　径1mm以下白・灰色粒子少量
	108	須恵器	無台杯	SD4BC	12.6	×	8.0	×	3.05	5/9	灰色　径1mm以下白・灰色粒子少量
	109	須恵器	無台杯	SD4BC	12.7	×	7.5	×	3.5	1/12	灰色　径1mm以下白・灰色粒子少量
	110	須恵器	無台杯	SD4C	12.8	×	7.9	×	3.3	1/7	青灰色　径2mm以下白・灰・茶色粒子少量　墨書93
	111	須恵器	無台杯	SD4BC ア3イ3	12.85	×	7.5	×	2.8	1/9	灰白色　軟　径1mm以下白・灰色粒子少量
	112	須恵器	無台杯	SD4BC イ-5-1	12.85	×	7.9	×	3.0	13/36	灰色　微細な白・灰・黒色粒子少量
	113	須恵器	無台杯	SD4A	12.9	×	8.2	×	2.6	1/9	灰色　径3mm以下白・灰色粒子やや多量　口縁内部油煙か
	114	須恵器	無台杯	SD4BC No3	13.1	×	7.4	×	3.4	7/12	灰白色　径1～3mm白・半透明粒子やや多量　口縁2か所打欠
	115	須恵器	無台杯	SD4BC エ-7	13.1	×		×		1/9	灰白色　微細な白・灰・黒色粒子少量
	116	須恵器	無台杯	SD4BC イ-4-3	13.2	×		×		1/9	灰白色　微細な白・灰・黒色粒子少量
	117	須恵器	無台杯	SD4BC ウ7-1	13.4	×	8.0	×	2.9	1/4	灰色　微細な白・灰・黒色粒子少量　墨書56
	118	須恵器	無台杯	SD4BC	13.4	×	9.7	×	3.3	11/36	灰色　径1mm以下白・灰色粒子少量
	119	須恵器	無台杯	SD4BC ウ5-1		×	6.4	×		底11/36	灰白色　径3mm以下白・灰・半透明色粒子やや多量
	120	須恵器	無台杯	SD4BC		×	6.7	×		底1/2	明灰色　軟　微細な白・灰・黒色粒子少量　墨書58
	121	須恵器	無台杯	SD4BC イ-5-1		×	7.8	×		底17/36	灰色　微細な白・灰・黒色粒子少量
	122	須恵器	盤	SD4BCア3イ3		×		×	2.4	2/9	灰色　径3mm以下白・灰色粒子少量
52	123	須恵器	無台杯	SD4BC		×	5.7	×		底1/4	オリーブ灰色　微細な白・灰・黒色粒子少量　墨書65
	124	須恵器	無台杯	SD4C		×	6.15	×		底1/9	灰色　微細な白・灰・黒色粒子少量　墨書75
	125	須恵器	無台杯	SD4C		×	6.2	×		底1/4	灰色　径1mm以下白・灰色粒子少量　墨書74
	126	須恵器	無台杯	SD4BCイ-5-1		×	7.9	×		底1/4	灰色　軟　微細な白・灰・黒色粒子少量　墨書57
	127	須恵器	無台杯	SD4BCウ7-1		×	5.55	×		底7/36	明灰色　微細な白・灰・黒色粒子少量　墨書68
	128	須恵器	無台杯	SD4ほか		×	5.7	×		底5/36	灰色　微細な白・灰・黒色粒子少量　墨書73
	129	須恵器	無台杯	SD4ほか		×	6.0	×		底5/36	灰色　微細な白・灰・黒色粒子少量　墨書70
	130	須恵器	無台杯	SD4BCイ-5-1		×		×			灰色　径1mm以下白・灰色粒子少量　墨書67
	131	須恵器	無台杯	SD4BCア3イ3		×		×			灰色　微細な白・灰・黒色粒子少量　墨書94
	132	須恵器	無台杯	SD4ほか		×		×			灰色　微細な白・灰・黒色粒子少量　墨書72
	133	須恵器	無台杯	SD4ほか		×		×			灰色　微細な白・灰・黒色粒子少量　墨書71
	134	須恵器	無台杯	SD4BCウ-1		×		×			灰色　微細な白・灰・黒色粒子少量　墨書66
	135	須恵器	杯蓋	SD4B-3			摘み3.6			摘み完	灰色　微細な白・灰・黒色粒子少量
	136	須恵器	杯蓋	SD4BCベルト北			摘み3.8			摘み完	灰色　微細な白・灰・黒色粒子少量
	137	須恵器	杯蓋	SD4BC No12			摘み3.9			摘み23/36	灰色　微細な白・灰・黒色粒子少量
	138	須恵器	杯蓋	SD4BC	14.0	×		×	3.0	1/4	灰色　微細な白・灰・黒色粒子少量　墨書76
	139	須恵器	杯蓋	SD4BCエ5	15.5	×		×		19/36	灰色　径1mm以下白・灰色粒子少量
	140	須恵器	杯蓋	SD4BC	15.6	×		×		1/9	灰色　微細な白・灰・黒色粒子少量
	141	須恵器	杯蓋	SD4ほか	16.6	×		×		1/18	灰色　径1mm以下白・灰色粒子少量

	142	須恵器	有台杯	SD4BCア3イ3	11.6	×	6.0	×		1/12	灰色　微細な白・灰・黒色粒子少量
	143	須恵器	有台杯	SD4BCオ-8	12.9	×	6.9	×		5/18	灰色　微細な白・灰・黒色粒子少量
	144	須恵器	有台杯	SD4BCヘ'ネト北	13.0	×		×		7/36	灰色　微細な白・灰・黒色粒子少量
	145	須恵器	有台杯	SD4BCア-2イ-2	13.7	×		×		1/18	灰色　微細な白・灰・黒色粒子少量
	146	須恵器	有台杯	SD4C	14.6	×		×		2/9	灰色　径2mm以下白・灰色粒子少量
	147	土師器	無台椀	SD4BC	11.8	×	5.9	×	4.2	7/9	灰色　径1mm以下白・灰・半透明・茶色粒子少量　墨書62　内面漆付着
	148	土師器	無台椀	SD4BCオ8　ほか	11.8	×	4.6	×	3.1	1/36	淡褐色　径2mm以下白・灰・半透明・茶色粒子少量
	149	土師器	無台椀	SD4BC	12.0	×	6.2	×		11/36	淡褐色　径2mm以下白・灰・半透明・茶色粒子少量
	150	土師器	無台椀	SD4BC	12.2	×		×		5/36	浅黄橙色　径0.5～2mm以下白・灰・半透明・茶色粒子やや多量
	151	土師器	無台椀	SD4BC	12.4	×	5.9	×	3.8	1/3	淡褐色　径2mm以下白・灰・半透明・茶色粒子少量
	152	土師器	無台椀	SD4BC	12.5	×	4.0	×	3.5	13/36	灰白色　径2mm以下白・灰・半透明・茶色粒子少量
	153	土師器	無台椀	SD4BC	12.6	×		×		1/6	灰白色　径1mm以下白・灰・半透明・茶色粒子少量
	154	土師器	無台椀	SD4BC	12.6	×		×		2/9	淡褐色　径1mm以下白・灰・半透明・茶色粒子少量
	155	土師器	無台椀	SD4BC	12.8	×	5.9	×	3.8	11/12	灰色　径1mm以下白・灰・半透明・茶色粒子少量　口縁部外面焼ハジケあり　墨書61
	156	土師器	無台椀	SD4BC	12.8	×		×		1/6	灰白色　径1mm以下白・灰・半透明・茶色粒子少量
	157	土師器	無台椀	SD4BC	13.0	×	4.8	×	3.5	1/36	淡褐色　径2mm以下白・灰・半透明・茶色粒子少量
53	158	土師器	無台椀	SD4BCエ7	12.8	×		×		1/6	淡橙色　径2mm以下白・灰・半透明・茶色粒子少量
	159	土師器	無台椀	SD4C	12.9	×	4.4	×	3.8	11/36	淡橙色　径2mm以下白・灰・半透明・茶色粒子少量
	160	土師器	無台椀	SD4BCオ8	13.1	×	6.1	×	3.5	1/9	灰色　径0.5～2mm以下白・灰・半透明・茶色粒子やや多量
	161	土師器	無台椀	SD4C	13.2	×	6.3	×	4.2	11/36	灰白色　径1mm以下白・灰・半透明・茶色粒子少量
	162	土師器	無台椀	SD4BCア3イ3	13.4	×	4.5	×	3.8	2/3	浅黄橙色径2mm以下白・灰・半透明・茶色粒子少量　墨書60
	163	土師器	無台椀	SD4A	14.2	×		×		2/9	灰白色　径1mm以下白・灰・半透明・茶色粒子少量
	164	土師器	無台椀	SD4BCイ5-2	14.5	×	5.0	×	4.1	2/9	浅黄橙色　精良径1mm以下白・灰・茶色粒子少量　墨書63
	165	土師器	無台椀	SD4BCア2イ2	15.2	×		×		1/5	灰白色　径1mm以下白・灰・半透明・茶色粒子少量
	166	土師器	無台椀	SD4BCア2イ2	15.4	×	6.3	×	5.4	1/36	褐色　精　径1mm以下白・灰・茶色粒子少量
	167	土師器	無台椀	SD4BCア3イ3	15.6	×		×		1/6	灰白色　径1mm以下白・灰・半透明・茶色粒子少量
	168	土師器	無台椀	SD4BCア3イ3	15.7	×	5.3	×	4.6	2/3	橙色　径0.5～2mm以下白・灰・半透明・茶色粒子やや多量　墨書64
	169	土師器	無台椀	SD4C	16.0	×	6.4	×		1/4	灰白色　径1mm以下白・灰・半透明・茶色粒子少量
	170	土師器	無台椀	SD4BC	18.4	×		×		11/36	浅黄橙色　精　径1mm以下白・灰・茶色粒子少量
	171	土師器	無台椀	SD4BCほか	19.6	×	7.7	×		11/36	浅黄橙色　精　径1mm以下白・灰・茶色粒子少量　墨書69
	172	土師器	無台椀	SD4BC		×		×		-	にぶい橙色　径2mm以下白・灰・半透明・茶色粒子少量　墨書95
	173	土師器	無台椀	SD4A		×	5.0	×		11/36	灰白色　径1mm以下白・灰・半透明・茶色粒子少量　墨書96
	174	土師器	無台椀	SD4BCNo17		×	5.6	×		底完	灰白色　粗　径0.5～1mm白・灰・茶・黒色粒子多量
	175	土師器	無台椀	SD4BCイ5-1		×	6.4	×		底1/2	浅黄橙色　精　径1mm以下白・灰・茶色粒子少量　墨書98
	176	土師器	無台椀	SD4BCウ4		×	6.7	×		底完	淡褐色　径0.5～2mm以下白・灰・半透明・茶色粒子やや多量
	177	土師器	無台椀	SD4BCイ5-2		×		×		-	淡黄色　精　径1mm以下白・灰・茶色粒子少量　墨書97
	178	黒色土器	無台椀	SD4C	16.4	×	6.1	×	5.9	1/5	黄橙色　径1mm以下白・灰色粒子少量
54	179	土師器	小甕	SD4BCエ7	9.1	×	5.2	×	9.3	2/9	灰白色　精　径0.5～2mm白・灰・茶・半透明色粒子少量
	180	土師器	小甕	SD4BCイ5-1ほか	10.2	×		×		1/3	浅黄橙色　径1mm以下白・灰・茶色粒子少量
	181	土師器	小甕	SD4BCイ4-3	11.0	×		×		1/18	浅黄橙色　径2mm以下白・灰・茶色粒子少量
	182	土師器	小甕	SD4BCイ4-1	11.3	×		×		2/9	淡黄色　精　微細白・黒色粒子少量
	183	土師器	小甕	SD4BCエ9	11.4	×		×		1/12	明黄褐色　径1mm以下白・半透明色粒子少量

	184	土師器	小甕	SD4C	12.1	×		×	1/7	灰白色　径0.5～2mm白・茶・半透明色粒子少量
	185	土師器	小甕	SD4BCオ9	12.4	×		×	1/12	にぶい黄橙色　粗　径1mm以下白・半透明色粒子少量　口内スス
	186	土師器	小甕	SD4BCイ5-3	12.8	×		×	1/12	にぶい黄褐色　径1mm以下白・黒・半透明色粒子少量　口内スス
	187	土師器	小甕	SD4BCカ8	12.8	×		×	1/12	にぶい黄橙色　径0.5～2mm白・灰・茶・黒色粒子少量
	188	土師器	小甕	SD4BCエ7	13.0	×		×	1/36	浅黄橙色　径2mm白・茶・半透明色粒子少量
	189	土師器	小甕	SD4BCベルト北	13.1	×		×	1/12	浅黄橙色　径1mm以下白・灰色粒子少量
	190	土師器	小甕	SD4BC	13.5	×		×	1/6	浅黄橙色　径2mm以下白・茶・黒・半透明色粒子少量
	191	土師器	小甕	SD4BCウ5-1	13.6	×		×	1/12	にぶい黄橙色　径2mm以下白・茶・半透明色粒子少量
	192	土師器	小甕	SD4BCイ4-1	14.1	×		×	1/6	黄橙色　精径0.5～2mm白・茶・半透明色粒子少量
	193	土師器	小甕	SD4BCエ7	14.5	×		×	1/9	淡黄色　径1mm以下白・茶・半透明色粒子少量
	194	土師器	小甕	SD4BCカ8		×	4.8	×	完存	灰白色　径0.5～1mm以下白・橙・黒・半透明色粒子少量
	195	土師器	小甕	SD4BCNo.5		×	4.8	×	完存	灰白色　硬　径2mm以下白・橙・黒・半透明色粒子少量
	196	土師器	小甕	SD4BCオ8		×	5.1	×	底2/3	淡黄色　径0.5～2mm白・灰・茶・黒・半透明色粒子少量
	197	土師器	小甕	SD4BCアイ10-1		×	5.5	×	完存	にぶい黄橙色　径0.5～3mm白・灰・橙・黒・半透明色粒子少量
	198	土師器	小甕	SD4C		×	5.9	×	底完	灰黄色　径0.5～1mm白・茶・黒・半透色粒子少量
	199	土師器	小甕	SD4C		×	5.9	×	底2/3	浅黄橙色　径1mm以下白・灰・茶色粒子少量
	200	土師器	小甕	SD4BCエ7		×	6.7	×	底1/4	明褐灰色　径0.5～3mm白・橙・半透明色粒子やや多量
	201	土師器	小甕	SD4BCエ5		×	7.3	×	底1/4	にぶい橙色　粗　径3mm以下白・灰・茶・半透明色粒子やや多量
	202	土師器	小甕	SD4BCオ8		×	7.9	×	底7/36	浅黄橙色　精　径0.5～3mm白・灰・茶色粒子少量
	203	土師器	長胴甕	SD4BCエ7ほか	20.5	×		×	11/36	にぶい黄橙色　径0.5～3mm白・灰・茶・半透明色粒子多量　外スス
	204	土師器	長胴甕	SD4BCイ5-1ほか	22.3	×		×	1/2	浅黄橙色　径2mm以下白・灰・茶・半透明色粒子少量　外スス
	205	土師器	佐波型甕	SD4BC		×		×	－	にぶい黄橙色　粗　径0.5～1mm白・灰色粒子多量　内外スス
55	206	土師器	長胴甕	SD4BCエ5		×		×	－	浅黄橙色　軟　径0.5～3mm白・灰・茶・半透明色粒子少量
	207	土師器	長胴甕	SD4BCイ5-2		×		×	－	にぶい黄褐色　軟　径0.5～2mm白・灰・黒色粒子少量
	208	土師器	長胴甕	SD4BC		×		×	－	にぶい黄褐色　軟　径0.5～2mm白・灰・黒色粒子少量
	209	土師器	長胴甕	SD4BCエ7		×		×	－	にぶい黄橙色　径0.5～2mm白・灰・黒色粒子少量
	210	土師器	長胴甕	SD4BCエ9ほか		×		×	－	にぶい黄褐色　軟　径0.5～2mm白・灰・黒色粒子少量
	211	土師器	鍋	SD4BCエ6	37.8	×		×	1/9	灰白色　軟　粗　径0.5～2mm白・灰・茶・黒色粒子少量
	212	土師器	鍋	SD4B4	40.8	×		×	1/9	浅黄橙色　径0.5～2mm白・灰・黒色粒子少量
	213	土師器	鍋	SD4BCNo.15	42.5	×		×	1/12	浅黄橙色　径0.5～2mm白・灰・黒色粒子少量
	214	土師器	鍋	SD4BC	45.2	×		×	1/12	浅黄橙色　径1mm以下白・灰・茶色粒子少量
56	215	土師器	鍋	SD4BCア3イ3		×		×	－	浅黄橙色　径0.5～1mm白・灰・茶・黒色粒子少量　外スス
	216	土師器	鍋	SD4C		×		×	－	浅黄橙色　軟　径0.5～2mm白・灰・茶・黒色粒子少量　口内スス
	217	土師器	鍋	SD4BCア3イ3		×		×	－	黄橙色　径2mm以下白・灰・茶・黒色粒子少量　口内スス
	218	土師器	鍋	SD4BCウ6		×		×	－	褐灰色　粗　径2mm以下白・半透明色粒子やや多量
	219	土師器	鍋	SD4BCイ4-1		×		×	－	浅黄橙色　径1～3mm白・灰・茶色粒子少量
	220	須恵器	長頸壺	SD4BC	10.1	×		×	1/9	黒褐色　径1mm以下白・灰色粒子少量
	221	須恵器	長頸壺	SD4BCウ7-1	10.2	×		×	1/9	灰白色　径3mm以下白・灰色粒子やや多量
	222	須恵器	長頸壺	SD4BCア2イ2	11.8	×		×	5/36	灰色　微細白・灰・黒色粒子少量
	223	須恵器	長頸壺	SD4BCNo.8		×		×	－	灰色　径0.5～3mm白・灰・黒色粒子やや多量　頸径5.0
	224	須恵器	長頸壺	SD4BCイ4-1		×	9.8	×	底1/12	黒褐色　径1mm以下白・灰色粒子少量
	225	須恵器	長頸壺	SD4BC		×		×	－	暗灰色　粗　径0.5mm白・灰色粒子少量　頸径3.0
	226	須恵器	長頸壺	SD4BCベルト北		×	10.6	×	1/4	オリーブ灰色　径0.5～1mm白・灰色粒子少量

	227	須恵器	長頸壺	SD4BCNo7		×	13.6	×		1/3	黒灰色　軟　径1mm白・灰・半透明色粒子少量
57	228	須恵器	甕	SD4		×		×		-	灰色　径1mm以下白・灰色粒子少量
	229	製塩土器		SD4		×		×		-	橙色　粗径0.5mm以下白・灰・茶・黒色粒子やや多量
	230	土製品	土器製円盤	SD4		×		×		-	白色　粗径1mm以下白・灰・茶色粒子多量
	231	土製品	不明	SD4	長3.2	×	幅2.7	×	厚1.9	-	灰白色　径0.5mm白・灰・茶色粒子多量
	232	石製品	砥石	SD4	長6.5	×	幅4.0	×	厚3.6	-	灰白色　泥岩か　91.8g
	233	土師器	小甕	SA1		×	8.2	×		底1/4	浅黄橙色　軟　径2mm以下白・灰・半透明・茶色粒子少量
	234	土師器	長胴甕	SA1		×		×		-	明黄褐色　径1mm以下白・灰・半透明・茶色粒子少量
	235	土師器	小甕	SD1		×		×		-	にぶい黄橙色　径1mm以下白・灰色粒子少量
	236	土師器	長胴甕	SD1		×		×		-	黄橙色　径3mm白・灰色粒子少量
	237	土師器	長胴甕	SD1		×		×		-	浅黄橙色　径0.5～2mm白・灰・茶色粒子やや多量
	238	須恵器	無台杯	SD5No27	11.9	×	7.7	×	2.6	1/2	灰色　径1mm以下白・灰色粒子少量　墨書78
	239	須恵器	無台杯	SD5No24ほか	11.9	×	7.2	×	2.9	7/12	灰色　径1mm以下白・灰色粒子少量　墨書79
	240	須恵器	無台杯	SD5	12.0	×	6.6	×	2.9	1/4	暗灰色　径3mm以下白色粒子やや多量
	241	須恵器	無台杯	SD5No1	12.2	×	7.2	×	2.8	1/2	灰色　径1mm以下白・灰色粒子少量　墨書77
	242	須恵器	無台杯	SD5No14	12.3	×	7.4	×	3.0	1/4	灰色　径1mm以下白・灰色粒子少量　墨書80
	243	須恵器	無台杯	SD5	12.6	×	7.4	×	3.0	1/4	暗灰色　径3mm以下白色粒子やや多量
	244	須恵器	無台杯	SD5	12.8	×	7.0	×	4.5	5/36	暗灰色　径1mm以下白・灰色粒子少量
	245	須恵器	無台杯	SD5	13.0	×	7.6	×	3.35	1/2	暗灰色　径1mm以下白・灰色粒子少量
	246	須恵器	無台杯	SD5	13.4	×	8.6	×	2.75	1/3	灰白色　径1mm以下白・灰色粒子少量
	247	須恵器	杯蓋	SD5	14.4	×		×		1/2	灰白色　径1mm以下白・黒色粒子やや多量
	248	須恵器	杯蓋	SD5	16.5	×		×		1/18	灰色　径1mm以下白・灰色粒子少量
	249	須恵器	有台杯	SD5	13.4	×		×		1/9	暗灰色　微細白・灰・黒色粒子少量
	250	須恵器	有台杯	SD5		×	6.9	×		底1/6	灰色　微細白・灰・黒色粒子少量
	251	須恵器	有台杯	SD5		×	6.9	×		底7/36	灰色　微細白・灰・黒色粒子少量
	252	須恵器	有台椀	SD5		×	7.3	×		底完	灰色　径3mm以下白色粒子やや多量
58	253	土師器	無台椀	SD5	11.3	×	5.9	×	3.7	5/12	明橙色　径2mm以下白・灰・半透明・茶色粒子少量
	254	土師器	無台椀	SD5-2	12.0	×	6.0	×	4.5	7/36	灰白色　径1mm以下白・灰・半透明・茶色粒子少量　墨書85
	255	土師器	無台椀	SD5	11.6	×	5.6	×	3.6	5/12	浅黄橙色　径1mm以下白・灰・半透明・茶色粒子少量
	256	土師器	無台椀	SD5	11.8	×		×		1/4	浅黄橙色　径1mm以下白・灰・半透明・茶色粒子少量
	257	土師器	無台椀	SD5	11.6	×		×		1/4	淡黄色　径1mm以下白・灰・半透明・茶色粒子少量
	258	土師器	無台椀	SD5	11.8	×	5.5	×	3.85	5/9	灰白色　径1mm以下白・灰・半透明・茶色粒子少量
	259	土師器	無台椀	SD5No41	12.2	×	5.8	×	4.35	31/36	灰白色　径1mm以下白・灰・半透明・茶色粒子少量　口内スス　打ち欠きあり　墨書99
	260	土師器	無台椀	SD5-1	12.7	×	5.6	×	3.9	1/4	浅黄橙色　径1mm以下白・灰・半透明・茶色粒子少量　墨書84
	261	土師器	無台椀	SD5No3	12.8	×	5.2	×	3.9	19/36	淡黄色　径1mm以下白・灰・半透明・茶色粒子少量　墨書100
	262	土師器	無台椀	SD5No28	12.8	×	5.5	×	3.55	1/4	淡黄色　径1mm以下白・灰・半透明・茶色粒子少量　墨書82
	263	土師器	無台椀	SD5	12.4	×		×		5/36	淡黄色　径1mm以下白・灰・半透明・茶色粒子少量
	264	土師器	無台椀	SD5	12.8	×	5.8	×	3.6	1/9	淡黄色　径1mm以下白・灰・半透明・茶色粒子少量
	265	土師器	無台椀	SD5	13.2	×		×		5/36	淡黄色　径1mm以下白・灰・半透明・茶色粒子少量
	266	土師器	無台椀	SD5No40ほか	13.6	×	4.2	×	3.4	1/12	灰白色　径1mm以下白・灰・半透明・茶色粒子少量　墨書81
	267	土師器	無台椀	SD5	14.5	×		×		1/9	にぶい黄橙色　精　径1mm以下・灰・茶・半透明色粒子少量
	268	土師器	無台椀	SD5	15.2	×	4.4	×	4.1	1/2	にぶい橙色　径2mm以下白・灰・半透明・茶色粒子少量
	269	土師器	無台椀	SD5	15.2	×		×		5/36	にぶい橙色　径2mm以下白・灰・半透明・茶色粒子少量
	270	土師器	無台椀	SD5	16.2	×		×		1/2	浅黄橙色　精　径0.5～1mm白・灰・茶色粒子ごく少量
	271	土師器	無台椀	SD5-1		×	4.5	×		底11/12	にぶい橙色　精　径0.5～1mm白・灰・茶色粒子ごく少量　墨書86
	272	土師器	無台椀	SD5-1		×	5.4	×		底1/4	灰白色　径2mm以下白・灰・半透明・茶色粒子少量　墨書83
	273	黒色土器	無台椀	SD5		×	4.8	×		2/9	橙色　精　径1mm以下白・黒・半透明色粒子少量

	274	土師器	小甕	SD5	12.6	×		×		1/4	淡橙色　径1㎜白・黒・半透明色粒子やや多量
	275	土師器	小甕	SD5	12.6	×		×		1/12	にぶい黄橙色　径1㎜白・灰・茶色粒子少量
	276	土師器	小甕	SD5		×	6.4	×		1/3	にぶい黄橙色　粗　径5㎜以下白・灰・半透明色粒子少量
	277	土師器	鍋	SD5		×		×		–	淡橙色　径0.5～3㎜白・灰・茶・半透明色粒子少量
	278	土師器	鍋	SD5		×		×		–	淡橙色　径2㎜白・灰・半透明色粒子少量
59	279	土師器	長胴甕	SE1	41.95	×		×		1/12	黄橙色　軟　粗　径0.5～1㎜白・灰・茶・黒色粒子多量
	280	木製品	不明	SE1	長30.1	×	幅5.0	×	厚3.3	–	
	281	須恵器	横瓶	SE2		×		×		–	灰色　粗　径3㎜以下白・灰・半透明色粒子やや多量
	282	須恵器	無台杯	SE3 3・6・8層	13.2	×	7.8	×	3.0	1/2	灰色　微細白・灰・黒色粒子少量
	283	木製品	斎串	SE3	長13.4	×	幅1.3	×	厚0.2	完存	
	284	木製品	斎串	SE3	長15.1	×	幅1.9	×	厚0.2	完存	
	285	木製品	高台皿	SE3	径16.5	×	底10.7	×	厚10.7	19/36	
	286	須恵器	無台杯	SE4	11.2	×	7.5	×	3.2	1/18	灰色　微細白・灰・黒色粒子少量
	287	須恵器	無台杯	SE4	12	×		×		1/6	灰オリーブ色　微細白・灰・黒色粒子少量
	288	須恵器	無台杯	SE4 3層	12.3	×	7.9	×	3.0	完存	灰色　径1～2㎜白・灰・黒色粒子少量　墨書38
	289	須恵器	無台杯	SE4 1層		×	7.9	×		底7/36	灰色　径2㎜以下白色粒子ごく少量　墨書39
	290	須恵器	無台杯	SE4		×	8.2	×		底1/3	灰色　微細白・灰・黒色粒子少量
	291	須恵器	無台杯	SE4		×	8.4	×		底5/12	灰オリーブ色　径1㎜以下白・灰色粒子少量
	292	須恵器	杯蓋	SE4	14.2	×		×		5/36	灰白色　径1㎜以下白・灰色粒子少量
	293	須恵器	有台杯	SE4	7.9	×		×		1/9	灰オリーブ色　軟　径2㎜以下白色粒子少量
60	294	土師器	無台椀	SE4 1層-2	13.4	×	5.1	×	4.5	7/18	淡黄色　径1㎜以下白・灰・半透明・茶色粒子少量
	295	土師器	小甕	SE4 1層-1	14.6	×		×		1/12	淡黄色　軟　径0.5～2㎜以下白・灰・半透明・茶色粒子やや多量
	296	須恵器	長頸壺	SE4 3層-1	11.7	×		×		1/12	暗オリーブ灰色　微細白・灰・黒色粒子少量
	297	土師器	小甕	SE4 1層-5		×	5.4	×		底3/4	淡黄色　軟径　2㎜以下白・灰・半透明・茶色粒子少量
	298	須恵器	甕	SE4 上層		×		×		–	灰色　径3㎜白・灰・黒・半透明色粒子やや多量
	299	須恵器	甕	SE4		×		×		–	灰色　径3㎜白・灰・黒・半透明色粒子やや多量
	300	須恵器	甕	SE4上層粘土層		×		×		–	灰色　径2㎜以下白・灰色粒子少量
	301	須恵器	甕	SE4		×		×		–	灰色　微細白・灰・黒色粒子少量
	302	須恵器	甕	SE4		×		×		–	灰色　径2㎜以下白色粒子少量
	303	須恵器	甕	SE4		×		×		–	灰色　径2㎜以下白色粒子少量
	304	須恵器	甕	SE4		×		×		–	灰色　径2㎜以下白色粒子少量
	305	木製品	皿	SE4	17.4	×	12.0	×	1.5	7/18	
	306	木製品	杭状製品	SE4	残長20.5	×	径3.5	×	厚2.4	–	
	307	木製品	杭状製品	SE4	残長16.9	×	幅3.5	×	厚2.9	–	
	308	木製品	杭状製品	SE4	残長11.9	×	径4.5	×	厚3.4	–	
	309	木製品	板状製品	SE4	残長16.5	×	幅7.0	×	厚1.0	–	
	310	土師器	長胴甕	SE5 1層		×		×		–	灰白色　径0.5～2㎜白・灰・黒・半透明色粒子やや多量
	311	須恵器	甕	SE5 1層		×		×		–	灰色　径0.5～2㎜白・半透明色粒子少量
	312	木製品	棒状製品	SE6	残長22.5	×	幅1.3	×	厚0.8	–	
	313	須恵器	無台杯	SE7No.1	12.4	×	8.7	×	3.7	31/36	暗灰色　径1～3㎜白・灰色粒子やや多量
	314	須恵器	無台杯	SE7上部	13.2	×	8.6	×	3.1	1	灰白色　径3㎜以下白・灰色粒子やや多量
	315	須恵器	無台杯	SE7上部	12.7	×	8.0	×	3.4	底完	灰オリーブ色　径1㎜以下白・灰色粒子少量　墨書40
	316	須恵器	無台杯	SE7上部		×	8.2	×		底完	灰白色　軟　径0.5～2㎜白・灰色粒子少量
	317	須恵器	折縁杯	SE7上部	11.7	×	7.4	×	3.5	17/36	暗灰色　径1～3㎜白・灰色粒子やや多量
61	318	須恵器	折縁杯	SE7No.2	13.9	×	7.5	×	5.0	2/3	灰白色　径1～3㎜白・灰色粒子やや多量　墨書41
	319	須恵器	有台杯	SE7上部	15.0	×	10.5	×	6.2	底7/9	灰白色　径1～3㎜白・灰色粒子やや多量　墨書42
	320	土師器	長胴甕	SE7上部		×		×		–	淡黄色　粗　径0.5～3㎜白・灰・半透明色粒子多量
	321	土製品	羽口	SE7上部		×		×		–	灰色　精
	322	須恵器	甕	SE7上部		×		×		–	灰白色　軟　径1～3㎜白・灰色粒子やや多量
	323	須恵器	甕	SE7		×		×		–	灰白色　径4㎜白・灰・半透明色粒子少量
	324	須恵器	甕	SE7		×		×		–	灰色　径1㎜白・灰・黒色粒子少量
	325	須恵器	甕	SE7		×		×		–	灰白色　径4㎜白・灰・半透明色粒子少量
	326	須恵器	甕	SE7上部		×		×		–	暗灰色
	327	須恵器	甕	SE7		×		×		–	灰白色　径4㎜白・灰・半透明色粒子少量
	328	須恵器	無台杯	SE9	11.7	×		×		7/36	灰色　径1～3㎜白・灰色粒子やや多量
	329	須恵器	無台杯	SE9	12.1	×	6.4	×	3.1	1/2	灰色　径1㎜以下白・灰色粒子少量　墨書43
	330	須恵器	無台杯	SE9	12.3	×		×		1/9	灰色　微細白・灰・黒色粒子少量　墨書44
	331	須恵器	無台杯	SE9No.3	12.5	×	7.9	×	3.0	1/2	灰色　径1㎜以下白・灰色粒子少量
	332	須恵器	無台杯	SE9No.14	13.6	×	8.2	×	2.5	底1/12	灰色　微細白・灰・黒色粒子少量　底径より復元

	333	須恵器	有台杯	SE9No9	12.5	×	7.0	×	5.2	1/6	灰色　径1mm以下白・灰色粒子少量
	334	土師器	小甕	SE9	13.6	×		×		1/12	灰色　径2mm以下白・茶・黒・半透明色粒子少量
	335	土師器	小甕	SE9		×	6.9	×		底2/9	灰黄褐色　径3mm以下白・茶・黒・半透明色粒子少量
	336	須恵器	長頸壺	SE9・12	9.6	×		×		1/9	灰色　径1mm以下白・灰色粒子少量
	337	須恵器	長頸壺	SE9	12.2	×		×		1/4	灰色　微細白・灰・黒色粒子少量
	338	須恵器	長頸壺	SE9		×	11.9	×		底7/18	灰色　径1～3mm白・灰色粒子やや多量
62	339	須恵器	甕	SE9 No7		×		×		–	灰色　径1mm以下白・黒色粒子少量
	340	須恵器	鉢	SE9 No1	45.0	×		×		5/36	灰色　径1mm以下白色粒子ごく少量
	341	須恵器	甕	SE9		×		×		–	灰オリーブ色　径1mm以下白・灰色粒子少量
	342	木製品	板状製品	SE9	長19.0	×	幅9.5	×	厚1.8	–	
	343	木製品	板状製品	SE9	長20.9	×	幅8.4	×	厚2.1	–	
	344	木製品	箸状製品	SE9井戸枠外	残長67	×	径0.5	×		–	
	345	木製品	串状製品	SE9	残長27.6	×	径0.8	×		–	
	346	木製品	斎串	SE9	長12.3	×	幅1.2	×	厚0.3	–	
	347	木製品	不明	SE9	長10.8	×	幅13.0	×	厚1.8	–	粗型か
	348	石製品	砥石	SE9	長10.3	×	幅7.2	×	厚5.8	–	
63	349	須恵器	杯蓋	SK1　1層	11.5	×		×		1/9	青灰色　微細白・灰・黒色粒子少量
	350	土師器	無台椀	SK1　1層	12.3	×	5.4	×	4.1	1/3	黄橙色　粗　径0.5～1mm白・灰・茶・黒色粒子多量
	351	土師器	無台椀	SK1 5・8層	13.0	×	4.9	×	3.8	1	浅黄橙色　径0.5～2mm以下白・灰・半透明・茶色粒子やや多量　墨書35
	352	土師器	無台椀	SK1 2層	12.7	×	5.5	×	3.6	19/36	淡黄色　粗　径0.5～1mm白・灰・茶・黒色粒子多量
	353	土師器	無台椀	SK1 1層	13.9	×	6.4	×	3.6	1/6	黄橙色　粗　径0.5～1mm白・灰・茶・黒色粒子多量
	354	土師器	無台椀	SK1 1層 6層	13.8	×	5.3	×	3.7	1/3	にぶい橙色　精　径1mm以下白・灰・茶色粒子少量　墨書36
	355	土師器	無台椀	SK1 1層	14.0	×		×		1/9	灰白色　粗　径0.5～1mm白・灰・茶・黒色粒子多量
	356	土師器	無台椀	SK1 1層	14.6	×		×		5/36	にぶい黄橙色　粗　径0.5～1mm白・灰・茶・黒色粒子多量
	357	土師器	無台椀	SK1 1層	15.9	×	6.4	×	4.6	2/3	淡橙色　軟　粗　径0.5～1mm白・灰・茶・黒色粒子多量
	358	土師器	無台椀	SK1 1層		×	5.6	×		底5/12	赤褐色　軟　径2mm以下白・灰・半透明・茶色粒子少量
	359	土師器	無台椀	SK1 1層		×	5.6	×		底4/9	浅黄橙色　粗　径0.5～1mm白・灰・茶・黒色粒子多量
	360	土師器	無台椀	SK1 6層		×	5.3	×		底完	淡黄色　軟　粗　径0.5～1mm白・灰・茶・黒色粒子多量
	361	土師器	無台椀	SK1 6層		×	5.3	×		底完	灰黄色　精良　径1　以下白・灰・茶色粒子少量
	362	土師器	無台椀	SK1 1層		×	5.5	×		底5/12	浅黄橙色　軟　粗　径0.5～1mm白・灰・茶・黒色粒子多量
	363	土師器	無台椀	SK1 1層		×	5.7	×		底7/12	黄橙色　軟　粗　径0.5～1mm白・灰・茶・黒色粒子多量
	364	土師器	無台椀	SK1 6層		×	5.8	×		底13/18	淡黄色　軟　粗　径0.5～1mm白・灰・茶・黒色粒子多量
	365	土師器	無台椀	No14一括（SK1）		×	6.0	×		底7/36	にぶい黄橙色　径1mm以下白・灰・半透明・茶色粒子少量
	366	土師器	無台椀	SK1 1層		×	6.1	×		底完	淡黄色　粗　径0.5～1mm白・灰・茶・黒色粒子多量
	367	土師器	無台椀	SK1 1層		×	6.1	×		底19/36	浅黄色　軟　粗　径0.5～1mm白・灰・茶・黒色粒子多量
	368	土師器	無台椀	No14一括（SK1）		×	7.1	×		底11/36	浅黄橙色　粗　径0.5～1mm白・灰・茶・黒色粒子多量
	369	黒色土器	有台椀	SK1 1層	13.2	×	5.0	×		1/12	内外黒色　微細白・灰・茶色粒子ごく少量
	370	黒色土器	無台椀	No14一括（SK1）		×	6.7	×		底11/36	浅黄色　軟　粗　径0.5～1mm白・灰・茶・黒色粒子多量
	371	土師器	無台椀	SK1 1層		×		×		–	にぶい黄橙色　径0.5～2mm以下白・灰・半透明・茶色粒子やや多量　墨書37
	372	土師器	長胴甕	SK1 1層		×		×		–	灰白色　径0.5～2mm白・灰・半透明色粒子やや多量
	373	須恵器	長頸壺	No14一括（SK1）		×	11.6	×		19/36	灰オリーブ色　径1mm以下白・灰色粒子少量
	374	須恵器	甕	SK1 1層	22.8	×		×		1/12	暗青灰色　径1mm以下白・灰色粒子少量
	375	須恵器	甕	SK1 1層	19.1	×		×		1/12	灰色　径0.5～2mm白・灰色粒子少量
	376	須恵器	甕	SK1 1層		×		×		–	灰色　径0.5～2mm白・灰色粒子少量
	377	須恵器	横瓶	SK1 1層		×		×		–	灰色　径0.5～4mm白・灰色粒子少量
	378	須恵器	甕	No14一括（SK1）		×		×		–	灰色　径2mm以下白・灰色粒子少量
	379	須恵器	甕	No14一括（SK1）		×		×		–	灰色　径0.5～1mm白・灰色粒子少量
	380	石製品	軽石	SK1 5・8層	長7.6	×	幅6.6	×	厚3.2	–	
64	381	木製品	曲物	SK1	長9.5	×	幅2.8	×	厚0.3	–	

	382	木製品	糸巻枠木	SK1	長21.4	×	径1.3	×		-	
	383	木製品	底板	SK1 4層1	径11.2	×		×	厚0.8	-	
	384	木製品	板状製品	SK1 5·8層	長15	×	幅1.9	×	厚0.5	-	斎串か
	385	木製品	杭状製品	SK1	残存長9.1	×	径1.3	×		-	
	386	木製品	曲物	SK1	径21.2	×	高14.7	×		底完	底完
	387	須恵器	無台杯	SK2	12.1	×		×		5/36	灰色　径1mm以下白·灰色粒子少量
	388	須恵器	無台杯	№5ピット一括 (SK2)	13.7	×		×		1/12	灰褐色　軟　径1mm以下白·灰色粒子少量
	389	須恵器	有台杯	SK2	14.4	×	8.9	×	7.2	25/36	灰色　微細白·灰·黒色粒子少量
	390	土師器	長胴甕	SK2		×		×		-	淡黄色　軟　径1mm以下白·灰·半透明色粒子少量
	391	土師器	長胴甕	SK2		×		×		-	淡黄色　軟　径1mm以下白·灰·半透明色粒子少量
	392	須恵器	甕	SK2		×		×		-	灰色　径4mm以下白·灰·半透明色粒子少量
	393	石製品	砥石	№5ピット一括 (SK2)	11.2	×	5.2	×	3.7	-	
65	394	土師器	無台椀	SK4-1	15.4	×		×		1/9	灰黄色　軟　径2mm以下白·灰·半透明色粒子少量
	395	土師器	無台椀	SK4-1		×	5.5	×		2/9	淡黄色　堅　径1mm以下白·灰·茶色粒子少量
	396	須恵器	甕	SK4-1		×		×		-	灰色　径1mm以下白·灰·黒色粒子少量
	397	土師器	鍋	SK4-1	41.0	×		×		1/12	灰色　軟　径2mm以下白·灰·茶·半透明色粒子少量
	398	須恵器	無台杯	SK5		×	7.6	×		7/36	淡黄色　微細白·灰·黒色粒子少量
	399	須恵器	無台杯	SK5		×	8.4	×		5/36	灰色　微細白·灰·黒色粒子少量
	400	土師器	長胴甕	SK5		×		×		-	浅黄橙色　軟　径0.5～3mm白·灰·茶色粒子やや多量
	401	須恵器	甕	SK5		×		×		-	灰赤色　径1mm以下白·灰·半透明色粒子少量
	402	土師器	鍋	SK5	38.0	×		×		1/9	浅黄橙色　軟　径2mm以下白·灰·橙·黒·半透明色粒子やや多量
	403	須恵器	無台杯	1T-1S	12.3	×		×		1/9	灰色　微細白·灰·黒色粒子少量
	404	須恵器	杯蓋	1T-1S	14.3	×		×		1/12	灰色　径1mm以下白·灰色粒子少量
	405	須恵器	有台杯	1T-1S		×	7.0	×		底11/18	灰色　径1mm以下白·灰色粒子少量
	406	土師器	小甕	1T-1S	12.6	×		×		5/36	灰白色　軟　径0.5～1mm白·灰·茶·半透明色粒子少量
	407	土師器	鍋	1T-1S	40.6	×		×		2/36	灰オリーブ色　径0.5～1mm白·灰·半透明色粒子少量
	408	須恵器	壺	1T-1S		×	10.6	×		7/36	暗灰色　径0.5～1mm白·灰色粒子少量
	409	須恵器	甕	1T-1S		×		×		-	暗青灰色　径1mm以下白·半透明色粒子少量
	410	土師器	無台椀	2T-1 1S	11.7	×	5.5	×	3.9	1/12	灰色　粗　径0.5～2mm白·灰·黒色粒子やや多量
	411	土師器	無台椀	2T-1 1S	12.0	×	6.4	×	4.5	1/9	にぶい黄橙色　径0.5mm以下白·灰·茶·黒色粒子少量
	412	土師器	無台椀	2T-5 2S	12.55	×	4.9	×	3.75	13/18	灰色　径0.5mm以下白·灰色粒子少量
	413	土師器	無台椀	2T-1 1S	12.8	×		×		7/36	淡橙色　精　径1mm以下白·茶·半透明色粒子少量
	414	土師器	無台椀	2T-SX2	12.4	×	5.1	×	4.65	4/9	アイボリー　径2mm以下白·灰·半透明·茶色粒子少量
	415	土師器	無台椀	2T-1 1S	13.0	×		×		1/6	明橙色　軟　径0.5～1mm白·灰·茶色粒子やや多量
66	416	土師器	無台椀	2T-1 1S		×	4.9	×		29/36	明橙色　軟　径0.5～1mm白·灰·茶·半透明色粒子やや多量
	417	土師器	無台椀	2T-集		×	5.4	×		17/36	黄橙色　精　微細白·黒色粒子ごく少量
	418	土師器	無台椀	2T-1 1S		×	6.0	×		17/36	にぶい黄橙色　軟　径0.5～1mm白·灰·茶色粒子やや多量
	419	土師器	無台椀	2T-SX2		×	7.2	×		5/12	浅黄橙色　径0.5～1mm白·灰·茶·半透明色粒子やや多量
	420	土師器	無台椀	2T-11S		×		×		-	浅黄橙色　精　径1mm白·半透明色粒子少量　墨書31
	421	土師器	無台椀	2T-集		×		×		-	黄橙色　軟　径0.5mm以下白·灰·茶·黒色粒子少量　墨書30
	422	黒色土器	無台椀	2T-集		×		×		-	内外黒色　微細白·灰·茶色粒子ごく少量
	423	須恵器	壺	2T-2S		×	11.6	×		底5/9	暗灰色　微細白·灰·黒色粒子少量
	424	土師器	無台椀	4T2 S1	12.2	×		×		1/6	淡黄色　精　径1mm以下白·灰·茶色粒子少量
	425	土師器	小甕	4T2 S1	13.0	×	5.3	×		7/36	褐色　軟　粗　径0.5～2mm白·灰色粒子やや多量
	426	須恵器	無台杯	4T-9 S3	10.8	×		×		1/12	灰色　径1mm以下白·灰色粒子少量
	427	須恵器	無台杯	4T-10 S3	12.3	×	8.2	×	3.2	1/12	青灰色　微細白·灰·黒色粒子少量　墨書102
	428	須恵器	無台杯	4T-集中区3	13.5	×	7.95	×	3.2	1/12	青灰色　径1mm以下白·灰色粒子少量
	429	須恵器	無台杯	4T-集中区3		×	7.0	×		底完	灰色　微細白·灰·黒色粒子少量
	430	須恵器	壺	4T-集中区3	23.6	×		×		1/12	灰色　径0.5～1mm白·灰色粒子少量
	431	須恵器	甕	4T-10 S3		×		×		-	灰色　微細白·灰·黒色粒子少量
	432	須恵器	甕	4T-集中区3		×		×		-	灰色　径2mm以下白·灰·黒色粒子少量
	433	須恵器	無台杯	4T17 S4	12.3	×	8.0	×	3.2	1/4	青灰色　径1mm以下白·灰色粒子少量　墨書103
	434	須恵器	無台杯	4T-集中区4	12.2	×	7.3	×	3.2	11/18	灰色　粗　径2mm以下白·灰色粒子やや多量

	435	須恵器	無台杯	4T15 S4	12.8	×	8.0	×	3.4	5/6	灰色　微細白・灰・黒色粒子少量
	436	須恵器	有台杯	4T17 S4	14.8	×	8.6	×	6.8	31/36	灰色　径1mm白・灰色粒子少量
	437	須恵器	折縁杯	4T17 S4	14.2	×	7.4	×		7/18	暗灰色　粗　径5mm以下白・灰色粒子やや多量
	438	土師器	小甕	4トレ-18	12.6	×	6.9	×	12.4	5/9	褐色　径0.5～1mm白・灰色粒子少量
	439	須恵器	壺	4トレ-18		×	7.4	×		底完	灰色　軟　径1mm以下白・灰色粒子少量
	440	土師器	無台椀	SX1-2	12.3	×		×		2/9	灰白色　軟　径0.5～2mm白・灰・茶・黒色粒子やや多量
	441	須恵器	壺	SX1-1		×		×		−	灰色　径1mm以下白・灰色粒子少量
67	442	須恵器	無台杯	SX2-8	12.9	×	8.4	×	3.0	1/2	灰オリーブ色　径1mm以下白・灰色粒子少量　墨書106
	443	須恵器	無台杯	SX2-8	13.4	×		×		1/9	灰白色　粗　径1mm以下白・灰・黒色粒子少量
	444	須恵器	杯蓋	SX2-1			摘み3.7			摘み1/3	淡橙色　径1mm以下白・灰色粒子少量　転用硯
	445	須恵器	有台杯	SX2-8	14.4	×	8.5	×	5.8	1/4	灰オリーブ色　径1mm以下白・灰色粒子少量
	446	土師器	無台椀	SX2-2	12.8	×	6.0	×	3.7	13/36	暗青灰色　軟　粗　径0.5～1mm白・灰・茶・黒色粒子多量
	447	土師器	無台椀	SX2	13.8	×		×		1/6	灰オリーブ色　軟　径2mm以下白・灰・茶色粒子少量　口縁部内スス
	448	土師器	無台椀	SX2-6		×	5.8	×		底完	黄橙色　軟　径2mm以下白・灰・半透明・茶色粒子少量
	449	土師器	無台椀	SX2-6		×	5.8	×		底完	淡黄色　径1mm以下白・灰・半透明・茶色粒子少量
	450	黒色土器	無台椀	SX2-2		×	6.6	×		底7/18	暗灰色　径1mm以下白・灰・半透明・茶色粒子少量
	451	黒色土器	無台椀	SX2-2		×	6.8	×		底1/6	淡黄色　精　径1mm以下白・灰・茶色粒子少量
	452	土師器	皿	SX2	17.4	×		×		7/36	浅黄橙色　径2mm以下白・灰・半透明・茶色粒子少量
	453	土師器	小甕	SX2-7		×	8.6	×		底完	浅黄橙色　軟　径0.5～2mm白・灰・茶・黒色粒子やや多量
	454	土師器	長胴甕	SX2-7	22.1	×		×		5/36	浅黄橙色　軟　径0.5～2mm白・灰・茶色粒子やや多量
	455	須恵器	甕	SX2-5	22.8	×		×		1/12	青灰色　径3mm以下白・灰・半透明色粒子少量
	456	土師器	鍋	SX2-2	39.1	×		×		1/10	黄橙色　軟　径3mm以下白・灰・黒色粒子少量
	457	土師器	無台椀	SX3No.1	12.2	×	6.0	×	3.7	完存	浅黄橙色　粗　径0.5～1mm白・灰・茶・黒色粒子多量
	458	土師器	無台椀	SX3	12.3	×		×		1/6	淡黄色　軟　微細白・灰・茶色粒子少量
	459	土師器	無台椀	SX3	13.0	×	5.0	×	3.5	11/36	浅黄橙色　径1mm以下白・灰・半透明・茶色粒子少量
	460	土師器	無台椀	SX3No.3	13.0	×	5.9	×	3.75	1/6	黄橙色　軟　径0.5～1mm白・灰・茶色粒子やや多量
	461	土師器	無台椀	SX3	13.0	×	6.4	×	4.2	1/2	浅黄橙色　軟　粗　径0.5～1mm白・灰・茶・黒色粒子多量
	462	土師器	無台椀	SX3		×	6.2	×		底完	にぶい黄橙色　粗　径0.5～1mm白・灰・茶・黒色粒子多量
	463	土師器	無台椀	SX3		×	6.3	×		底完	黄橙色　径0.5～1mm白・灰・茶・黒・半透明色粒子少量
	464	土師器	小甕	SX3		×	6.3	×		11/36	にぶい橙色　粗　径0.5～1mm白・灰・茶・黒色粒子多量
	465	土師器	長胴甕	SX3	20.6	×		×		1/9	淡橙色　軟　径1mm以下白・灰・半透明・茶色粒子少量　口縁内部スス付着
	466	土師器	鍋	SX3	33.4	×		×		1/18	にぶい黄橙色　軟　粗　径0.5～1mm白・灰・茶・黒色粒子多量
68	467	土師器	無台椀	SX4-2	12.6	×		×		1/5	浅黄橙色　軟　粗　径0.5～1mm白・灰・茶・黒色粒子多量
	468	土師器	無台椀	SX4-2		×	6.3	×		底2/3	淡橙色　軟　粗　径0.5～1mm白・灰・茶・黒色粒子多量
	469	土師器	鍋	SX4-1	39.3	×		×		1/18	黄橙色　軟　径2mm以下白・灰・半透明・茶色粒子少量
	470	須恵器	無台杯	SX5-2	13.3	×	7.8	×		1/4	灰白色　軟　径1mm以下白・灰・黒色粒子少量
	471	土師器	無台椀	SX5	13.2	×	5.5	×	3.8	1/4	淡黄色　軟　粗　径0.5～1mm白・灰・茶・黒色粒子多量
	472	土師器	無台椀	SX5-2	13.4	×	6.4	×	3.7	1/9	淡黄色　軟　粗　径0.5～1mm白・灰・茶・黒色粒子多量
	473	土師器	無台椀	SX6-3	12.6	×	4.8	×		5/36	浅黄橙色　粗　径0.5～1mm白・灰・茶・黒色粒子多量
	474	土師器	無台椀	SX6-3	12.7	×	5.9	×		底5/12	にぶい黄橙色　軟　粗　径0.5～1mm白・灰・茶・黒色粒子多量
	475	土師器	無台椀	SX6-3	13.6	×	6.4	×		1/3	淡黄色　軟　粗　径0.5～1mm白・灰・茶・黒色粒子多量
	476	須恵器	無台杯	SX6-4		×	8.0	×		底2/9	灰白色　微細白・灰・黒色粒子少量　墨書88
	477	土師器	無台椀	SX6-1		×		×		−	淡黄色　粗　径0.5～1mm白・灰・茶・黒色粒子多量　墨書89

	478	土師器	小甕	SX6-3	13.0	×		×		1/18	にぶい橙色 軟 粗 径1mm以下白・灰・茶色粒子やや多量
	479	土師器	鍋	SX6-3	34.1	×		×		1/18	にぶい橙色 軟 粗 径4mm以下白・灰・半透明色粒子多量
	480	須恵器	長頸壺	SX6-2	15.3	×		×		1/18	灰色 径1mm以下白・灰色粒子少量
	481	須恵器	杯蓋	SX7	15.4	×		×		1/12	灰色 径1～3mm白・灰色粒子やや多量
	482	須恵器	杯蓋	SX7	16.2	×		×		1/9	灰色 径1mm以下白・灰色粒子少量 転用硯
	483	黒色土器	無台椀	SX7-2	13.65	×		×		1/9	外淡灰褐色、内黒色 軟 径1mm以下白・灰色粒子少量
	484	須恵器	甕	SX7	25.2	×		×		1/9	黒灰色 径1mm以下白・灰色粒子少量
	485	須恵器	甕	SX7		×		×		–	灰色 径1mm白・灰・茶・黒・半透明色粒子やや少量
	486	土師器	無台椀	SX8		×	6.2	×		底完	浅黄橙色 軟 径1mm以下白・灰・半透明・茶色粒子少量
	487	須恵器	壺	SX8		×		×		–	黒灰色 径1mm以下白・灰・黒色粒子少量
69	488	須恵器	無台杯	SX9	12.8	×		×		1/9	灰白色 径3mm以下白・灰色粒子やや多量
	489	須恵器	無台杯	SX9	12.8	×	7.2	×	3.3	1/9	灰白色 径1mm以下白・灰色粒子少量
	490	土師器	小甕	SX9		×	6.8	×		底5/12	にぶい黄橙色 軟 径3mm以下白・灰・茶・黒色粒子少量
	491	土師器	長胴甕	SX9	21.0	×		×		5/36	黄橙色 軟 径3mm以下白・茶・半透明色粒子少量
	492	須恵器	無台杯	A4 p3	11.4	×	6.9	×	3.1	1/6	青灰色 微細白・灰・黒色粒子少量
	493	須恵器	無台杯	G4 p3	12.4	×	7.8	×	2.9	7/18	灰色 径1mm以下白・灰色粒子少量
	494	須恵器	無台杯	H2 p3	13.0	×	7.4	×	3.0	1/9	灰色 径1mm以下白・灰色粒子少量
	495	須恵器	無台杯	E3 p3	13.0	×		×		1/9	灰色 微細白・灰・黒色粒子少量
	496	須恵器	無台杯	E3 p3		×	7.8	×		7/18	灰色 径1mm以下白・灰色粒子少量
	497	須恵器	杯蓋	G5 p3	12.0	×		×		7/36	灰色 径1mm以下白・灰色粒子少量
	498	須恵器	杯蓋	G5 p4	13.4	×		×		1/18	灰色 径0.5～3mm白・半透明色粒子少量
	499	須恵器	有台杯	F3 p4		×	8.2	×		底5/36	灰色 径1mm以下白・灰色粒子少量
	500	須恵器	無台杯	A4 p15		×		×		–	灰白色 径1mm以下白・灰色粒子少量 墨書34
	501	須恵器	有台杯	B2 p4	13.2	×		×		1/18	灰色 粗 径2mm以下白・灰色粒子やや多量
	502	土師器	無台椀	B2 p6	11.6	×	6.0	×	3.6	5/12	にぶい黄褐色 粗 径0.5～2mm白・灰・茶・黒色粒子やや多量
	503	土師器	無台椀	A4 p17	12.9	×	5.2	×	4.2	1/2	浅黄橙色 径0.5～2mm白・灰・茶・黒色粒子やや多量
	504	土師器	無台椀	A3 p4	14.3	×		×		5/36	浅黄橙色 径0.5～2mm白・灰・茶・黒色粒子やや多量
	505	土師器	無台椀	B2 p5	14.9	×	6.3	×	5.1	11/36	にぶい橙色 粗 径0.5～1mm白・灰・茶・黒色粒子やや多量
	506	土師器	小甕	B2 p5	12.2	×		×		1/6	にぶい褐色 粗 径0.5～2mm白・灰・半透明色粒子やや多量
	507	土師器	小甕	E4 p4		×	5.2	×		1/4	浅黄橙色 精 径0.5～2mm白・茶・半透明色粒子少量
	508	土師器	長胴甕	A3 p6		×		×		–	浅黄橙色 粗 径0.5～3mm白・灰・黒・半透明色粒子多量
	509	土師器	長胴甕	F4 p7	32.6	×		×		1/18	灰白色 径0.5～3mm白・灰・半透明色粒子少量
	510	土師器	鍋	F3 p7	37.0	×		×		1/12	灰白色 軟 精 径0.5～2mm白・灰色粒子少量
	511	土師器	鍋	F4 p4	42.2	×		×		2/9	にぶい橙色 粗 径4mm以下白・灰・茶・半透明色粒子やや多量
	512	須恵器	甕	F4 p7		×		×		–	灰色 粗 径3mm以下白・茶色粒子やや多量

第14表 平安時代遺構外出土遺物一覧

図版番号	図示番号	種別	器種	出土位置	寸法 (cm) 口径		底径		器高	残存度 (分母36)	備考
70	513	須恵器	無台杯	F3・2区-2	10.4	×		×		5/36	灰色 径1mm以下白・灰・黒色粒子少量
	514	須恵器	無台杯	E4・4区-1	11.0	×	5.0	×	3.0	7/36	灰白色 やや軟 微細な白・灰・黒色粒子少量
	515	須恵器	無台杯	H2-1	11.2	×	7.0	×	3.0	1/12	灰色 微細白色粒子少量
	516	須恵器	無台杯	F2・3区-1	11.2	×	7.1	×	2.6	1/9	灰白色 0.5～2mm白・灰・半透明色粒子ごく少量
	517	須恵器	無台杯	C4・3区-2	11.4	×		×		5/36	青灰色 径1～3mm白・半透明色粒子やや多量
	518	須恵器	無台杯	A3・1区-1	11.6	×		×		1/9	灰色 径1mm以下白・灰色粒子少量
	519	須恵器	無台杯	F5・4区-1	11.7	×		×	2.95	2/9	灰色 微細白・灰色粒子少量
	520	須恵器	無台杯	G2・3区-1	11.8	×	6.2	×	3.45	1/12	灰色 微細0.5～3mm白・灰・半透明色粒子多量
	521	須恵器	無台杯	B2・3区-1	11.8	×	7.0	×	2.8	11/36	暗灰色 径1mm以下白・灰色粒子少量
	522	須恵器	無台杯	A4・4区-1	11.9	×		×		7/36	灰色 径1mm以下白・灰色粒子少量
	523	須恵器	無台杯	A3・2区	12.0	×	7.0	×	2.8	1/9	灰白色 径1mm以下白・灰色粒子少量
	524	須恵器	無台杯	D3・2区-4	12.0	×	7.4	×	2.8	1/3	灰色 径1mm以下白・灰色粒子少量 口縁部打ち欠きか
	525	須恵器	無台杯	F4・1区-2ベルト	12.0	×	7.4	×	3.3	2/9	灰色 微細白・灰・半透明色粒子少量
	526	須恵器	無台杯	E4・3区-1	12.0	×	7.6	×	2.85	5/12	灰色 微細な白・灰・黒色粒子少量
	527	須恵器	無台杯	D3・2区-2	12.0	×		×		1/6	灰白色 微細な白・灰・黒色粒子少量

	528	須恵器	無台杯	H2-1	12.0	× 7.1	× 3.0	1/9	灰色	微細0.5～2mm白・灰色粒子少量
	529	須恵器	無台杯	H3・4区-2	12.0	×	×	1/6	灰色	微細白色粒子ごく少量
	530	須恵器	無台杯	I4・2区ﾍﾞﾙﾄ	12.0	×	×	5/36	灰色	微細白・灰・黒色粒子少量
	531	須恵器	無台杯	D3・3区-3	12.1	× 7.0	× 3.05	1/9	灰色	微細な白・灰・黒色粒子少量
	532	須恵器	無台杯	B4・4区-2	12.1	× 7.2	× 2.8	1/4	灰白色	微細な白・灰・黒色粒子少量
	533	須恵器	無台杯	A3・1区-1	12.2	× 6.6	× 3.1	7/18	灰白色	径1mm以下白・灰色粒子少量
	534	須恵器	無台杯	A3・1区-1	12.2	× 7.0	× 2.8	11/36	灰白色	径1mm以下白・灰色粒子少量 内底墨痕
	535	須恵器	無台杯	F2・3区-1	12.2	× 7.5	× 2.55	5/18	灰色	微細な白・灰・黒色粒子少量
	536	須恵器	無台杯	B2・3区-2	12.2	× 8.4	× 2.8	7/36	灰白色	径1mm以下白・灰色粒子少量
	537	須恵器	無台杯	A4・4区-2	12.3	× 5.7	× 3.2	2/9	灰白色	微細な白・灰・黒色粒子少量 口縁部打ち欠き
	538	須恵器	無台杯	G4・1区-1	12.3	× 6.4	× 3.45	1/3	灰色	微細白・灰色粒子少量
	539	須恵器	無台杯	D3・2区-4	12.3	× 7.2	× 2.85	13/18	灰白色	微細な白・灰・黒色粒子少量 墨書90
	540	須恵器	無台杯	A3・2区-1	12.3	× 8.0	× 3.0	7/36	灰白色	径1mm以下白・灰色粒子少量
	541	須恵器	無台杯	D3・2区-4	12.3	× 8.3	× 3.15	5/6	灰色	径1mm以下白・灰色粒子少量 口縁部打ち欠き
	542	須恵器	無台杯	D3・2区-4	12.3	×	×	5/36	灰白色	やや軟 径1mm以下白・灰色粒子少量
	543	須恵器	無台杯	A4・3区-1	12.4	× 6.5	× 3.1	1/18	青灰色	径1～3mm白・半透明色粒子やや多量
	544	須恵器	無台杯	A3・1区-1	12.4	× 7.4	× 3.0	2/9	灰色	径1mm以下白・灰色粒子少量
	545	須恵器	無台杯	E4・2区-1上	12.4	× 7.4	× 2.8	1/18	灰白色	微細な白・灰・黒色粒子少量
	546	須恵器	無台杯	SX105・106-3	12.4	× 8.2	× 2.7	底1/4	灰色	径1mm以下白・灰色粒子少量
	547	須恵器	無台杯	A4・3区-2	12.4	×	×	5/18	灰色	径1mm以下白・灰色粒子少量
71	548	須恵器	無台杯	調査区外立会い	12.5	× 8.0	× 3.45	7/36	灰色	径1mm以下白・灰色粒子少量
	549	須恵器	無台杯	F2・3区-2	12.6	× 8.0	× 2.7	13/36	暗青灰色	微細な白・灰・黒色粒子少量 墨書105
	550	須恵器	無台杯	F4・1区-2ﾍﾞﾙﾄ	12.6	× 8.6	× 3.3	1/18	灰色	3mm以下白・灰・黒色粒子少量
	551	須恵器	無台杯	D3・2区-2	12.7	× 7.2	× 3.15	7/36	灰色	微細な白・灰・黒色粒子少量
	552	須恵器	無台杯	H3・1区-1	12.7	× 8.0	× 3.0	1/6	灰色	微細白色粒子少量
	553	須恵器	無台杯	B4・4区-2	12.7	× 7.6	× 2.9	1/3	灰色	径1mm以下白・灰色粒子少量
	554	須恵器	無台杯	A4・4区-2	12.8	× 7.6	× 2.8	1/12	灰白色	微細な白・灰・黒色粒子少量
	555	須恵器	無台杯	I3 p6	12.9	× 7.6	× 2.7	5/12	灰白色	微細な白・灰・黒色粒子少量 口縁部打ち欠きか 口内油煙付着
	556	須恵器	無台杯	A3・1区-1	13.0	× 6.6	× 3.0	1/6	灰白色	径1mm以下白・灰色粒子少量
	557	須恵器	無台杯	5T-1	13.4	× 9.1	× 3.6		灰褐色	微細0.5～1mm白・灰・黒・金・半透明色粒子少量
	558	須恵器	無台杯	D3・2区-4		× 5.9	×	底2/9	灰色	径1mm以下白・灰色粒子少量 底外糸切
	559	須恵器	無台杯	H2・2区-2		× 6.5	×	底完	灰色	径0.5～2mm白・半透明色粒子少量 墨書87 底外糸切
	560	須恵器	無台杯	E3・4区-1,F3・1区-1		× 7.0	×	底完	灰色	微細な白・灰・黒色粒子少量 底外糸切
	561	須恵器	無台杯	1T-3		× 7.1	×	底11/36	灰白色	微細な白・灰・黒色粒子少量 墨書29
	562	須恵器	無台杯	F2・3区-1		× 7.2	×	底7/12	灰白色	0.5～1mm白・灰・半透明色粒子やや多量
	563	須恵器	無台杯	C4・1区-2		× 7.8	×	底7/36	灰色	径1～3mm白・半透明粒子やや多量
	564	須恵器	無台杯	G5・1区-1		× 8.0	×	底1/2	灰白色	微細な白・灰・黒色粒子少量
	565	須恵器	無台杯	F4・2区-1		× 8.0	×	底5/18	明オリーブ灰色	微細0.5～3mm白・灰・半透明粒子多量
	566	須恵器	杯蓋	A3・1区-1	14.4	× 7.5	× 3.1	1/4	灰色	径1mm以下白・灰色粒子少量
	567	須恵器	杯蓋	A4・4区-1	17.2	× 8.1 摘み3.1	× 3.2	1/6	灰色	径1～3mm白・半透明色粒子やや多量
	568	須恵器	杯蓋	A3・1区-1		摘み2.9		摘み完	灰色	径1mm以下白・灰色粒子少量
	569	須恵器	杯蓋	B4・4区-2		摘み3.0		摘み1/2	灰白色	径1mm以下白・灰色粒子少量 摘み一部打ち欠き
	570	須恵器	杯蓋	A3・1区-1		摘み2.4		摘み完	灰色	径1mm以下白・灰色粒子少量
	571	須恵器	杯蓋	A4・3区-1		摘み2.8		摘み3/4	青灰色	微細な白・灰・黒色粒子少量
	572	須恵器	杯蓋	A3・1区-1		摘み3.4		摘み31/36	灰色	径1mm以下白・灰色粒子少量
	573	須恵器	杯蓋	A4・4区-2	13.1	×	×	1/9	灰白色	径mm以下白・灰色粒子少量
	574	須恵器	杯蓋	A4・2区-1	13.4	× 7.1	×	1/12	灰白色	径1mm以下白・灰色粒子少量 内面磨耗
	575	須恵器	杯蓋	A3・1区-1	13.4	×	×	1/12	灰白色	径1mm以下白・灰色粒子少量
	576	須恵器	杯蓋	A3・1区-1	14.0	× 8.3	×	1/9	灰色	径1mm以下白・灰色粒子少量
	577	須恵器	杯蓋	A3・2区-1	14.2	× 7.1	×	1/12	灰色	径1mm以下白・灰・黒色粒子やや多量
	578	須恵器	杯蓋	B2・3区-1	14.8	× 9.5	×	1/9	暗灰色	径1mm以下白・灰色粒子少量
	579	須恵器	杯蓋	A4・4区-2	15.4	×	×	5/36	灰色	径1mm以下白・灰色粒子少量
	580	須恵器	杯蓋	B2・3区-2	15.8	×	×	1/12	灰色	径3mm以下白・灰色粒子少量
	581	須恵器	杯蓋	A4・3区-2	15.6	×	×	1/9	灰色	径1mm以下白・灰色粒子少量
72	582	須恵器	有台杯	I3・3区-2	13.3	×	×	1/4	灰色	径0.5～1mm白・灰・黒色粒子やや多量
	583	須恵器	有台杯	A3・1区-1	13.2	× 7.6	× 6.5	7/12	暗オリーブ灰色	微細白・灰・半透明色粒子少量
	584	須恵器	有台杯	A3・1区-1	13.3	× 7.8	× 5.9	31/36	灰色	微細白・灰・黒色粒子少量
	585	須恵器	有台杯	B2・2区-2	13.7	× 8.6	× 5.95	7/36	灰色	径0.5～2mm白・灰・黒色粒子多量
	586	須恵器	有台杯	G2・3区-1	14.3	×	×	5/36	青灰色	径1mm以下白・灰・黒・半透明色粒子やや多量

	587	須恵器	有台杯	F3·2区-1		×	5.4	×		底23/36	灰色　微細白色粒子少量
	588	須恵器	有台杯	SX103		×	5.8	×		底4/9	灰白色　径1mm以下白・灰色粒子少量
	589	須恵器	有台杯	G3·4区-1		×	6.0	×		底7/36	灰白色　径1mm以下白・半透明色粒子ごく少量
	590	須恵器	有台杯	G3·4区-1		×	6.4	×		底1/2	灰色　微細0.5～1mm白・灰・半透明色粒子少量
	591	須恵器	有台杯	F3·4区-1		×	6.7	×		底5/12	灰白色　径0.5～1mm白・黒色粒子少量
	592	須恵器	有台杯	B5·3区-1		×	6.8	×		底19/36	灰色　微細白・灰・黒色粒子少量
	593	須恵器	有台杯	I5·4区-1		×	6.8	×		底1/2	青灰色　微細0.5～2mm白・灰・黒色粒子やや多量
	594	須恵器	有台杯	G3·2区-1		×	6.8	×		底5/36	暗灰色　径3mm以下白・灰色粒子少量
	595	須恵器	有台杯	A3·4区-2		×	7.0	×		底1/4	灰色　径2mm以下白・灰・黒色粒子少量
	596	須恵器	有台杯	F5·2区-1		×	7.1	×		底完	灰色　径1mm以下白色粒子やや多量
	597	須恵器	有台杯	F4·2区-1		×	7.4	×		底17/36	青灰色　径1mm以下白・灰色粒子少量
	598	須恵器	有台杯	SX105·106-3		×	7.4	×		底1/9	灰色　径3mm以下白・灰色粒子少量
	599	須恵器	有台杯	SX101		×	7.4	×		底1/3	灰色　径1mm以下白・灰色粒子少量
	600	須恵器	有台杯	A3·2区-1		×	7.6	×		13/36	灰色　微細白・灰・黒色粒子やや多量
	601	須恵器	有台杯	E2区-2		×	7.6	×		底1/12	灰白色　径3mm以下白・灰色粒子少量
	602	須恵器	有台杯	A3·1区-1		×	7.6	×		底5/18	灰色　径1mm以下白・灰色粒子少量
	603	須恵器	有台杯	E3·3区-2		×	7.8	×		底完	灰色　径0.5～2mm白・灰・黒色粒子多量
	604	須恵器	有台杯	F3·2区-2		×	7.8	×		底7/36	灰色　径1mm以下白・灰・黒色粒子少量
	605	須恵器	有台杯	A3·4区-2		×	7.8	×		底7/36	灰色　微細白・灰色粒子少量
	606	須恵器	有台杯	A3·1区-1		×	7.8	×		底5/36	青灰色　径3mm以下白・灰色粒子少量
	607	須恵器	有台杯	E4·3区-1		×	8.0	×		底5/18	灰色　径0.5mm白・灰・黒色粒子少量
	608	須恵器	有台杯	排土		×	8.0	×		底1/3	灰色　径2mm以下白・灰色粒子やや多量
	609	須恵器	有台杯	G3·1区-2		×	8.0	×		底4/9	灰色　微細白色粒子少量
	610	須恵器	有台杯	3A地区		×	8.0	×		底31/36	オリーブ灰色　径1mm以下白・灰色粒子少量
	611	須恵器	有台杯	A4·4区-1		×	8.3	×		底1/2	灰色　径1mm白・灰色粒子少量
	612	須恵器	有台杯	E4·3区-1		×	8.2	×		底1/3	灰白色　径2mm以下白・灰・黒色粒子少量
	613	須恵器	有台杯	F3·2区-1		×	9.0	×		底11/36	灰色　径2mm白・灰・半透明色粒子やや多量
	614	須恵器	折縁杯	I3·1区-1	13.6	×	7.6	×	4.4	7/36	灰色　径3mm以下白・灰色粒子少量
	615	須恵器	折縁杯	G3·4区-1	14.2	×		×		1/9	暗灰色　径3mm以下白・灰色粒子少量
	616	須恵器	折縁杯	F2·3区-1	15.0	×		×		1/9	暗灰色　径3mm以下白・灰色粒子少量
	617	須恵器	有台杯	G3·4区-2		×		×		−	灰色　径1mm以下白・灰・粒子少量
	618	須恵器	有台椀	B2·2区-1		×	8.6	×		底1/3	灰色　径0.5～1mm白・灰・半透明色粒子少量
73	619	土師器	無台椀	C3·2区-3	10.6	×		×		11/36	灰白色　径0.5～1mm白・灰・黒・橙・半透明色粒子少量
	620	土師器	無台椀	C4·3区-2	11.0	×	6.1	×	3.6	1/6	にぶい黄橙色　径0.5～1mm白・灰・黒・橙・半透明色粒子やや多量
	621	土師器	無台椀	A2-1	11.2	×	4.0	×	3.9	1/6	にぶい黄橙色　粗　径0.5～1mm白・灰・半透明色・茶色粒子多量
	622	土師器	無台椀	A3·1区-1	13.6	×	4.4	×	3.6	11/36	浅黄橙色　径0.5～2mm白・灰・茶・黒・橙・金・半透明色粒子少量
	623	土師器	無台椀	B4·4区-2	11.7	×	6.2	×	3.8	7/12	灰白色　径0.5～1mm白・灰・茶・半透明色粒子少量　口縁内部油煙付着
	624	土師器	無台椀	C3·1区-2	11.8	×	5.0	×	3.9	4/9	浅黄橙色　径0.5mm以下白・灰・橙・半透明色粒子ごく少量
	625	土師器	無台椀	A3·2区-1	12.2	×		×		5/18	淡褐色　径0.5mm以下白・茶・黒色粒子・骨少量
	626	土師器	無台椀	B2·3区-5	12.1	×	5.4	×	3.5	5/36	にぶい橙色　径0.5～1mm白・灰・黒・半透明色粒子やや多量
	627	土師器	無台椀	B4·4区-2	12.4	×	4.4	×	3.6	1/3	灰白色　径0.5mm白・灰・黒・橙色粒子少量
	628	土師器	無台椀	A3·1区-1	12.4	×	4.8	×	3.8	5/36	灰白色　精　径1mm以下白・灰・茶色粒子少量　底外ロクロケズリ
	629	土師器	無台椀	B2·2区-1	12.6	×	4.8	×	3.7	1/3	浅黄橙色　硬　径1mm以下白・灰・橙色粒子少量
	630	土師器	無台椀	D3·4区-1	12.2	×	4.9	×	4.2	1/4	浅黄橙色　径0.5～1mm白・灰・黒・橙色粒子少量
	631	土師器	無台椀	D4·3区-2上	12.4	×	4.9	×	4.2	1/6	灰黄褐色　径0.5～1mm白・灰・黒色粒子少量
	632	土師器	無台椀	1T-6	12.4	×	6.1	×	4.4	1/4	明橙色　粗　径0.5～1mm白・灰・半透明・茶色粒子多量
	633	土師器	無台椀	D3·2区-3	12.4	×	5.9	×	3.9	5/36	にぶい黄橙色　径0.5～1mm白・灰・黒・橙色粒子少量
	634	土師器	無台椀	1T11	12.5	×	6.2	×	4.0	2/3	明橙色　粗　径0.5～1mm白・灰・半透明・茶色粒子多量　体部内面黒斑か
	635	土師器	無台椀	C4·3区-1	12.5	×	6.4	×	3.6	1/12	浅黄橙色　径0.5mm白・灰・黒・橙・半透明色粒子少量
	636	土師器	無台椀	B2·3区-1	12.6	×	5.6	×	3.8	13/36	灰白色　径1～2mm白・灰・黒・橙・半透明色粒子やや多量
	637	土師器	無台椀	C4·3区-2	12.6	×	5.3	×	3.8	7/36	にぶい黄橙色　径0.5～1mm白・灰・黒・橙色粒子少量　灯明皿
	638	土師器	無台椀	B2·2区排土中	12.7	×	5.2	×	3.8	完存	灰白色　径0.5～1mm白・灰・茶・黒・半透明色粒子多量　墨書91
	639	土師器	無台椀	A3·1区-1	12.8	×	4.8	×	4.2	5/12	浅黄橙色　径2mm以下白・灰・半透明・茶色粒子やや多量
	640	土師器	無台椀	A4·4区-1	13.0	×		×		7/36	灰白色　径0.5mm白・灰・橙・半透明色粒子ごく少量
	641	土師器	無台椀	C2·2区-1	13.0	×	5.9	×	3.7	19/36	灰白色　径0.5～1mm白・黒・橙・半透明色粒子やや多量

	642	土師器	無台椀	C3·1区-1	13.2	×	6.1	×	3.8	4/9	浅黄橙色　径0.5㎜以下白·灰·黒·橙·半透明色粒子　やや多量
	643	土師器	無台椀	B2·2区-3	13.2	×		×		1/6	浅黄橙色　径1㎜以下白·灰·半透明色粒子ごく少量
	644	土師器	無台椀	B2·3区-2	13.2	×		×		7/36	にぶい黄橙色　径0.5㎜白·灰·茶·黒·橙色粒子少量
	645	土師器	無台椀	A3·2区-1	14.2	×		×		5/12	灰白色　やや軟　径0.5～1㎜白·茶·黒半透明色粒子少量　口縁部打ち欠き
	646	土師器	無台椀	B2·3区-1	13.4	×	5.8	×	3.9	1/9	浅黄橙色　径0.5～2㎜白·灰·橙·半透明色粒子やや多量
	647	土師器	無台椀	A3·2区-1	13.4	×	6.4	×	4.1	1/6	灰白色　径0.5～1㎜白·灰·黒·半透明色粒子やや多量
	648	土師器	無台椀	C2·2区-2	13.7	×	6.5	×	3.8	2/9	にぶい黄橙色　径1～2㎜白·灰·黒·橙·半透明色粒子やや多量
74	649	土師器	無台椀	B2·2区-2	13.8	×	7.0	×	3.5	1/36	浅黄橙色　径0.5㎜白·灰·橙·黒·半透明色粒子やや多量
	650	土師器	無台椀	F2·3区-1	14.4	×		×		1/6	灰白色　径0.5～2㎜白·灰·橙色粒子少量
	651	土師器	無台椀	B2·2区-1	14.4	×		×		1/9	浅黄橙色　径0.5㎜白·灰·黒·半透明色粒子やや多量
	652	土師器	無台椀	A4·4区-2	15.4	×	7.8	×	5.1	1/9	灰白色　径0.5～1㎜白·灰·黒·橙·半透明色粒子少量
	653	土師器	無台椀	B2·3区-5	15.6	×		×		5/36	浅黄橙色　硬　径1㎜以下白·灰·茶·橙·半透明色粒子ごく少量
	654	土師器	無台椀	C4·4区-2	15.6	×	6.4	×	4.6	1/12	にぶい黄橙色　径0.5～1㎜白·灰·黒·橙·金色粒子少量
	655	土師器	無台椀	A3·2区-1	16.0	×	5.8	×	4.8	7/36	灰白色　径0.5～1㎜白·灰·茶·黒·半透明色粒子やや多量
	656	土師器	無台椀	5T-3	16.4	×	6.8	×	5.0	5/18	にぶい黄橙色　径3㎜以下白·橙·半透明色粒子少量　底外ロクロケズリ
	657	土師器	無台椀	C4·3区-1	17.0	×	6.0	×	5.2	7/36	にぶい橙色　径0.5～2㎜灰·橙色粒子少量
	658	土師器	無台椀	B4·2区-2	17.0	×		×		7/36	灰白色　やや軟　径0.5～2㎜白·灰·橙·半透明色粒子少量
	659	土師器	無台椀	A2-1		×	5.4	×		底5/12	浅黄橙色　粗　径0.5～1㎜白·灰·半透明·茶色粒子多量
	660	土師器	無台椀	H3·2区-1		×	5.4	×		底1/4	橙色　径0.5㎜白·灰·半透明色粒子·骨ごく少量　底外ロクロケズリ
	661	土師器	無台椀	C4·3区-2		×	5.9	×		底ほぼ完	灰黄褐色　径0.5㎜白·黒·金色粒子少量
	662	土師器	無台椀	A4·3区-4		×	6.0	×		底完存	灰白色　径0.5㎜白·灰·黒·橙色粒子やや多量
	663	土師器	無台椀	B2·3区-2		×	6.0	×		底ほぼ完	にぶい黄橙色　径0.5㎜白·灰·茶·黒·橙色粒子少量
	664	土師器	無台椀	D3·2区-2		×	6.3	×		底完存	灰白色　径0.5㎜白·灰·黒·橙·金色粒子少量
	665	土師器	無台椀	2C地区		×	6.6	×		底ほぼ完	浅黄橙色　径0.5～2㎜白·灰·橙·半透明色粒子少量
	666	土師器	無台椀	B2·2区-3		×	5.5	×		底7/12	灰白色　やや軟　1～2㎜白·灰·黒·橙·半透明色粒子やや多量
	667	土師器	無台椀	C4·4区-1		×	6.6	×		底完存	灰白色　径0.5㎜白·灰·黒·橙色粒子やや多量
	668	土師器	無台椀	D3·4区-3		×	6.6	×		底1/12	灰白色　径0.5～1㎜白·灰·橙色粒子少量　底外ロクロケズリ
	669	土師器	無台椀	C4·4区-1		×	6.7	×		底完存	にぶい黄橙色　径0.5～2㎜白·灰·黒·橙·半透明色粒子少量
	670	土師器	無台椀	D3·2区-4		×	7.2	×		底1/3	浅黄橙色　径1㎜以下白·灰·橙·半透明色粒子少量
	671	土師器	無台椀	E3·3区-2		×	7.4	×		底7/36	浅黄橙色　径0.5～2㎜白·灰·橙色粒子少量
	672	土師器	有台皿	C4·4区-2	13.6	×	6.7	×	2.5	1/9	浅黄橙色　径0.5～1㎜白·灰·黒·橙色粒子少量
	673	土師器	有台皿	C4·4区-1	13.5	×	7.2	×	3.0	1/36	灰白色　径0.5～2㎜白·灰·橙色粒子少量
	674	土師器	高台	B4·2区		×	7.9	×		底1/4	浅黄橙色　径0.5～1㎜白·灰·黒·橙色粒子少量
	675	土師器	高台	B2·3区-1		×	9.5	×		底5/36	にぶい黄橙色　径0.5㎜白·灰·茶·黒·橙色粒子少量
	676	土師器	高台	C3·1区-1		×	10.2	×		底5/36	灰白色　径0.5㎜白·灰·茶·黒色粒子少量
	677	緑釉陶器素地	有台椀	E3·4区		×	4.5	×		底完存	浅黄橙色　精　径0.5㎜以下白·灰·茶色粒子少量
	678	緑釉陶器素地	蓋	2B地区（D3）	5.5	×	摘み1.3	×	高さ1.4	1/12	にぶい黄橙色　精　微細白·灰色粒子少量
75	679	黒色土器	椀	A3·2区-1	14.1	×		×		1/9	浅黄橙色　径0.5～2㎜白·灰·橙·黒·半透明色粒子やや多量
	680	黒色土器	椀	B2·3区-1	16.0	×		×		1/6	灰白色　径0.5㎜白·灰·黒色粒子少量
	681	黒色土器	無台椀	C3·4区-2	16.2	×	6.4	×	5.35	2/9	灰白色　径0.5～1㎜白·灰·半透明色粒子少量
	682	黒色土器	無台椀	B4·3区-1		×	5.1	×		底完	灰白色　径0.5～2㎜白·灰·半透明色粒子少量
	683	黒色土器	無台椀	2T集		×	5.2	×		底7/18	灰白色　軟　径0.5～1㎜白·橙色粒子少量
	684	黒色土器	無台椀	2D地区排土		×	5.4	×		底7/36	灰白色　微細白·橙色粒子少量
	685	黒色土器	無台椀	D3·4区-3		×	5.4	×		底2/9	灰白色　径0.5～1㎜白·灰·黒·半透明色粒子少量
	686	黒色土器	無台椀	B2·2区-2		×	5.6	×		底5/12	灰白色　径0.5～1㎜白·灰·黒·半透明色粒子少量
	687	黒色土器	無台椀	B2·3区-1		×	5.6	×		底1/2	灰白色　径0.5～2㎜白·灰·半透明色粒子　骨　少量
	688	黒色土器	無台椀	2T集		×	5.6	×		底1/2	灰白色　微細白·灰·茶色粒子少量
	689	黒色土器	無台椀	C3·1区-1		×	5.7	×		底23/36	灰白色　微細白色粒子少量
	690	黒色土器	無台椀	G·1-2		×	6.0	×		底5/18	灰白色　微細白·灰·半透明色粒子少量

	691	黒色土器	無台椀	A3·2区-1		×	6.2	×	底1/3	灰白色　径0.5～2mm白·灰·橙·半透明色粒子やや多量
	692	黒色土器	無台椀	C3·2区-1		×	6.2	×	底2/3	灰白色　径0.5～3mm白·灰·橙·半透明色粒子やや多量
	693	黒色土器	無台椀	B2·2区-2		×	6.6	×	底11/36	灰白色　径0.5～1mm白·灰·金·半透明色粒子少量
	694	黒色土器	無台椀	C3·2区-2		×	7.0	×	底5/36	灰白色　径0.5～1mm白·灰·茶色粒子·骨　少量
	695	黒色土器	有台椀	C3·4区-2		×	6.4	×	底1/4	灰白色　径0.5mm白·灰·茶·黒色粒子やや多量
	696	黒色土器	有台椀	B2·2区-2		×		×		灰白色　径0.5mm白·灰·黒·半透明色粒子少量
	697	黒色土器	有台椀	F2·3区-1		×	6.6	×	底1/6	灰白色　径0.5～1mm白·灰·茶·半透明色粒子·骨　少量
	698	黒色土器	有台椀	B2·2区-2		×	7.0	×	底5/36	灰白色　径0.5～1mm白·灰·茶·半透明色粒子·骨　少量
	699	黒色土器	有台椀	B2-1		×	4.3	×	底完	暗灰色　精　微細白·灰·半透明色粒子　摩滅著しい
	700	黒色土器	皿	H3·3区-1		×		×		灰色　径0.5mm白灰色粒子少量　内面ミガキ
	701	土師器	小甕	A4·1区-5	11.2	×		×	2/9	にぶい黄橙色　精　径1mm以下白·灰·茶色粒子少量
	702	土師器	小甕	F4·1区-2ベルト	10.6	×		×	1/18	にぶい黄橙色　径2mm以下白·灰·半透明·茶色粒子やや多量
	703	土師器	小甕	B4·4区-2	12.1	×		×	1/6	精　径0.5～2mm白·灰·茶·半透明色粒子少量
	704	土師器	小甕	B2·3区-1	13.9	×		×	1/12	灰白色　径1mm以下白·灰·半透明·茶色粒子少量
	705	土師器	小甕	A4·3区-2	13.1	×		×	1/18	にぶい黄橙色　径0.5～2mm白·灰·半透明·茶色粒子やや多量
	706	土師器	小甕	J4·1区-1	13.4	×		×	2/9	にぶい橙色　径0.5～2mm白·灰·半透明·茶色粒子やや多量
	707	土師器	小甕	B2-1	14.2	×		×	5/36	黄橙色　径0.5～2mm白·灰·半透明·茶色粒子やや多量
	708	土師器	小甕	G4·2区-1	14.9	×		×	1/9	にぶい黄橙色　径0.5～2mm白·灰·半透明·茶色粒子やや多量
	709	土師器	小甕	B4·4区-2		×	6.1	×	底5/12	浅黄橙色　径2mm以下白·灰·半透明·茶色粒子やや多量
	710	土師器	小甕	C4·4区-1		×	6.7	×	底完	浅黄橙色　粗　径0.5～1mm白·灰·半透明·茶色粒子多量
	711	土師器	小甕	H2·2区-2		×	7.4	×	底完	淡褐色　径2mm以下白·灰·半透明·茶色粒子やや多量
	712	土師器	小甕	J4·1区-1		×	7.8	×	底13/36	浅黄橙色　やや粗　径0.5～2mm白·灰·茶·黒色粒子多量
76	713	土師器	長胴甕	B2-2	16.4	×		×	1/12	浅黄橙色　微細白·灰·黒·半透明色粒子多量
	714	土師器	長胴甕	C4·3区-1	17.8	×		×	1/9	灰白色　径1mm以下白·灰·黒·金·半透明色粒子やや多量
	715	土師器	長胴甕	A3·4区-1	18.4	×		×	1/12	浅黄橙色　径1～3mm以下白·灰·茶·橙色粒子少量
	716	土師器	長胴甕	E4·3区-1	19.2	×		×	5/36	浅黄橙色　径0.5～3mm白·灰·黒半透明色粒子少量
	717	土師器	長胴甕	B4·3区-3	19.2	×		×	1/12	浅黄橙色　径0.5～1mm白·灰·橙·半透明色粒子少量
	718	土師器	長胴甕	A4·3区-1	19.4	×		×	1/4	浅黄橙色　径1mm以下白·灰·茶色粒子少量
	719	土師器	長胴甕	B2·2区-3	19.6	×		×	1/9	浅黄橙色　径1mm以下白·灰·茶色粒子少量
	720	土師器	長胴甕	D3·3区-2ﾋﾋﾞ	20.4	×		×	1/12	灰黄褐色　径0.5～2mm白·灰色粒子やや多量
	721	土師器	長胴甕	J4·2区-3	20.0	×		×	1/9	灰白色　径0.5～1mm白·灰·茶·黒色粒子やや多量
	722	土師器	長胴甕	D3·2区-2	20.0	×		×	5/36	浅黄橙色　径0.5～1mm白·黒·橙·半透明色粒子やや多量
	723	土師器	長胴甕	G2·3区-1	20.0	×		×	1/9	浅黄橙色　径0.5～1mm以下白·灰·茶·黒色粒子少量
	724	土師器	長胴甕	D3·2区-2	20.2	×		×	1/6	にぶい橙色　径0.5～2mm白·茶·黒·金色粒子やや多量
	725	土師器	長胴甕	F3·3区-1	20.4	×		×	1/6	にぶい橙色　径2mm以下白半透明色粒子やや多量
	726	土師器	長胴甕	F4·4区-1	20.8	×		×	1/9	浅黄橙色　径2mm以下白·灰·橙·半透明色粒子少量
	727	土師器	長胴甕	D3·2区-2	21.3	×		×	1/3	灰白色　径0.5～2mm白·灰·茶色粒子やや多量
	728	土師器	長胴甕	H3·3区-2	21.8	×		×	1/12	浅黄橙色　径1mm以下白·灰·茶·黒·橙·金·半透明色粒子少量
77	729	土師器	長胴甕	H2·2区-1	21.4	×		×	1/9	浅黄橙色　径1mm以下白·灰·半透明粒子少量
	730	土師器	長胴甕	D3·2区-2	22.3	×		×	1/9	灰白色　やや軟　径0.5～1mm白·灰·茶色粒子やや多量
	731	土師器	長胴甕	D3·2区-4	22.3	×		×	5/36	灰白色　径3mm以下白·灰·茶·黒色粒子少量
	732	土師器	長胴甕	G2·3区-1	22.8	×		×	1/18	褐灰色　径1mm以下白·茶·橙·半透明色粒子少量
	733	土師器	長胴甕	A3·2区-1	23.0	×		×	5/36	浅黄橙色　微細白·灰·茶色粒子多量
	734	土師器	長胴甕	B2·3区-1	23.4	×		×	1/4	にぶい黄橙　径0.5～2mm白·灰·半透明·茶色粒子やや多量
	735	土師器	長胴甕	B4·2区-1		×		×	–	淡褐色　径1mm以下白·灰·半透明·茶色粒子少量

78	736	土師器	長胴甕	B4·3区-2		×	×	−	淡褐色　径1㎜以下白·灰·半透明·茶色粒子少量
	737	土師器	長胴甕	D3·4区-3		×	×	−	淡褐色　径2㎜以下白·灰·半透明·茶色粒子やや多量
	738	土師器	長胴甕	H3·2区-2	23.0	×	×	1/18	浅黄橙色　やや軟　径3㎜以下白·灰·茶·黒·半透明色粒子多量
	739	土師器	佐波型甕	G2·3区-8		×	×	−	灰白色　径2㎜以下白·灰·半透明·茶色粒子やや多量
	740	土師器	佐波型甕	B3·1区-1		×	×	−	灰白色　径0.5～2㎜白·灰·半透明·茶色粒子やや多量
	741	土師器	把手	G2·3区-10		×	×	−	灰白色　径2㎜以下白·灰·半透明·茶色粒子やや多量
	742	土師器	把手	B3·1区-1		×	×	−	灰白色　径2㎜以下白·灰·半透明·茶色粒子やや多量
	743	土師器	鍋	B4·3区-1	30.5	×	×	1/18	にぶい橙色　微細白·灰·黒·橙·茶色粒子少量
	744	土師器	鍋	B2·3区-1	32.3	×	×	1/18	浅黄橙色　径1㎜以下白·灰·黒·橙色粒子やや多量
	745	土師器	鍋	A3·1区-1	33.4	×	×	1/18	浅黄橙色　径1㎜白·灰·黒·橙·半透明色粒子少量
	746	土師器	鍋	B2·3区-2	34.0	×	×	1/18	暗褐色　径0.5～2㎜白·黒·橙·金色粒子少量
79	747	土師器	鍋	H3·2区-2	32.8	×	×	1/12	浅黄橙色　径1～3㎜白·灰·茶色粒子少量
	748	土師器	鍋	C3·2区-1	34.9	×	×	1/18	にぶい褐色　径1～2㎜白·茶·橙·金色粒子やや多量
	749	土師器	鍋	D3·2区-4	35.1	×	×	1/18	浅黄橙色　径1㎜白·灰·黒·橙色粒子少量
	750	土師器	鍋	E4·3区-1	35.1	×	×	1/9	にぶい黄橙色　径0.5～2㎜白·灰·黒·橙·金·半透明色粒子少量
	751	土師器	鍋	B2·2区-3	35.3	×	×	1/18	にぶい橙色　径1㎜灰·金·半透明色粒子少量
	752	土師器	鍋	B2·2区-2	35.4	×	×	1/12	浅黄橙色　径1～2㎜白·灰·橙·金色粒子少量
	753	土師器	鍋	B2·2区-2	35.4	×	×	1/18	にぶい黄橙色　径1㎜以下白·灰·黒·金色粒子少量
80	754	土師器	鍋	D3·2区-4	35.4	×	×	1/18	浅黄橙色　径1㎜白·灰·橙色粒子少量
	755	土師器	鍋	B2·3区-1	35.5	×	×	1/18	にぶい橙色　径1～2㎜白·黒·橙·半透明色粒子少量
	756	土師器	鍋	B2·3区-1	36.1	×	×	1/12	灰白色　径1～2㎜白·灰·橙半透明色粒子多量
	757	土師器	鍋	B3·1区-4	36.1	×	×	1/18	灰褐色　径1～2㎜白·灰·黒·金色粒子多量
	758	土師器	鍋	D3·3区-4	36.5	×	×	1/12	灰白色　やや軟　径1～2㎜白·灰·茶色粒子少量
	759	土師器	鍋	D3·2区-4	36.6	×	×	1/6	灰白色　径1～2㎜白·灰·茶色粒子少量
	760	土師器	鍋	C3·2区-1	36.9	×	×	1/18	浅黄橙色　微細白·灰·黒·橙色粒子多量
	761	土師器	鍋	D4·3区-2	37.2	×	×	1/12	淡褐色　径0.5～2㎜白·灰·橙·金·半透明色粒子多量
81	762	土師器	鍋	B5·1区-1	37.0	×	×	1/9	浅黄橙色　径0.5～1㎜白·灰·橙色粒子少量
	763	土師器	鍋	H3·3区-1	37.0	×	×	1/9	にぶい橙色　径1㎜以下白·灰·茶色粒子少量
	764	土師器	鍋	B2·3区-2	37.0	×	×	1/18	浅黄橙色　径1㎜以下白·灰·茶·金色粒子少量
	765	土師器	鍋	D3·3区-4	37.3	×	×	1/9	浅黄橙色　やや軟　径1～2㎜白·灰·橙·半透明色粒子少量
	766	土師器	鍋	B4·3区-2	37.5	×	×	1/18	浅黄橙色　径0.5～1㎜白·灰·黒·橙色粒子少量
	767	土師器	鍋	H2·2区-1	37.9	×	×	1/12	淡褐色　径1～2㎜白·灰·茶·金色粒子多量
82	768	土師器	鍋	B4·3区-2	38.4	×	×	1/18	浅黄橙色　径1㎜白·灰·黒·橙色粒子少量
	769	土師器	鍋	C3·2区-1	38.8	×	×	1/18	浅黄橙色　径1～2㎜白·灰·黒色粒子やや多量
	770	土師器	鍋	B2·2区-1	40.2	×	×	1/9	浅黄橙色　径1㎜以下白·灰·黒·橙色粒子多量
	771	土師器	鍋	B2·2区-1	40.6	×	×	1/18	にぶい橙色　径～3㎜白·灰·橙色粒子やや多量
	772	土師器	鍋	SX112	41.4	×	×	5/36	淡褐色　径0.5～1㎜白·灰·茶色粒子少量
83	773	須恵器	長頸壺	C4·2区-1	8.1	×	×	1/18	灰色　微細白·黒色粒子少量
	774	須恵器	長頸壺	I4-1	8.9	×	×	2/9	オリーブ黒色　径1㎜以下白色粒子少量
	775	須恵器	長頸壺	A4·3区-1	9.5	×	×	2/9	灰色　微細白色粒子微量
	776	須恵器	長頸壺	D4·3区-2	13.2	×	×	1/9	灰色　微細白色粒子微量
	777	須恵器	長頸壺	C3·2区	13.4	×	×	1/9	灰色　微細白色粒子少量
	778	須恵器	長頸壺	2T-1.1S	13.4	×	×	1/9	灰色　径1㎜以下白色粒子少量
	779	須恵器	長頸壺	1トレ-12	13.7	×	×	1/3	灰色　微細白·黒色粒子少量
	780	須恵器	長頸壺	A3·1区-1ほか	13.9	×	×	13/36	灰色　径1㎜以下白色粒子少量
	781	須恵器	長頸壺	SX103	15.2	×	×	1/9	灰色　径1㎜以下白色粒子少量
	782	須恵器	長頸壺	B3-1-1	16.2	×	×	1/12	暗灰色　微細白色粒子少量
	783	須恵器	長頸壺	E4·1区-1上	19.2	×	×	5/36	灰色　微細白色粒子少量
	784	須恵器	長頸壺	D4-4-1	17.6	×	×	1/12	灰色　微細白·茶色粒子少量
	785	須恵器	長頸壺	A4-1-5	19.0	×	×	1/12	灰色　粗　径2㎜以下白色粒子やや多量
	786	須恵器	長頸壺	C4·3区-1	23.4	×	×	1/12	灰色　径1㎜以下白·茶色粒子少量
	787	須恵器	長頸壺	SX111		×	×	−	オリーブ灰色　微細白色粒子少量
	788	須恵器	長頸壺	SX105·106-3		×	×	−	灰色　微細白·茶色粒子少量
	789	須恵器	長頸壺	D2·3区-1		×	×	−	灰色　微細白色粒子少量
	790	須恵器	長頸壺	C4·1区-1		×	×	−	灰色　微細白色粒子少量
84	791	須恵器	短頸壺	4トレ集中区3ほか	8.6	×	×	1/9	オリーブ黒色　微細白·黒色粒子少量
	792	須恵器	短頸壺	F3 p7ほか	8.8	×	×	1/3	オリーブ灰色　径1㎜以下白·灰·黒色粒子少量
	793	須恵器	壺	E3·3区-2ほか		×	×	−	灰色　径1㎜以下白色粒子少量

	794	須恵器	壺	E3·3区-2ほか		×		×		-	オリーブ灰色　径1mm以下白·黒色粒子少量
	795	須恵器	壺	E4·4区-1		×	12.3	×		5/36	灰色　径1mm白·灰色粒子少量
	796	須恵器	壺	4トレ集中区3ほか		×	10.0	×		1/6	灰白色　径1mm以下白·黒色粒子少量
	797	須恵器	壺	A2·2区-1ほか		×	10.5	×		7/18	灰色　径1～2mm白色粒子少量
	798	須恵器	壺	SD2,SK5		×		×		5/36	灰色　径1mm以下白·黒色粒子少量
	799	須恵器	壺	F3·3区-1		×	12.2	×		5/36	灰色　径1mm以下白·黒色粒子少量
	800	須恵器	壺	B3·4区-2ほか		×	10.3	×		5/36	灰色　微細白·黒色粒子やや多量
85	801	須恵器	壺	A3·2区-1		×		×		-	灰色　微細白色粒子やや多量
	802	須恵器	壺	F4·4区-1			推定7.4			-	オリーブ灰色　微細白·黒色粒子微量
	803	須恵器	壺	B4·4区-1			推定6.8			-	灰色　微細白色粒子少量　内面縁か付着 外面磨耗
	804	須恵器	壺	E3·2区-1			推定10.2			-	灰色　径1mm以下白·茶色粒子少量
	805	須恵器	壺	1A地区		×	5.9	×		1/18	灰色　径1mm以下白·灰色粒子少量
	806	須恵器	壺	4T-15ほか		×	9.5	×		1/18	灰色　径1mm以下白·灰色粒子少量
	807	須恵器	壺	B4·2区-1		×	9.6	×		底完	灰色　粗　径3mm以下白·黒·半透明色粒子少量
	808	須恵器	壺	G2·2区-1		×	10.2	×		7/36	青灰色　径1mm以下白·灰色粒子少量
	809	須恵器	壺	A3·2区-1		×	10.4	×		11/36	黄灰色　径1mm以下白·灰色粒子少量
	810	須恵器	壺	A4·3-1		×	10.8	×		5/36	灰白色　径1mm以下白·灰·黒色粒子少量
	811	須恵器	壺	B3·4区-1		×	11.0	×		1/3	灰色　径1mm以下白·半透明色粒子少量
	812	須恵器	壺	C3·2区-1		×	11.2	×		13/36	灰色　微細白色粒子少量
	813	須恵器	壺	SX106		×		×			灰色　径1mm以下白色粒子少量
	814	須恵器	壺	排土		×	14.4	×		1/6	灰色　径1mm以下白·黒色粒子少量
86	815	須恵器	横瓶	B3·2区-1	13.2	×		×		5/18	褐灰色　粗　径3mm以下白·灰·半透明色粒子 やや多量
	816	須恵器	横瓶	D3·4区-1	14.6	×		×		1/9	灰白色　径1mm以下白色粒子少量
	817	須恵器	横瓶	D3·2区-5	23.7	×		×		1/12	灰褐色　微細な白色粒子やや多量
	818	須恵器	横瓶	2T-8	頸径8.6　胴部径約62.5					-	灰色　径1mm以下白色粒子少量
	819	須恵器	横瓶	E4·2区1の上	台付部分径12.0					-	灰色　粗　径3mm以下白·灰·半透明色粒子 やや多量
	820	須恵器	横瓶	D3·1区-1		×		×		-	灰色　径1mm以下白·灰色粒子少量
	821	須恵器	横瓶	SX101		×		×		-	灰色　径2mm以下白·灰色粒子少量
	822	須恵器	甕	A3·4区-2	25.8	×		×		3/36	灰色　径1mm以下白·灰色粒子少量
	823	須恵器	甕	E2·2区-1ほか	16.6	×		×		1/12	灰白色　径1mm以下白·灰色粒子少量
87	824	須恵器	甕	E3·4区-1ほか	20.2	×		×		1/6	灰オリーブ色　微細白·橙·灰色粒子少量
	825	須恵器	甕	D3·1区-1	21.8	×		×		1/36	灰白色　径1mm以下白·灰色粒子少量
	826	須恵器	甕	F2·2区-1	23.2	×		×		1/6	灰オリーブ色　径1mm以下白·橙·灰色粒子少量
	827	須恵器	甕	F4·2区-1ほか	26.0	×		×		1/9	灰色　径1mm以下白·灰·茶色粒子少量
	828	須恵器	甕	C3·2区-1ほか	31.2	×		×		5/36	暗灰色　径1mm以下白·半透明色粒子少量
88	829	須恵器	甕	C4·1区-2ほか	39.5	×		×		1/9	暗灰色　径2mm以下白·半透明色粒子少量
	830	須恵器	甕	G5·1区-1ほか	47.4	×		×		1/12	灰白色　粗　径3mm以下白·半透明色粒子少量
	831	須恵器	無台杯	J4·2区-2	11.6	×	7.4	×	3.7	1/18	青灰色　径1～3mm白·半透明色粒子やや多量 墨書25
	832	須恵器	無台杯	F5·4区-1	11.8	×	7.6	×	2.9	5/36	灰色　径1mm以下白·灰色粒子少量　墨書19
	833	須恵器	無台杯	A3·1区-1	11.9	×		×		1/18	灰色　微細な白·灰·黒色粒子少量　墨書3
	834	須恵器	無台杯	H2·3区	12.0	×	7.8	×	3.4	7/36	灰色　微細な白·灰·黒色粒子少量　墨書23
	835	須恵器	無台杯	G3·2区-3	12.2	×	7.6	×	3.3	2/9	灰色　径1mm以下白·灰色粒子少量　墨書22
	836	須恵器	無台杯	B4·4区-2	12.4	×	7.0	×	3.2	1/4	青灰色　径1～3mm白·半透明色粒子やや多量 墨書8
	837	須恵器	無台杯	B4·3区-3	12.4	×		×		1/6	灰色　やや軟　微細な白·灰·黒色粒子少量 墨書11
	433	須恵器	無台杯	4T17S4	12.3	×	8.0	×	3.25	1/4	青灰色　径1mm以下白·灰色粒子少量　墨書103 再掲
	427	須恵器	無台杯	4T10S3	12.4	×	8.3	×	3.3	1/12	青灰色　微細な白·灰·黒色粒子少量　墨書102 再掲
	838	須恵器	無台杯	A3·1区-1	12.7	×	7.0	×	3.2	1/4	灰白色　微細1mm以下白·灰·茶粒子少量 墨書2
89	839	須恵器	無台杯	F3·3区-3	13.1	×	7.4	×	4.0	1/36	灰白色　径1～3mm白·半透明色粒子やや多量 墨書17
	840	須恵器	無台杯	E4·3区-1	13.1	×	8.2	×	2.8	1/6	灰色　径1mm以下白·灰色粒子少量　墨書16
	841	須恵器	無台杯	A3·1区-1		×	6.4	×		底2/3	青灰色　径1～3mm白·半透明粒子やや多量 墨書4
	842	須恵器	無台杯	E4·3区-1		×	7.3	×		底1/4	灰色　やや軟　微細な白·灰·黒色粒子少量 墨書14
	843	須恵器	無台杯	2C地区		×	6.6	×		底1/6	灰色　やや軟　微細な白·灰·黒色粒子少量 墨書28
	844	須恵器	無台杯	A4·3区-4		×	7.4	×		底1/9	灰色　微細な白·灰·黒色粒子少量　墨書7
	845	須恵器	無台杯	2C地区		×		×		-	灰色　微細な白·灰·黒色粒子少量　墨書26
	846	須恵器	無台杯	2C地区		×		×		-	灰色　微細な白·灰·黒色粒子少量　墨書27
	847	須恵器	有台杯	F4·1区-1	15.4	×	9.6	×	6.6	19/36	灰白色　径1mm以下白·灰色粒子少量　墨書18
	848	土師器	無台椀	道路脇竹やぶ	11.6	×	5.8	×	3.5	1/12	灰白色　粗　径3mm以下白·橙·半透明色粒子 やや多量　墨書110

	849	土師器	無台椀	B4·4区-2	12.5	× 5.5	× 4.4	7/36	灰白色　径2mm以下白·灰·半透明·茶色粒子やや多量　墨書10
	850	土師器	無台椀	G2·2区-2		× 5.6	×	底4/9	灰白色　径0.5～2mm白·灰·半透明·茶色粒子やや多量　墨書20
	851	土師器	無台椀	A3·2区-1		× 5.9	×	底完	灰白色　径0.5～2mm白·灰·半透明·茶色粒子やや多量　墨書6
	852	土師器	無台椀	D3·2区-2		× 5.6	×	底1/4	灰白色　径1mm以下白·灰·半透明·茶色粒子少量　墨書13
	853	土師器	無台椀	H3·3区-1		× 6.0	×	底7/36	灰白色　径1mm以下白·灰·半透明·茶色粒子少量　墨書24
	854	土師器	無台椀	G2·4区-1		× 6.0	×	底2/9	灰白色　径1mm以下白·灰·半透明·茶色粒子少量　墨書21
	855	土師器	無台椀	A3東壁		× 6.5	×	底13/36	浅黄橙色　径2mm以下白·灰·半透明·茶色粒子やや多量　底外ロクロケズリ　墨書5
	856	土師器	無台椀	A3·1区-1		× 6.2	×	底1/3	浅黄橙色　径0.5～2mm白·灰·半透明·茶色粒子やや多量　墨書1

第15表　平安時代墨書土器一覧

整理No	図版·図示No		釈	釈備考	出土位置	種別	器種	小法（cm）					部位
								口径		底径		器高	
1	89	856	□」	二か七	A3·1区-1	土師器	無台椀		×	6.2	×		底外
2	88	838	「七」		A3·1区-1	須恵器	無台杯	12.7	×	7.0	×	3.2	底外
3	88	833	□	不明	A3·1区-1	須恵器	無台杯	11.9	×		×		底外
4	89	844	「ナ」	「七」の鏡文字か	A3·1区-1②	須恵器	無台杯		×	6.4	×		底外
5	89	855	七」		A3東壁	土師器	無台椀		×	6.5	×		底外
			□	不明									体外
6	89	851	「七」		A3·2区-1	土師器	無台椀		×	5.9	×		底外
7	89	844	□	符号	A4·3区-4	須恵器	無台杯		×	7.4	×		底外
8	88	836	「□	十か七	B4·3区-3	須恵器	無台杯	12.4	×		×		体外
9			□	不明	B4·3区-3	須恵器	無台杯			×		×	底外
10	89	849	「七」		B4·4区-2	土師器	無台椀	12.5	×	5.5	×	4.4	底外
11	88	837	「一」		B4·4区-2	須恵器	無台杯	12.4	×	7.0	×	3.2	底外
欠番12													
13	89	852	七」		D3·2区-2	土師器	無台椀		×	5.6	×	底外	
14	89	842	中」		E4·3区-1	須恵器	無台杯		×	7.3	×	底外	
欠番15													
16	89	840	□〔奉ヵ〕	圓天文字か	E4·3区-1	須恵器	無台杯	13.1	×	8.2	×	2.8	体外
17	89	839	「□」	符号	F3·3区-3ほか	須恵器	無台杯	13.1	×	7.4	×	4.0	体外
			「□」	文字					×		×		底外
18	89	847	「ナ」	「七」の鏡文字か	F4·1区-1	須恵器	有台杯	15.4	×	6.6	×	9.6	底外
19	88	832	「西家」		F5·4区-1	須恵器	無台杯	11.8	×	2.9	×	7.6	底外
20	89	850	二」		G2·2区-2	土師器	無台椀		×	5.6	×		底外
21	89	854	□	不明	G2·4区-1	土師器	無台椀		×	6.0	×		底外
22	88	835	ナ	「七」の鏡文字か	G3·2区-3	須恵器	無台杯	12.2	×	7.6	×	3.3	底外
23	88	834	「□〔臣ヵ〕」		H2·3区	須恵器	無台杯	12	×	3.4	×	7.8	底外
24	89	853	ナ	「七」の鏡文字か	H3·3区-1	土師器	無台椀		×	6.0	×		底外
25	88	831	□		J4·2区-2	須恵器	無台杯	11.6	×	7.4	×	3.7	底外
26	89	845	∴		2C地区	須恵器	無台杯		×		×		底外
27	89	846	一		2C地区	須恵器	無台杯		×		×		底外
28	89	843	二		2C地区	須恵器	無台杯		×	6.6	×		底外
29	71	561	「□	十か七	1T-3	須恵器	無台杯		×	7.1	×		底外
30	66	421	□	不明	2T-集	土師器	無台椀		×		×		体外
31	66	420	□	則天文字か	2T-3·2S	土師器	無台椀		×		×		体外
32	47	1	「井」		SB2 p11埋め土	須恵器	無台杯		×	7.5	×		底外
33	49	65	「七」		SB11A p5	土師器	無台椀	12.3	×	5.0	×	4.0	底外
34	69	500	□	文字か	A4 p15	須恵器	無台杯		×		×		底外
35	63	351	「ナ」		SK1 5·8層	土師器	無台椀	13	×	4.9	×	3.8	体外
36	63	354	「×」		SK1 1層、6層	土師器	無台椀	13.8	×	5.3	×	3.7	体外
37	63	371	□	不明	SK1 1層	土師器	無台椀		×		×		底外
38	59	288	「二」		SE4 3層下	須恵器	無台杯	12.3	×	7.9	×	3.0	底外
39	59	289	□	不明	SE4 1層-5	須恵器	無台杯		×	7.9	×		底外
40	60	315	「□田ヵ」		SE7 上部（1·2層）	須恵器	無台杯	12.7	×	8.0	×	3.4	底外
41	61	318	「□」	符号か	SE7 上部（1·2層）№2	須恵器	折縁杯	13.9	×	7.5	×	5.0	底外
42	61	319	□〔奉ヵ〕		SE7 上部（1·2層）	須恵器	有台杯	15.0	×	10.5	×	6.2	底外
43	61	329	「ナ」	「七」の鏡文字か	SE9	須恵器	無台杯	12.1	×	6.4	×	3.1	底外
44	61	330	「□	不明	SE9	須恵器	無台杯	12.3	×		×		体外
45	48	34	「一」	符号か	4T集中区（SD2）	土師器	無台椀	17.0	×	7.5	×	4.8	底外
46	47	22	「□	文字か	4T6S2（SD2）	須恵器	無台杯		×		×		体外
47	47	23	「□」	墨痕か	SD2ベルトほか	須恵器	杯蓋		×		×		天外
48	49	72	ナ」	「七」の鏡文字か	SD3A	須恵器	無台杯		×	7.0	×		底外
49	49	69	「ナ」	「七」の鏡文字か	SD3B	須恵器	無台杯	12.5	×	7.4	×	3.5	底外
50	49	73	「□」	符号か	SD3B	須恵器	無台杯		×		×		体外

51	50	79	□〔七ヵ〕	不明	SD3B	土師器	無台椀		×		×		底外
52	51	106	「十」		SD4BC7-3ほか	須恵器	無台杯	12.7	×	6.9	×	2.45	底外
53	51	102	「□	十か七	SD4BCNo.10, 12ほか	須恵器	無台杯	13	×	8.2	×	2.7	底外
54	51	105	「十」		SD4BCNo.2	須恵器	無台杯	12.6	×	6.8	×	2.9	底外
55	51	104	□	十か七	SD4BC-7-1ほか	須恵器	無台杯	12.6	×	6.2	×	2.6	底外
56	51	117	□〔七ヵ〕		SD4BC-7-1	須恵器	無台杯	13.4	×	8.0	×	2.9	底外
57	52	126	七		SD4BC-5-1	須恵器	無台杯		×	7.9	×		底外
58	51	120	□		SD4BC	須恵器	無台杯		×	6.7	×		底外
欠番59									×		×		
60	53	162	〈〈	符号	SD4BC7-3-3	土師器	無台椀	13.4	×	4.5	×	3.8	底外
61	52	155	「七」		SD4BC7-3-3ほか	土師器	無台椀	12.8	×	5.9	×	3.9	底外
62	52	147	「七」		SD4BC	土師器	無台椀	12.0	×	5.9	×	4.2	底外
63	53	164	才	「七」の線文字か	SD4BC-5-2	土師器	無台椀		×	5.0	×		底外
64	53	168	「十」		SD4BCNo.6ほか	土師器	無台椀	15.7	×	5.3	×	4.6	体外
65	52	123	□	十か七	SD4BC	須恵器	無台杯		×		×		体外
66	52	134	□	十か七	SD4BC-1	須恵器	無台杯		×		×		底外
67	52	130	□	十か七	SD4BC-5-1	須恵器	無台杯		×		×		底外
68	52	127	□	不明	SD4BC-7-1	須恵器	無台杯		×	5.2	×		底外
69	53	171	「七」		SD4BCほか	土師器	無台椀	19.5	×	7.7	×	8.2	底外
70	52	129	□	不明	A4-3区-2 (SD4)	須恵器	無台杯		×	6.0	×		底外
71	52	133	□	不明	A4-3区-2 (SD4)	須恵器	無台杯		×		×		底外
72	52	132	□〔七ヵ〕		A4-3区-2 (SD4)	須恵器	無台杯		×		×		底外
73	52	128	□	不明	A4-3区-2 (SD4)	須恵器	無台杯		×	5.7	×		底外
74	52	125	□	不明	SD4C	須恵器	無台杯		×		×		底外
75	52	124	□	十か七	SD4C	須恵器	無台杯		×	6.2	×		底外
76	52	138	「□」	符号か	SD4BC	須恵器	杯蓋	14.0	×		×	2.1	天外
77	57	241	「七」		SD5No.1	須恵器	無台杯	12.2	×	7.0	×	2.85	底外
78	57	238	□	十か七	SD5No.27	須恵器	無台杯	11.9	×	7.7	×	2.6	底外
79	57	239	「七」		SD5No.24ほか	須恵器	無台杯	11.9	×	7.2	×	2.9	底外
80	57	242	「七」		SD5No.14	須恵器	無台杯	12.3	×	3.0	×	7.4	底外
81	58	266	「七」		SD5No.40ほか	土師器	無台椀	13.6	×	4.2	×	3.4	底外
82	58	262	□	不明	SD5No.28ほか	土師器	無台椀	12.8	×	5.5	×	3.55	底外
83	58	272	「七」		SD5-1	土師器	無台椀		×	5.4	×		底外
84	58	260	□	不明	SD5-1	土師器	無台椀	12.4	×	5.6	×	3.65	底外
85	58	254	「七ヵ」		SD5-2	土師器	無台椀	10.7	×	6.0	×	4.5	底外
86	58	271	「十」		SD5-1	土師器	無台椀		×	4.5	×		底外
87	71	559	「〈」	符号	H2-2区-2	須恵器	無台杯		×		×		底外
88	68	476	□	不明	SX6-4	須恵器	無台杯		×		×		底外
89	68	477	□	二文字以上か	SX6-1	土師器	無台椀		×		×		体外
90	70	547	「□」	不明	D3-4区-3	須恵器	無台杯	12.5	×	7.6	×	2.8	底外
91	73	638	「田」		B2-2区壁 (掘土中)	土師器	無台椀	12.7	×	5.2	×	3.8	体外
92	51	101	「七」		SD4BC	須恵器	無台杯	12.35	×	7.2	×	3.0	底外
93	51	110	「□〔新ヵ〕□		SD4C	須恵器	無台杯	12.8	×	7.9	×	3.3	底外
94	52	131	□	不明	SD4BC7-3-3	須恵器	無台杯		×		×		底外
95	53	172	□	不明	SD4BC-5-3	土師器	無台椀		×		×		体外
96	53	173	□	不明	SD4A	土師器	無台椀		×	5.0	×		底外
97	53	177	□	不明	SD4BC-5-2	土師器	無台椀		×		×		底外
98	53	175	□	十か七	SD4BC-5-1	土師器	無台椀		×	6.35	×		底外
99	58	259	「七」		SD5No.41	土師器	無台椀	12.2	×	5.8	×	4.35	底外
100	58	261	「七」		SD5No.3ほか	土師器	無台椀	12.6	×	5.1	×	3.9	底外
101	89	848	□	不明	1T-S	須恵器	無台杯		×		×		底外
102	88	427	□〔一ヵ〕	符号か	4T-10-S3	須恵器	無台杯	12.4	×	8.3	×	3.3	底外
103	88	433	「一」	符号か	4T-17-S4ほか	須恵器	無台杯	12.3	×	8.0	×	3.25	底外
104			「万」	符号か	D3-2区-4	須恵器	無台杯	12.3	×	8.3	×	3.15	底外
105			□〔一ヵ〕		F2-3区-2	須恵器	無台杯	12.6	×	8.0	×	2.5	底外
106	67	442	□	不明	SX2-8	須恵器	無台杯	12.9	×	8.4	×	3.1	底外
107	47	21	□〔…ヵ〕		SD2ほか	須恵器	無台杯	12.9	×	6.3	×	3.3	底外
欠番108									×		×		
109			「□〔九ヵ〕」		A4 p17	土師器	無台椀		×		×		底外
110	89	850	□	不明	道路脇竹やぶ	土師器	無台椀	11.6	×	5.8	×		底外
111			□	不明	A3-4区-2	須恵器	無台杯		×		×		体外

第16表　中世出土遺物一覧

図版番号	図示番号	種別	器種	出土位置	部位・寸法	備考
20	1	珠洲焼	壺	SX111	肩部破片	灰黄褐色　径1～2mm白・黒色粒子少量　外面平行タタキ目、内面無文　外面乳白色の自然釉
	2	珠洲焼	壺	表採	底部破片	灰色　径1～2mm白色粒子少量　外面平行タタキ目後横方向のなで、内面指押さえ痕あり
	3	珠洲焼	片口鉢	F3・4区-3	口縁部破片	黒褐色　径1～2mm白・黒色粒子少量
	4	珠洲焼	上器片円盤	B4・2区-1	残存長2.1　幅2.4　厚1.2	外面青灰色、内面褐色　径1mm白色粒子含　外面平行タタキ目、内面無文

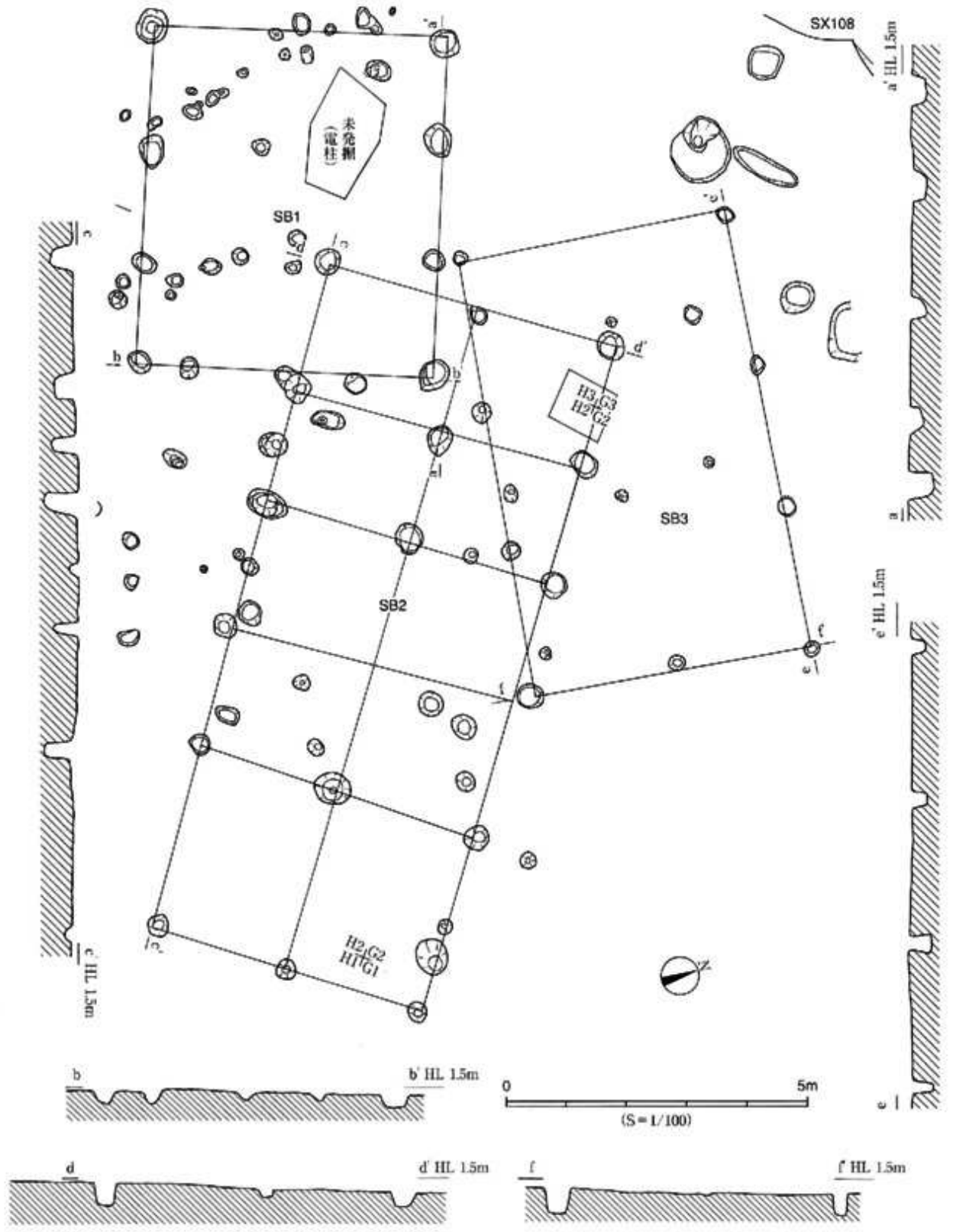
第17表　近世図示遺物一覧

図版番号	図示番号	種別	器種	出土位置	寸法 口径 底径 高さ	残存度	施釉 胎土	産地	備考
90	1	陶器	碗	SK105	× 3.2 ×	底26/36	外面鉄釉、内面白色釉 灰褐色	不明	外面文様あり
	2	磁器	碗	SK105	× 4.1 ×	底完/36	透明釉 灰白色	肥前	外面染付　外面文様あり
	3	磁器	碗	No13ピット一括(SK105)	11.4 × 5.8 × 6.6	11/36	やや青味がかった透明釉 青白色　微細な黒色粒子少量	肥前	内外面染付　広東碗
	4	磁器	皿	SK105	× 9.0 ×	底6/36	やや青味がかった透明釉 青白色　微細な黒色粒子少量	肥前	蛇の目凹形高台　内外面染付
	5	土器	火鉢	No13ピット一括(SK105)	20.4 × ×	1/4	無釉 暗灰褐色	不明	瓦質　内面炭化物付着
	6	陶器	擂鉢	SK105	23.4 × ×	1/9	茶褐色 明灰褐色　径1～2mm白色粒子多量	不明	内面12条のおろし目密に入る
	7	陶器	擂鉢	SK105	25.8 × ×	1/6	茶褐色 明灰褐色　径1～2mm白色粒子多量	不明	内面10条のおろし目密に入る
	8	陶器	擂鉢	SK105	33.3 × ×	1/9	茶褐色 明灰褐色　径1～2mm白色粒子多量	不明	内面10条のおろし目密に入る
	9	土器	焙烙	SK105	24.0 × ×	7/18	無釉 明赤褐色　微細な白・橙色粒子少量	在地	外面炭化物付着
	10	土器	焙烙	SK105	24.0 × ×	2/9	無釉 明赤褐色　微細な白・橙色粒子少量	在地	内面炭化物付着
	11	陶器	皿	ST-2	12.4 × 4.0 × 3.6	13/36	灰緑色釉 淡灰褐色	肥前	見込み胎土目痕
	12	磁器	碗	G3・1区-2	× 5.1 ×	底9/36	やや青味がかった透明釉 灰白色　微細な黒色粒子少量	肥前	内外面染付
	13	磁器	皿	H3・3区-3	12.6 × 7.2 × 3.2	11/36	やや青味がかった透明釉 灰白色　微細な黒色粒子少量	肥前	内外面染付　見込蛇の目輪剥ぎ
	14	磁器	皿	1T-9	13.4 × 7.2 × 4.0		やや青味がかった透明釉 灰白色　微細な黒色粒子少量	肥前	内外面染付
	15	磁器	皿	SX111	18.8 × ×	1/12	やや青味がかった透明釉 青白色　微細な黒色粒子少量	肥前	外面染付
	16	陶器	鉢	A4・4区-1	24.6 × ×		淡褐色 黒褐色釉	肥前	刷毛目文
	17	磁器	瓶	A4・1区-2	頸部破片		薄灰白色 淡褐色	肥前	外面染付
	18	磁器	瓶	SX109-1	× 4.4 ×	底完	やや青味がかった透明釉 灰白色　微細な黒色粒子少量	肥前	
	19	陶器	瓶	C4・1区-1	× 9.6 ×	底7/36	鉄釉　外面白濁 褐色　微細な白色粒子ごく少量	肥前	
写真29	20	磁器	碗	A3・4区-1	× 5.1 ×	底9/36	やや青味がかった透明釉 灰白色　微細な黒色粒子少量	肥前	内外面染付
写真30	21	磁器	碗	2C地区G2排土	× 4.6 ×	底18/36	やや青味がかった透明釉 灰白色　微細な黒色粒子少量	肥前	内面染付
写真31	22	磁器	碗	SX111	× 3.5 ×	底30/36	淡青色 明灰白色　微細な黒色粒子少量	肥前	内外面染付
写真31	23	磁器	碗	D2・3区-1			白濁 明灰白色　微細な黒色粒子少量	肥前	内外面染付
写真31	24	磁器	碗	4T-15-2ほか	× 3.1 ×	底25/36	やや青味がかった透明釉 灰白色　微細な黒色粒子少量	肥前	内外面染付
写真31	25	磁器	壺	SX101	× 9.6 ×	底1/36	やや青味がかった透明釉 明灰白色　微細な黒色粒子少量	肥前	外面染付
写真31	26	陶器	擂鉢	表採	× 9.0 ×	底12/36	無釉 淡褐色	須佐唐津	内面14条のおろし目密に入る

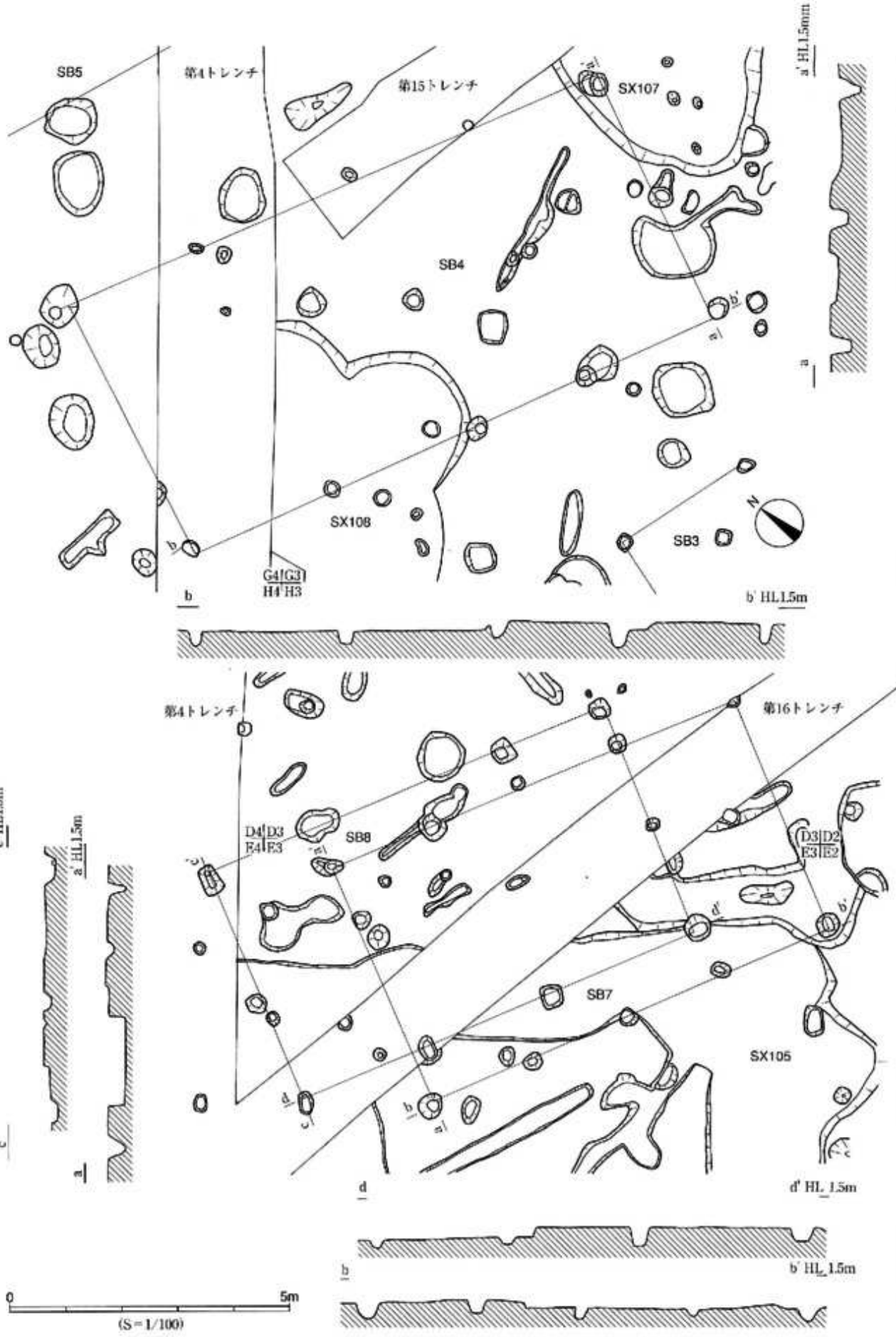
＊20～26は写真のみ記載

第18表　土製品・石製品一覧

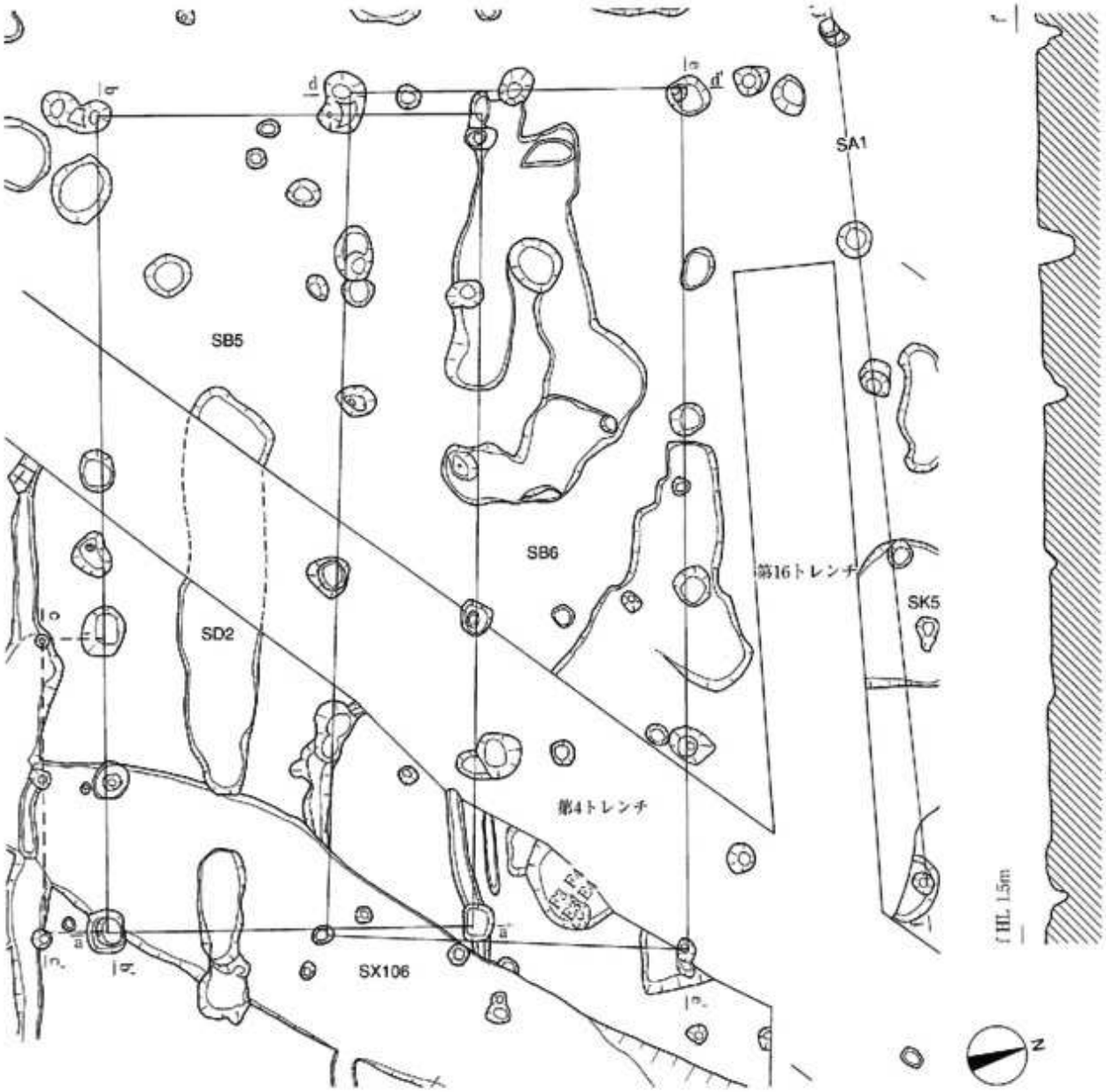
図版番号	図示番号	種別	器種	出土位置	寸法（mm）			重量（g）	備考
					長さ	巾	厚さ		
91	1	土製品	土錘	I3 p4	55.6	13.5	3.5	8.3	両端欠損
	2	土製品	土錘	I3 p4	55.1	13.6	3.5	9.1	両端欠損
	3	土製品	土錘	I3 p4	54.5	11.2	3.3	5.8	両端欠損
	4	土製品	土錘	I3 p4	53.7	13.4	2.8	8.2	両端欠損
	5	土製品	土錘	I3 p4	53.0	12.0	3.6	6.7	両端欠損
	6	土製品	土錘	I3 p4	53.0	12.1	4.0	6.8	両端欠損
	7	土製品	土錘	I3 p4	52.1	11.1	3.4	5.3	両端欠損
	8	土製品	土錘	I3 p4	52.1	12.9	3.5	7.4	両端欠損
	9	土製品	土錘	I3 p4	51.7	12.1	4.0	6.8	両端欠損
	10	土製品	土錘	I3 p4	51.1	12.4	3.6	7.3	両端欠損
	11	土製品	土錘	I3 p4	48.3	13.8	3.5	7.9	両端欠損
	12	土製品	土錘	I3 p4	47.4	12.6	3.4	6.7	一端欠損
	13	土製品	土錘	I3 p4	44.2	12.8	3.4	6.8	両端欠損
	14	土製品	土錘	I3 p4	42.9	14.3	3.4	8.1	両端欠損
	15	土製品	土錘	I3 p4	42.6	13.9	3.4	7.2	両端欠損
	16	土製品	土錘	I3 p4	40.2	13.4	3.8	6.5	両端欠損
	17	土製品	土錘	I3 p4	38.8	10.6	3.4	3.8	両端欠損
	18	土製品	土錘	I3 p4	38.2	10.2	3.2	3.7	両端欠損
	19	土製品	土錘	I3 p4	33.8	12.9	3.4	3.7	両端欠損
	20	土製品	羽口	H3·3区-2	68.0	64.0	20.0	8.2	
	21	土製品	羽口	H3·3区-3	45.0	61.0	18.0	52.7	
	22	土製品	羽口	SX105、106-3	40.0	28.0	15.0	34.9	
	23	土製品	羽口	SX105、106-3	43.0	36.0	6.0	12.3	
	24	石製品	砥石	B4·1区-1	51.0	41.0	9.0	59.9	
	25	石製品	砥石	SX101	80.0	37.0	49.0	204.2	
	26	石製品	砥石	B3·4区-2	55.0	55.0	17.0	127.6	
	27	石製品	砥石	B3·2区-1	47.0	21.0	15.0	20.5	
	28	石製品	砥石	B2·3区-1	51.0	33.0	17.0	127.9	
	29	石製品	砥石	G3·4区-1	48.0	20.0	18.0	22.3	
	30	石製品	砥石	E3·2区-2	49.0	30.0	13.0	24.8	
	31	石製品	砥石	H5·1区-1	26.0	39.0	8.0	13.6	
	32	石製品	砥石	B4·3区-2	35.0	24.0	5.0	6.1	
	33	石製品	凹石か	B5·3区-1	125.0	78.0	33.0	433.9	
	34	石製品	不明	道路脇竹やぶ	87.0	38.0	19.0	61.9	軽石
	35	石製品	紡錘車	C4·1区-1	直径72.0	孔径0.9	17.0	28.1	軽石

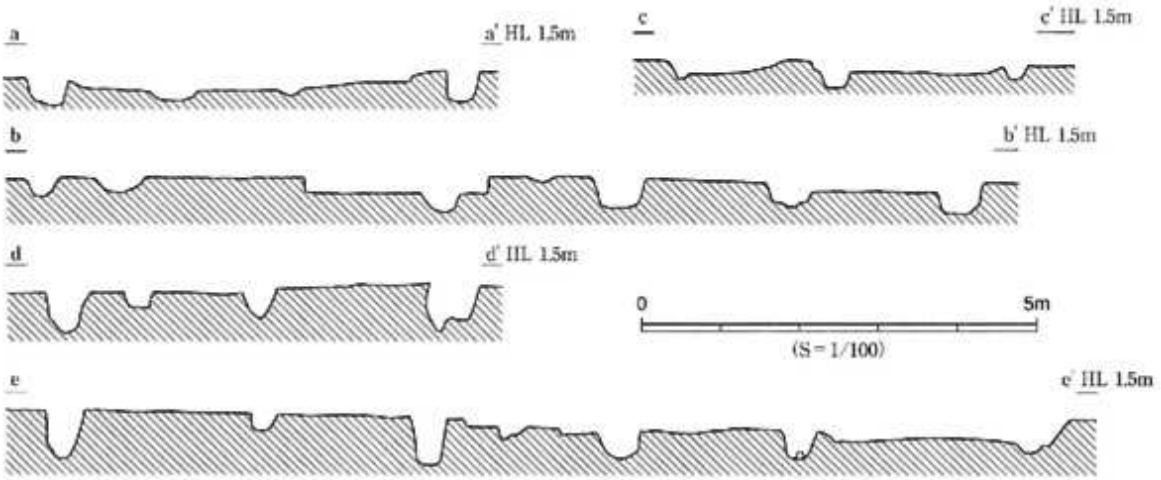


第34図　平安時代の遺構1（SB1～3）

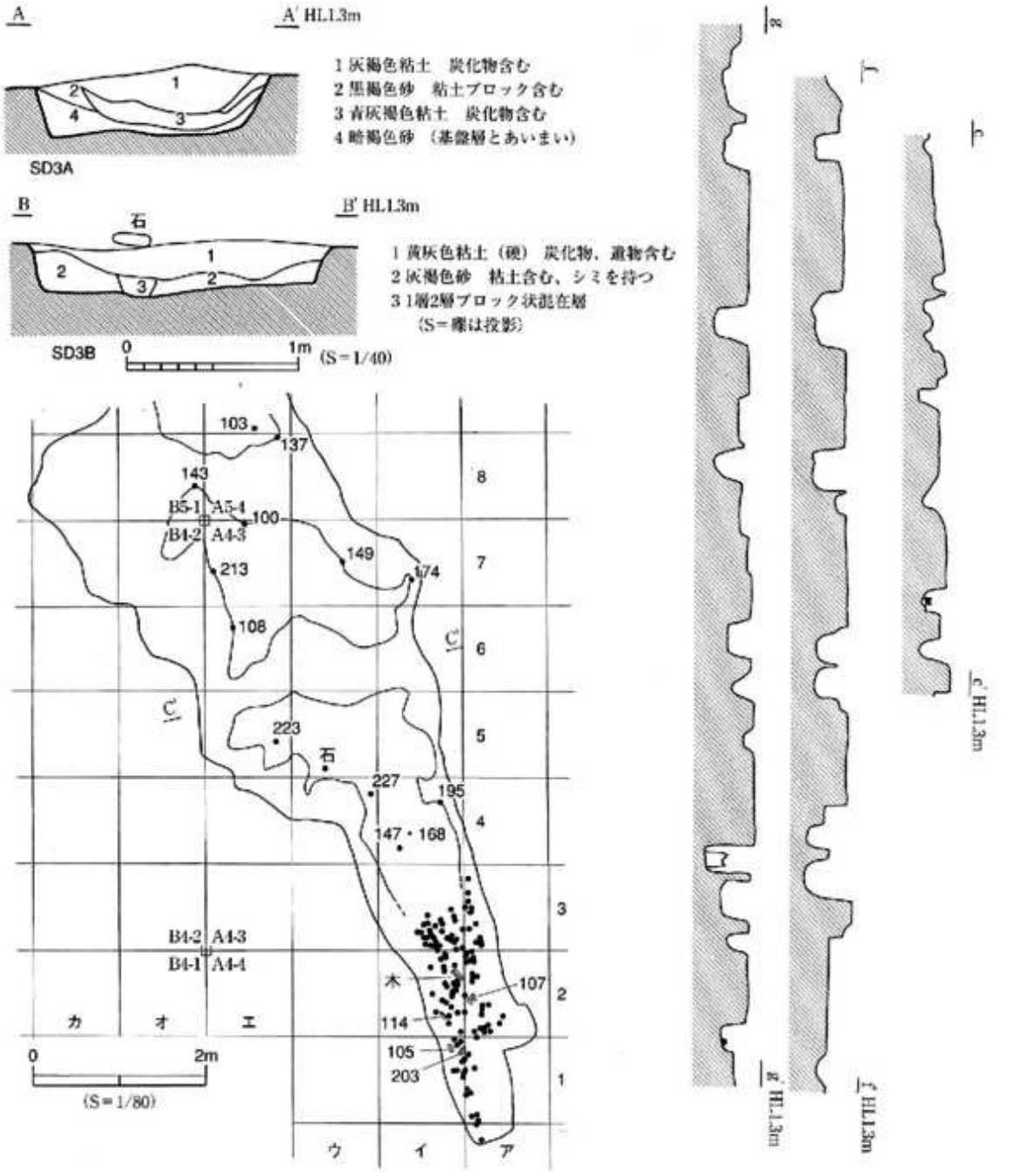


第35図　平安時代の遺構2（SB4・7・8）

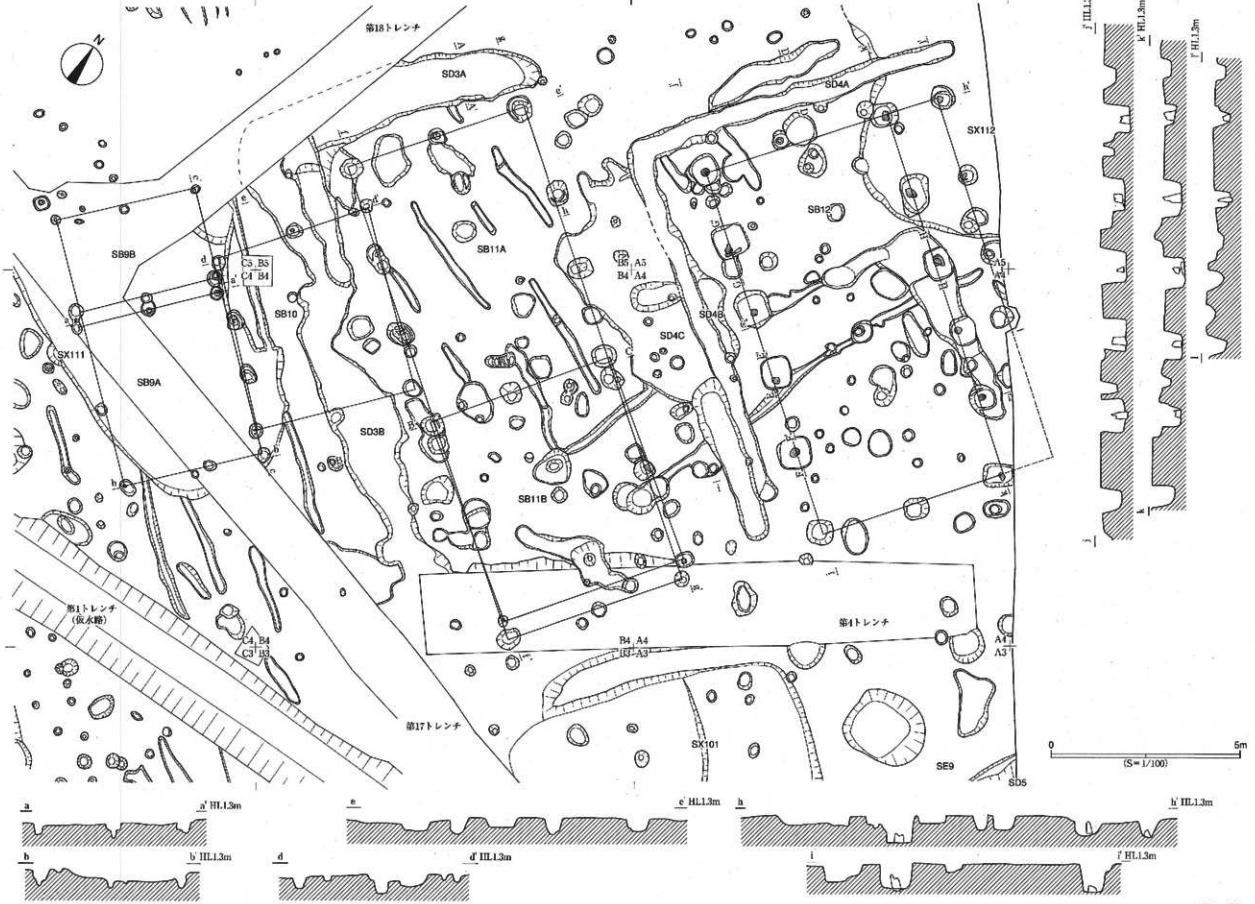




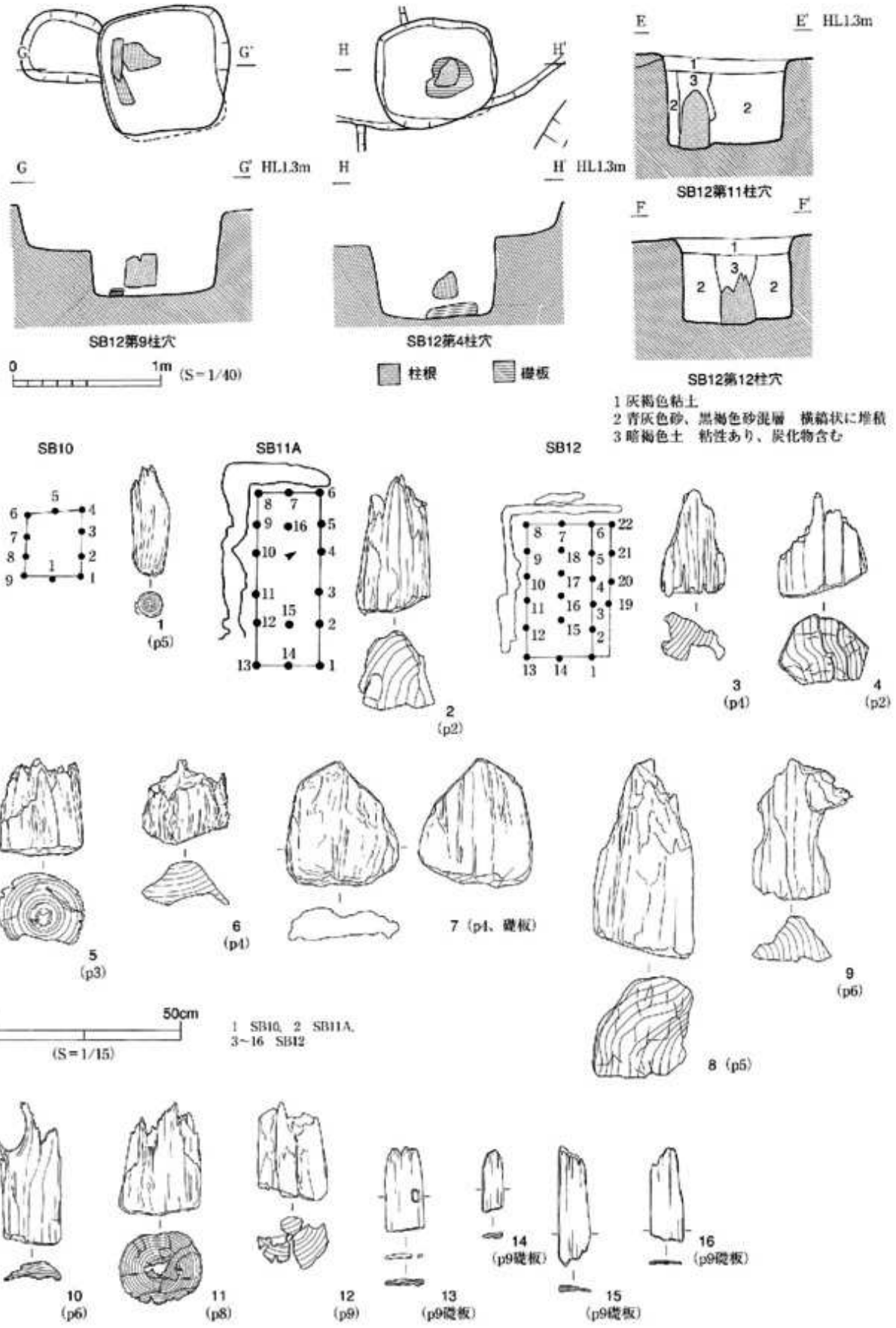
第36図　平安時代の遺構3（SB5・6、SD2、SA1）



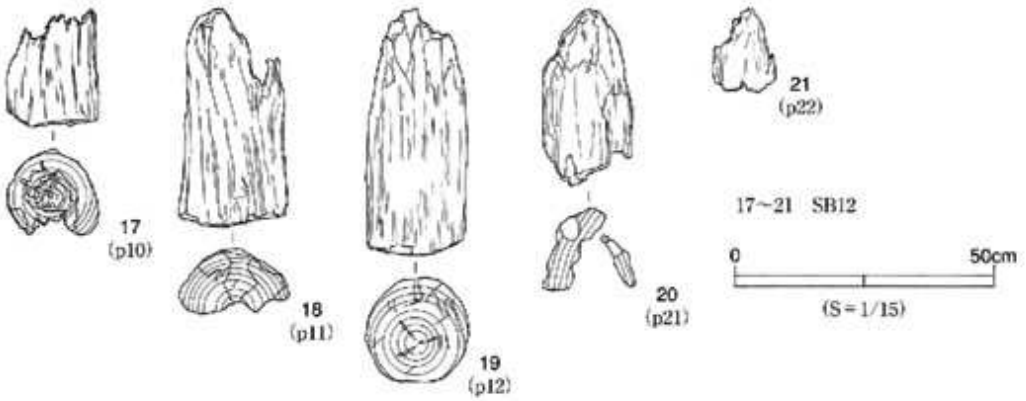
第37図　平安時代の遺構4 (SB9A～12、SD3・4)

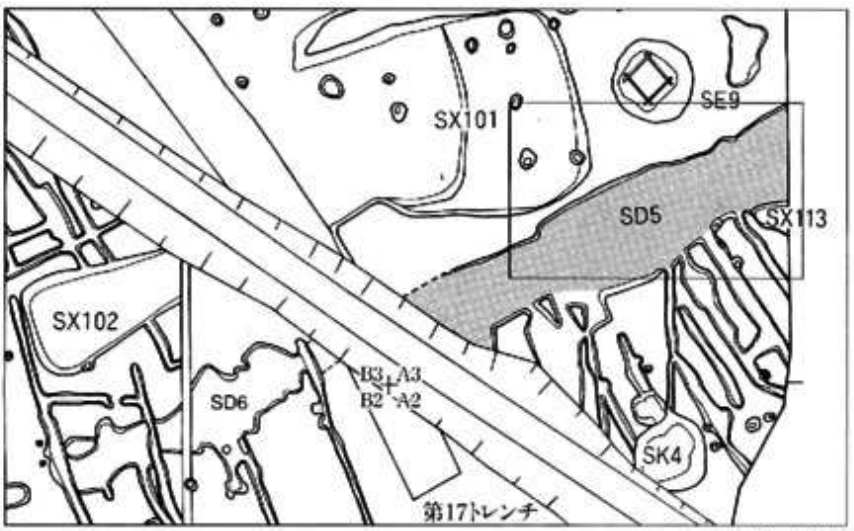

第18トレンチ
SD3A
SD4A
SX112
SB12
SB11A
SB9B
SB10
SD4B
SD4C
SX111
SB9A
SD3B
SB11B
第1トレンチ
(仮水路)
第4トレンチ
第17トレンチ
SX101
SE9
SD5
0
5m
(S=1/100)

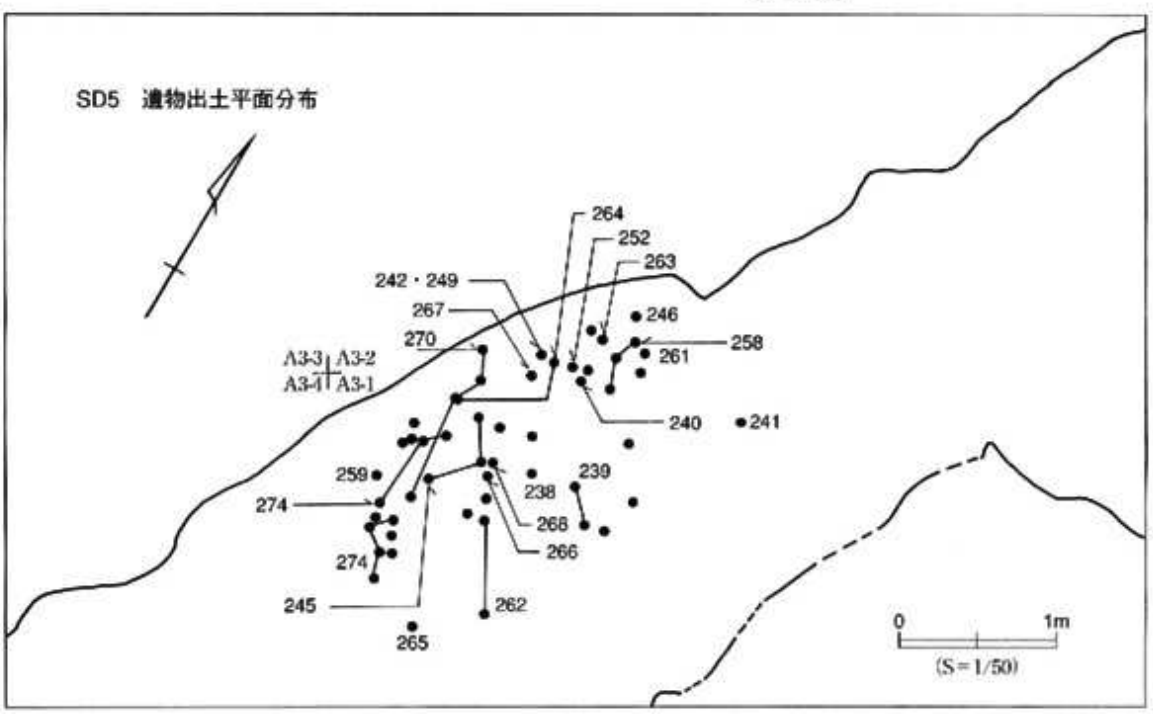
87－88



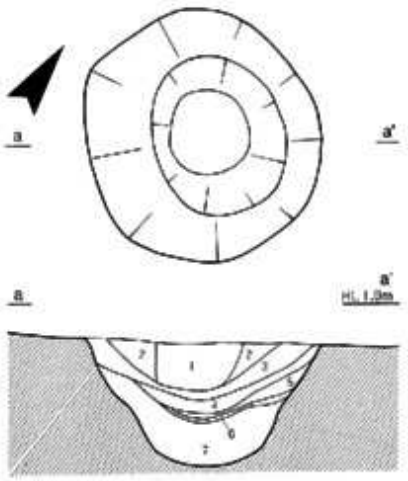
第38図　平安時代の遺構5（SB12柱穴、SB10・11A・12出土柱根・礎板）



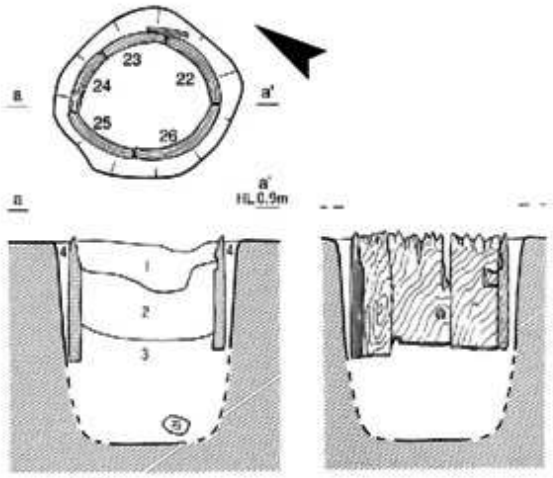




第39図　平安時代の遺構6（SB12出土柱根、SD5・6）

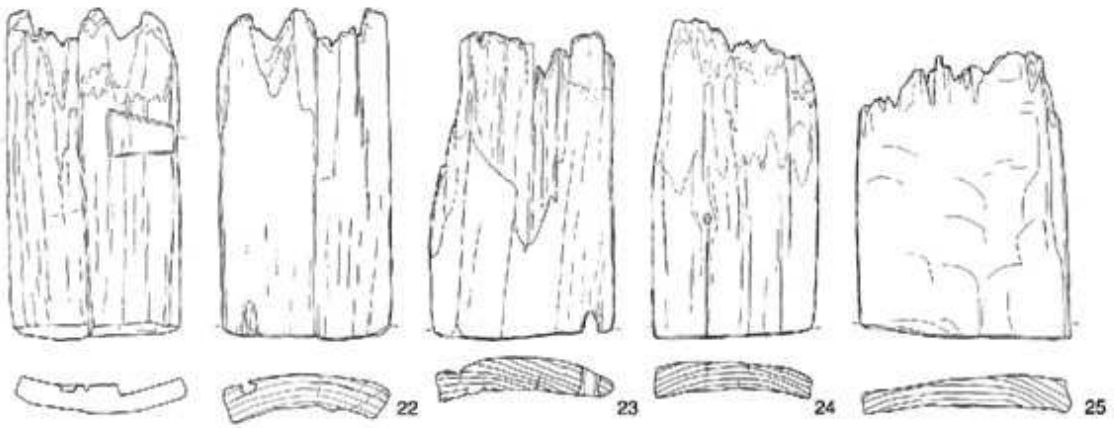


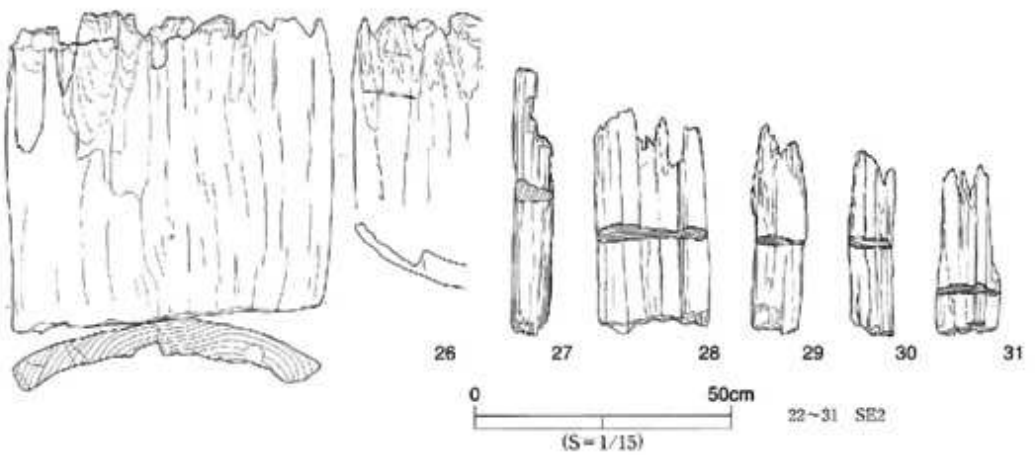
SE1
1 暗褐色粘土
2 暗褐色粘土（砂含）
3 灰褐色粘土
4 暗灰褐色粘土（砂含）
5 灰褐色粘土
6 暗褐色粘土（砂含）
7 灰褐色粘土
1～7各層植物遺体多



SE2
1 灰褐色土（攪乱）
2 青灰色粘土
3 黒褐色粘土（砂含）

0 1m
(S=1/40)

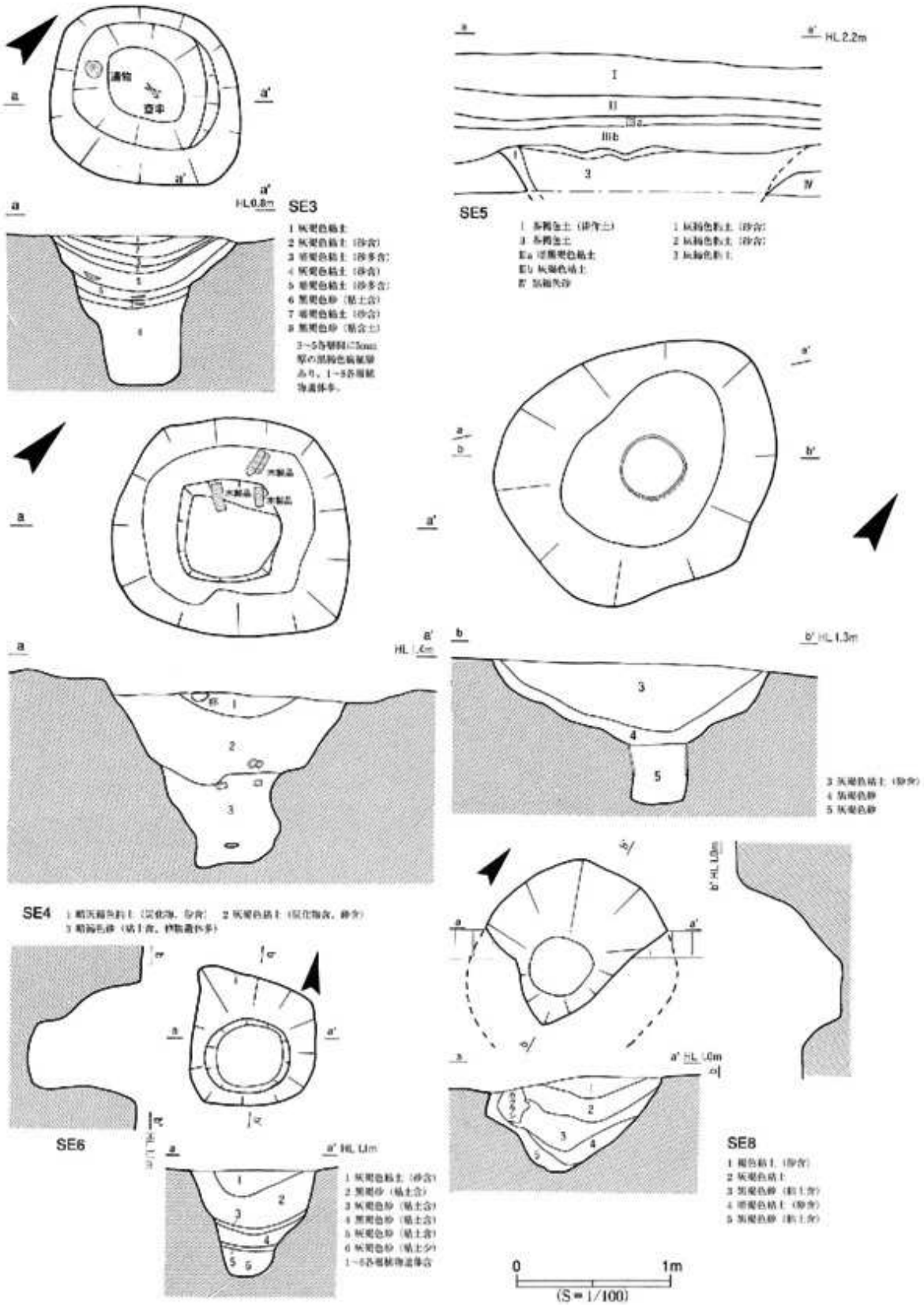




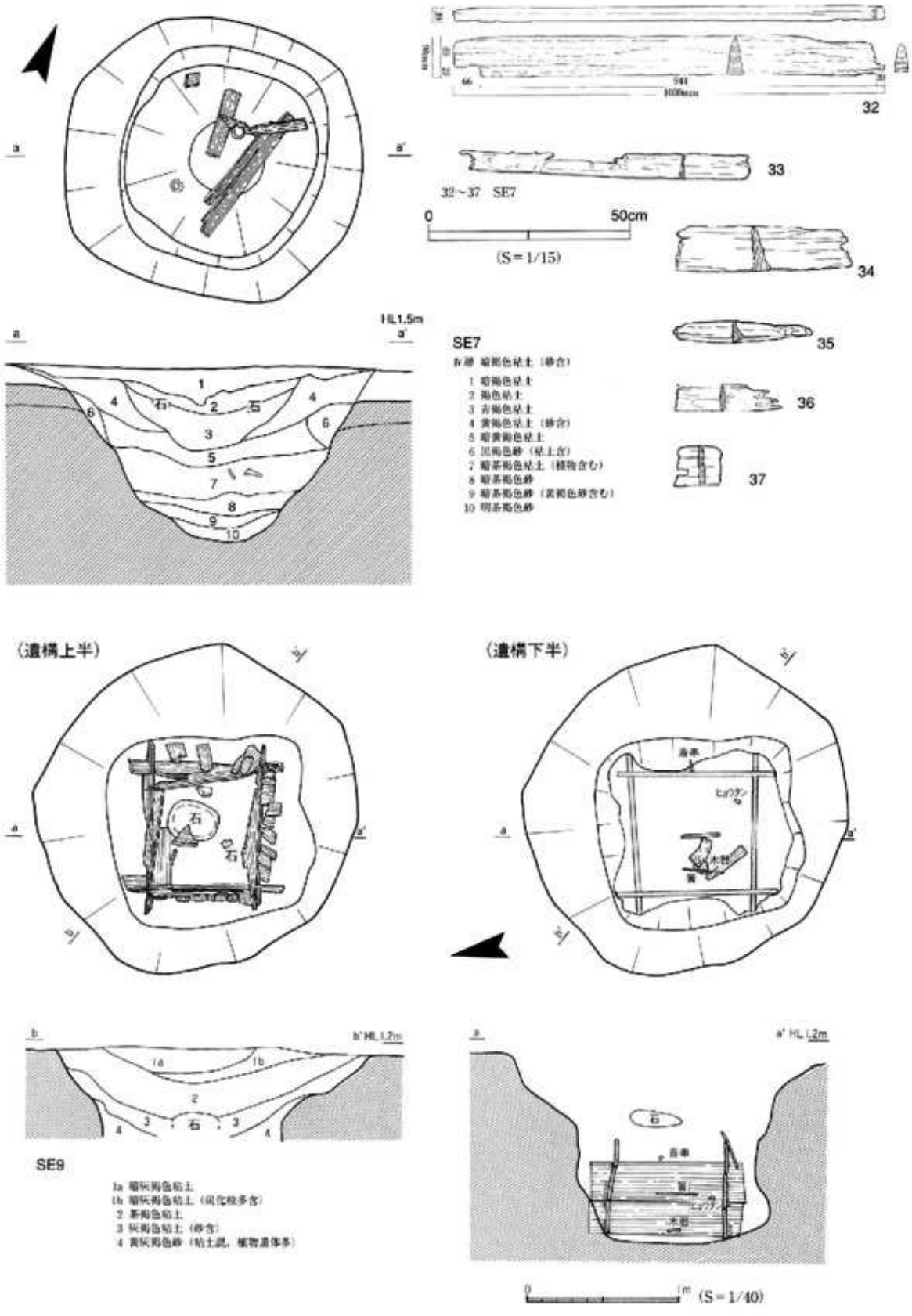
0 50cm
(S=1/15)

22～31 SE2

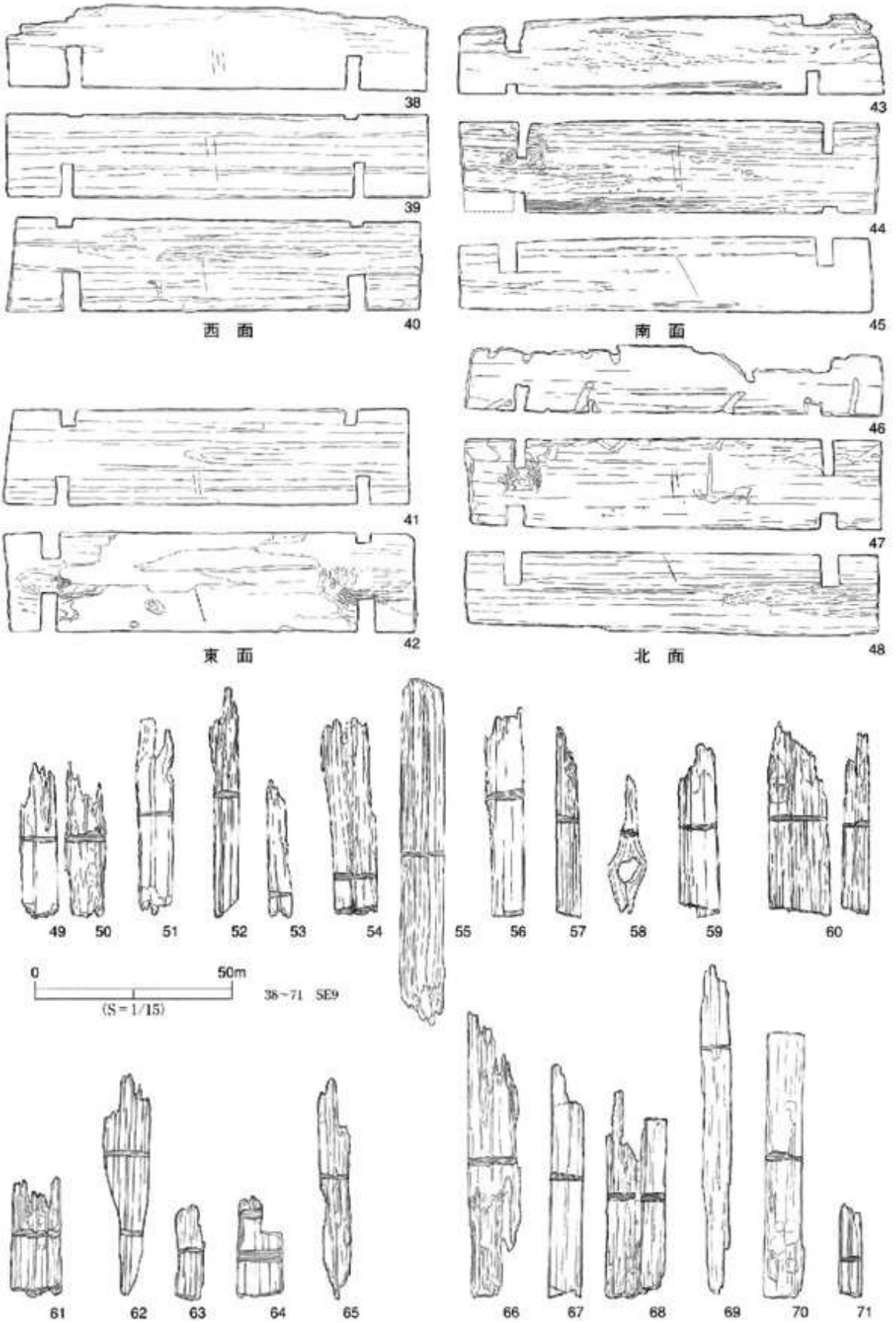
第40図　平安時代の遺構7（SE1・2、SE2部材）



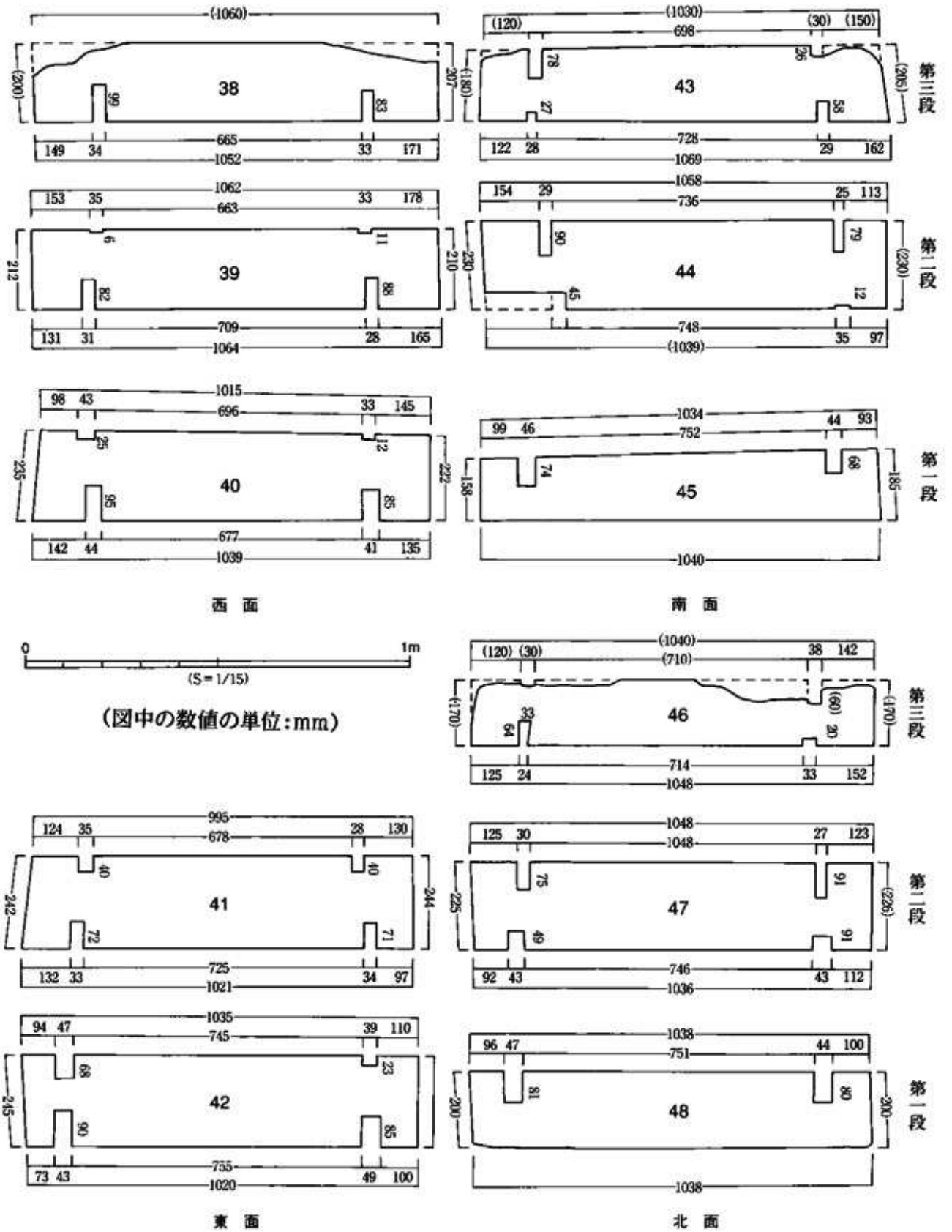
第41図　平安時代の遺構8（SE3~6・8）



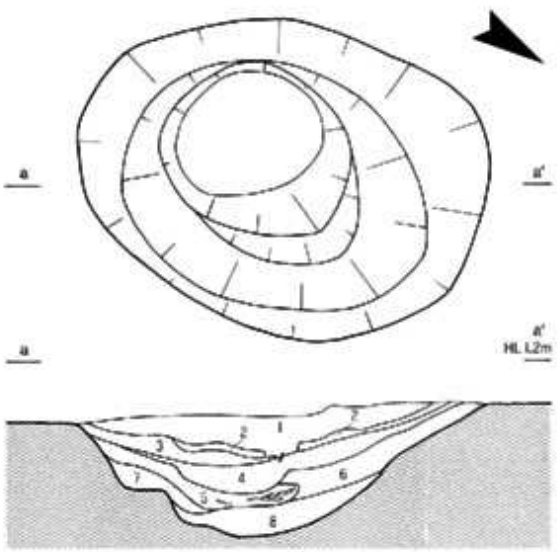
第42図　平安時代の遺構9（SE7・9、SE7部材）



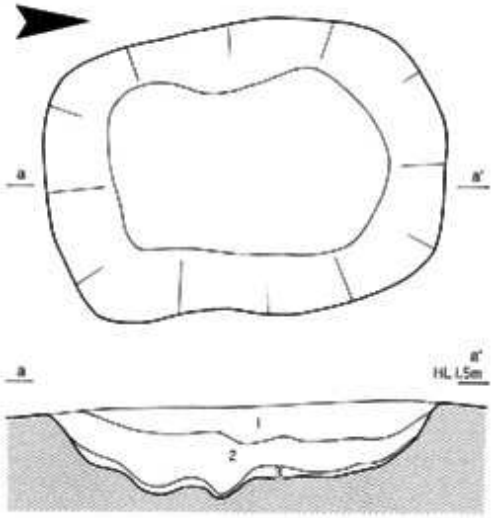
第43図　平安時代の遺構10（SE9井戸枠・部材）



第44図　平安時代の遺構11 (SE9井戸枠寸法)

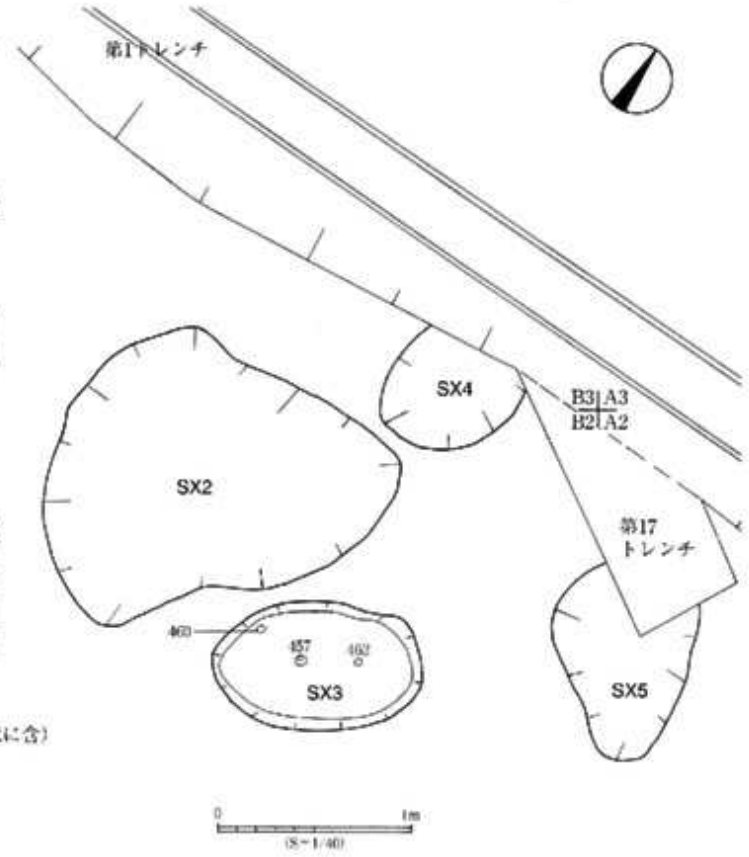


SK1　1 灰褐色粘土（砂含）　5 暗褐色粘土（砂含）　1~6各層遺物包含層
2 黒褐色粘土（砂含）　6 灰褐色粘土（砂含）　（6層に多く含む）
3 灰褐色粘土（砂含）　7 暗褐色砂　1~8各層植物遺体多
4 灰褐色砂（粘土含）　8 灰褐色粘土（砂含）

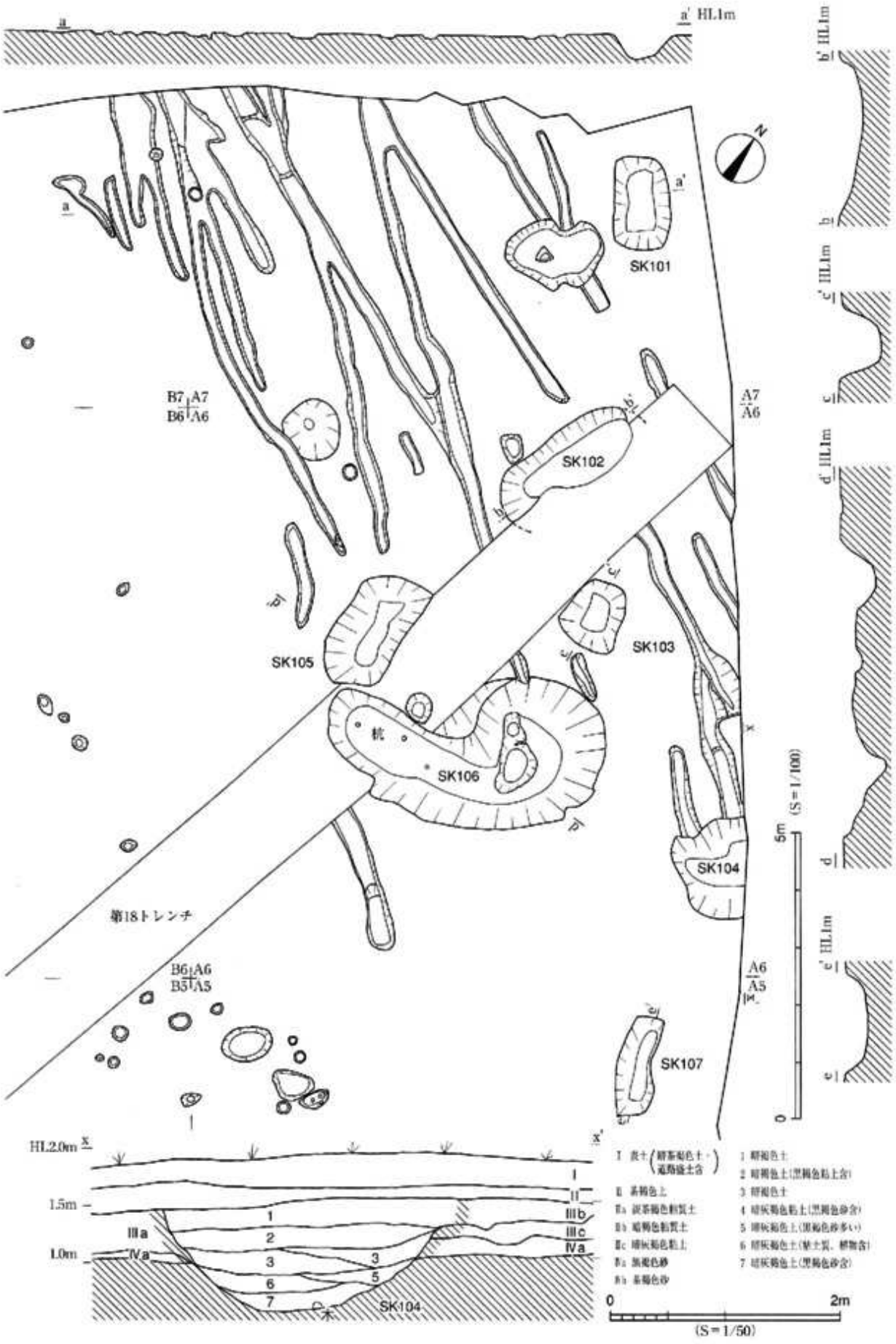


SK2　1 黒色砂（灰褐色粘土含、炭化物含）
2 黒色砂（炭化物含）
3 黄褐色砂

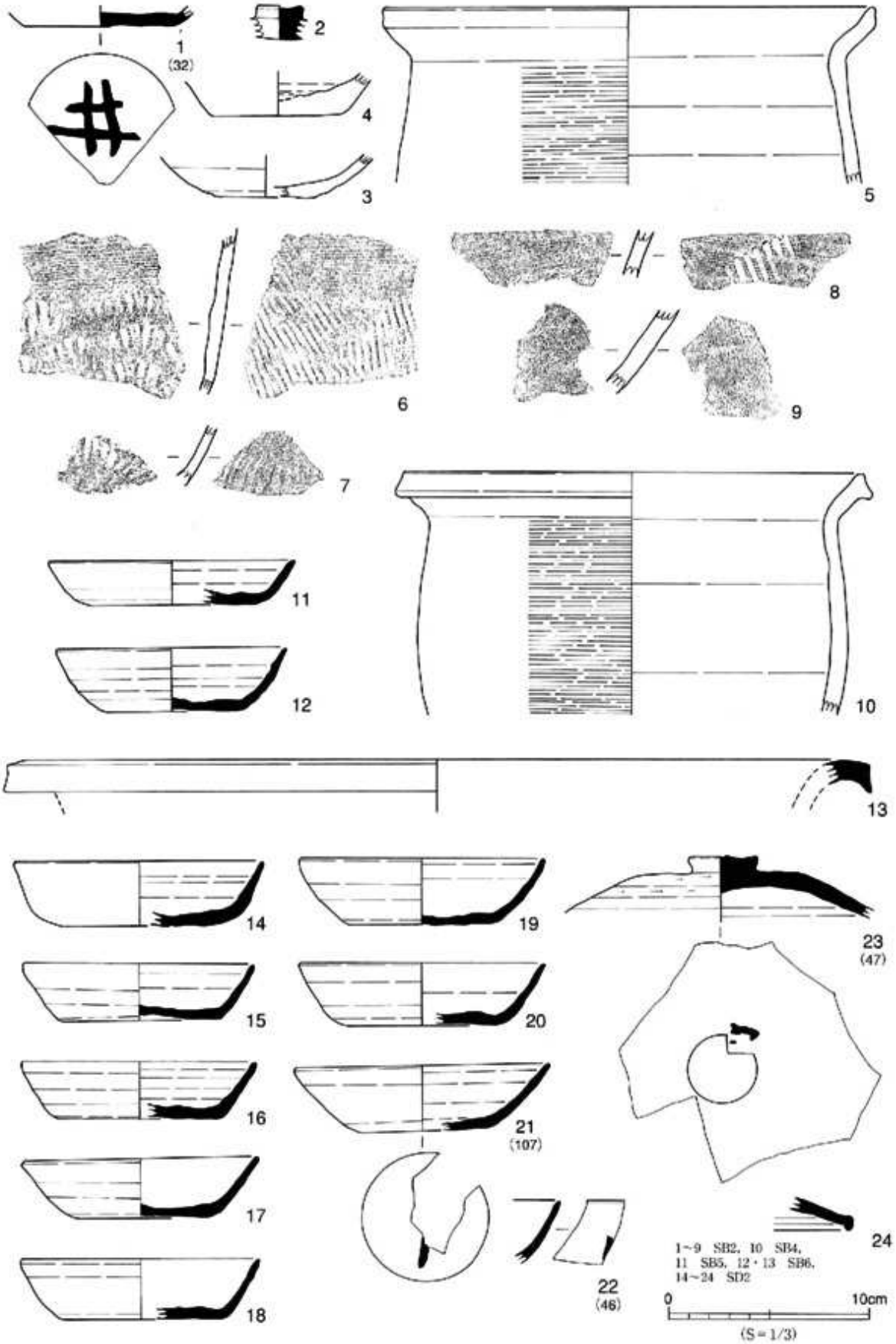
SK5　1 灰褐色粘土（炭化物含）
2 黒褐色砂（炭化物含）
3 黄褐色砂（黒褐色砂をブロック状に含）



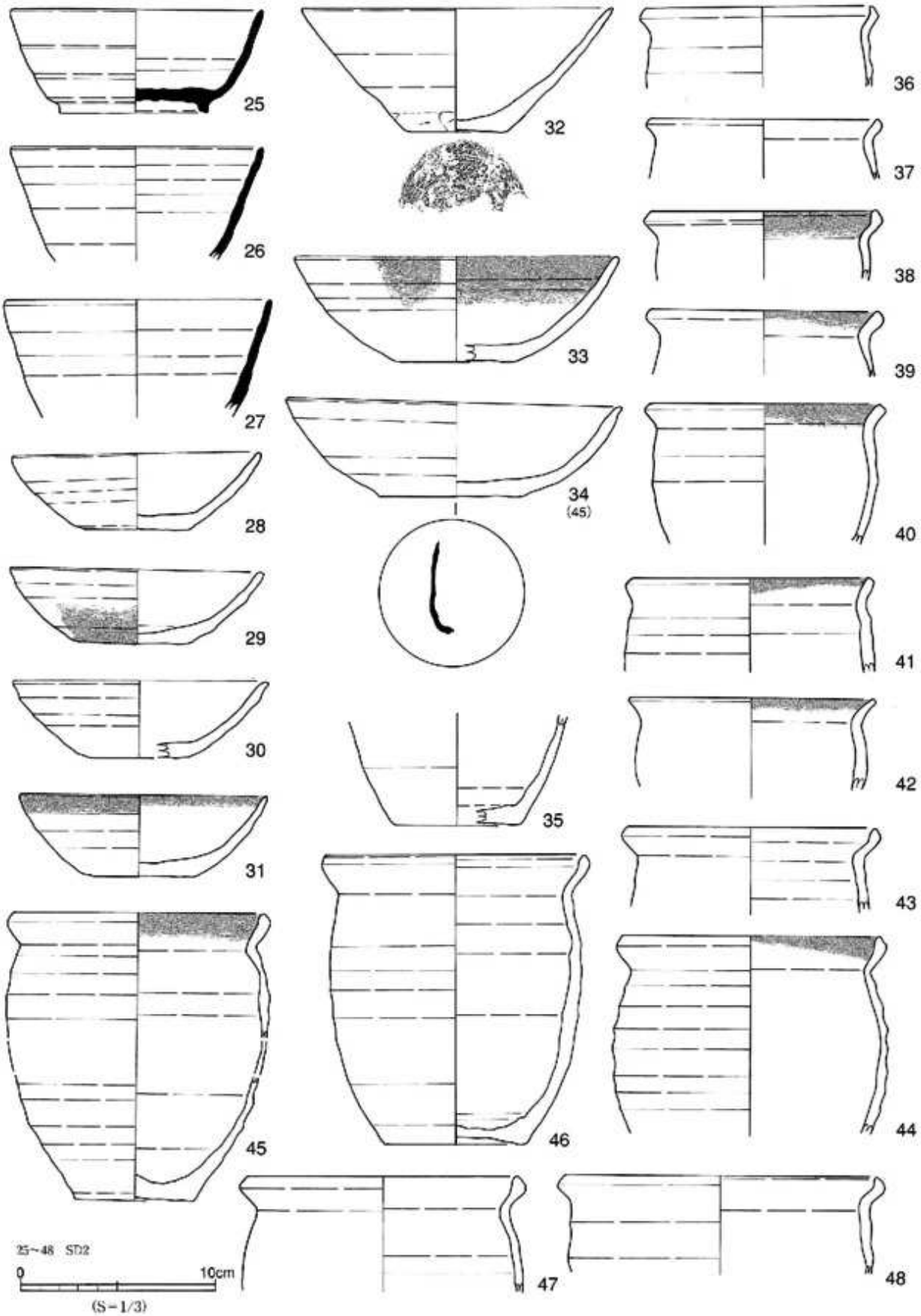
第45図　平安時代の遺構12（SK1・2・5、SX2~5）



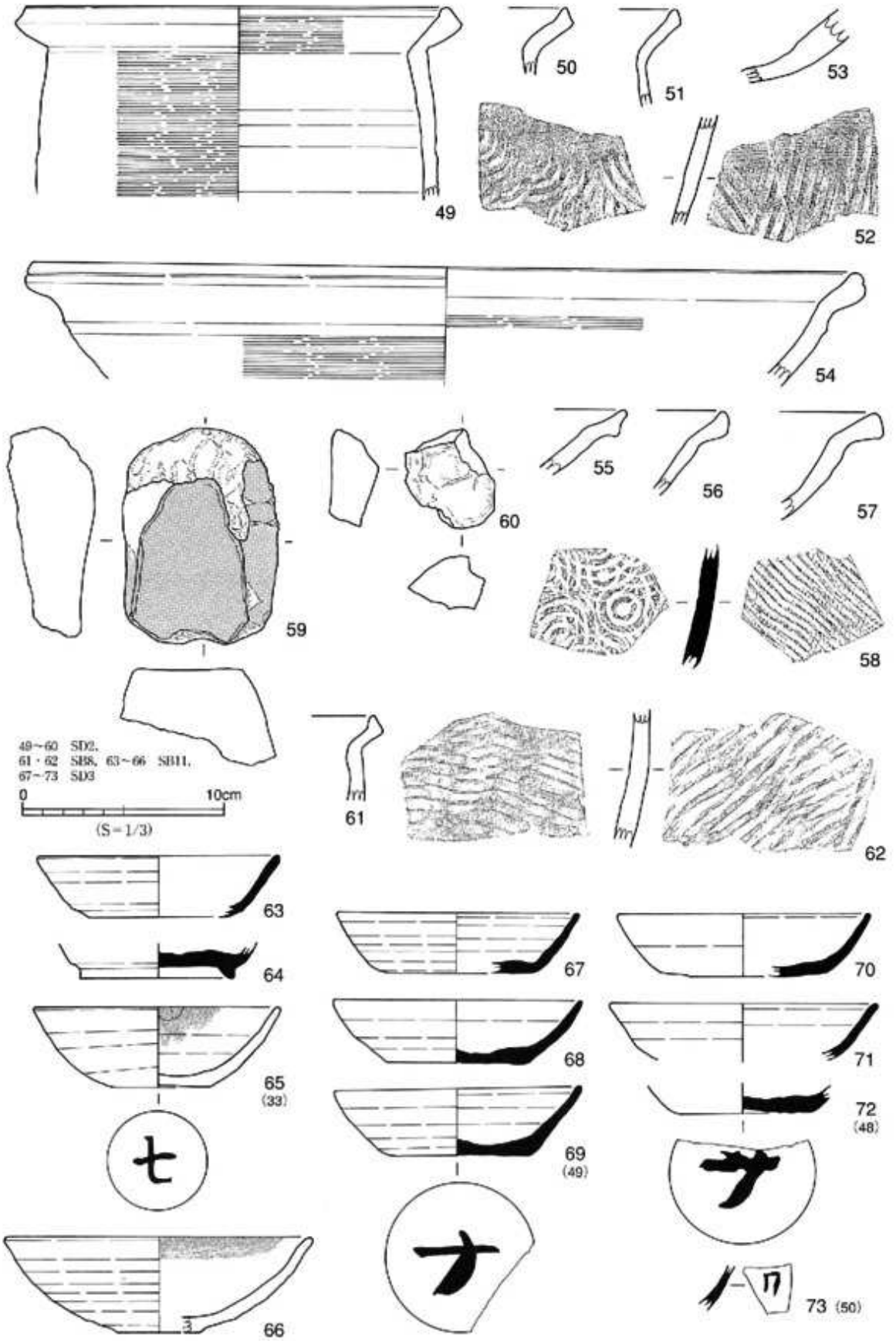
第46図　平安時代の遺構13（畝状小溝7群）



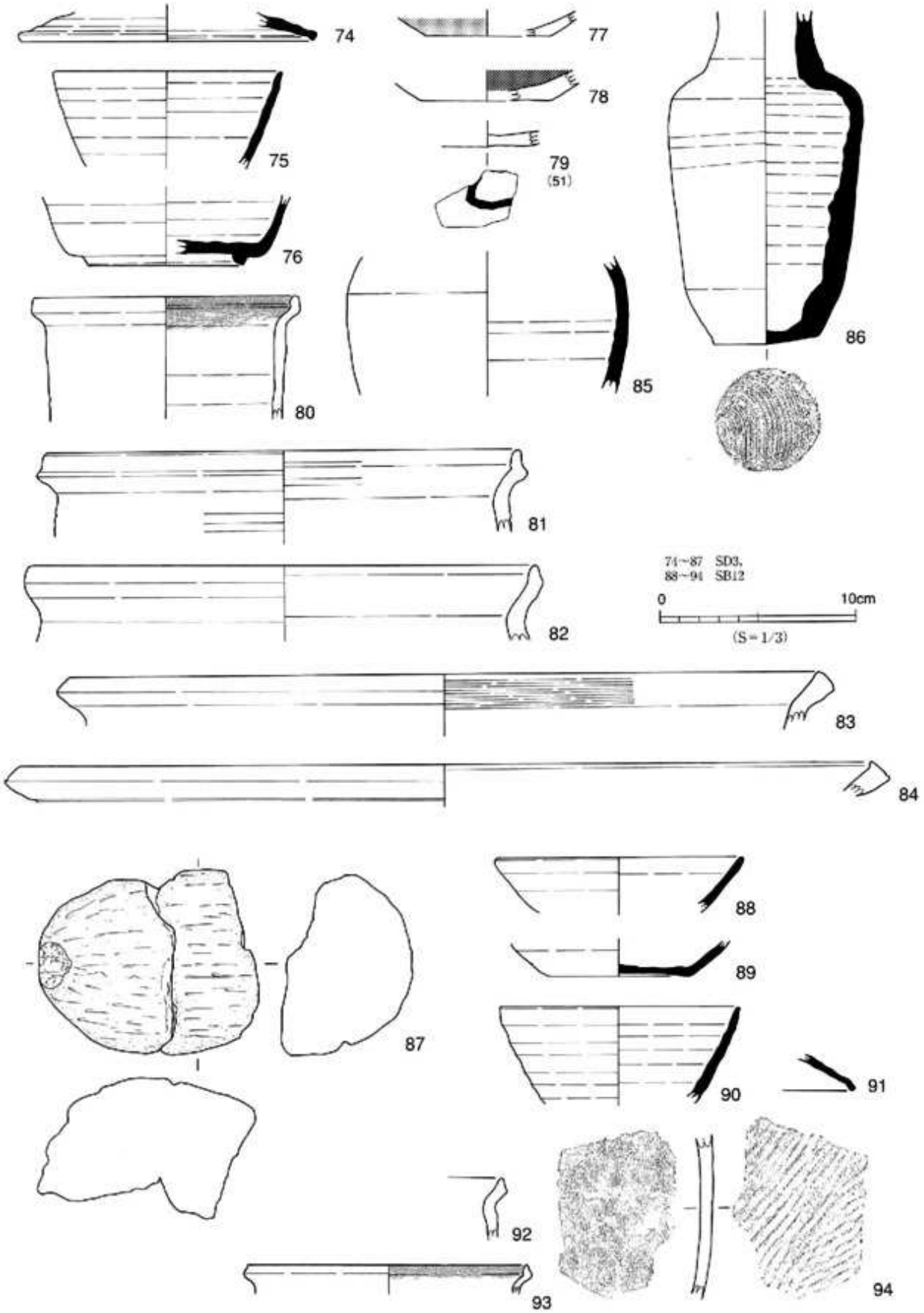
第47図　平安時代の遺構出土遺物1 (SB2・4・6、SD2)



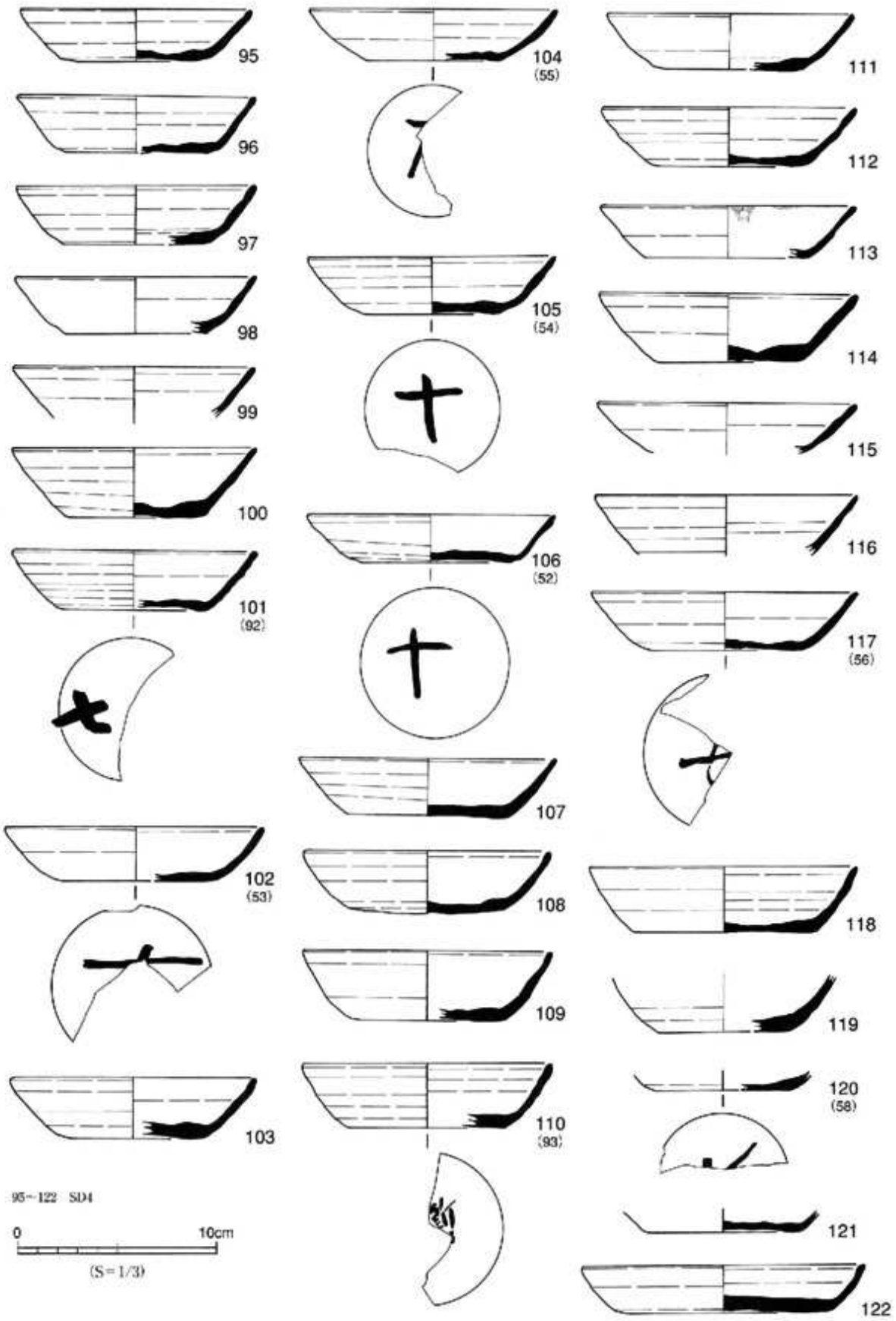
第48図　平安時代の遺構出土遺物 2 (SD2)



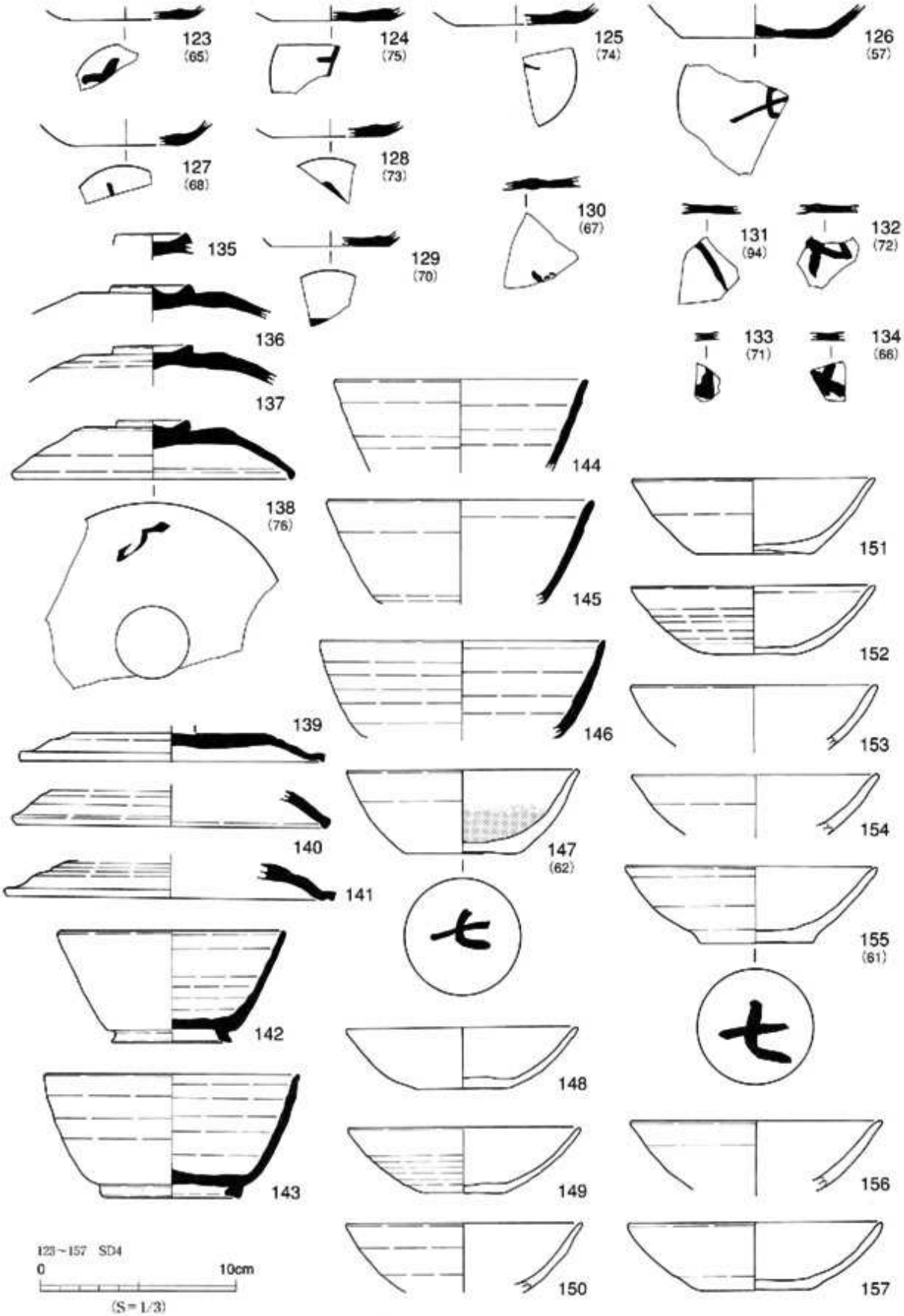
第49図　平安時代の遺構出土遺物 3 (SD2・3、SB8・11)



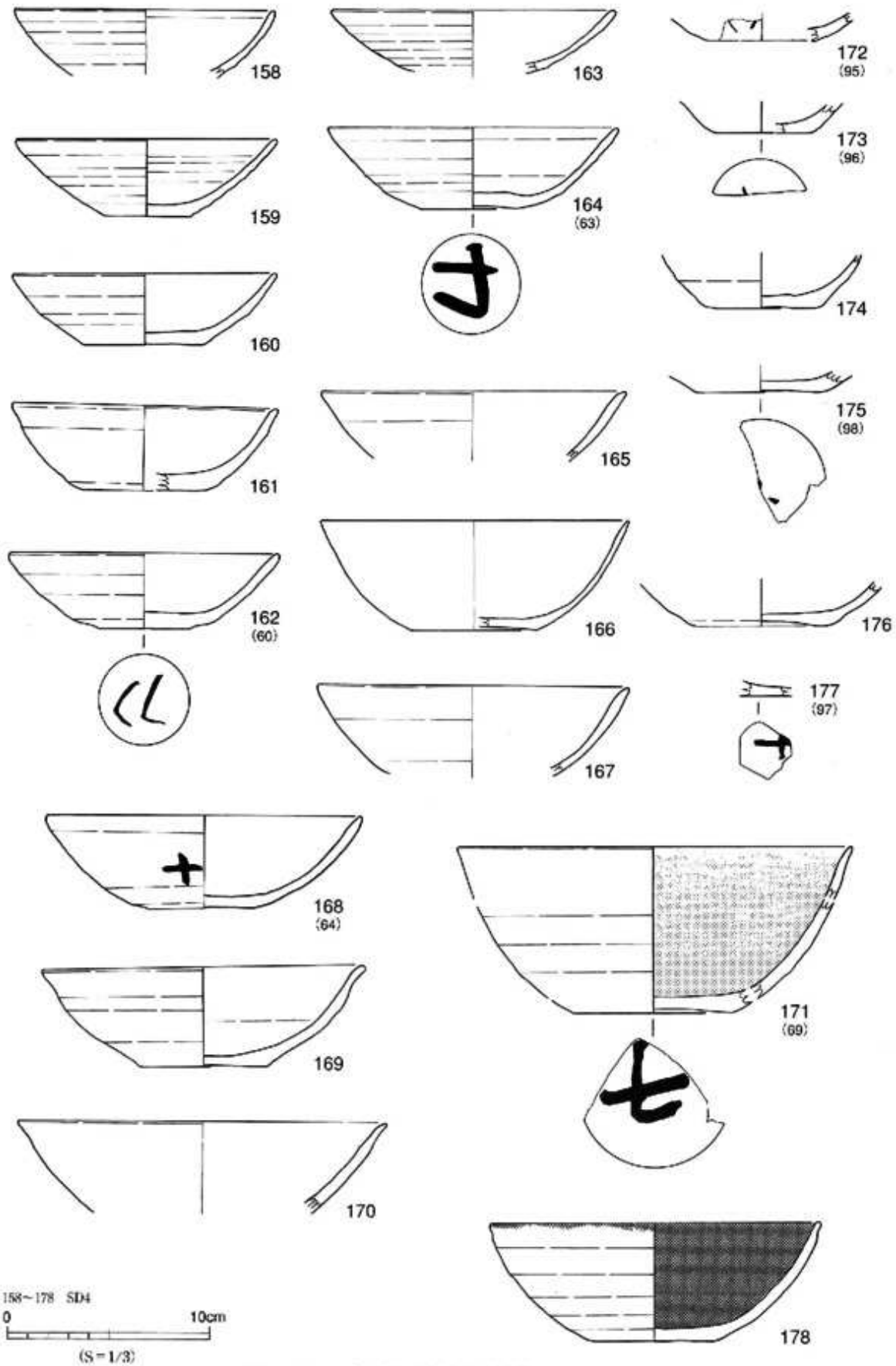
第50図　平安時代の遺構出土遺物4（SD3、SB12）



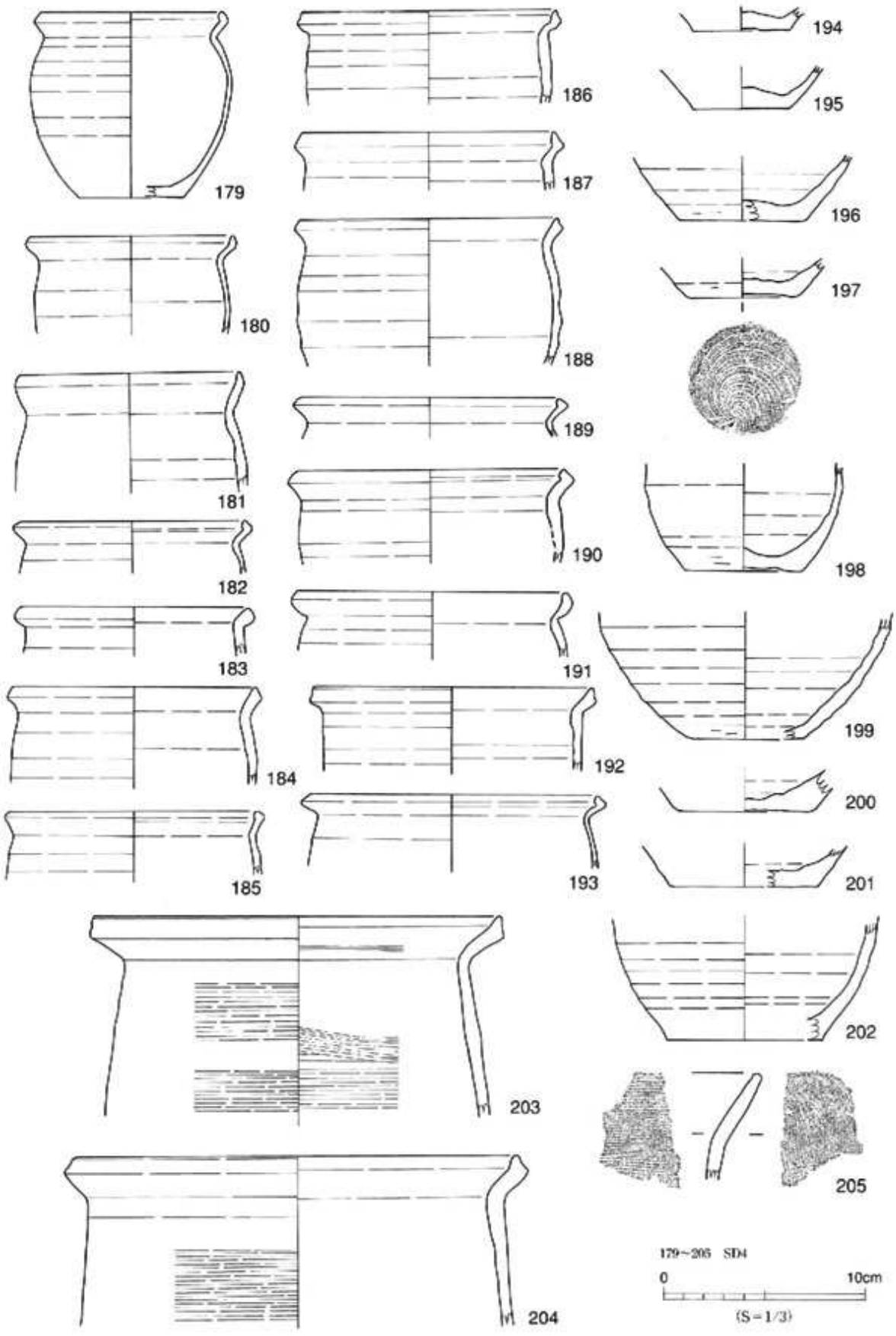
第51図　平安時代の遺構出土遺物5 (SD4)



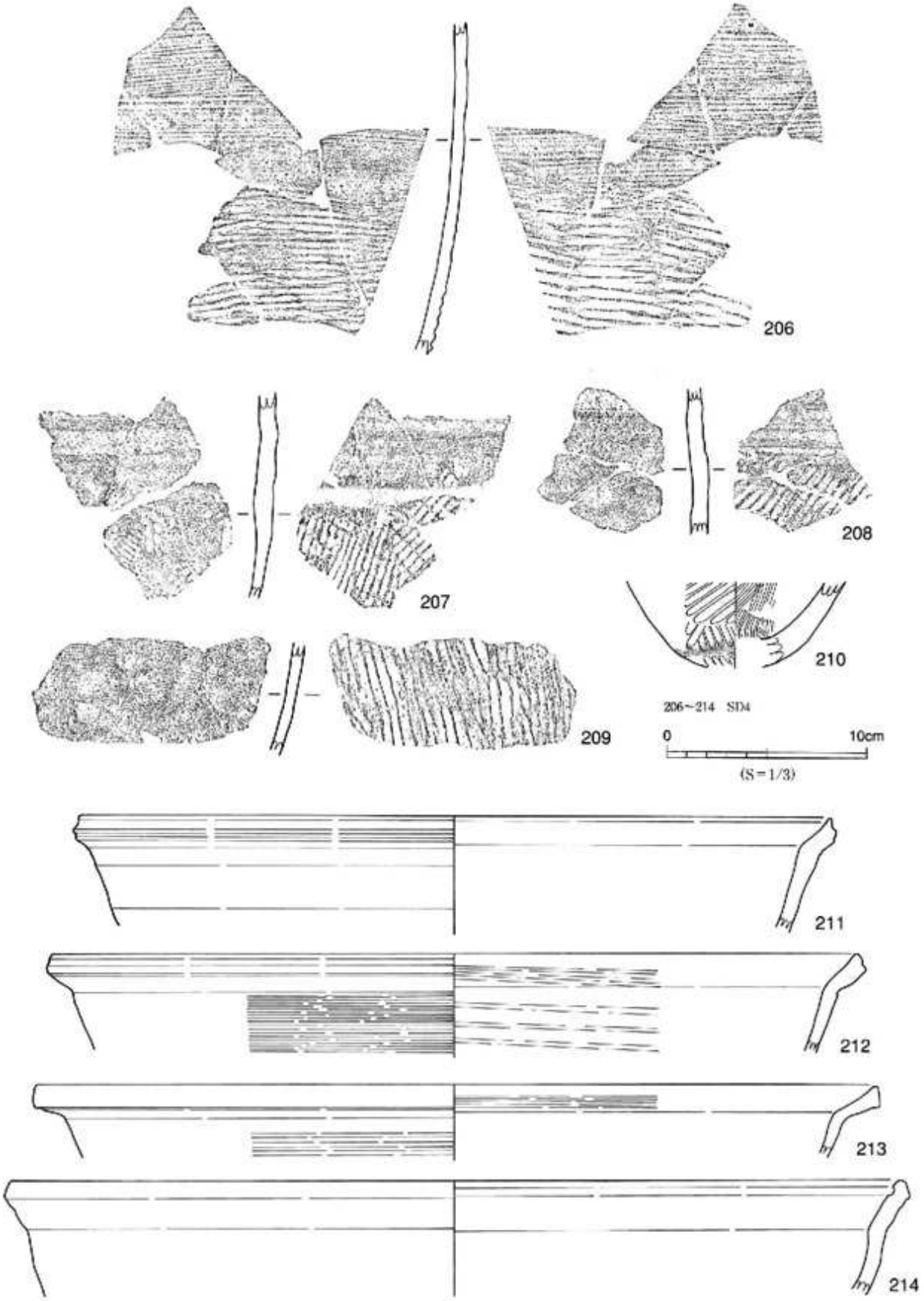
第52図　平安時代の遺構出土遺物6（SD4）



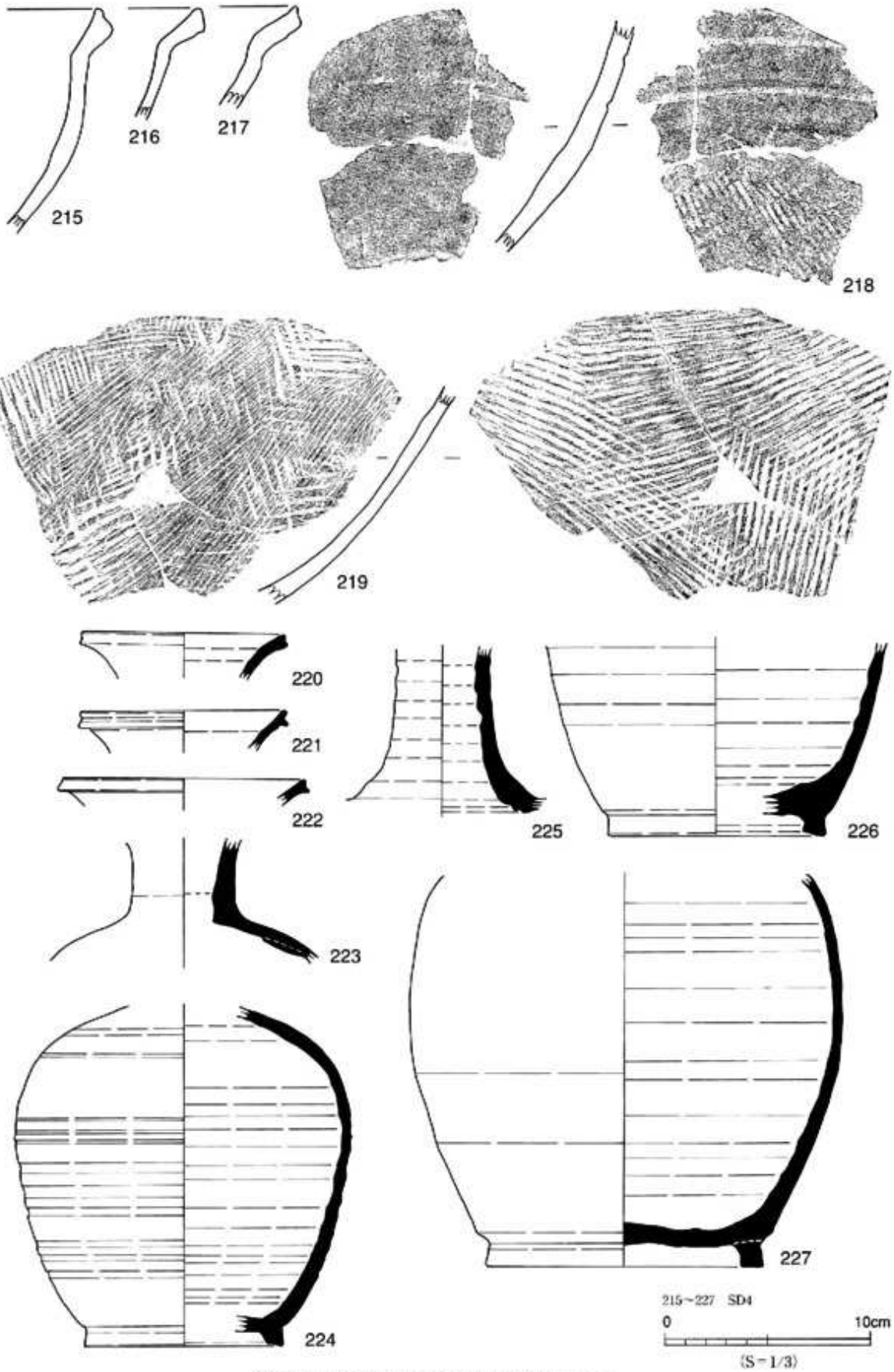
第53図　平安時代の遺構出土遺物7（SD4）



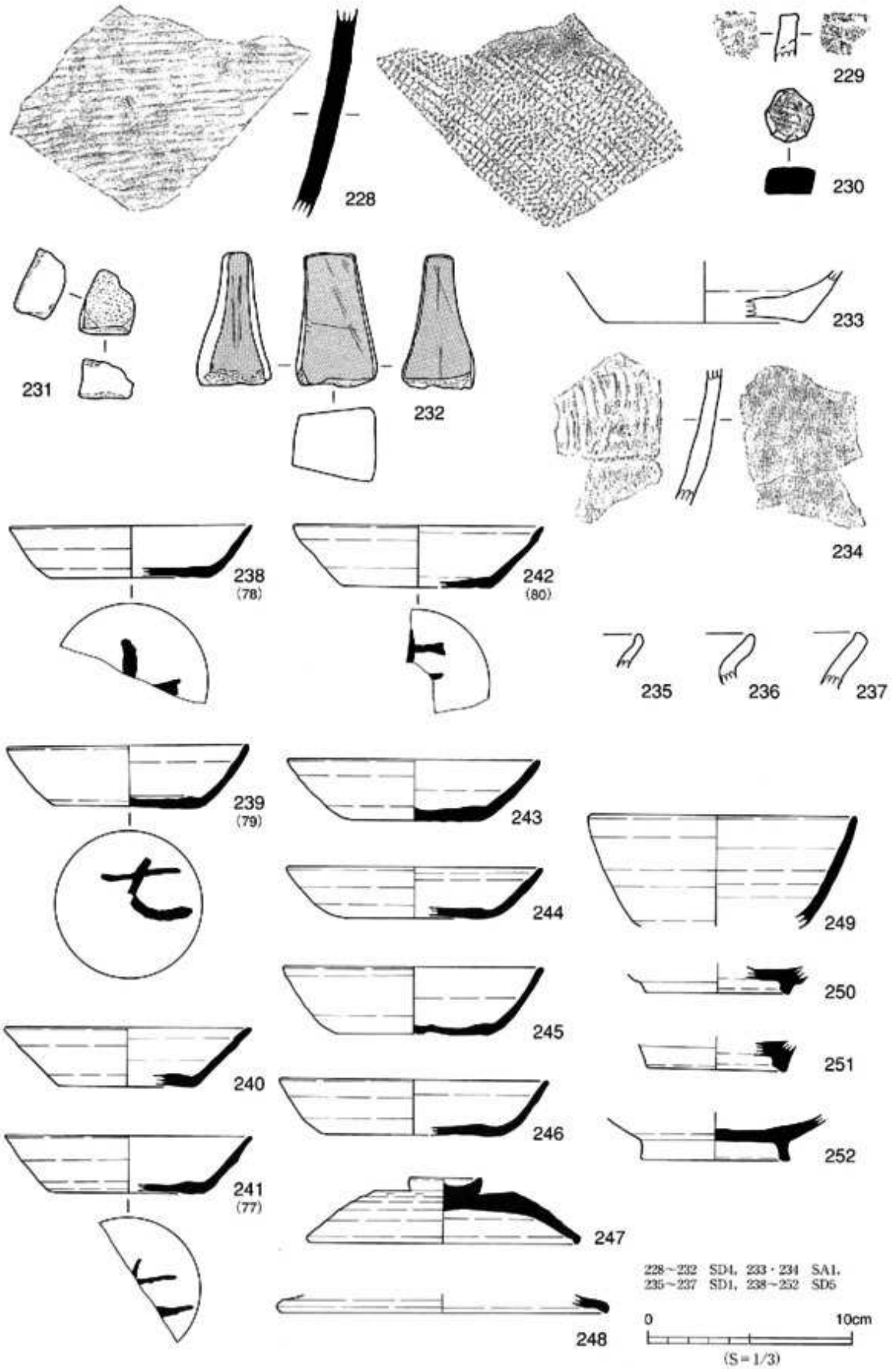
第54図　平安時代の遺構出土遺物 8 (SD4)



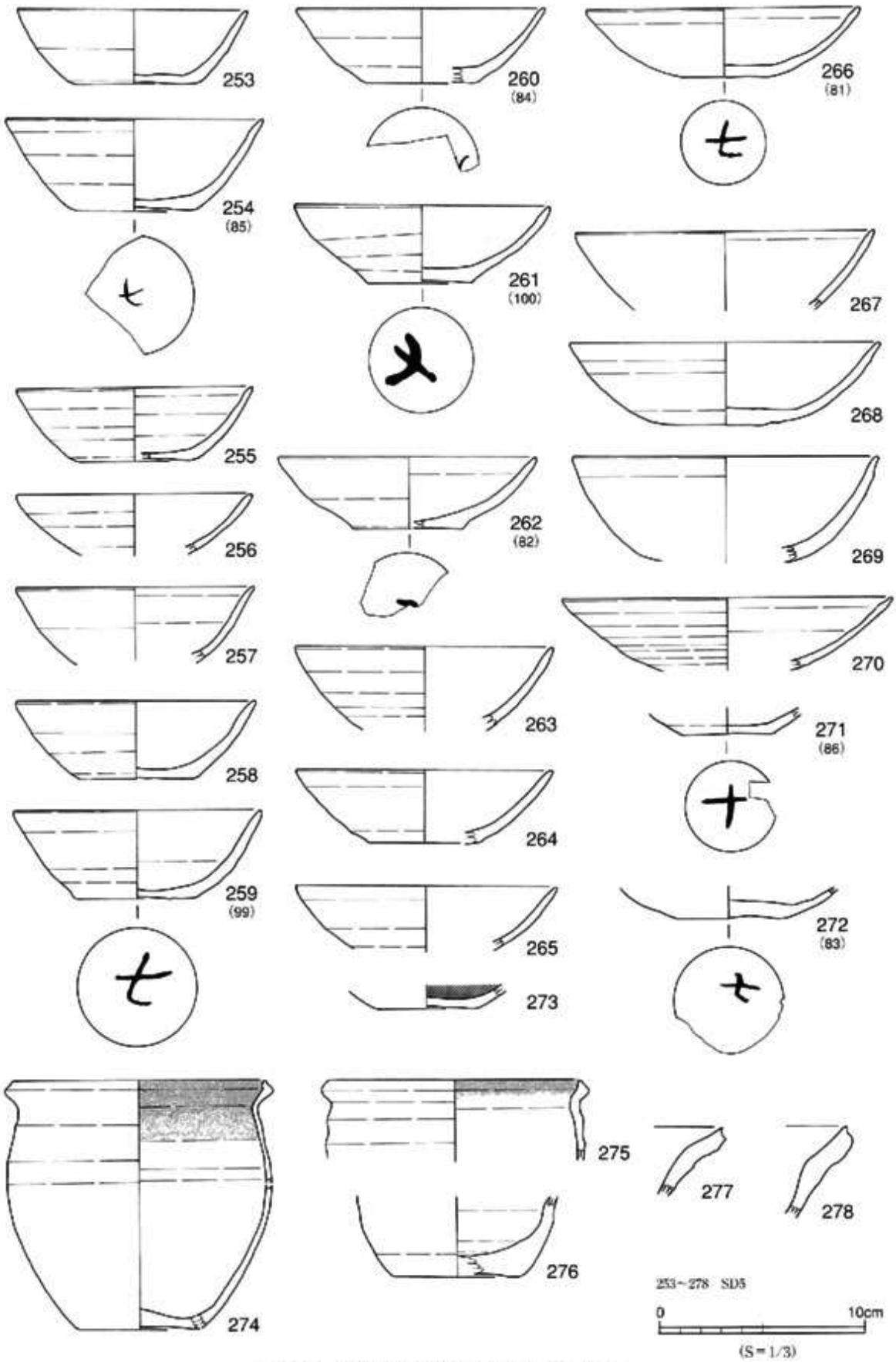
第55図　平安時代の遺構出土遺物９（SD4）



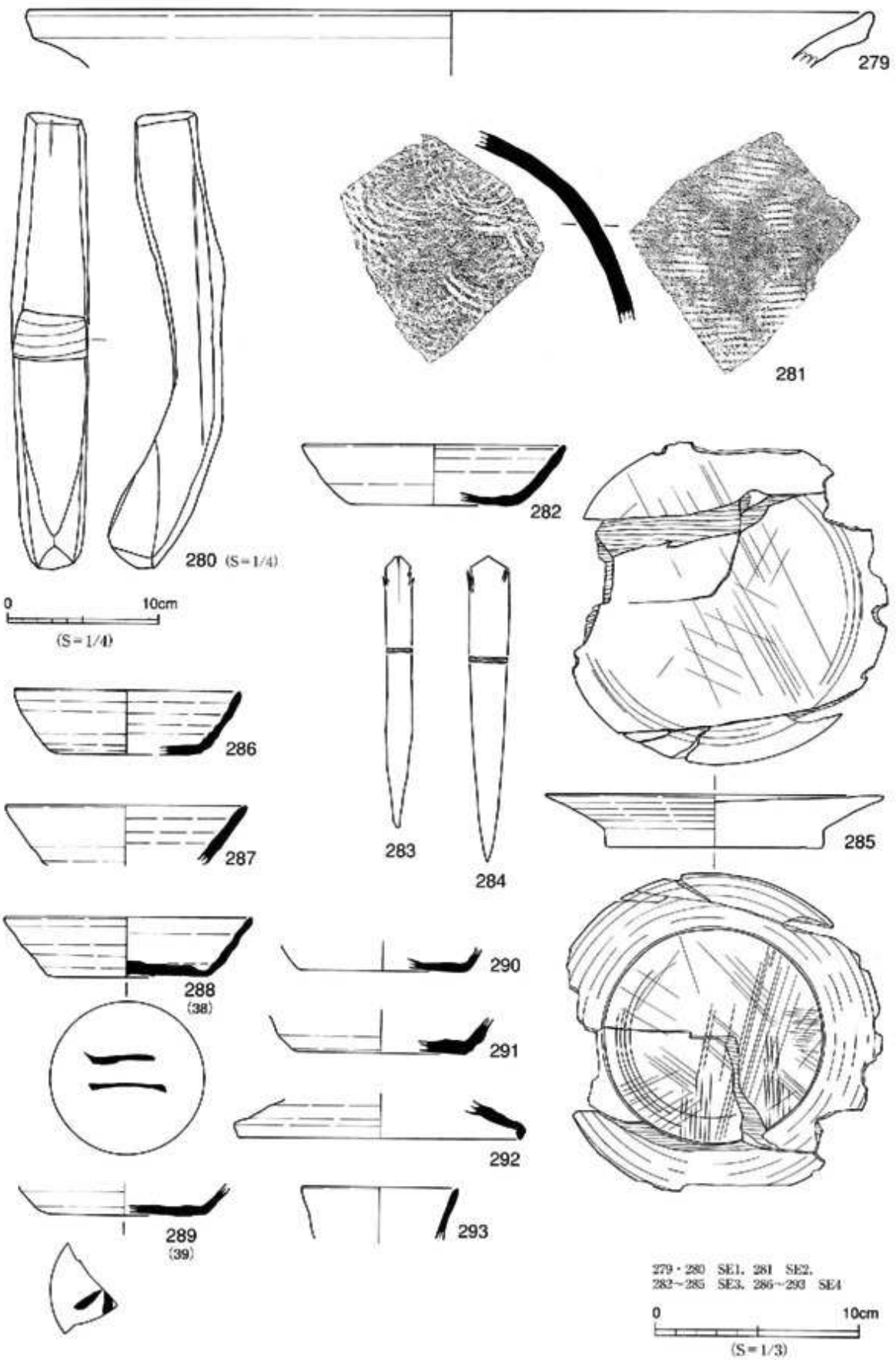
第56図　平安時代の遺構出土遺物10（SD4）



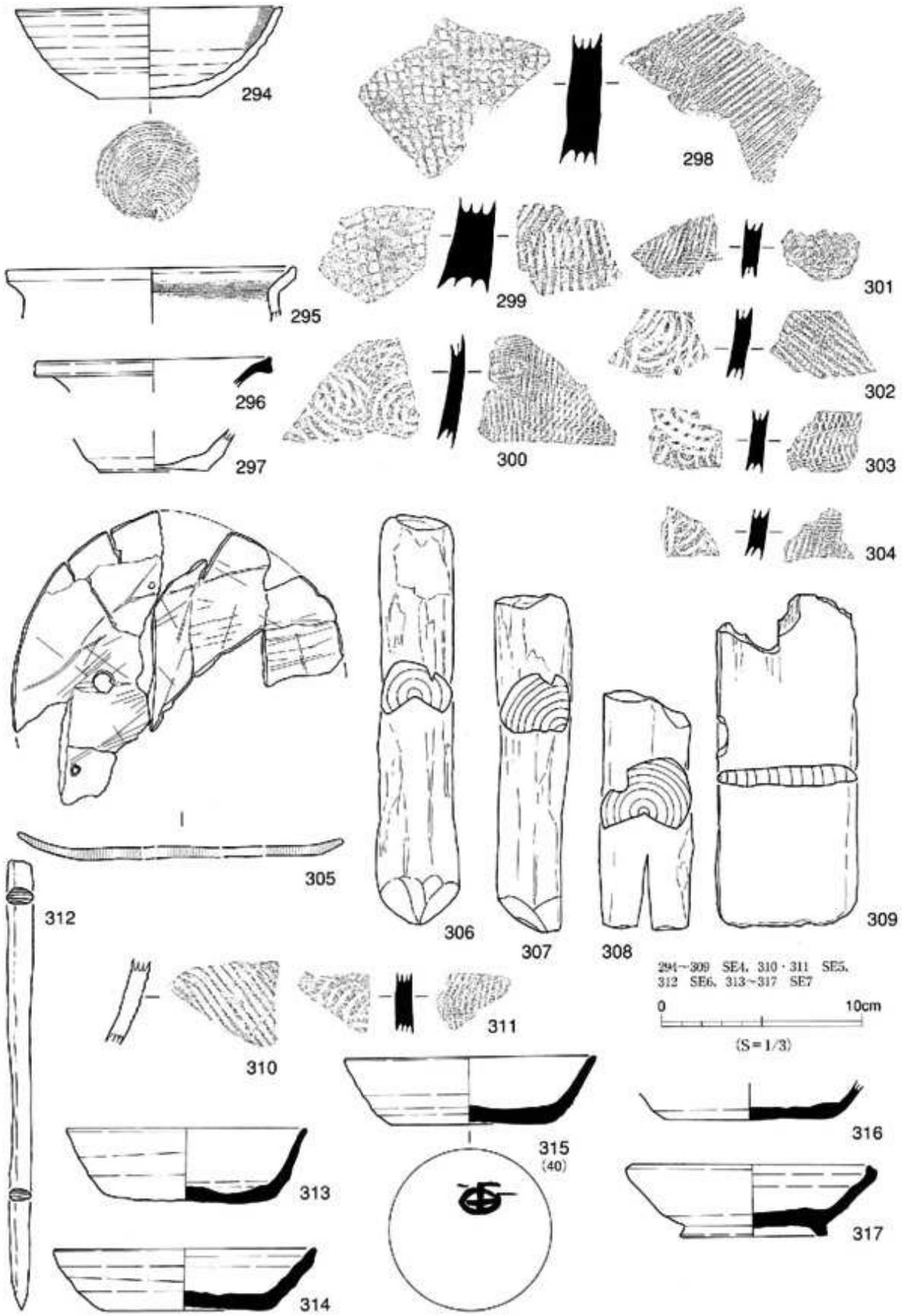
第57図　平安時代の遺構出土遺物11（SD1・4・5、SA1）



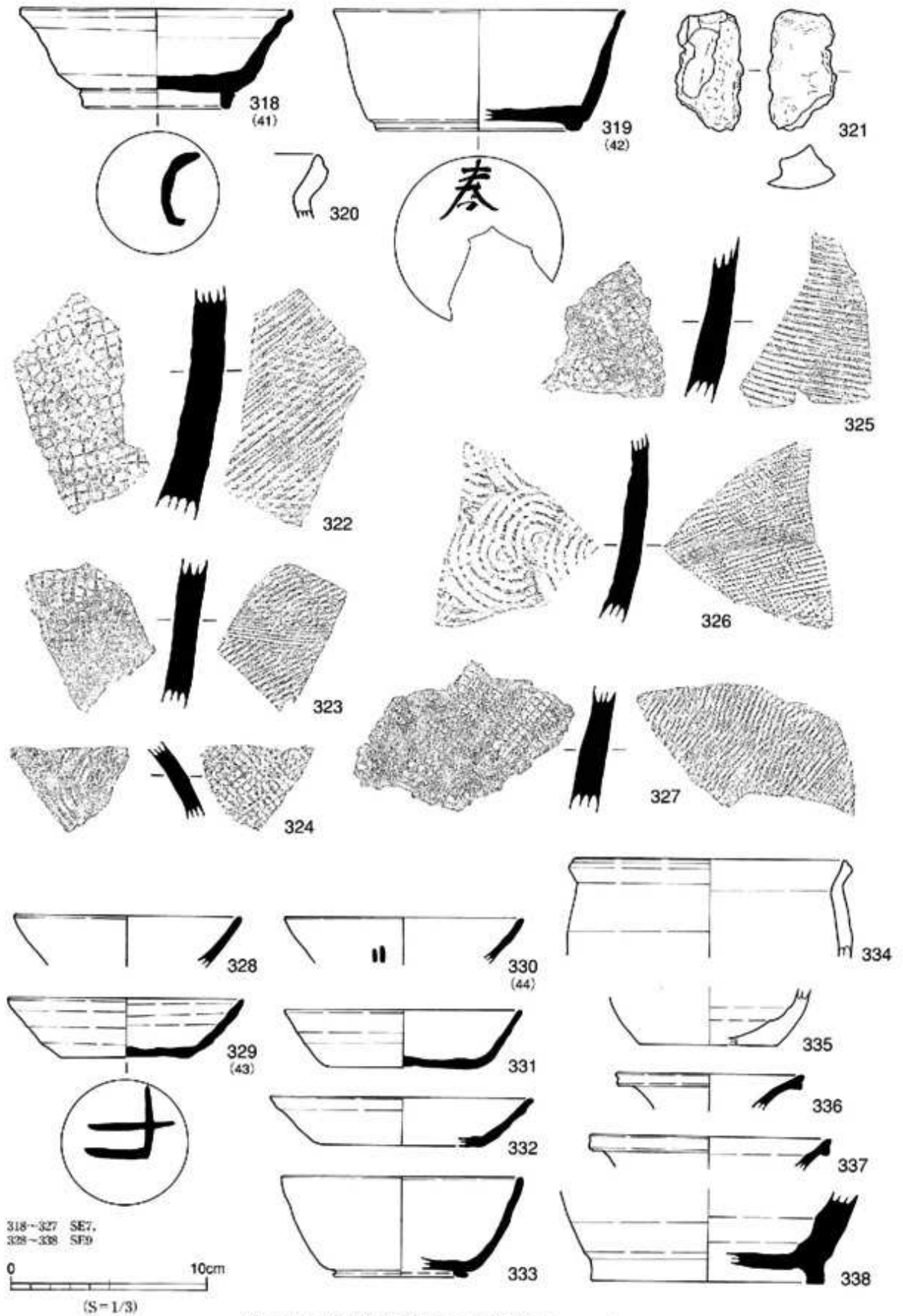
第58図　平安時代の遺構出土遺物12（SD5）



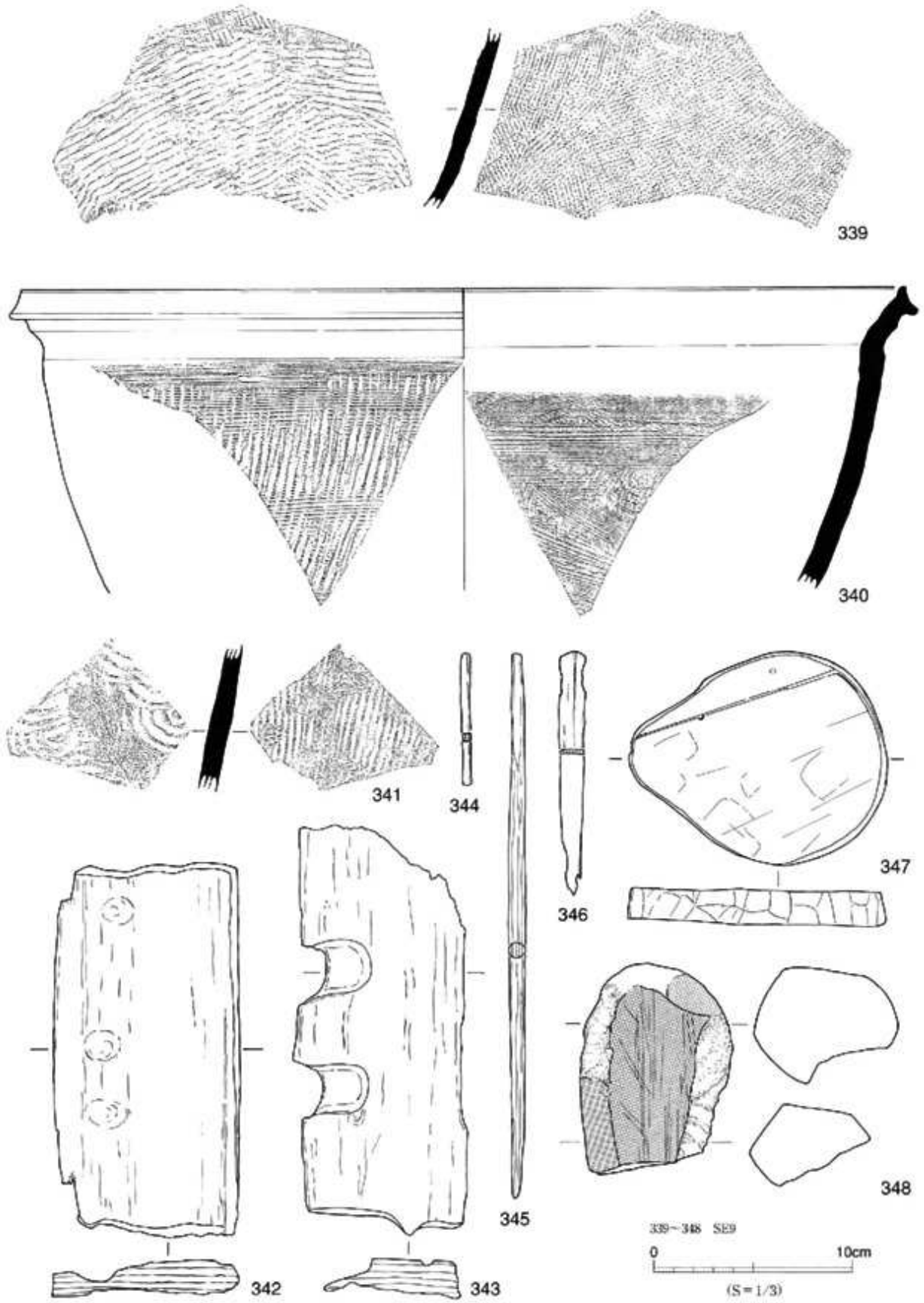
第59図　平安時代の遺構出土遺物13 (SE1~4)



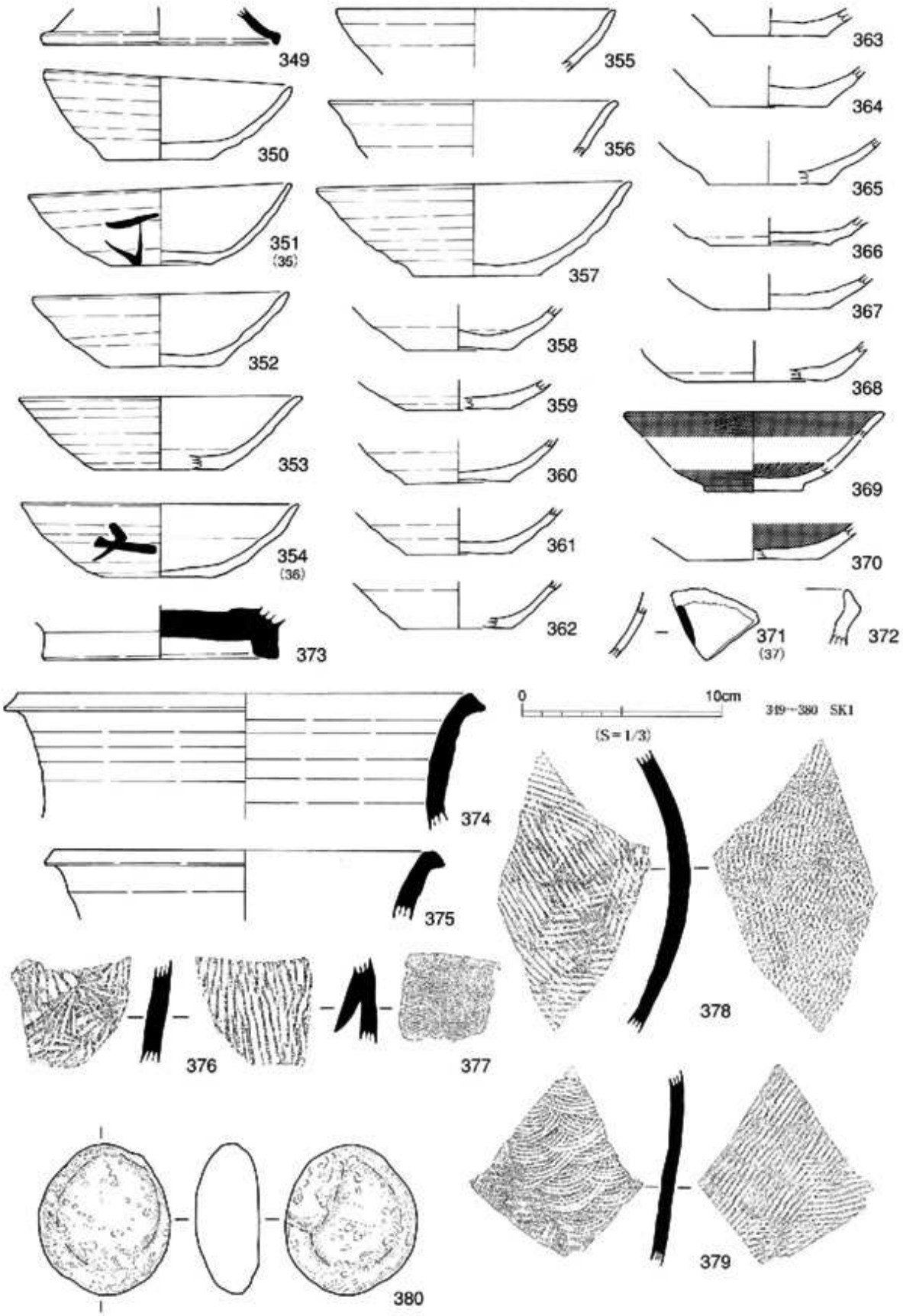
第60図　平安時代の遺構出土遺物14（SE4～7）



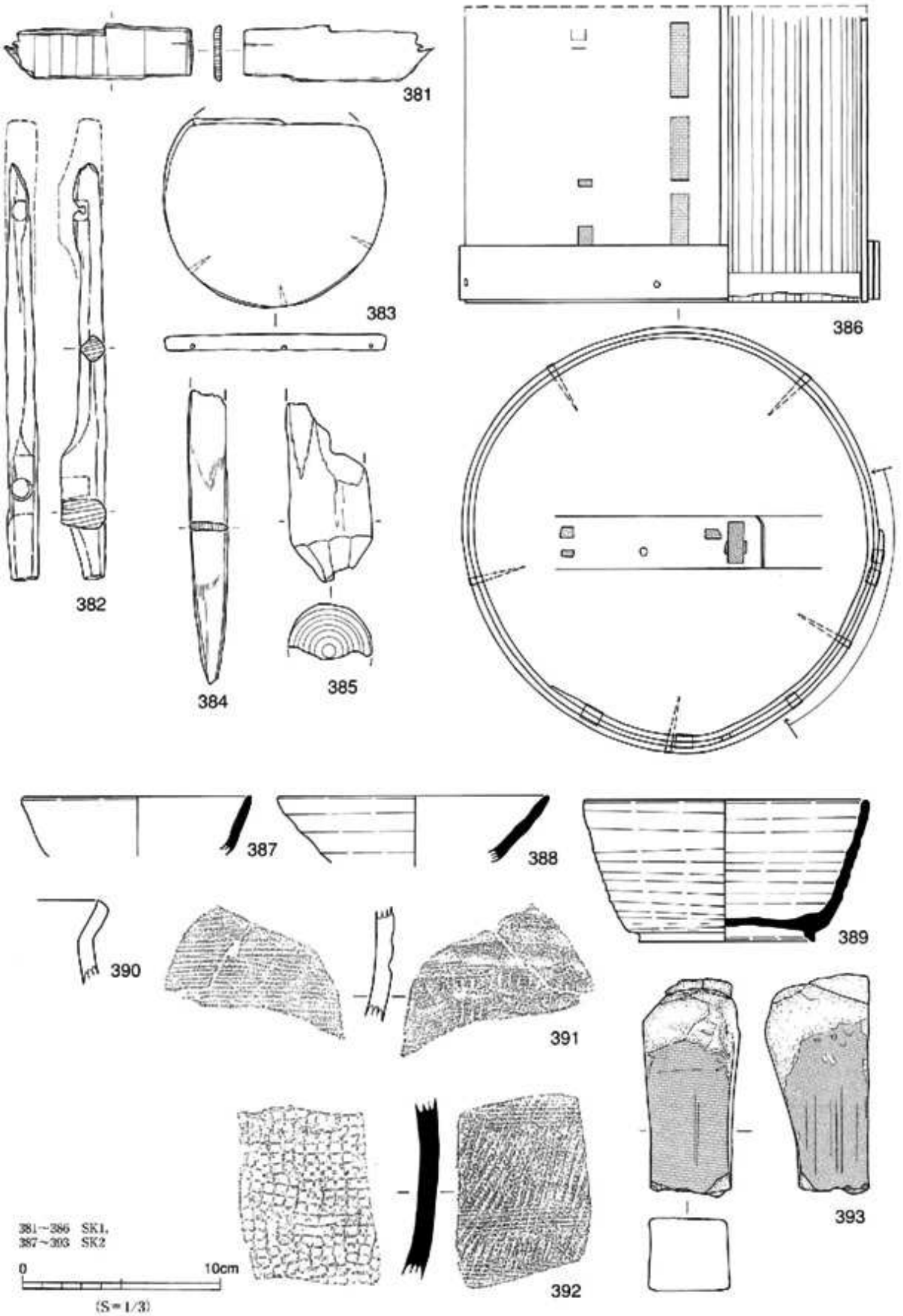
第61図　平安時代の遺構出土遺物15 (SE7・9)



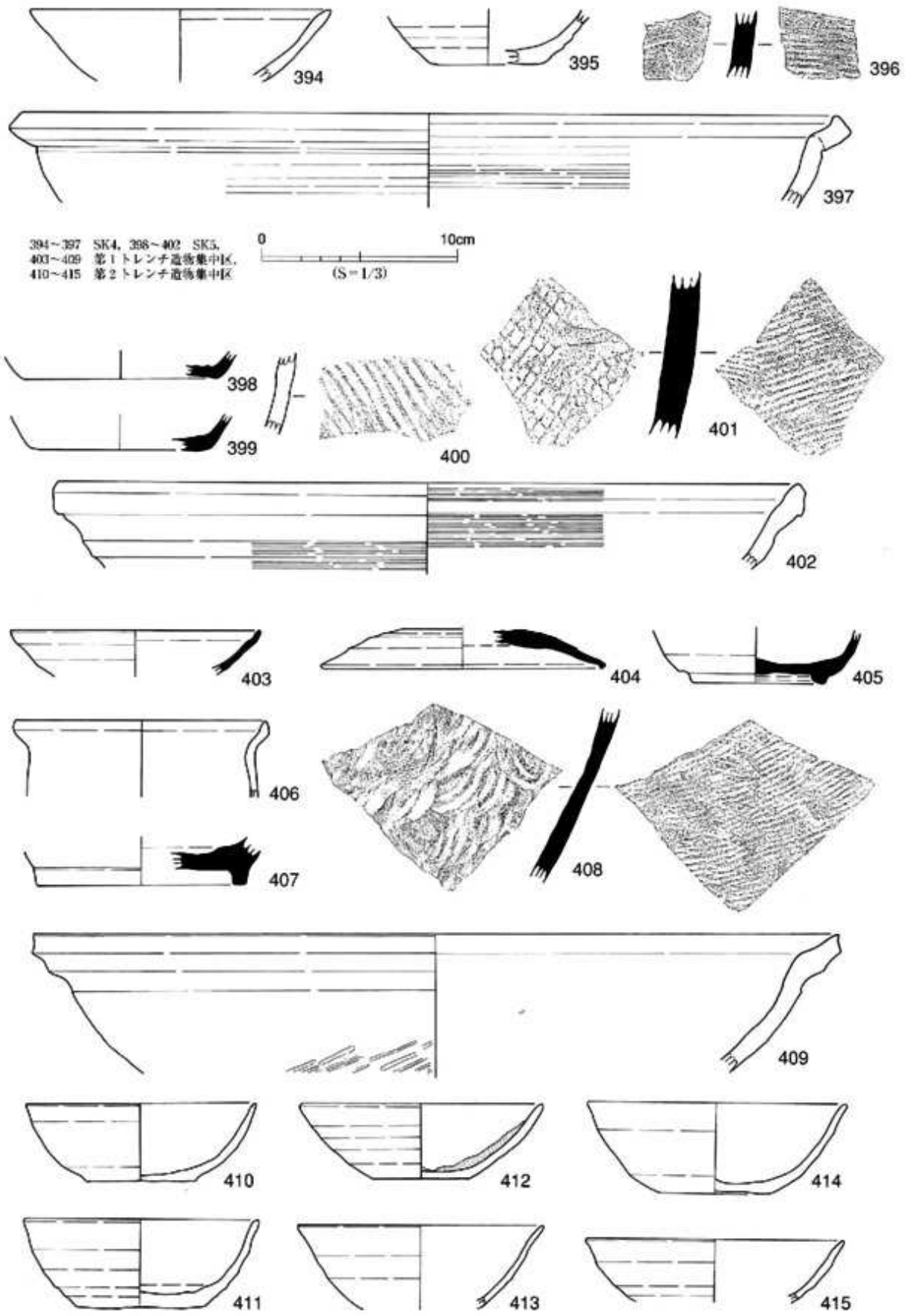
第62図　平安時代の遺構出土遺物16 (SE9)



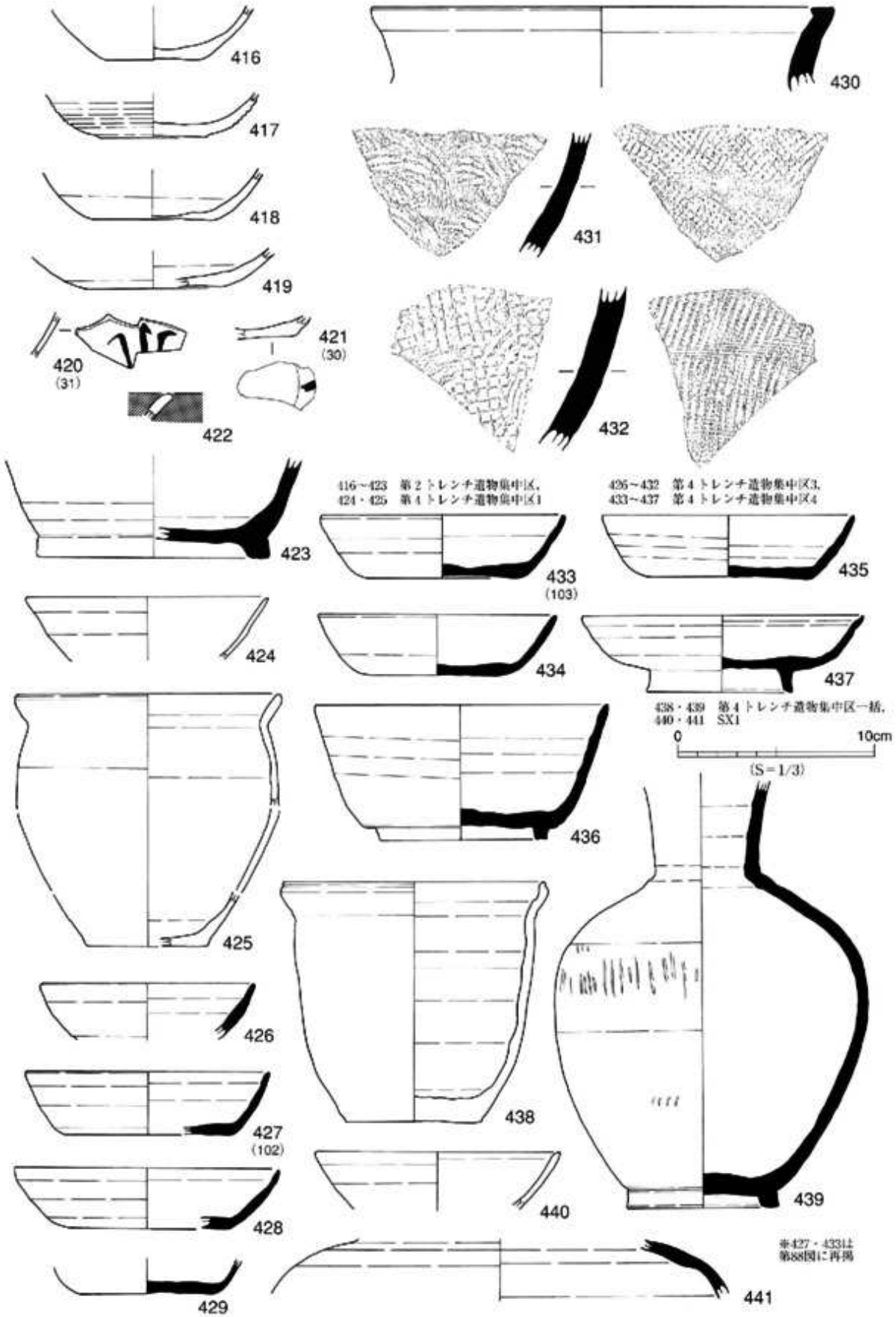
第63図　平安時代の遺構出土遺物17（SK1）



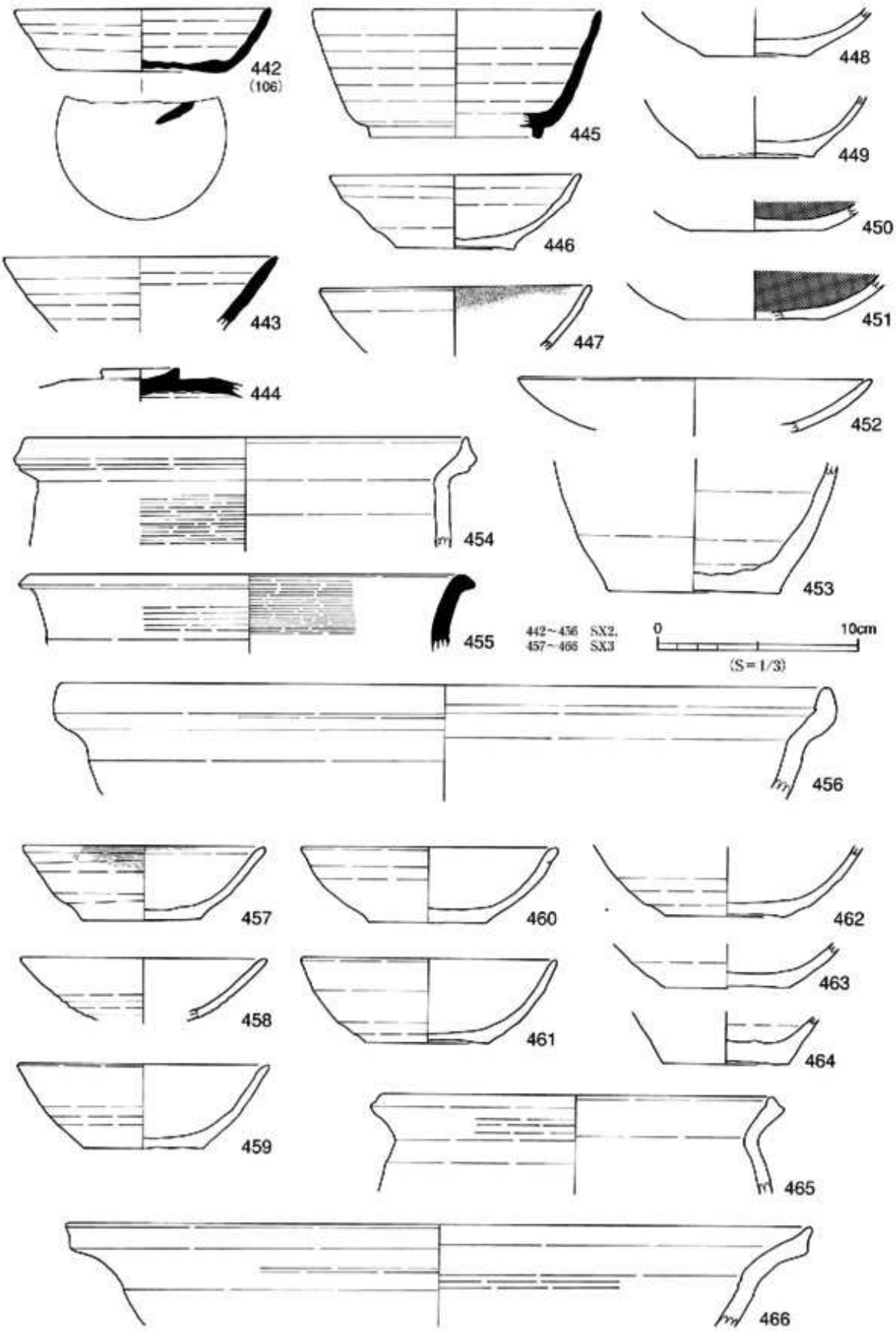
第64図　平安時代の遺構出土遺物18 (SK1・2)



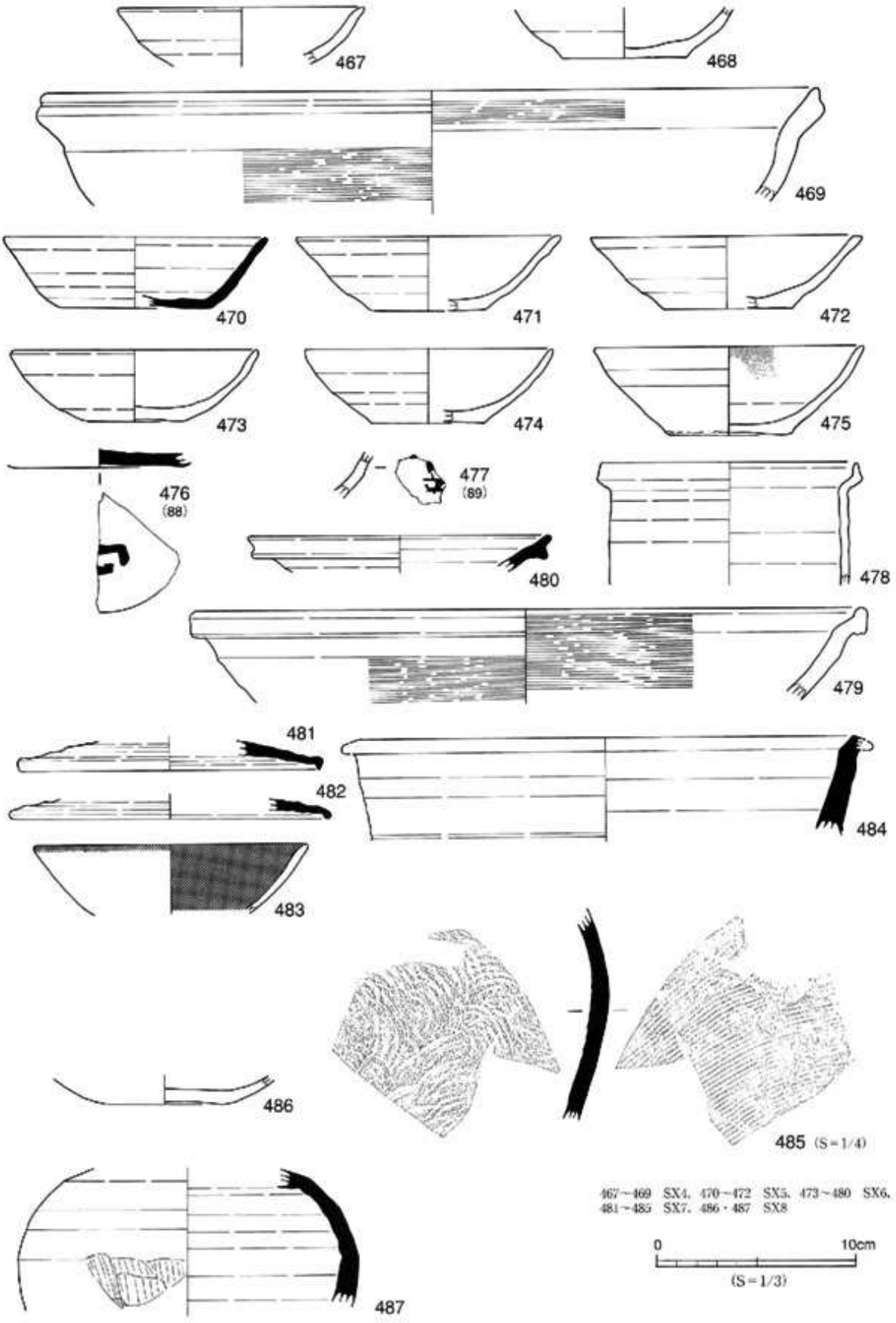
第65図　平安時代の遺構出土遺物19（SK4・5、第1・第2T集中区）



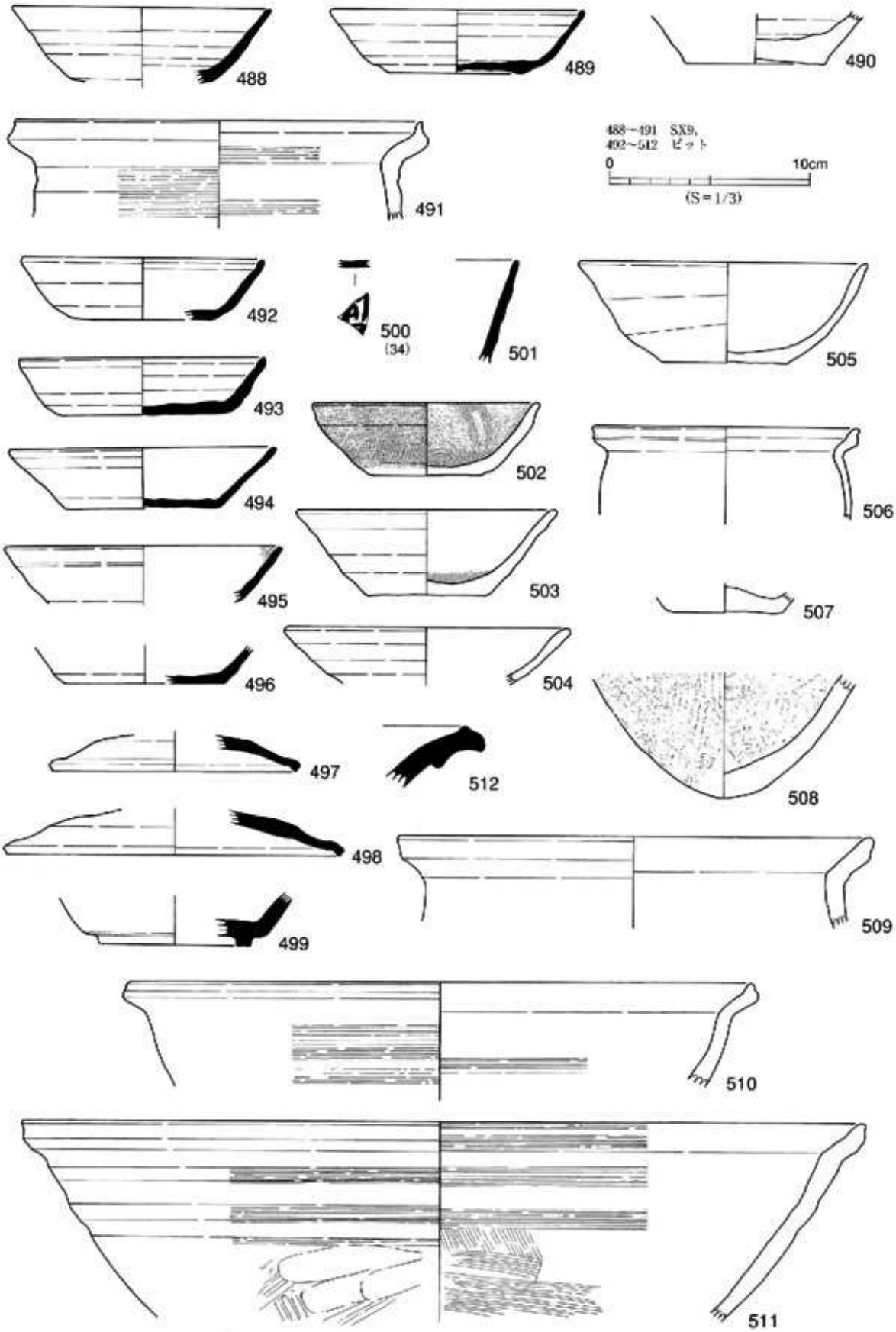
第66図　平安時代の遺構出土遺物20（第2・第4T集中区、SX1）



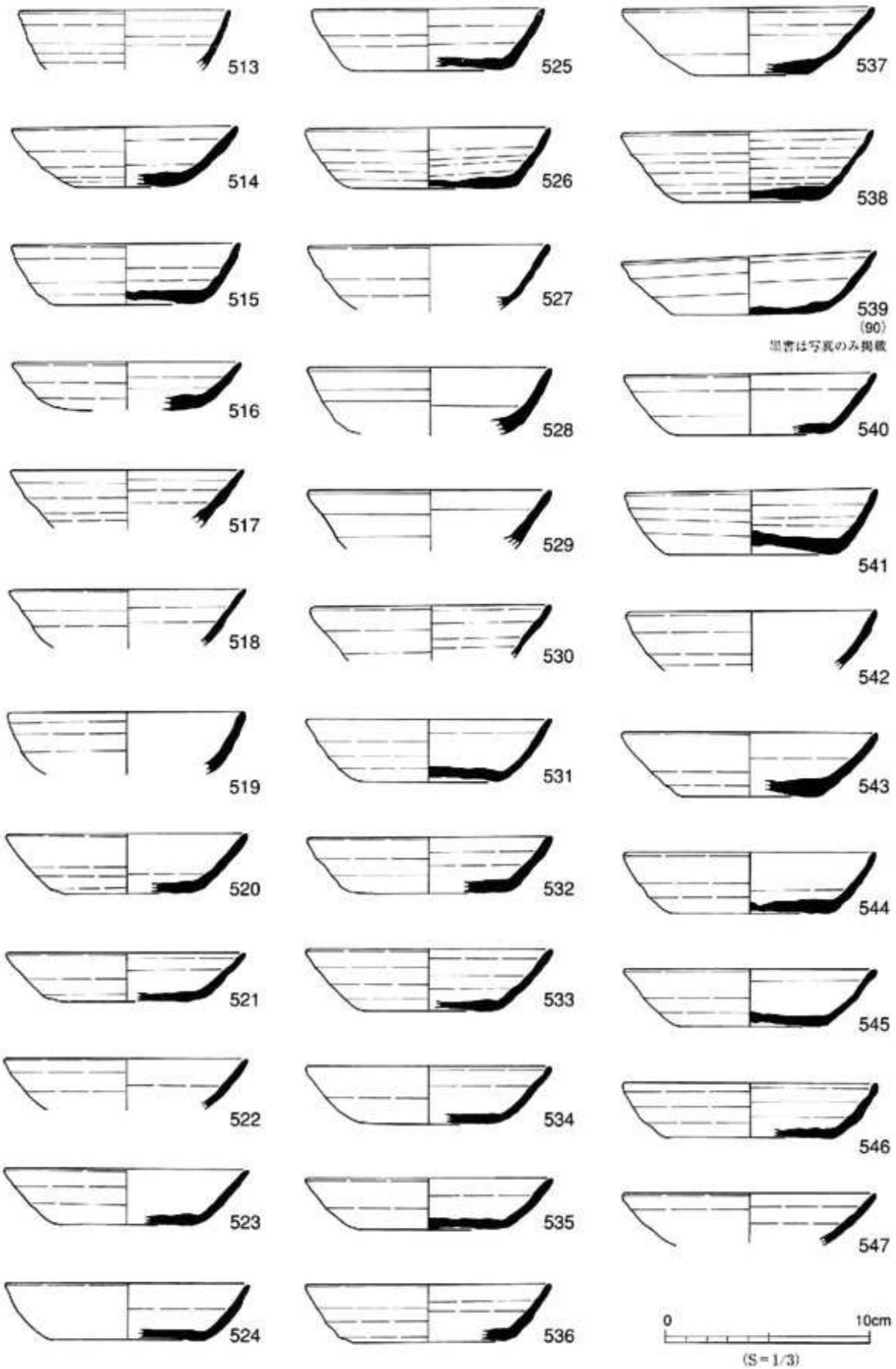
第67図　平安時代の遺構出土遺物21 (SX2・3)



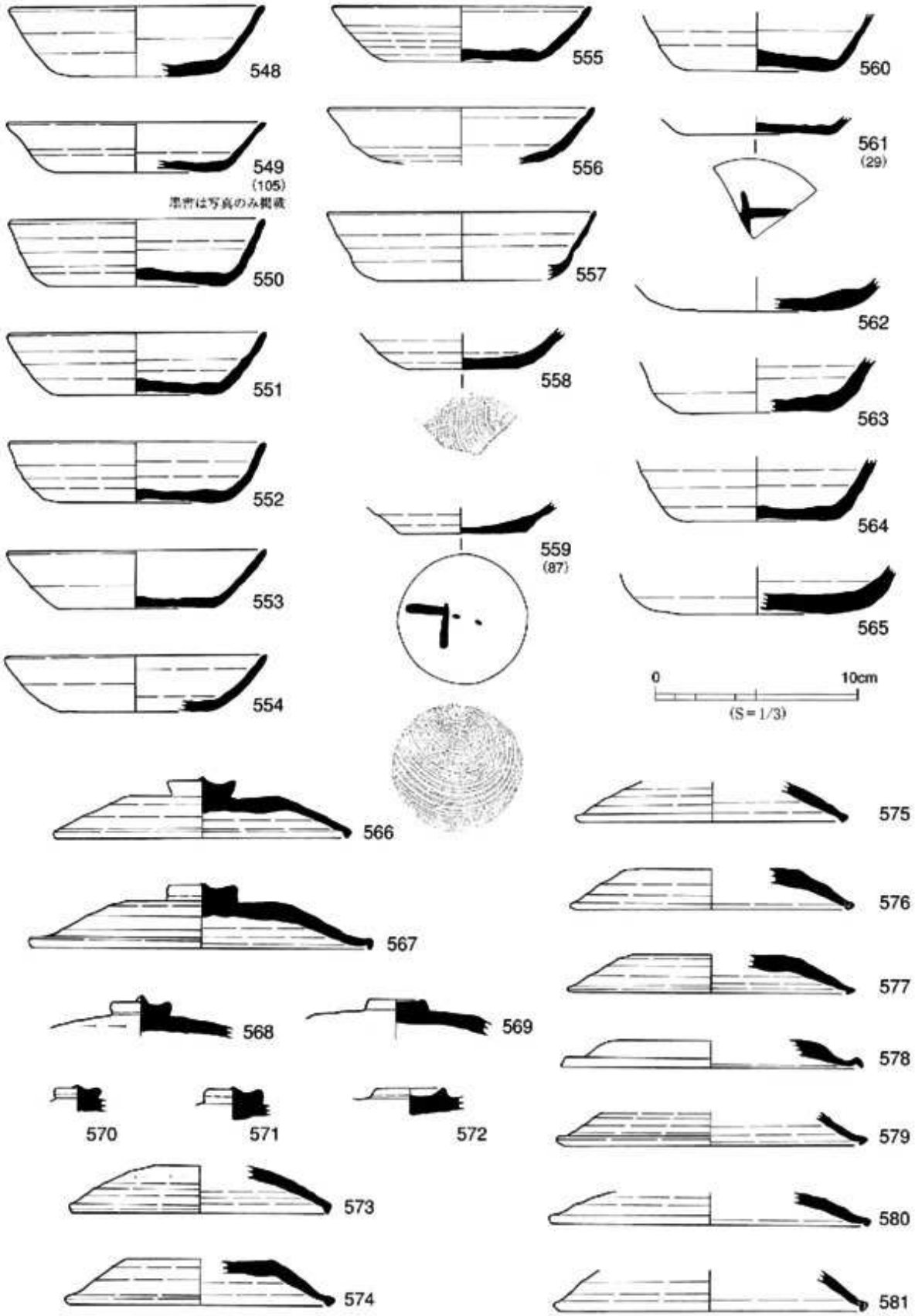
第68図　平安時代の遺構出土遺物22 (SX4～8)



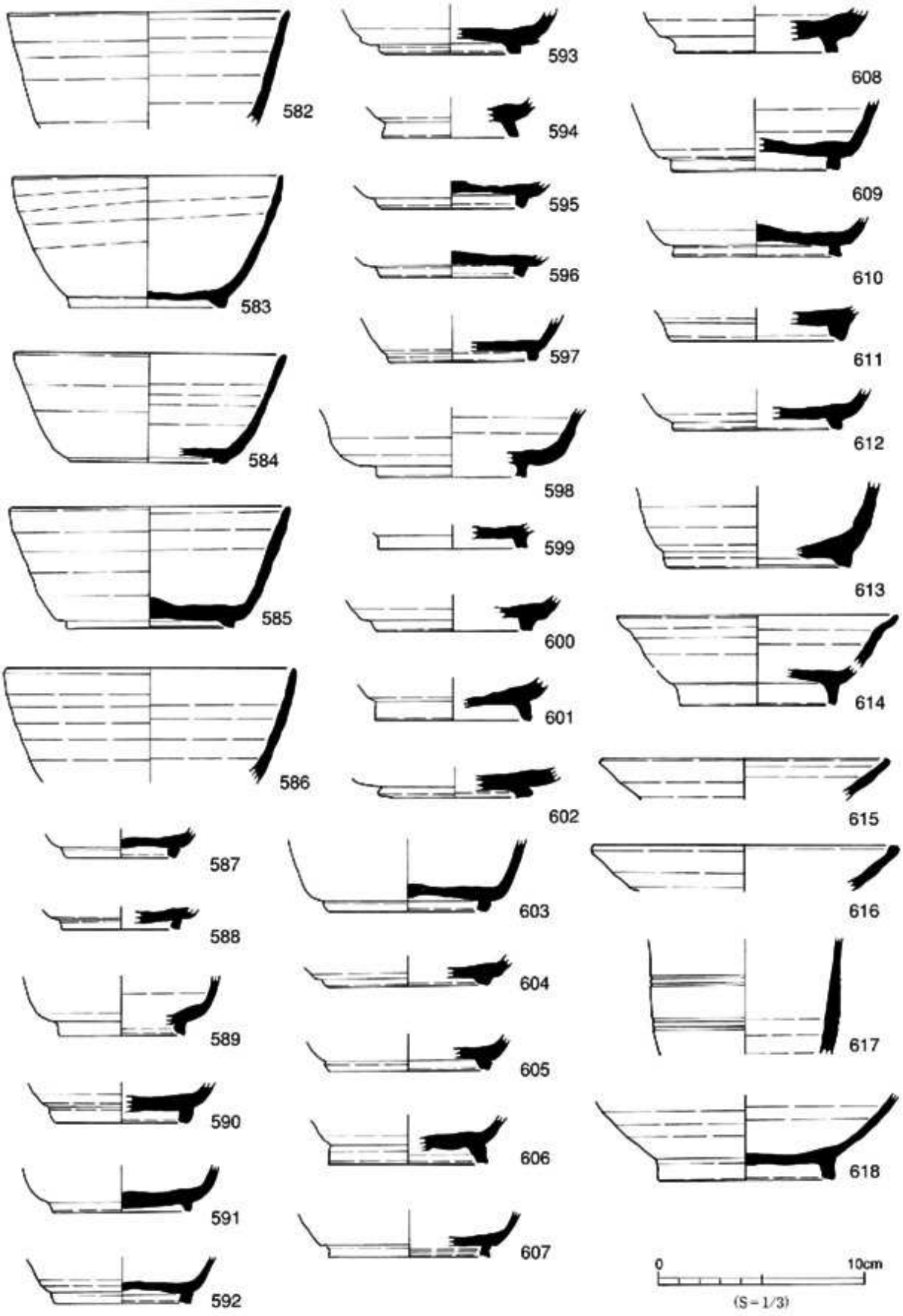
第69図　平安時代の遺構出土遺物23（SX9、ピット）



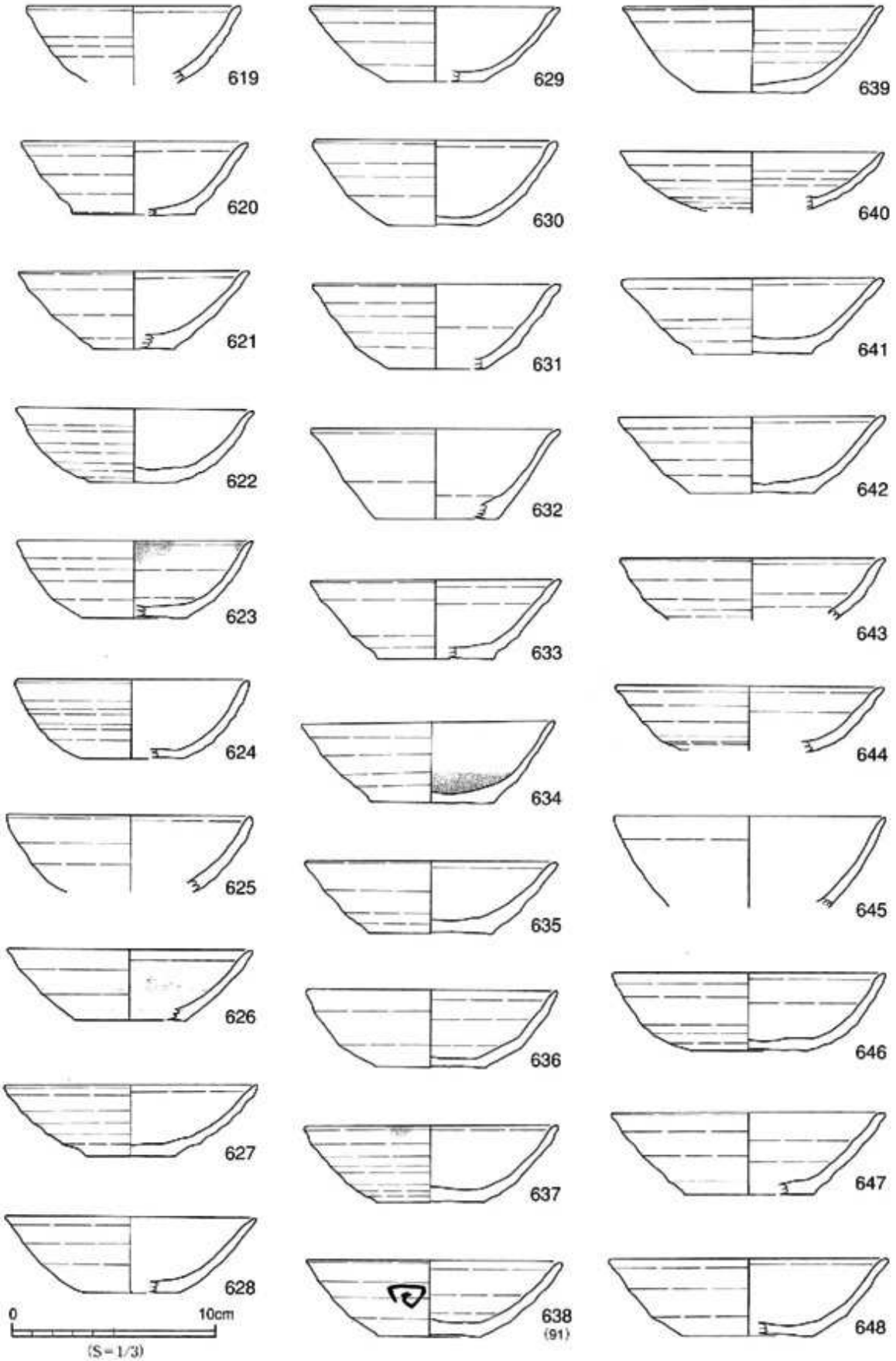
第70図　平安時代の遺構外出土遺物1



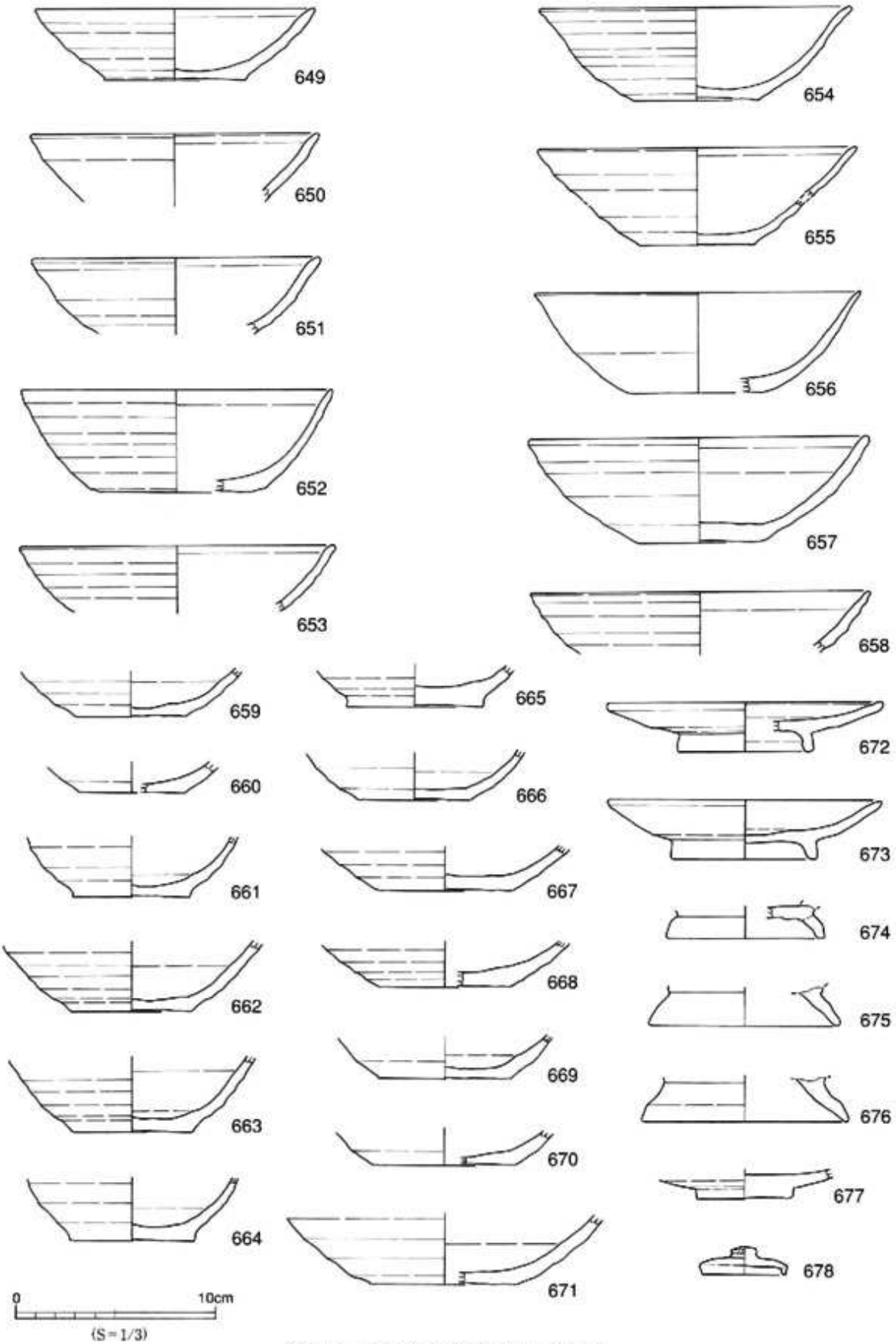
第71図　平安時代の遺構外出土遺物2



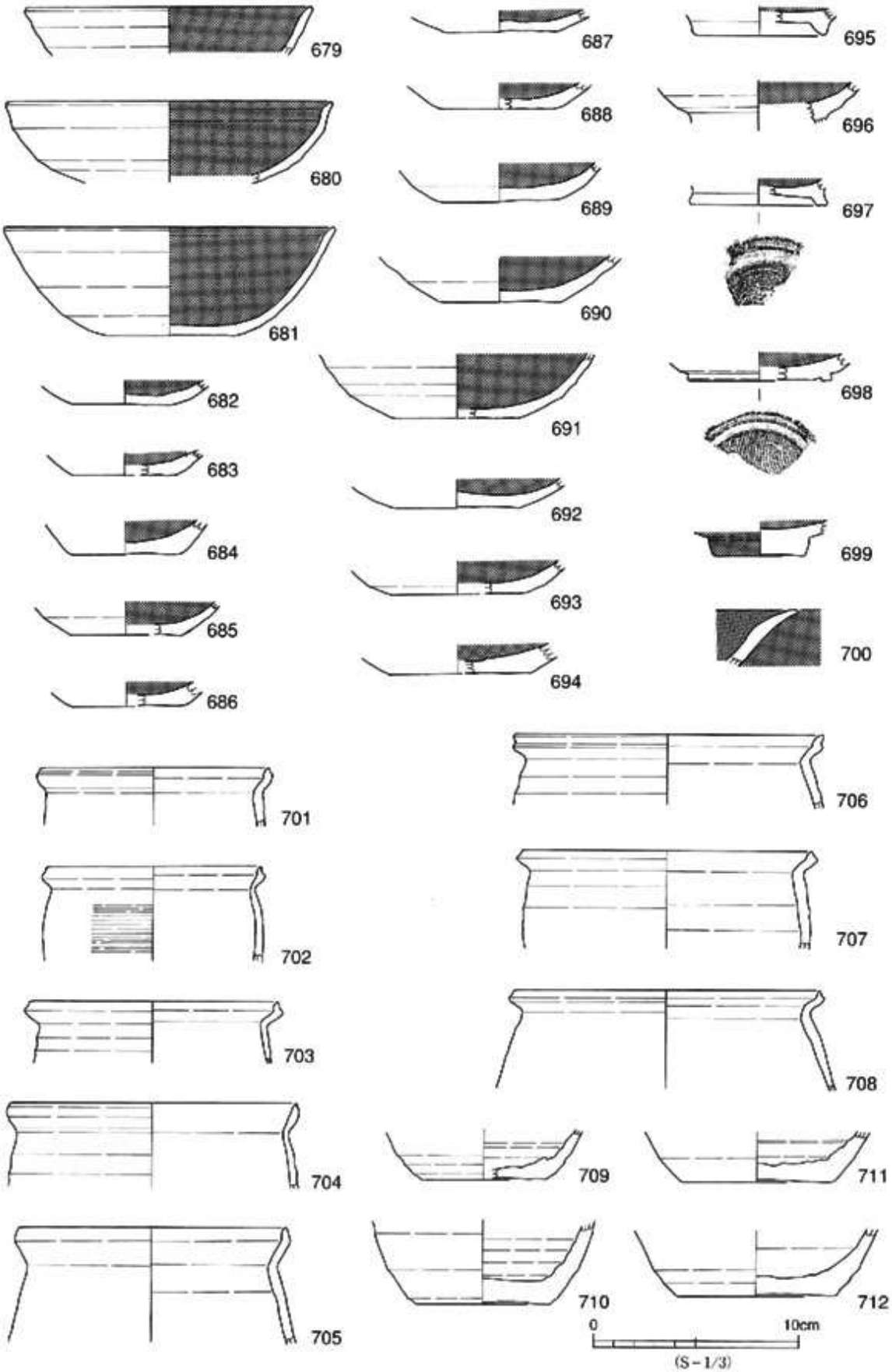
第72図　平安時代の遺構外出土遺物３



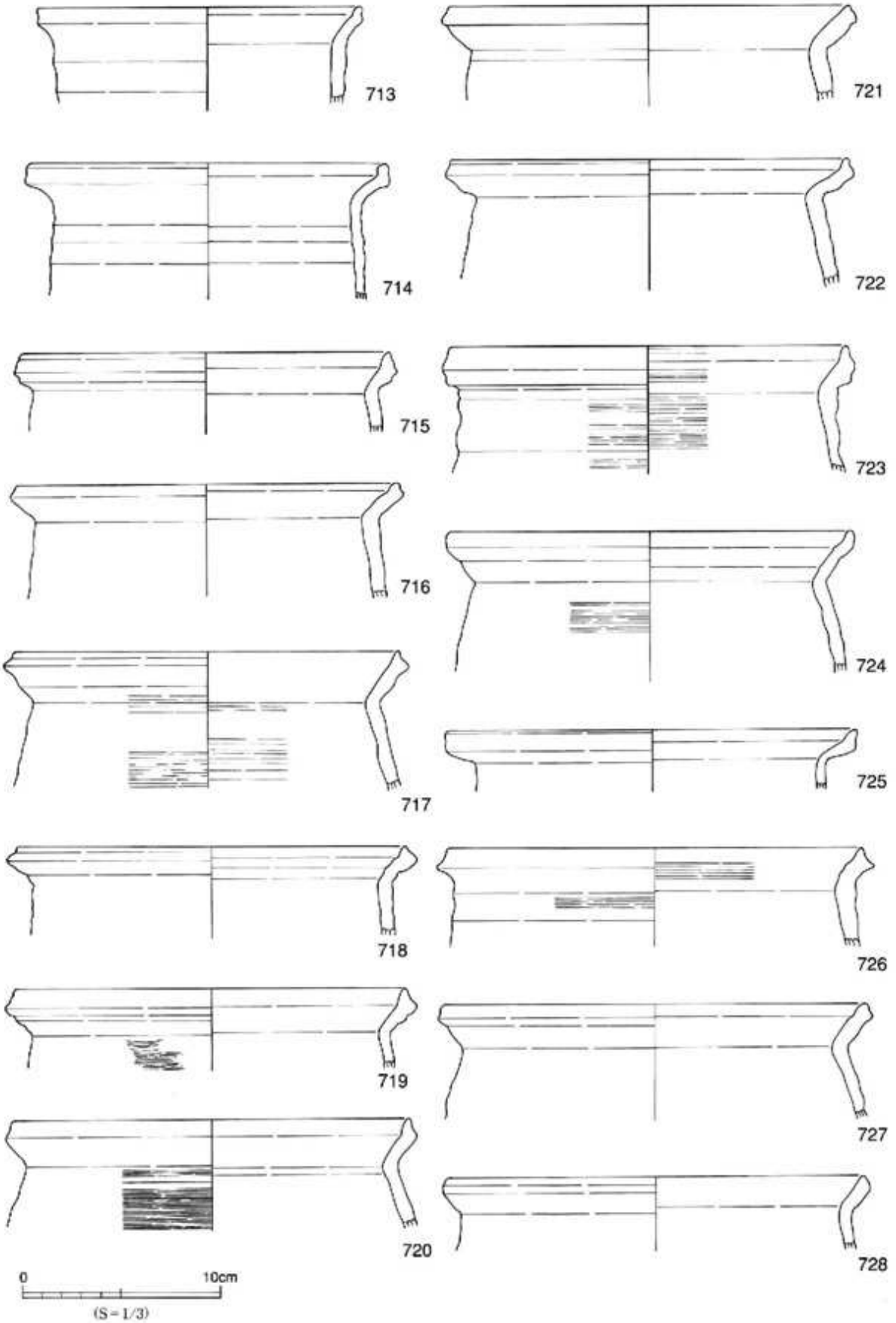
第73図　平安時代の遺構外出土遺物 4



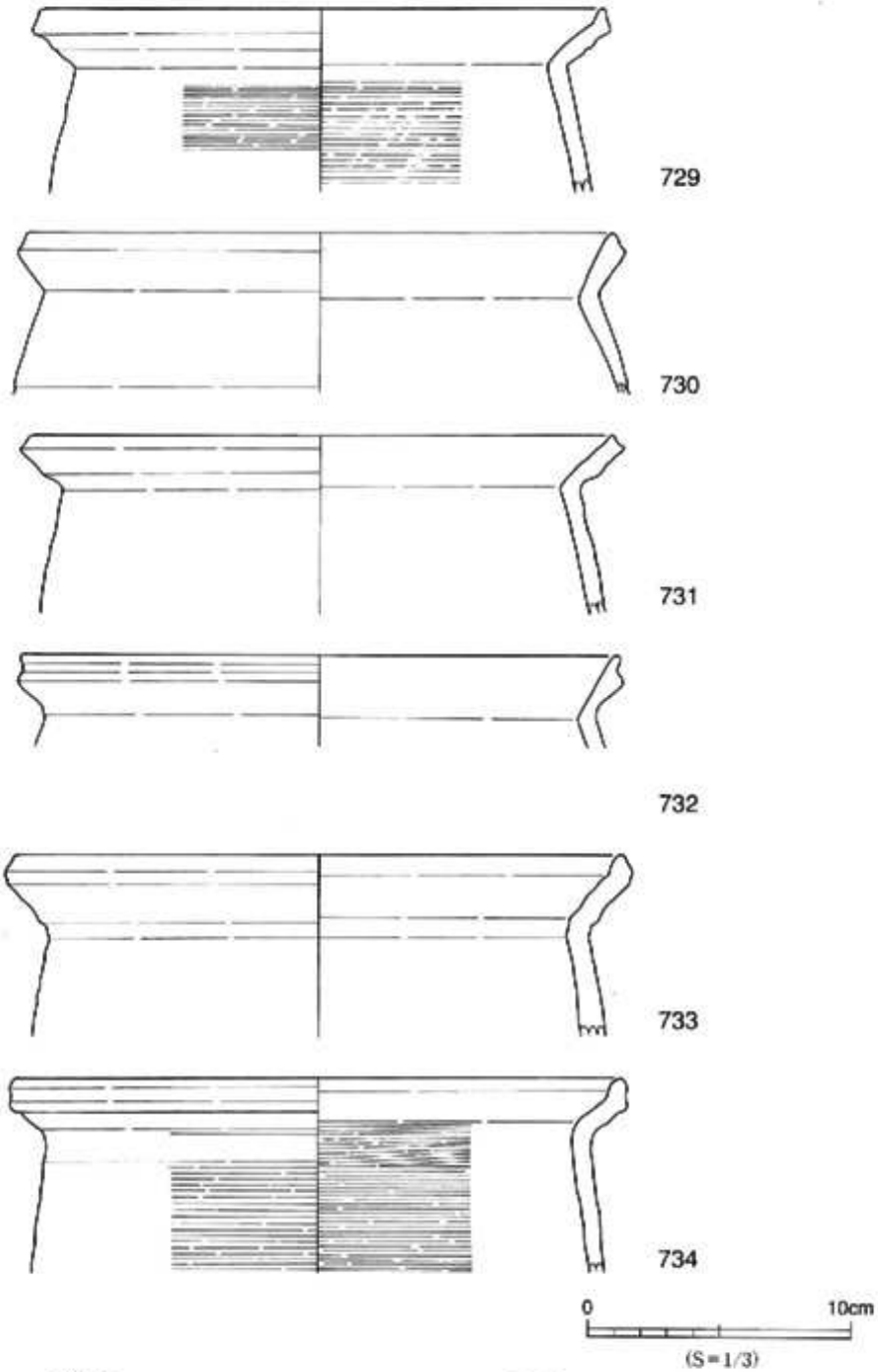
第74図　平安時代の遺構外出土遺物5

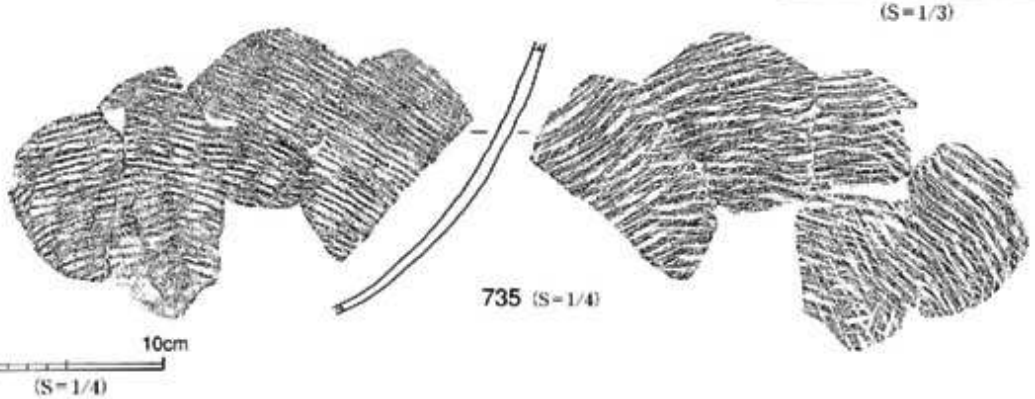


第75図　平安時代の遺構外出土遺物 6

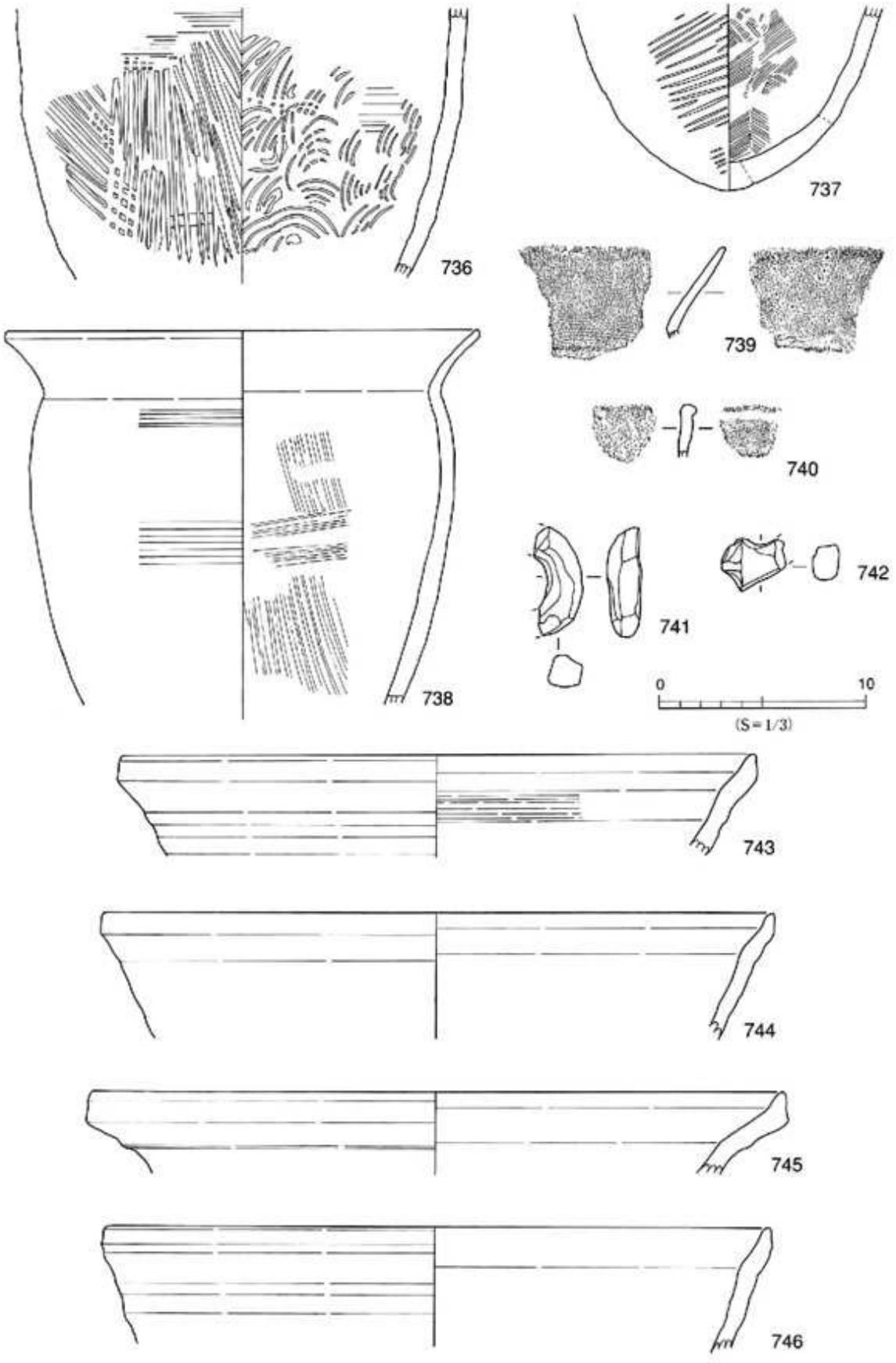


第76図　平安時代の遺構外出土遺物7

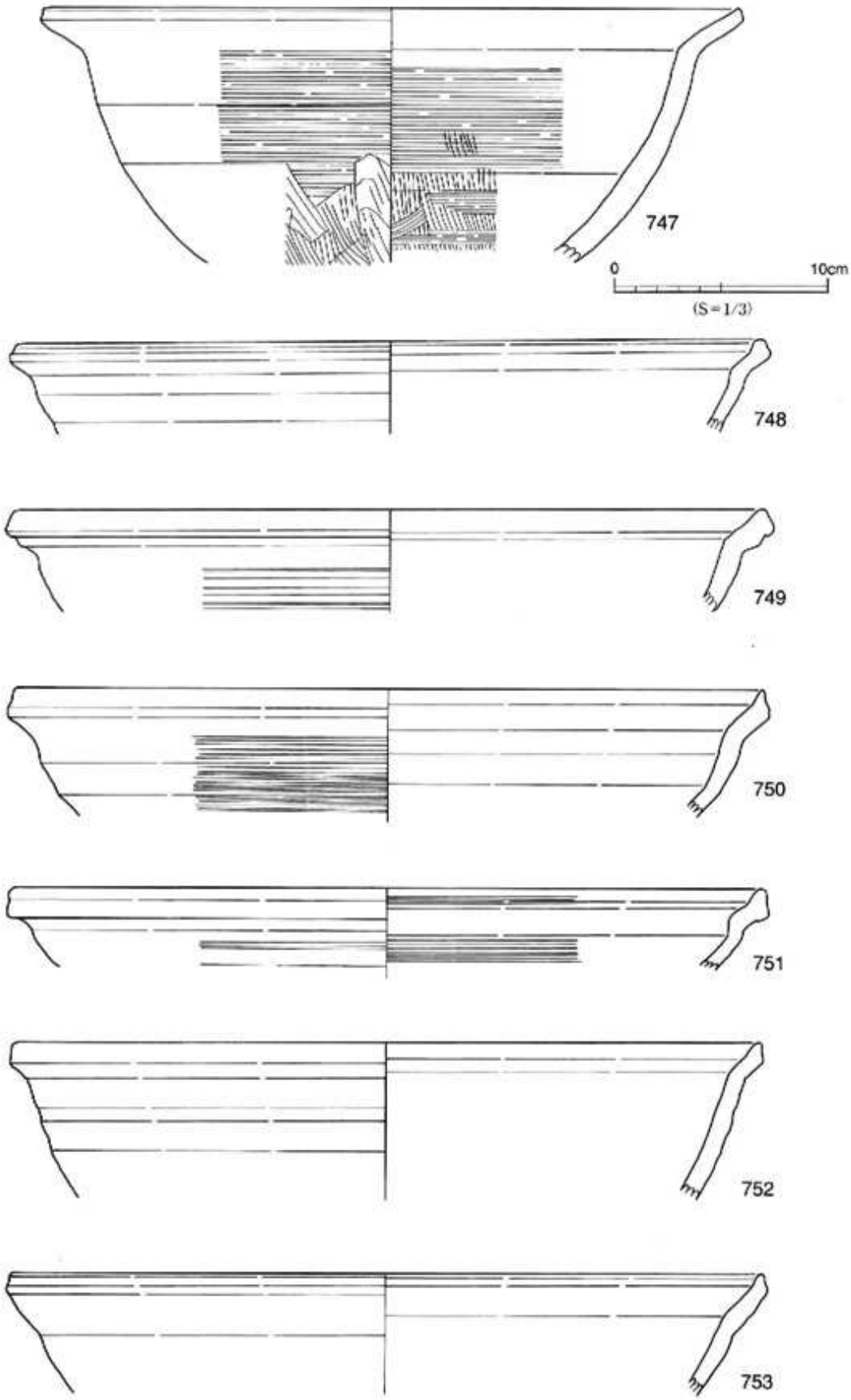




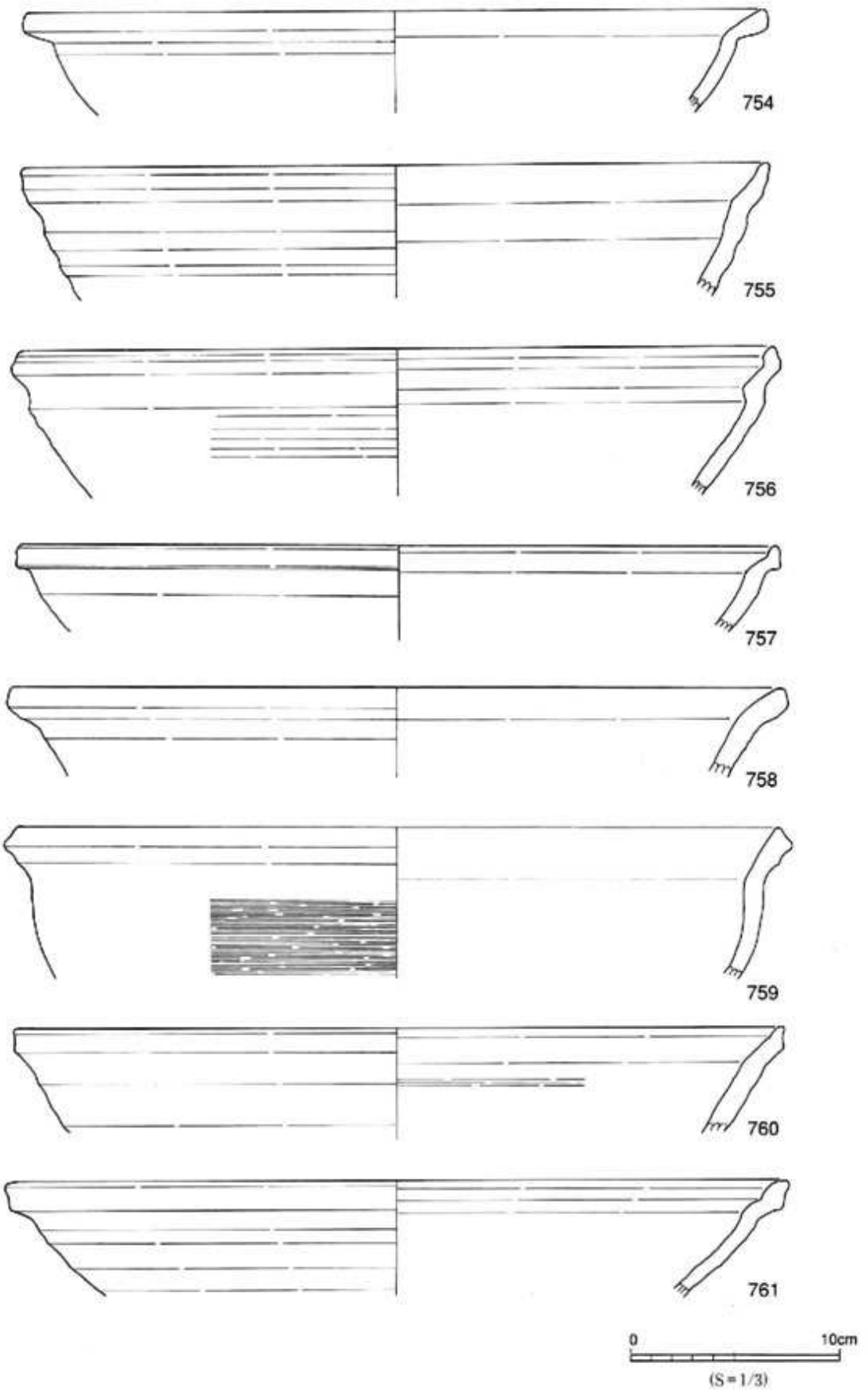
第77図　平安時代の遺構外出土遺物 8



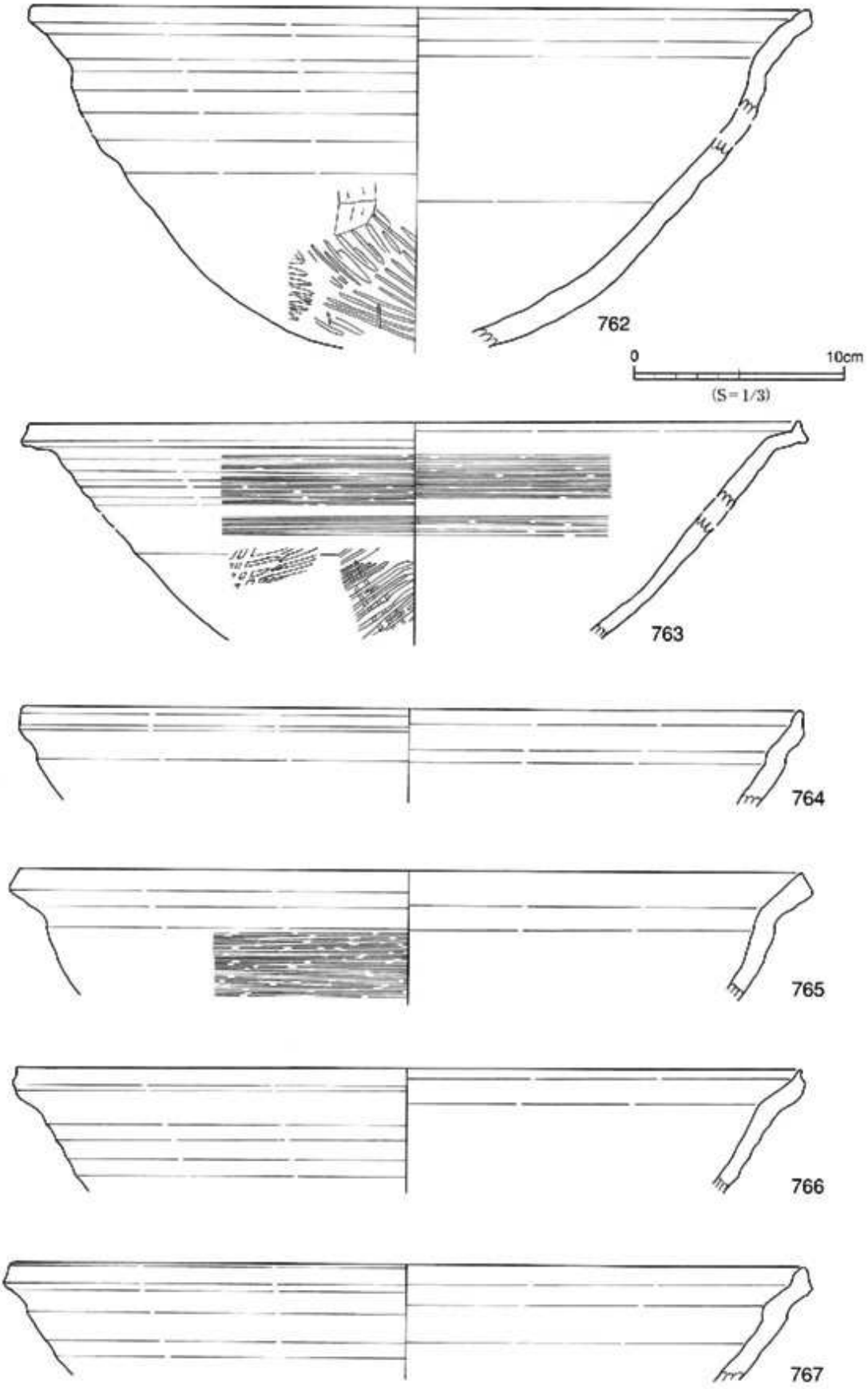
第78図　平安時代の遺構外出土遺物 9



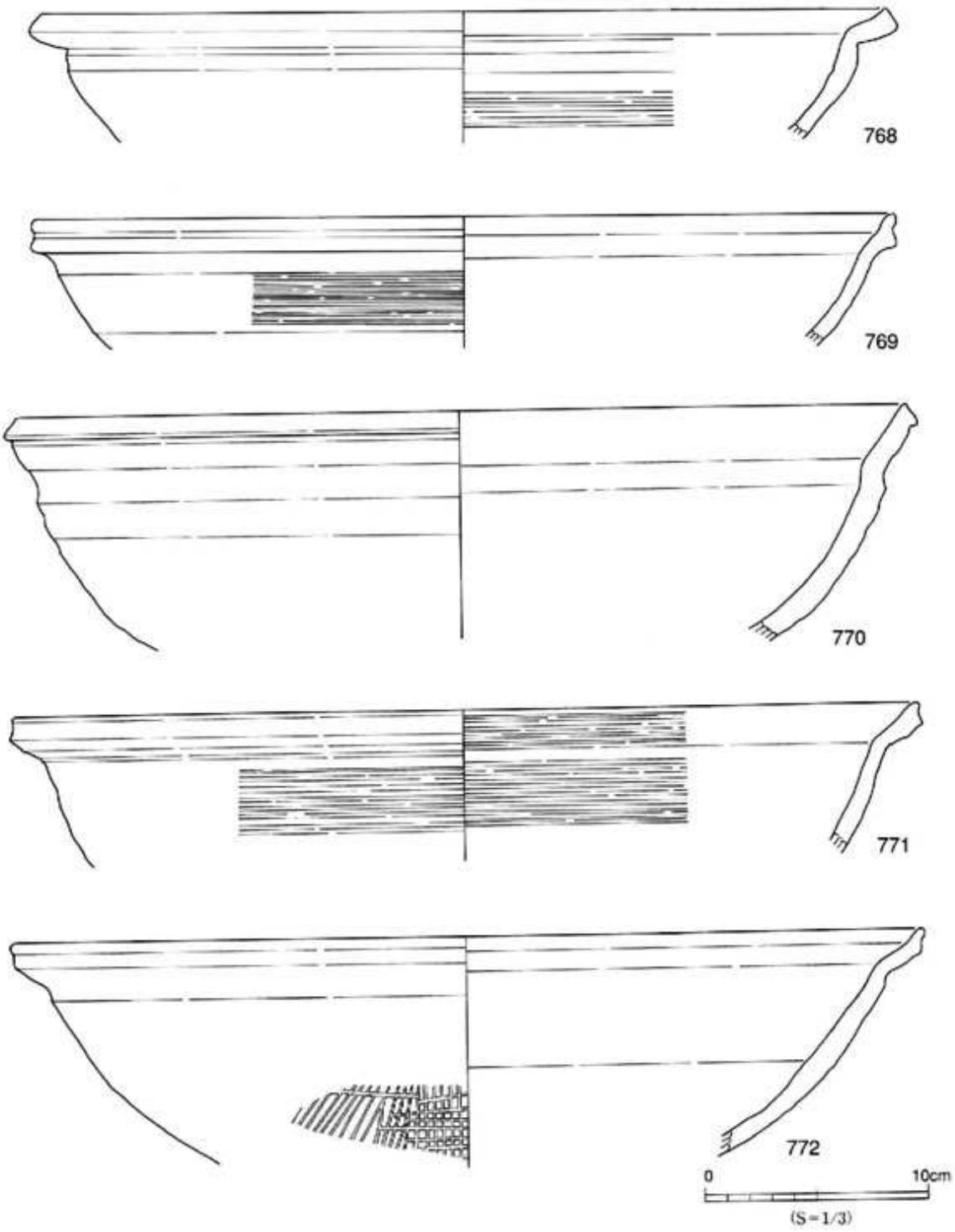
第79図　平安時代の遺構外出土遺物10



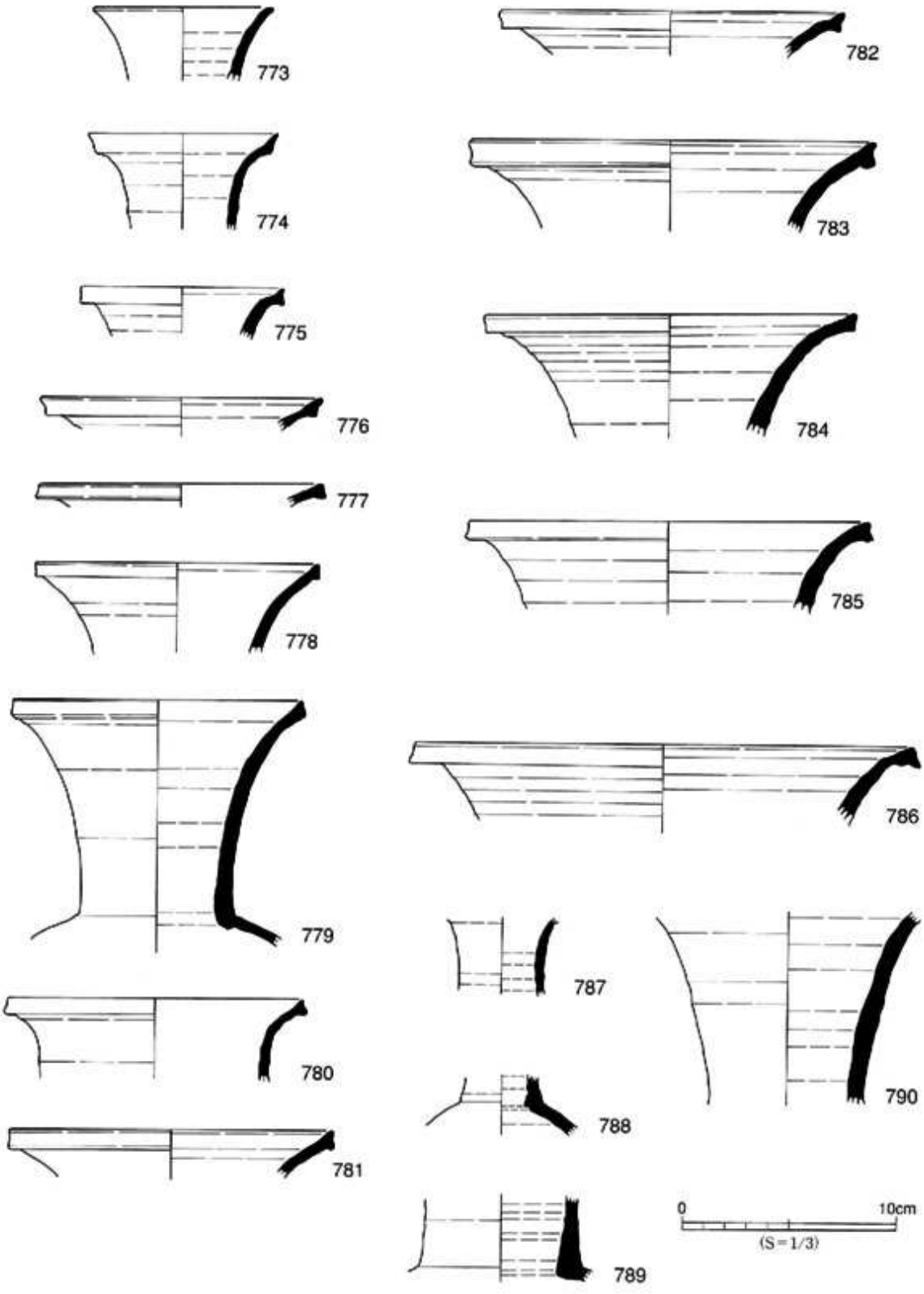
第80図　平安時代の遺構外出土遺物11



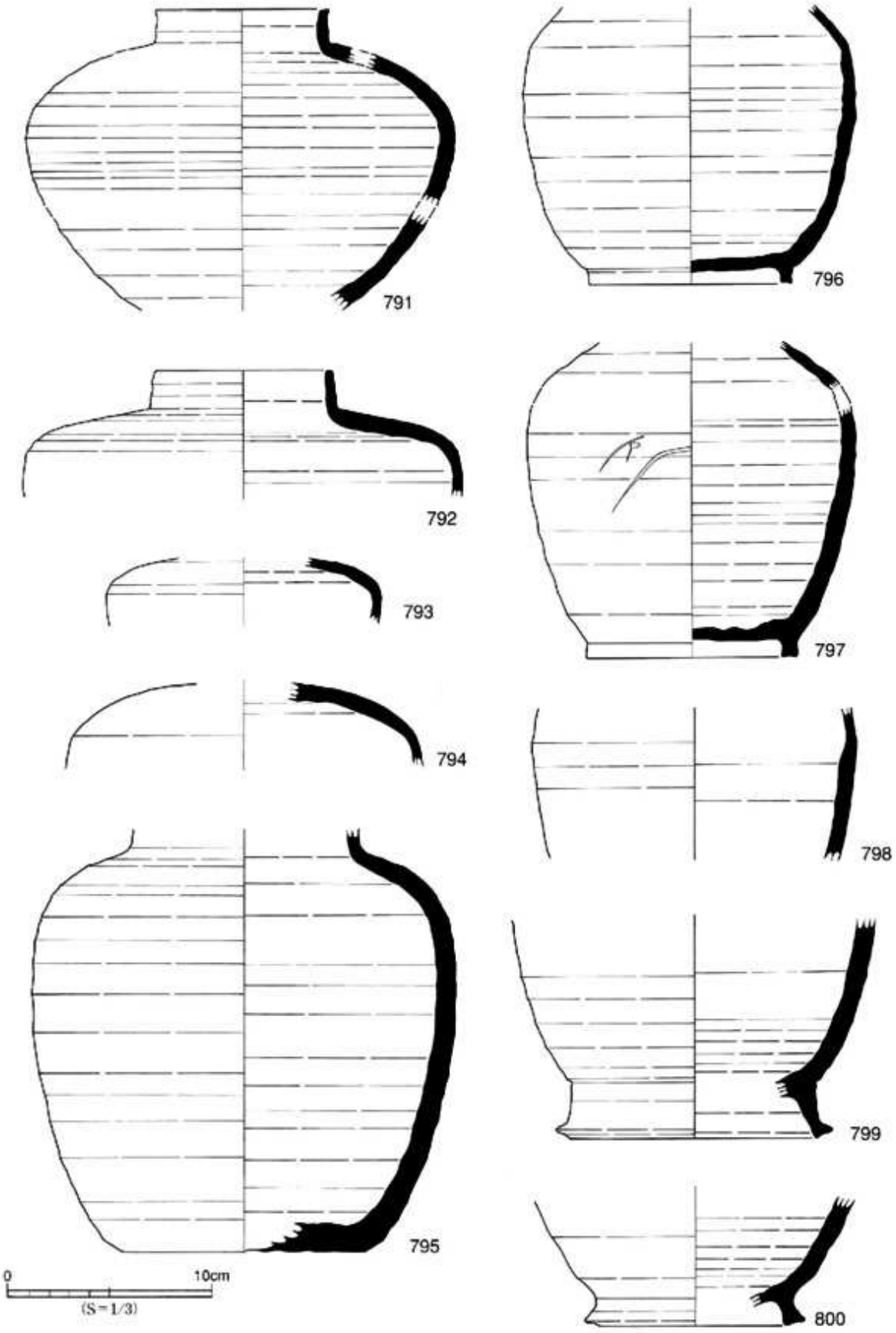
第81図　平安時代の遺構外出土遺物12



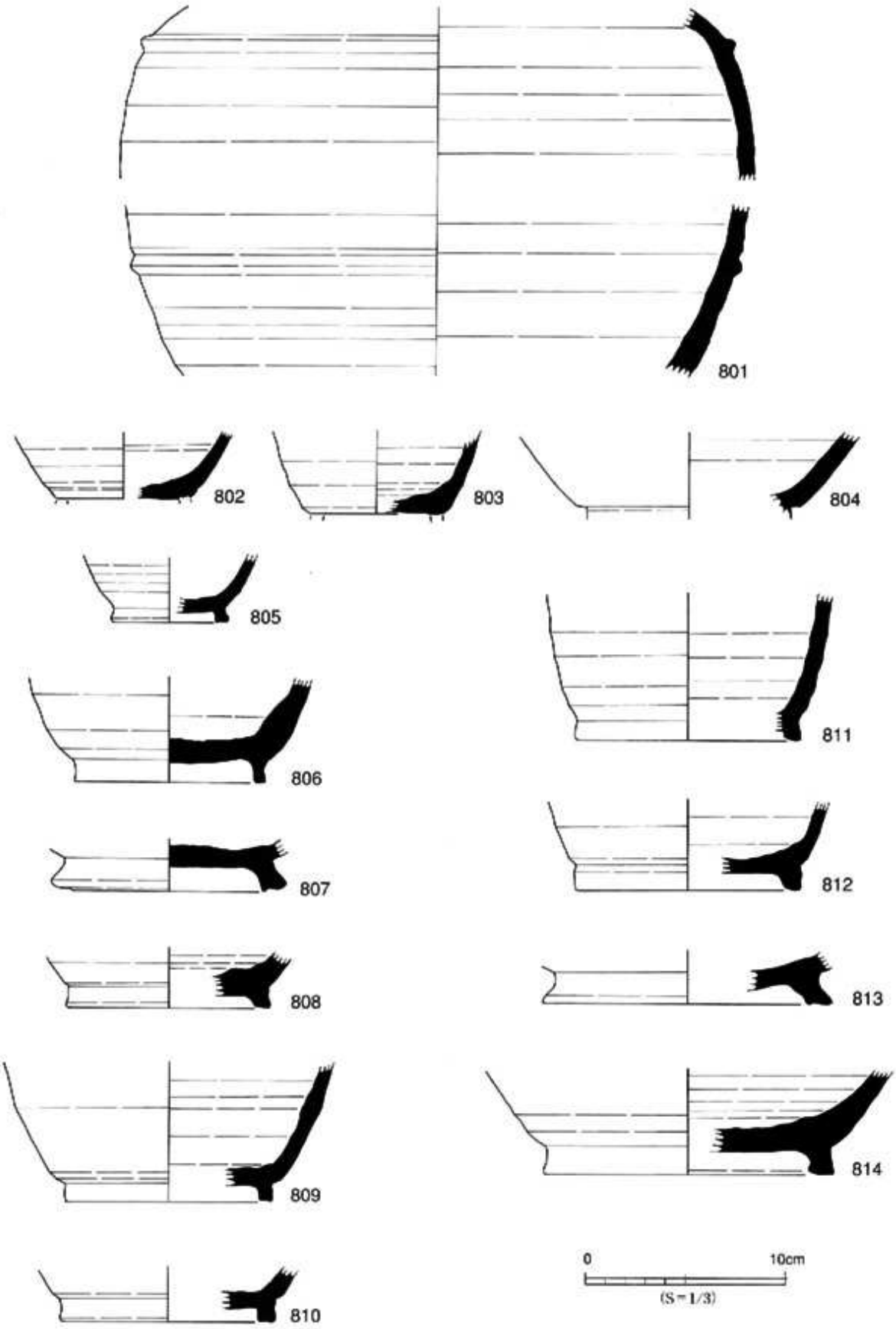
第82図　平安時代の遺構外出土遺物13



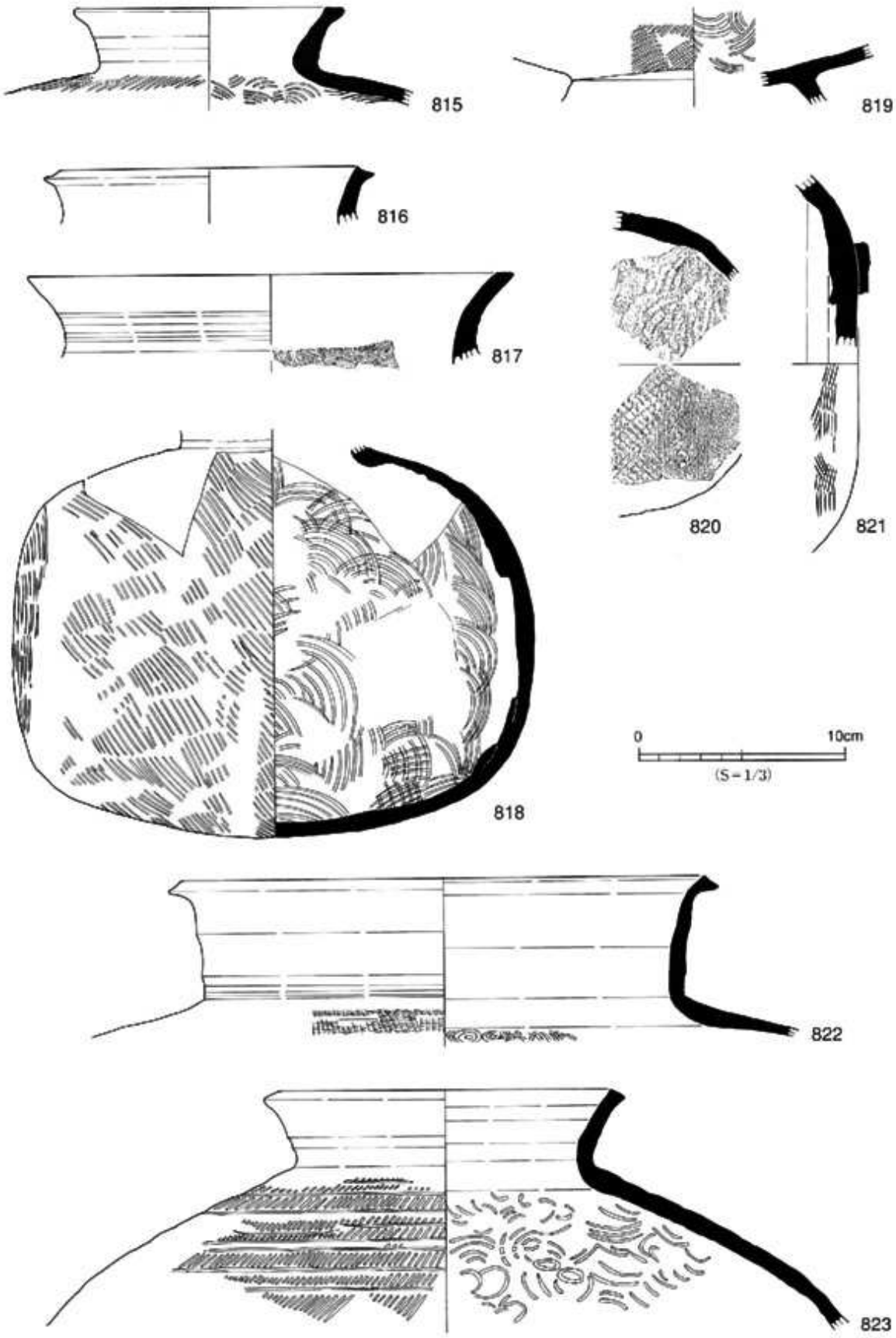
第83図　平安時代の遺構外出土遺物14



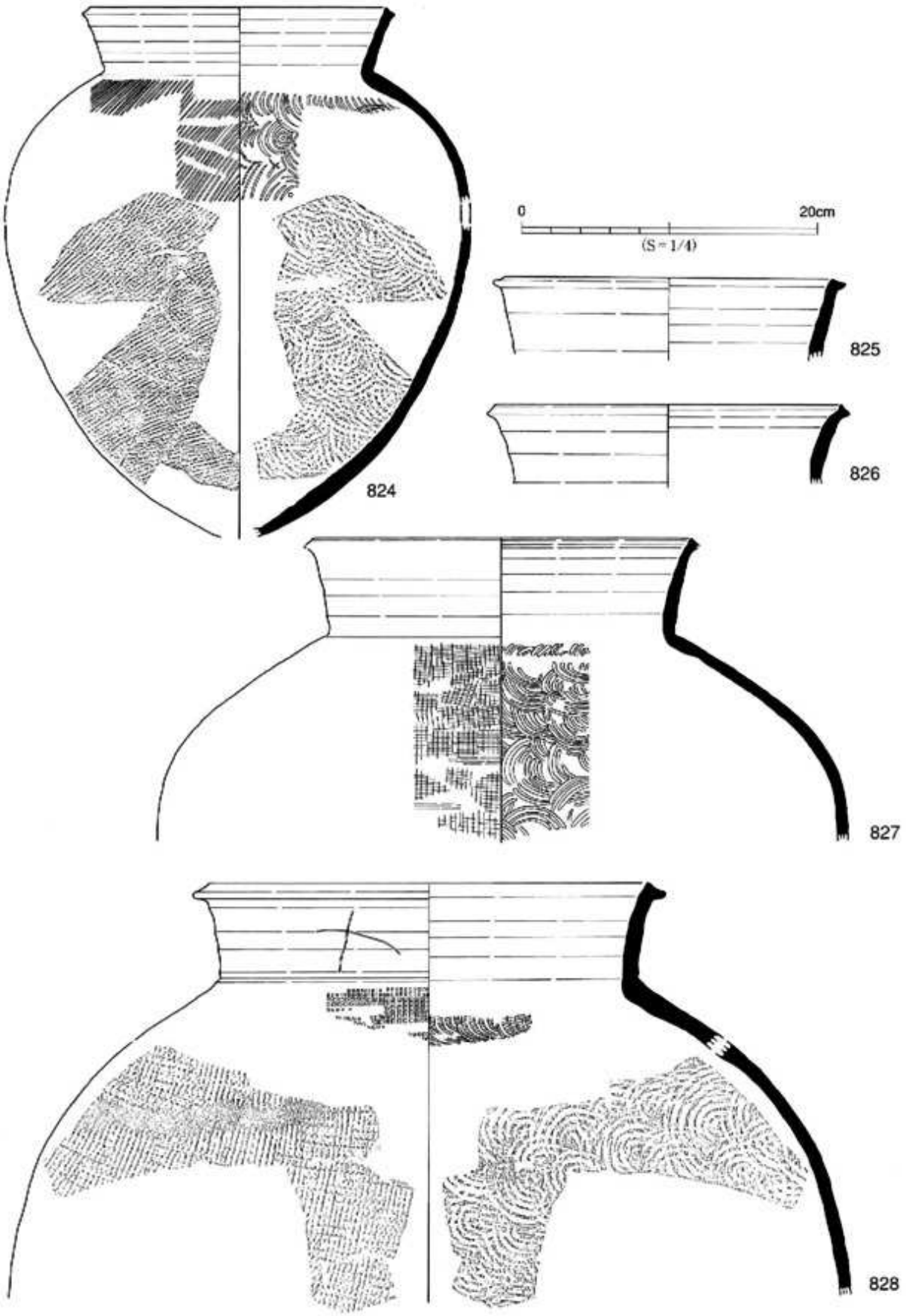
第84図　平安時代の遺構外出土遺物15



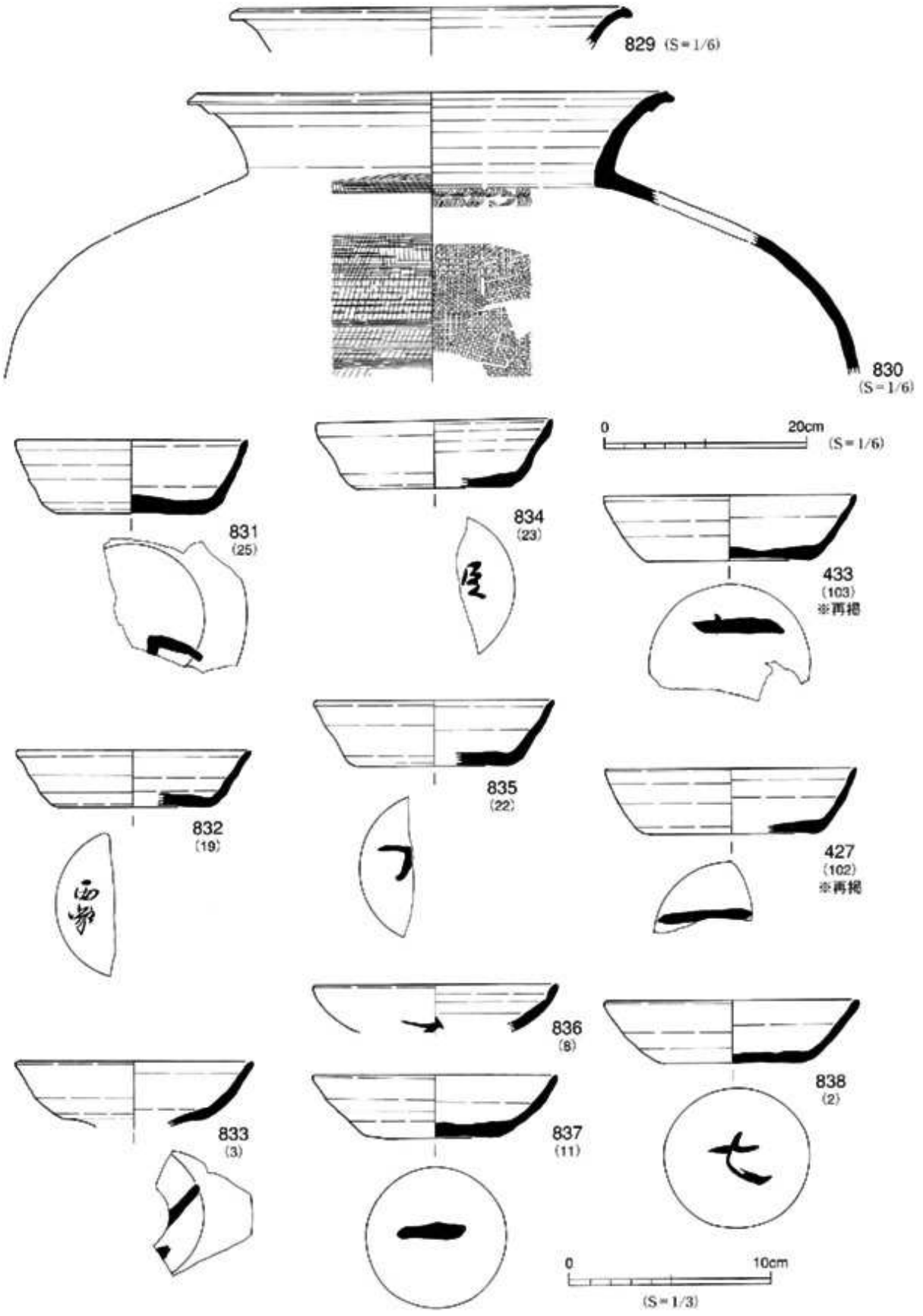
第85図　平安時代の遺構外出土遺物16



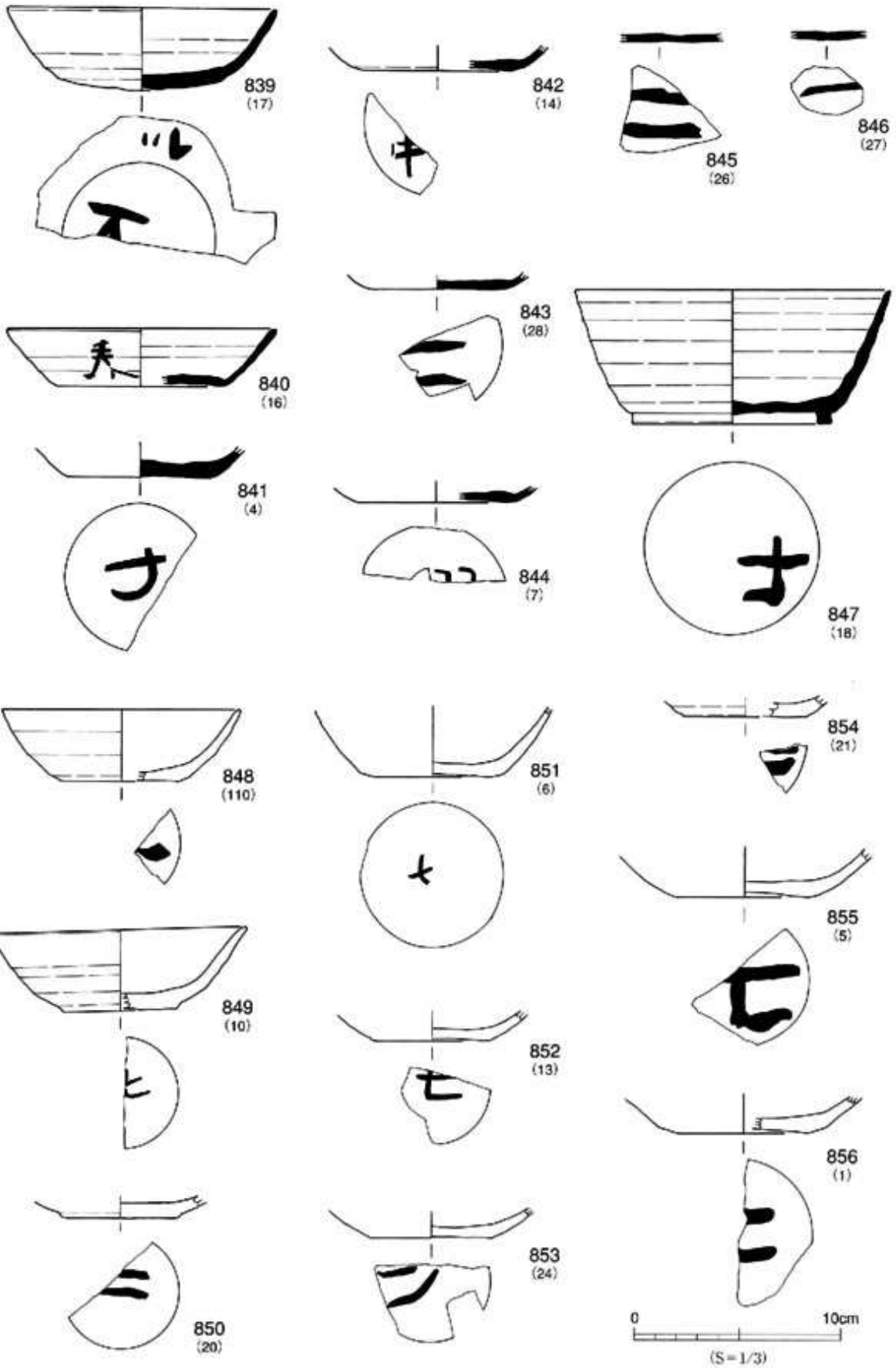
第86図　平安時代の遺構外出土遺物17



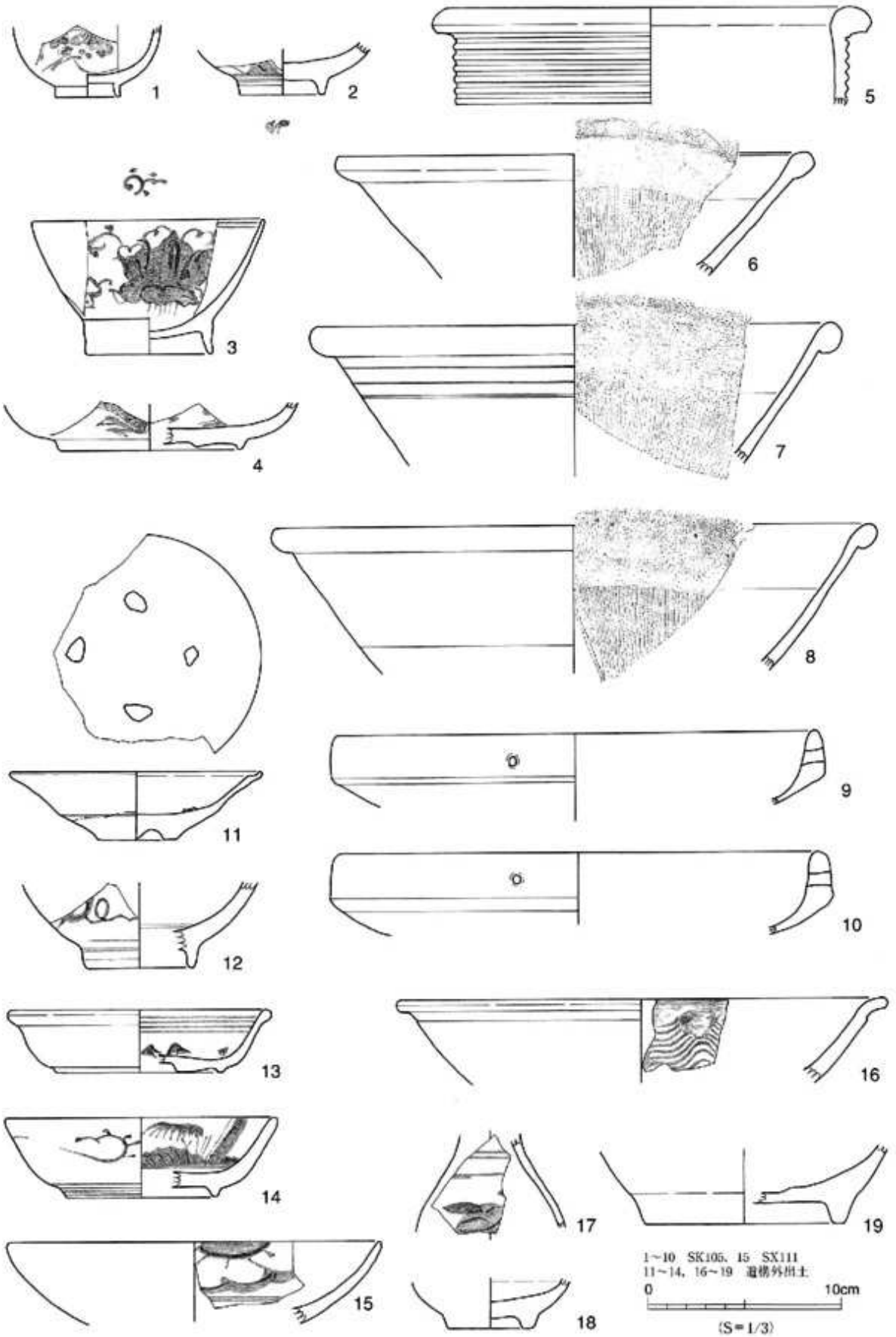
第87図　平安時代の遺構外出土遺物18



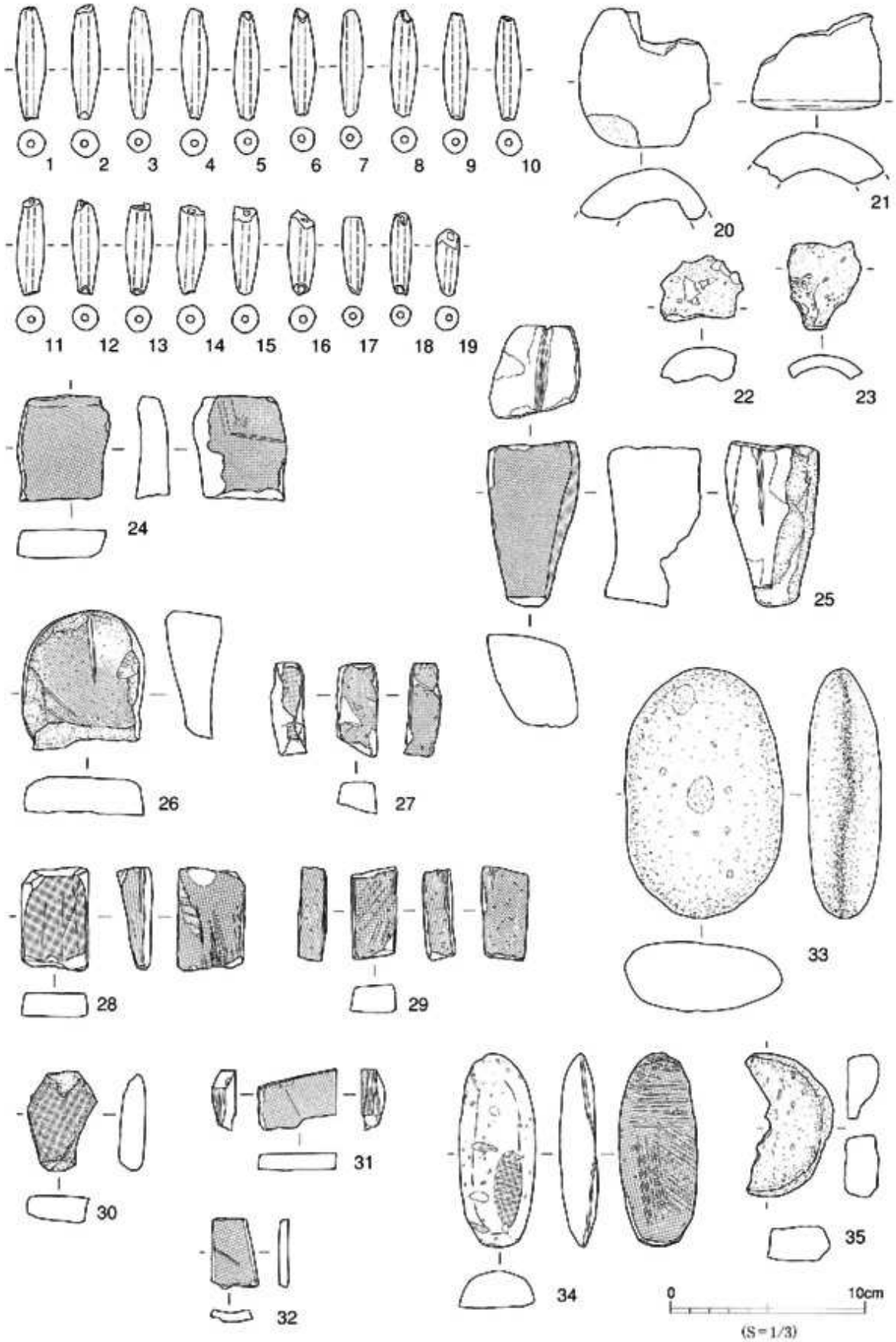
第88図　平安時代の遺構外出土遺物19



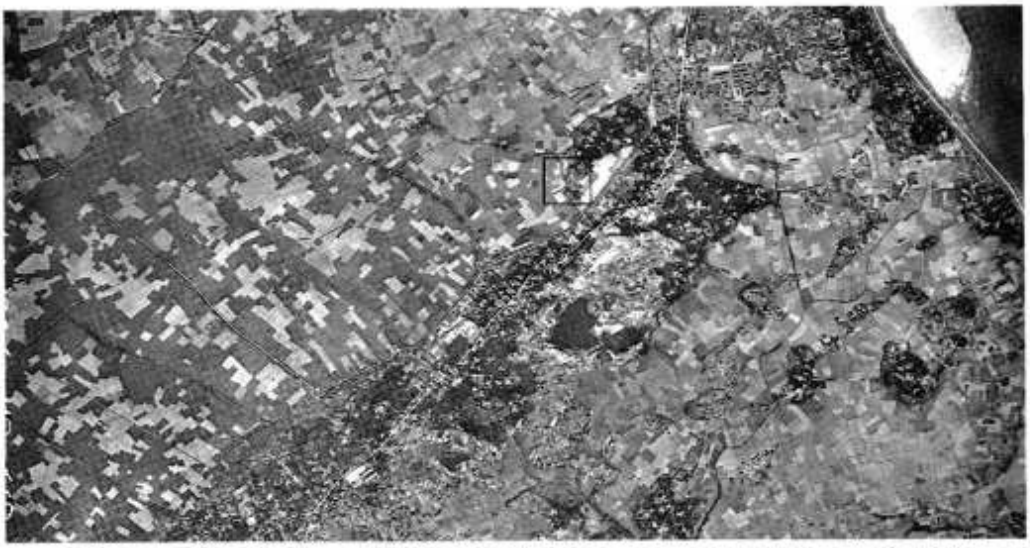
第89図　平安時代の遺構外出土遺物20



第90図　近世の主な陶磁器


1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34
35
0
10cm
(S=1/3)

第91図　土製品・石製品



小丸山遺跡と周辺
（1947年米軍撮影
国土地理院提供）

第１トレンチ
土層堆積状況

A7グリッド東壁
土層堆積状況

図版1　小丸山遺跡と周辺、第１トレンチ、A7グリッド東壁

SB1～3遠景
（南西から）

SB5・6遠景
（南から）

SB7・8遠景
（南西から）

図版2　平安時代の遺構1（SB1～3・5～8）

畝状小溝7群
（北東から）

SB11・SB12
（北西から）

畝状小溝4群・SD5
（南西から）

図版3　平安時代の遺構2（SB11・12、SD5、畝状小溝4群・7群）

SB1～3
（南東から）

SB5･6
（西から）

SD2土層断面

図版4　平安時代の遺構3（SB1～3・5・6、SD2）

SB11A、SD3A・B（西から）

SB11A p15土器出土状況

SD3A土層断面（南から）

左：SD3B（東から）
右：SD3B土層断面（東から）

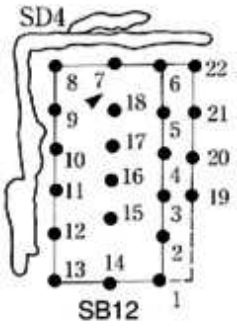
図版5　平安時代の遺構4（SB11A、SD3、SB11A p15）

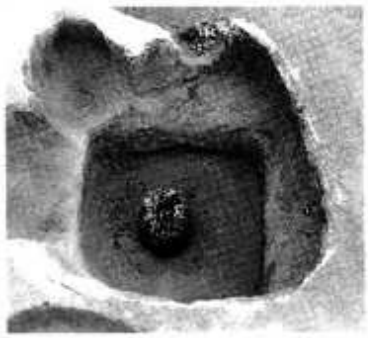
SB12、SD4A～C（西から）

SD4B・4C遺物出土状況（西から）

SD4A土層断面（南から）

図版6　平安時代の遺構5（SB12、SD4）

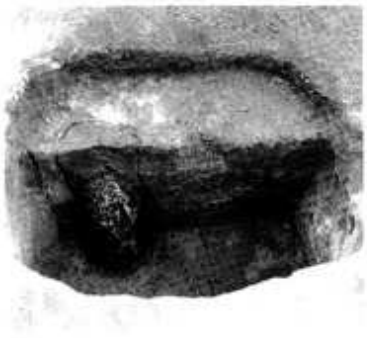




p1　柱根出土状況

p2　柱根出土状況

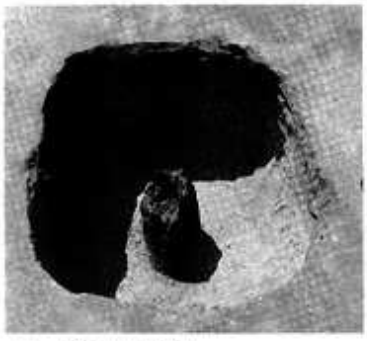
p3　柱根出土状況



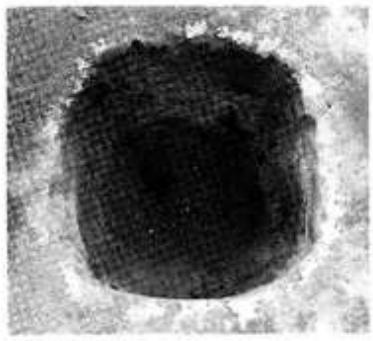
p4　土層断面

p4　柱根出土状況

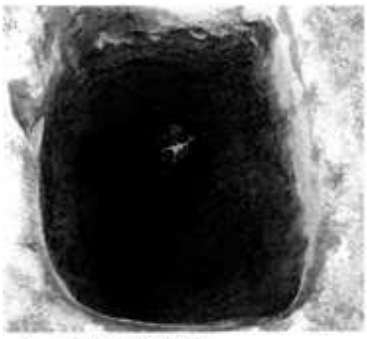
p5　土層断面



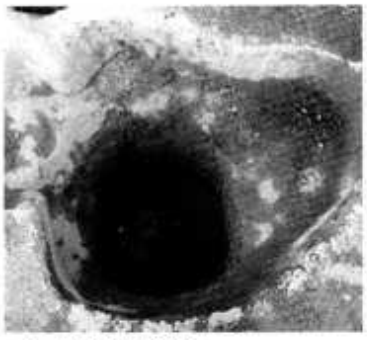
p5　柱根出土状況



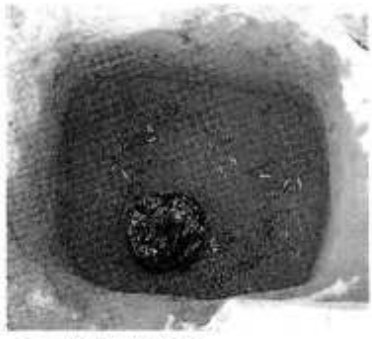
p6　完掘



p7　柱根出土状況

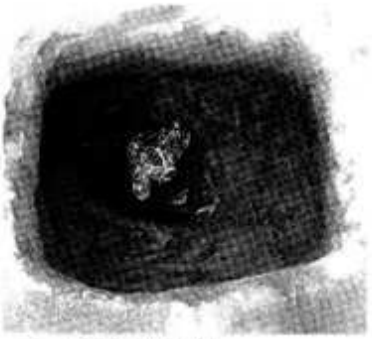


p8　柱根出土状況

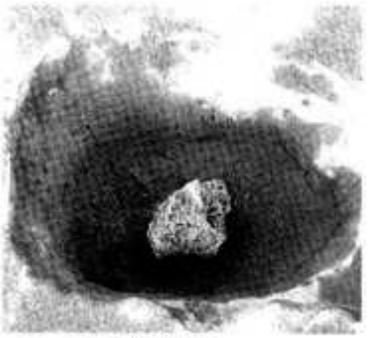


p9　柱根出土状況

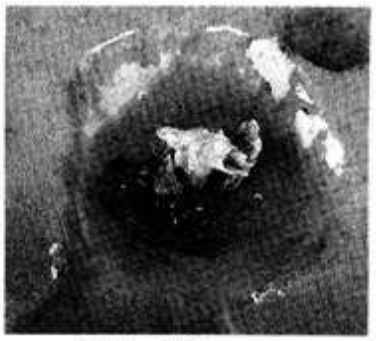
図版7　平安時代の遺構6（SB12第1～9柱穴）



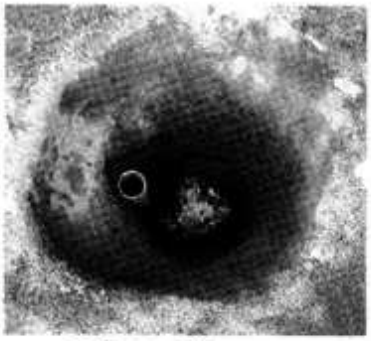
p10　柱根出土状況



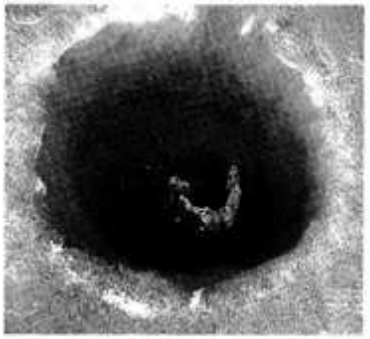
p11　柱根出土状況



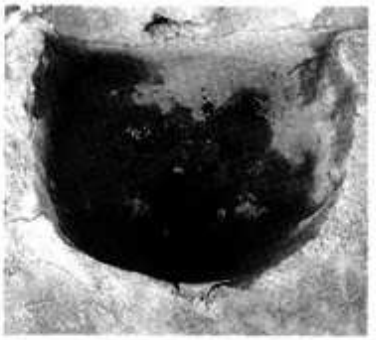
p12　柱根出土状況



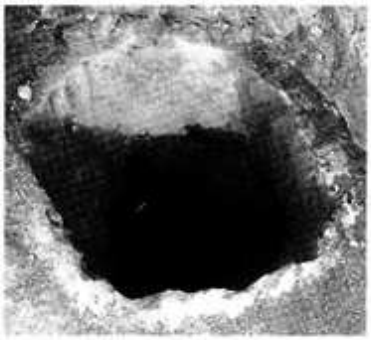
p13　柱根出土状況



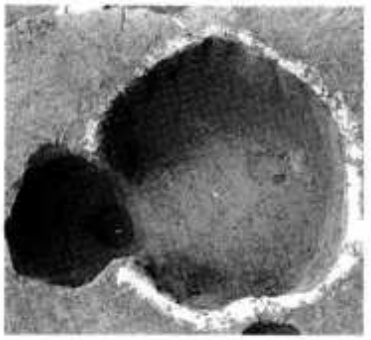
p14　柱根出土状況



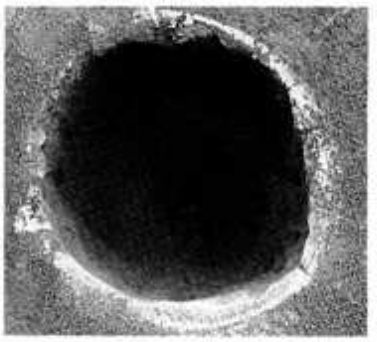
p15　柱根出土状況



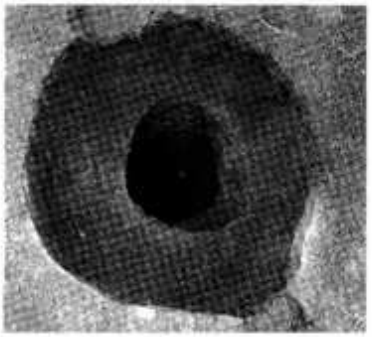
p16　完掘



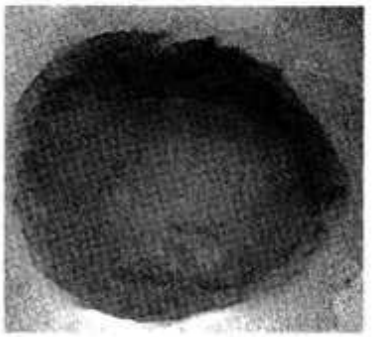
p17　完掘



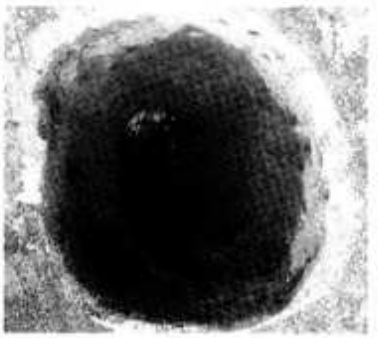
p18　完掘



p19　完掘



p20　完掘



p21　柱根出土状況

図版8　平安時代の遺構7（SB12第10~21柱穴）

SE1　土層断面（南から）

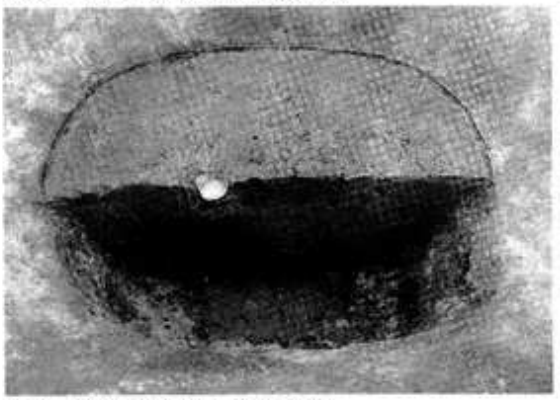
SE2　土層断面（西から）

SE2　木の根出土状況

SE2　井戸枠出土状況

SE3　上部土層断面（南東から）

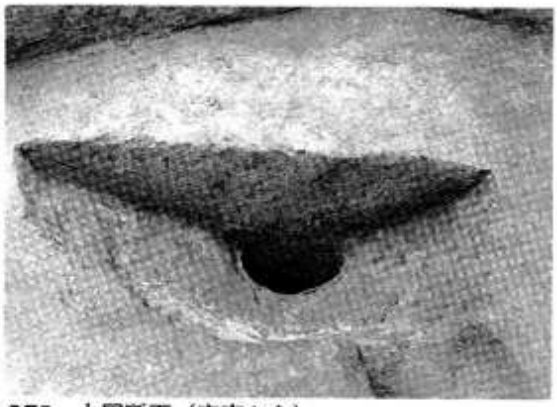
SE3　下部土層断面



SE4　遺物出土状況（南から）

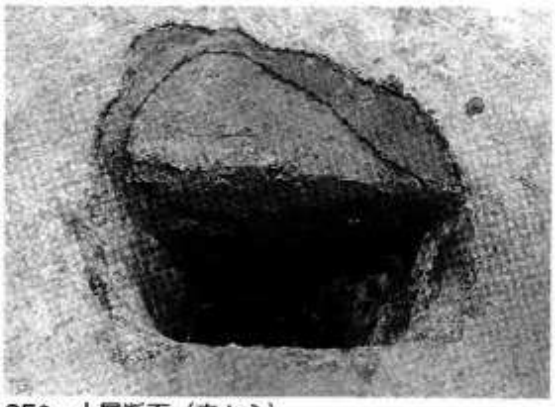
SE4　土層断面

図版9　平安時代の遺構8（SE1～4）



SE5　土層断面（南東から）

SE5　曲物出土状況



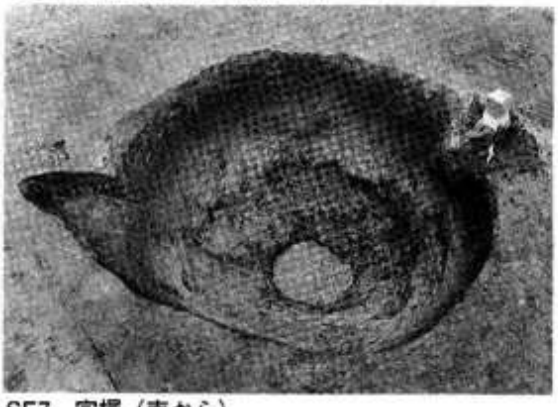
SE6　土層断面（南から）

SE6　完掘（西から）

SE7　上部土層断面（南から）

SE7　下部土層断面（南から）

SE7　遺物出土状況



SE7　完掘（南から）

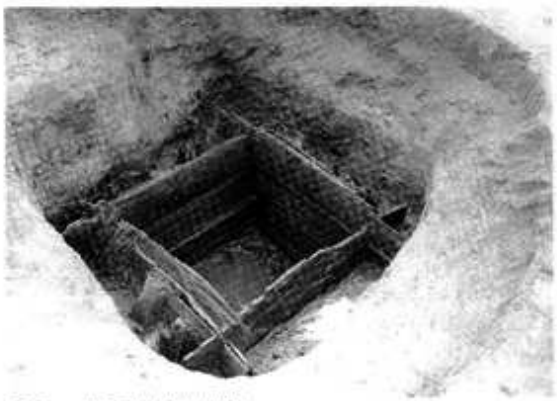
図版10　平安時代の遺構（SE5～7）

SE8　土層断面（南西から）

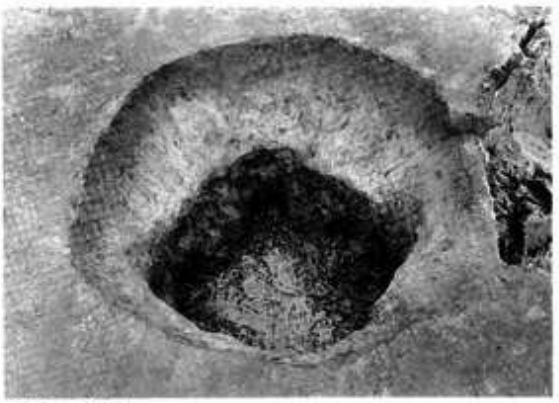
SE8　完掘（南西から）

SE9　上部土層断面（西から）

SE9　遺物出土状況



SE9　井戸枠出土状況

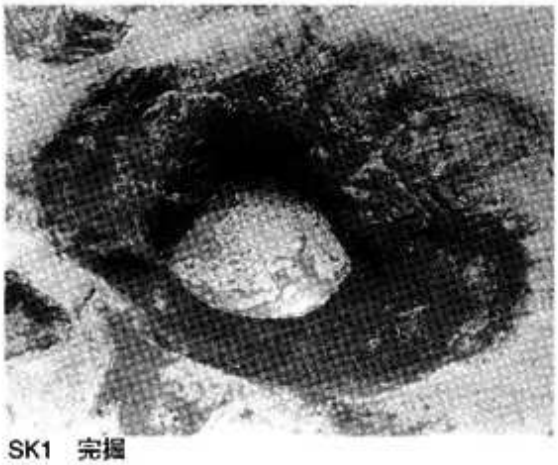


SE9　完掘

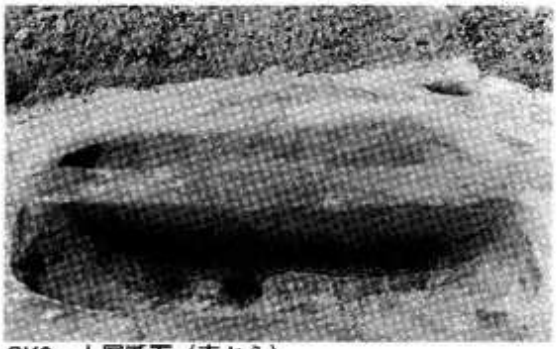
SK1　土層断面（東から）

SK1　遺物出土状況（東から）

図版11　平安時代の遺構10（SE8・9、SK1）

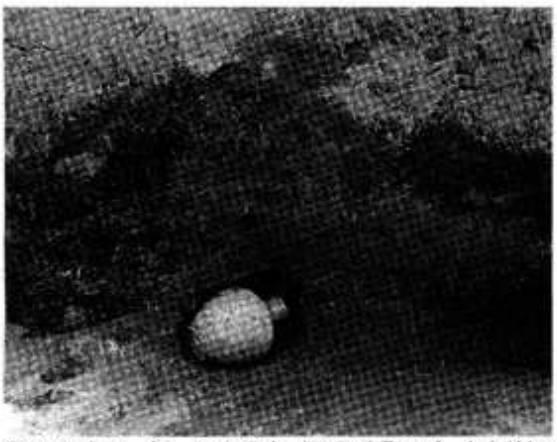


SK1　完掘



SK2　土層断面（東から）

SK5　土層断面（東から）

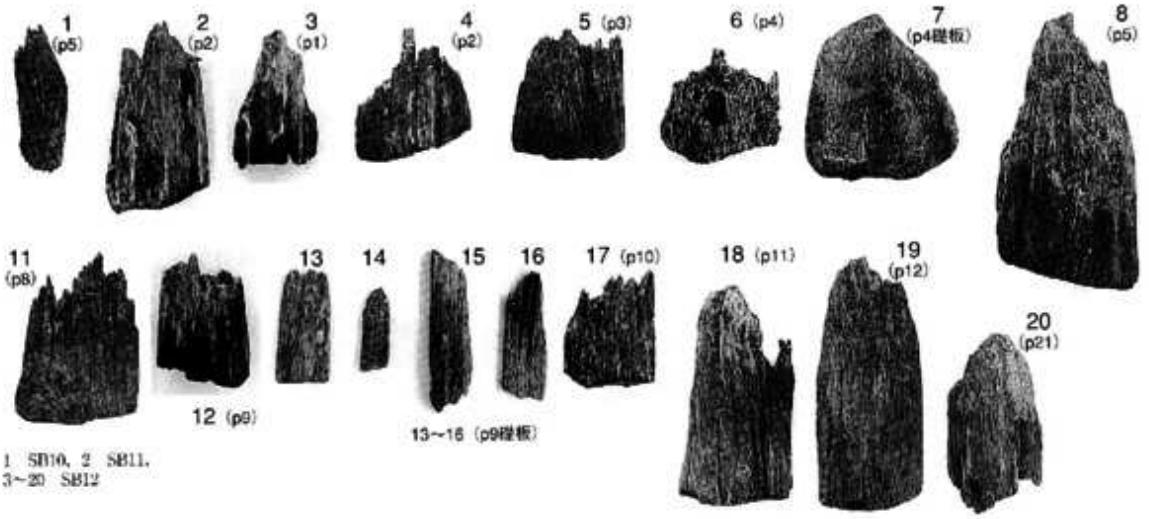


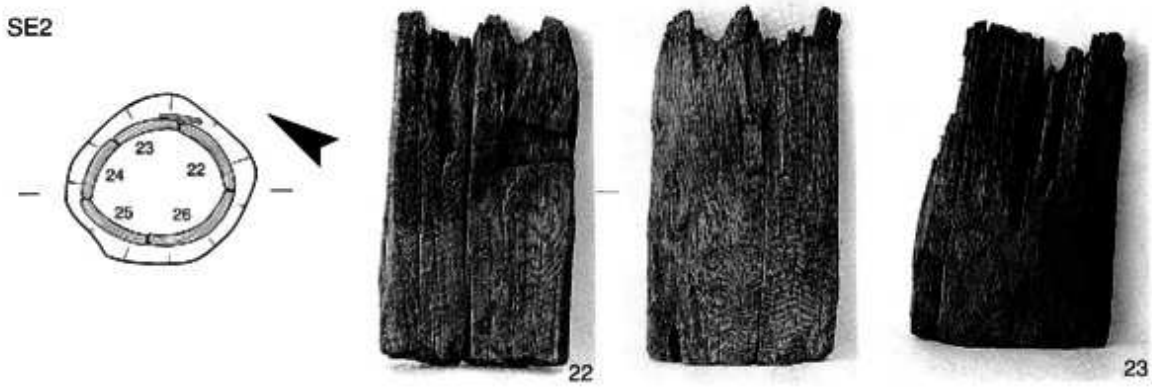
第4T集中区一括　須恵器壺（図示番号439）出土状況

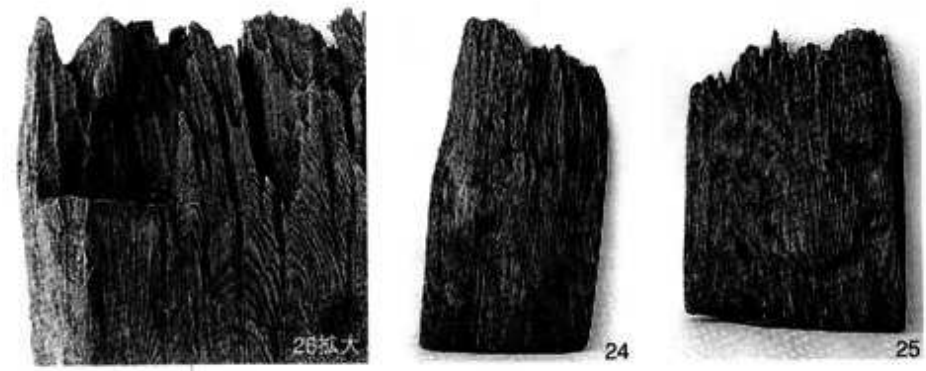
SD5　遺物出土状況

SX3　完掘

図版12　平安時代の遺構11（SK1・2・5、SD5、第4T集中区一括、SX3）







図版13　平安時代の遺構12（SB10~12柱根・礎板、SE2・5井戸枠）

SE7

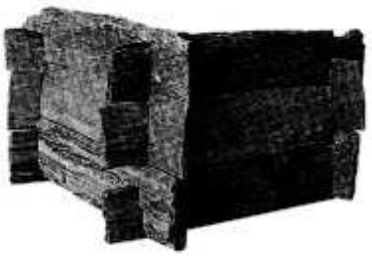
32

32・33　SE7,
38～48・56　SE9

33

SE9

55



▲SE9　井桁に組んだ状態

38

43

39

44

40

45

41

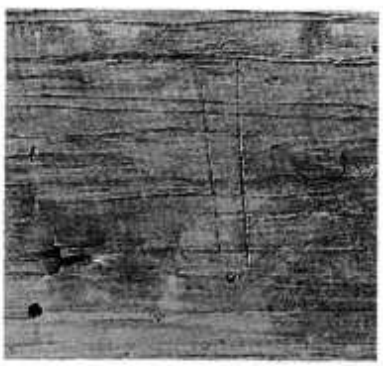
46

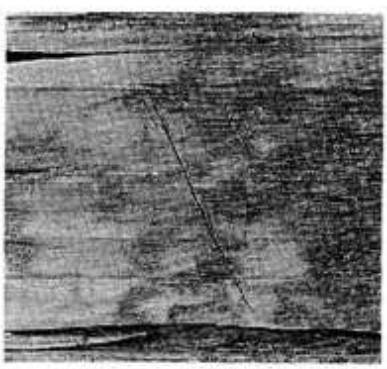
42

47

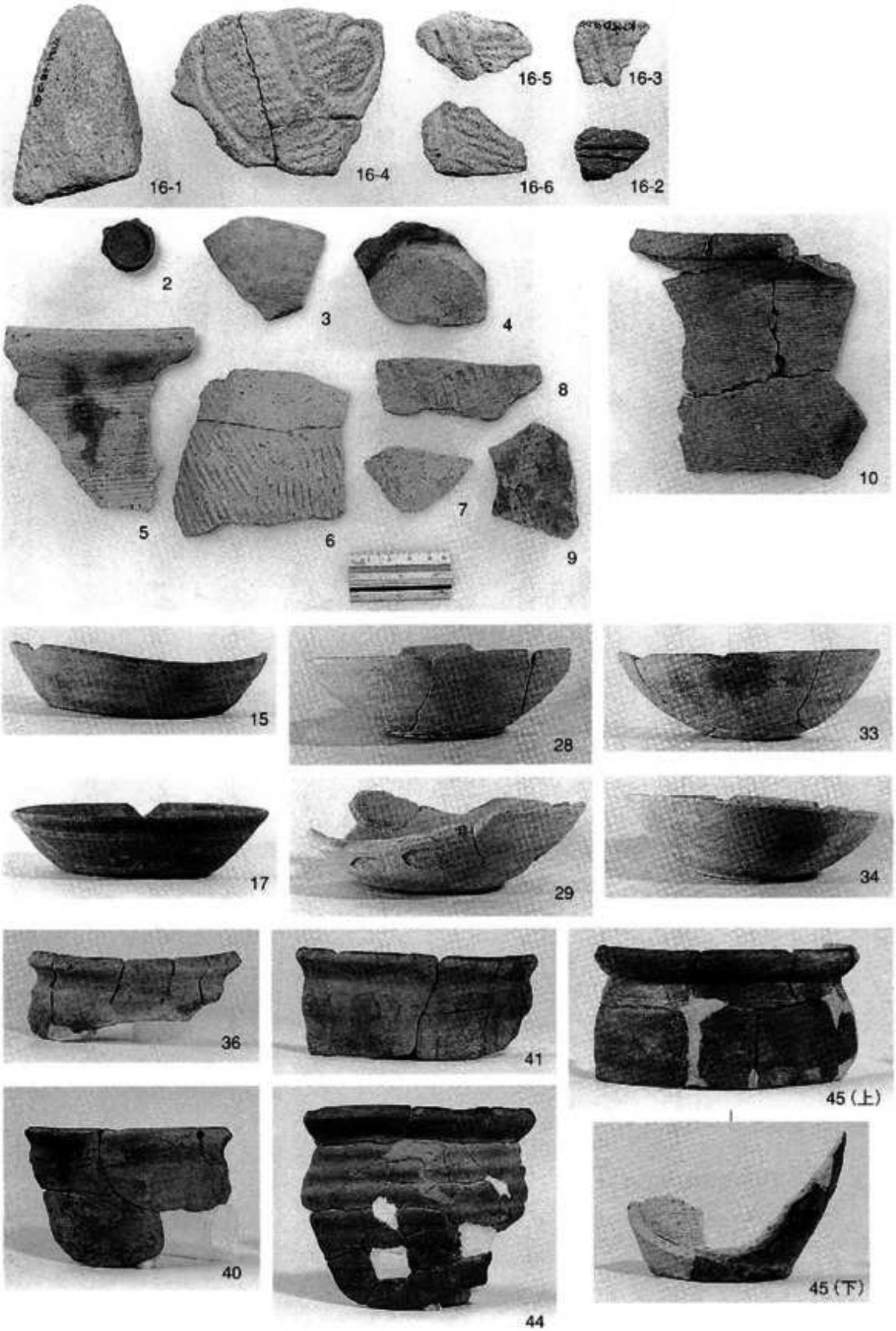
左：上から「III」「II」「I」(38・39・40)
中：「II」(44)
右：「I」(45)

48

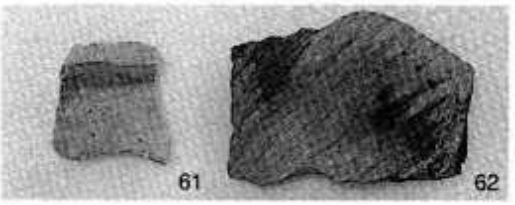


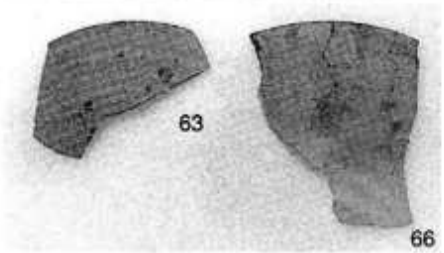


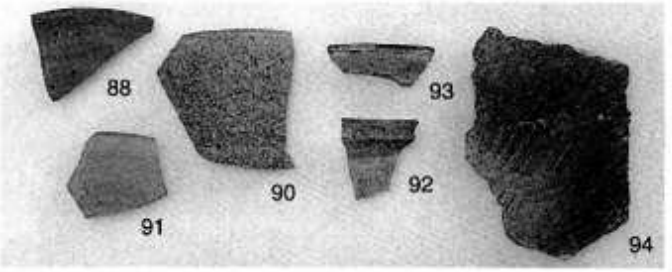
図版14　平安時代の遺構13（SE7井戸部材、SE9井戸枠）



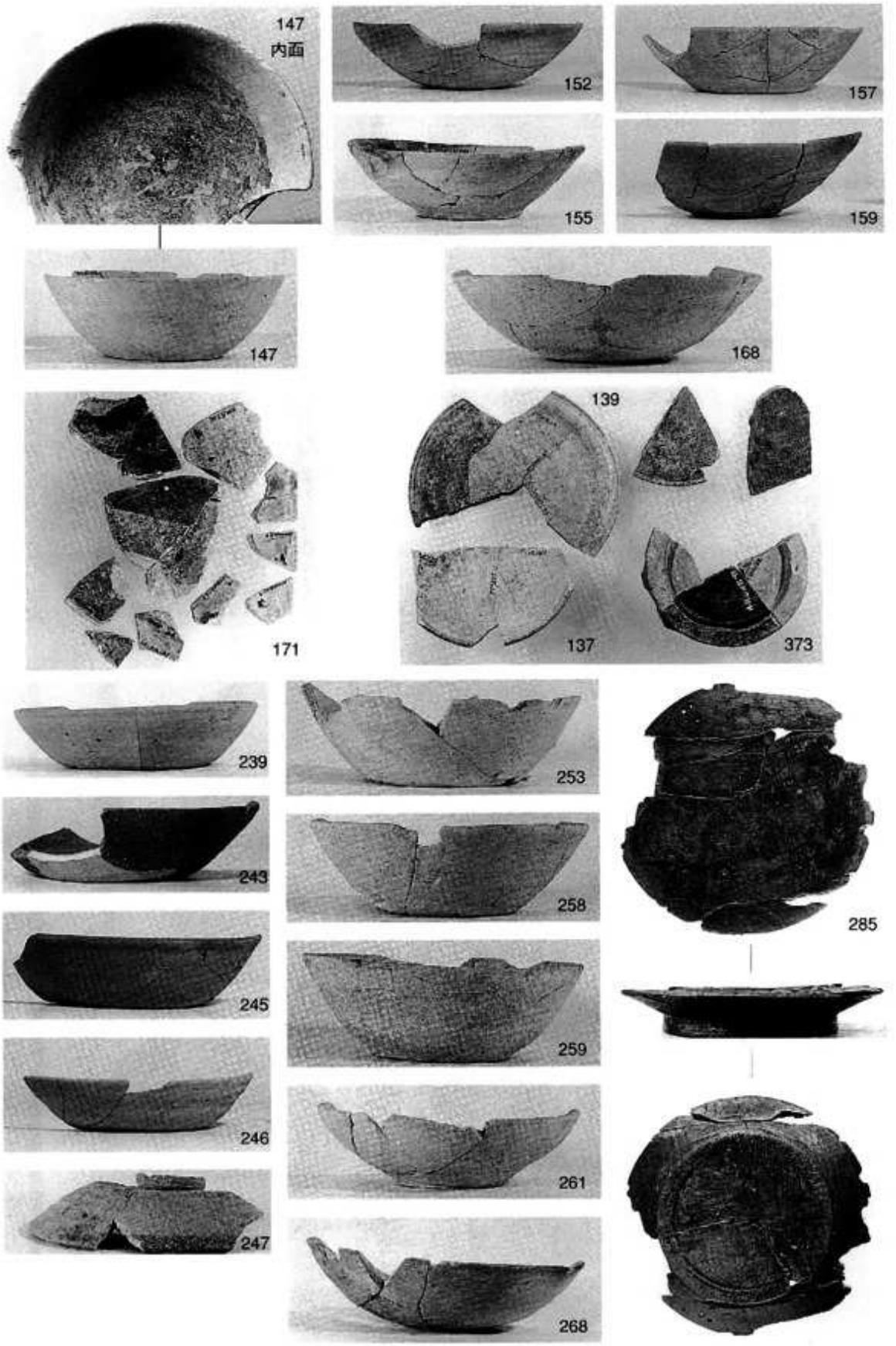
図版15　縄文時代の遺物、平安時代の遺物1 (SB2・4、SD2)



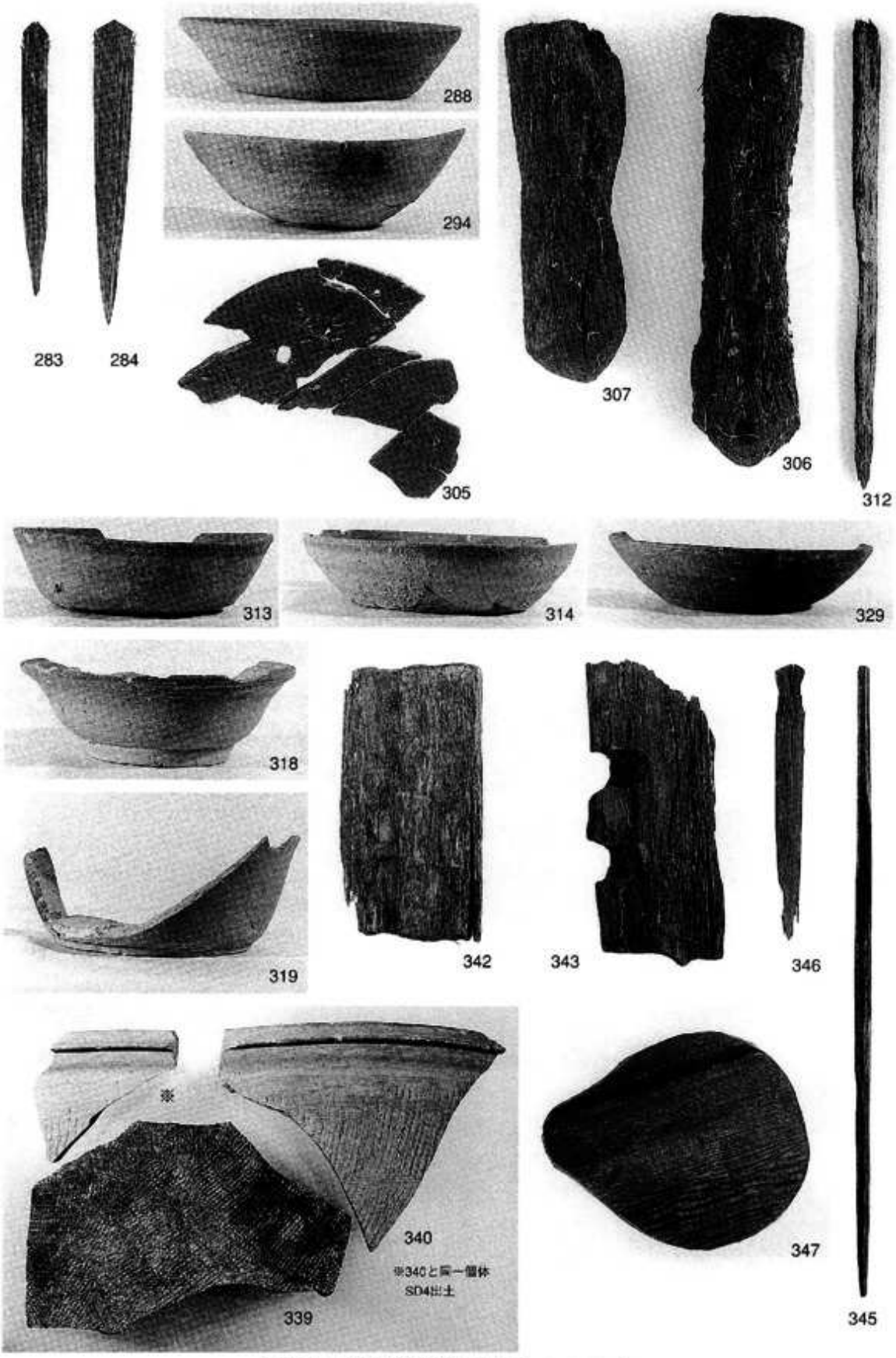




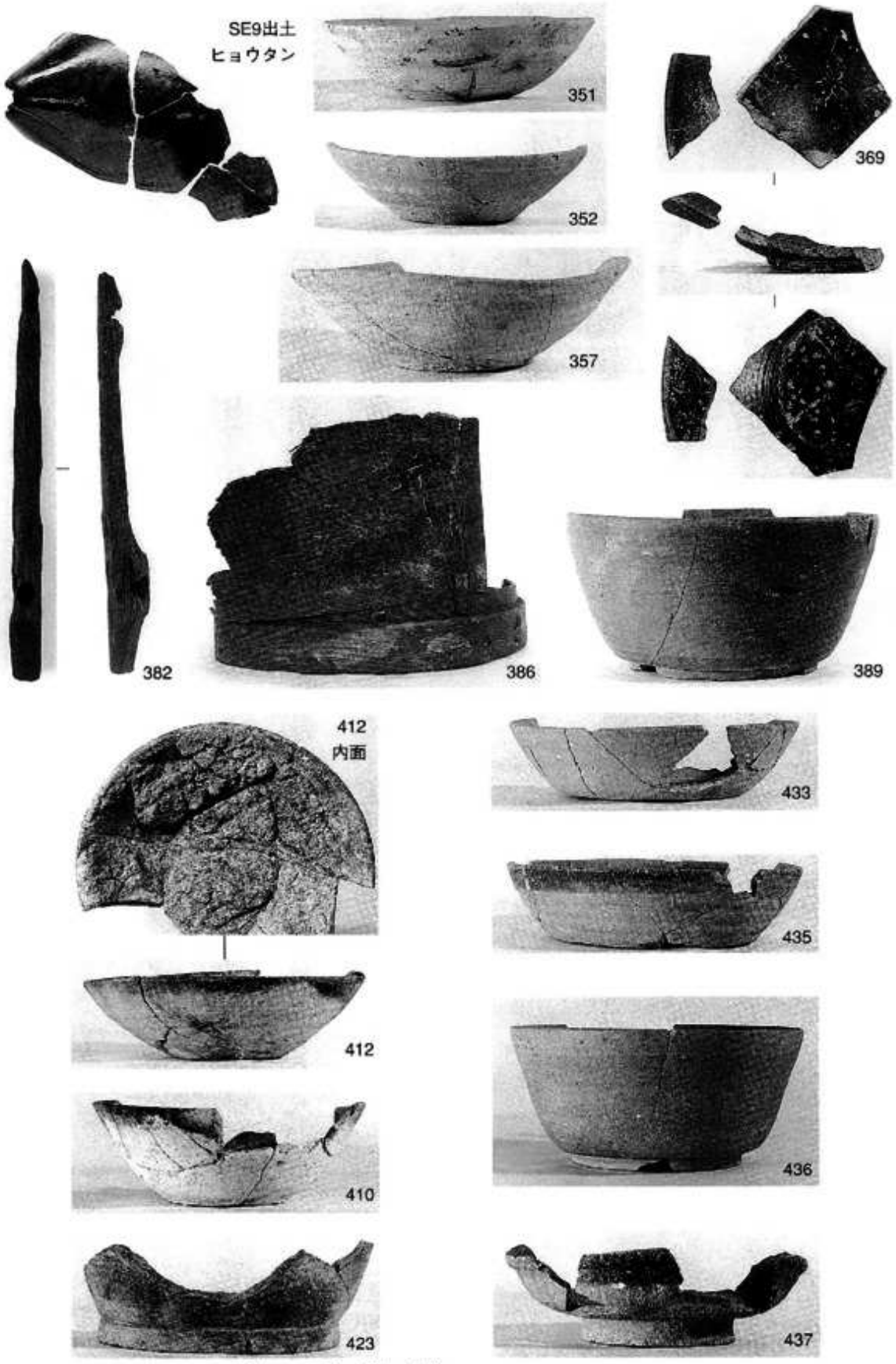
図版16　平安時代の遺物2（SD2~4、SB8・11・12）



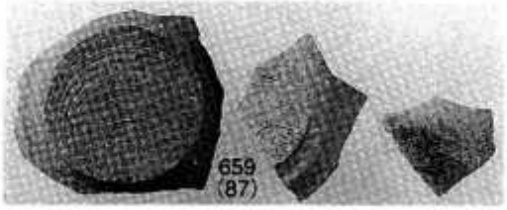
図版17　平安時代の遺物3（SD4・5、SE3）

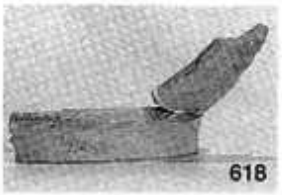


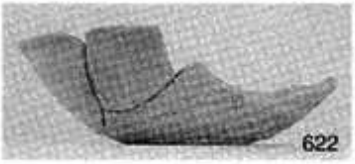
図版18　平安時代の遺物4（SE3・4・6・7・9）

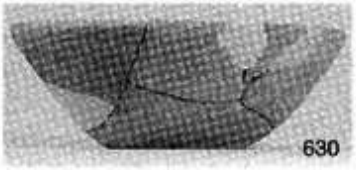


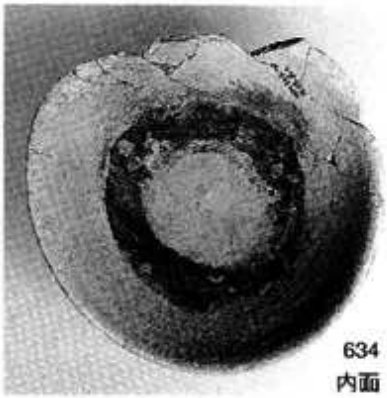
図版19　平安時代の遺物5（SK1・2、第2・第4T集中区）

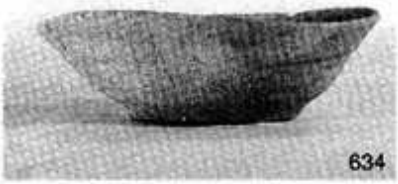




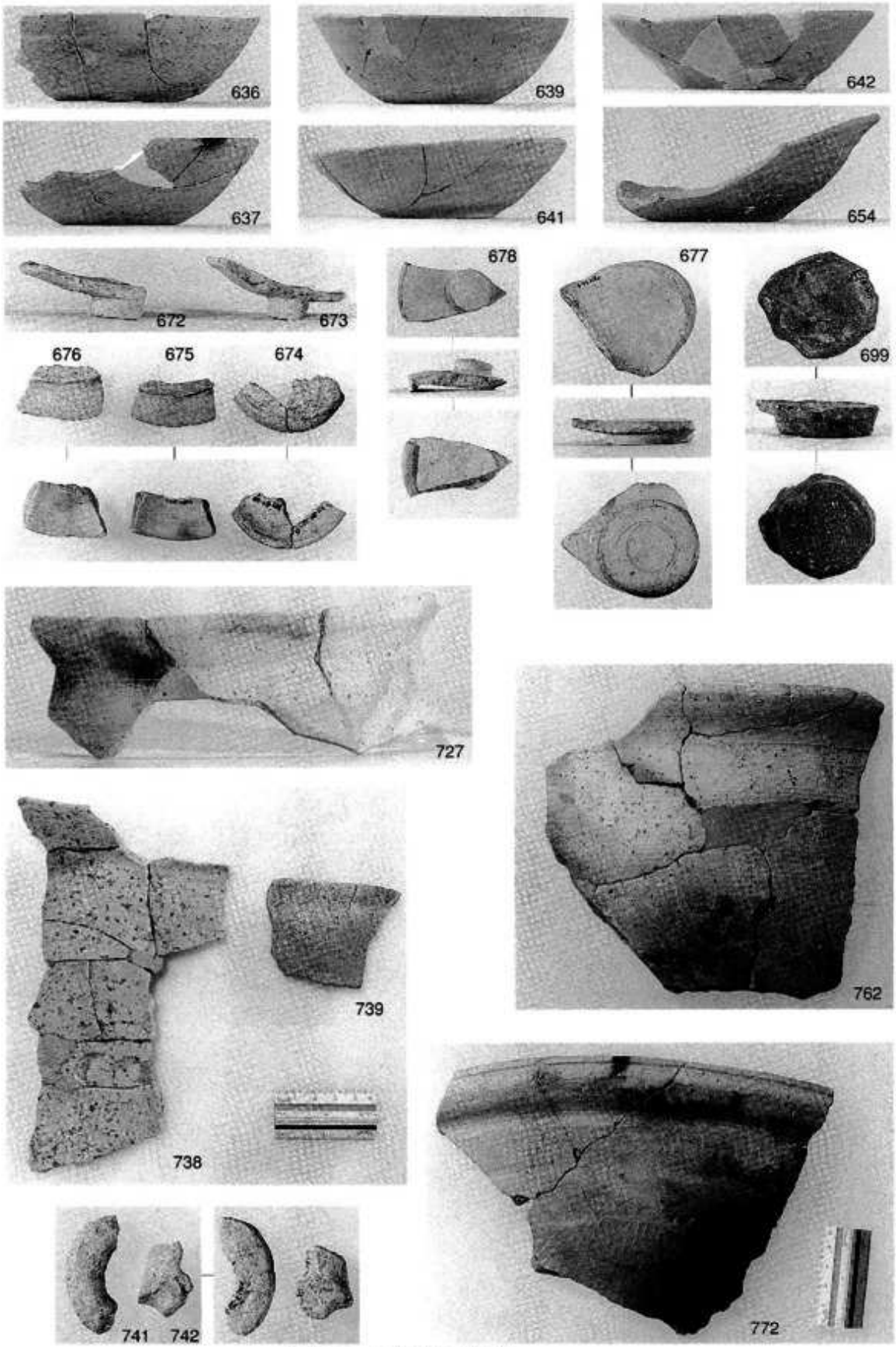




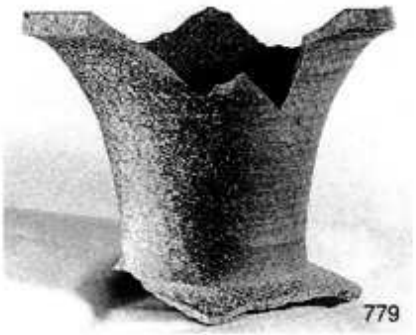




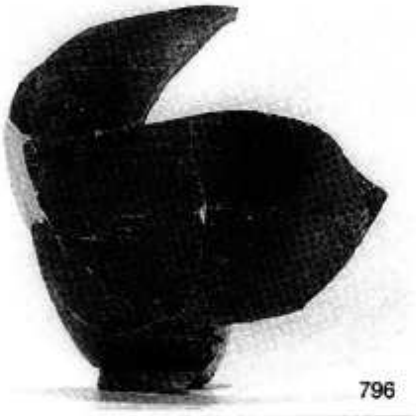
図版20　平安時代の遺物6（第4T集中区、遺構外出土）

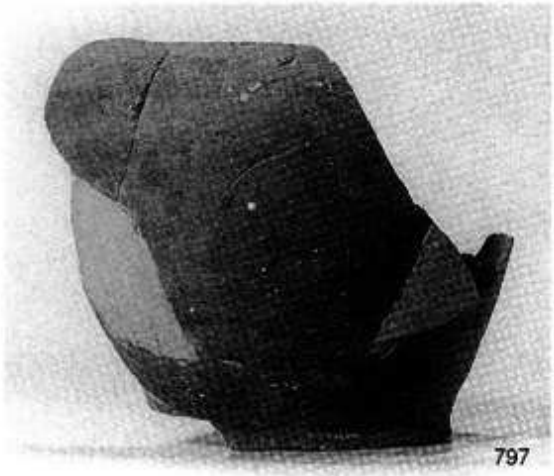


図版21　平安時代の遺物7（遺構外出土）

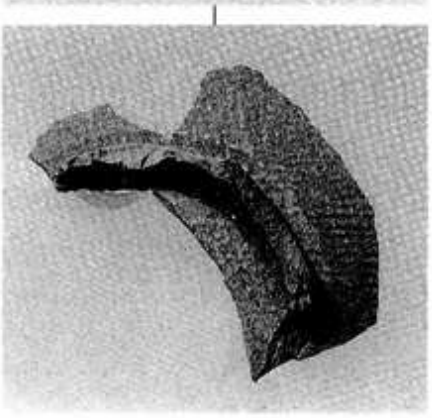

779

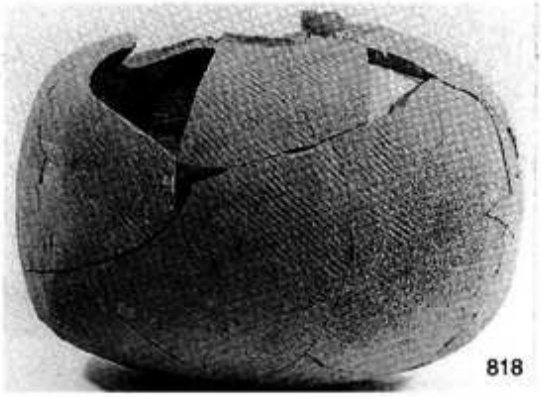
795


796

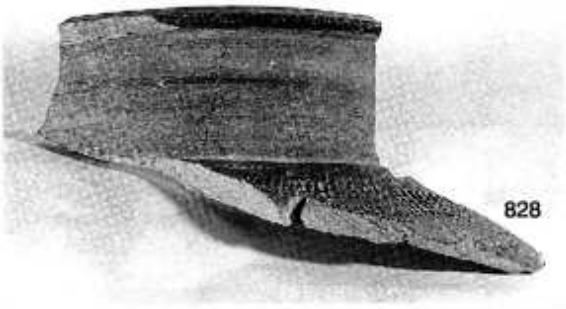

797

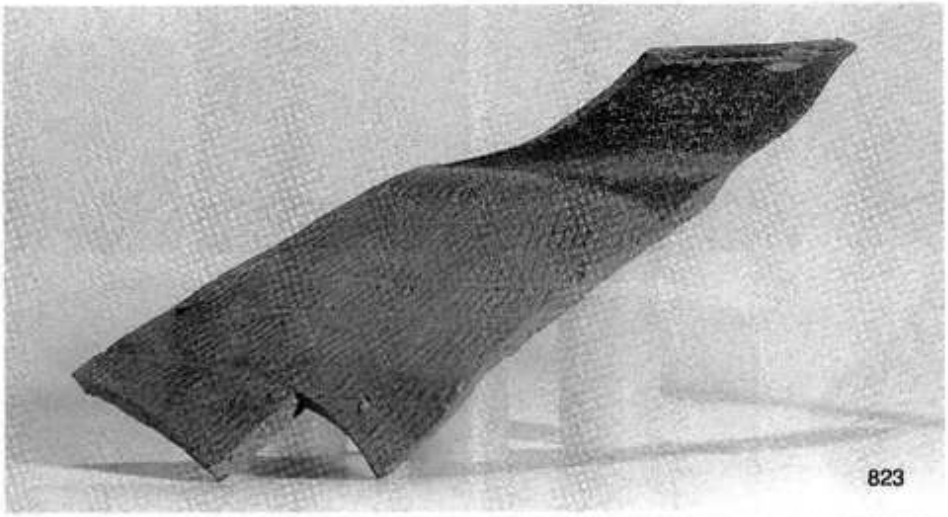
819

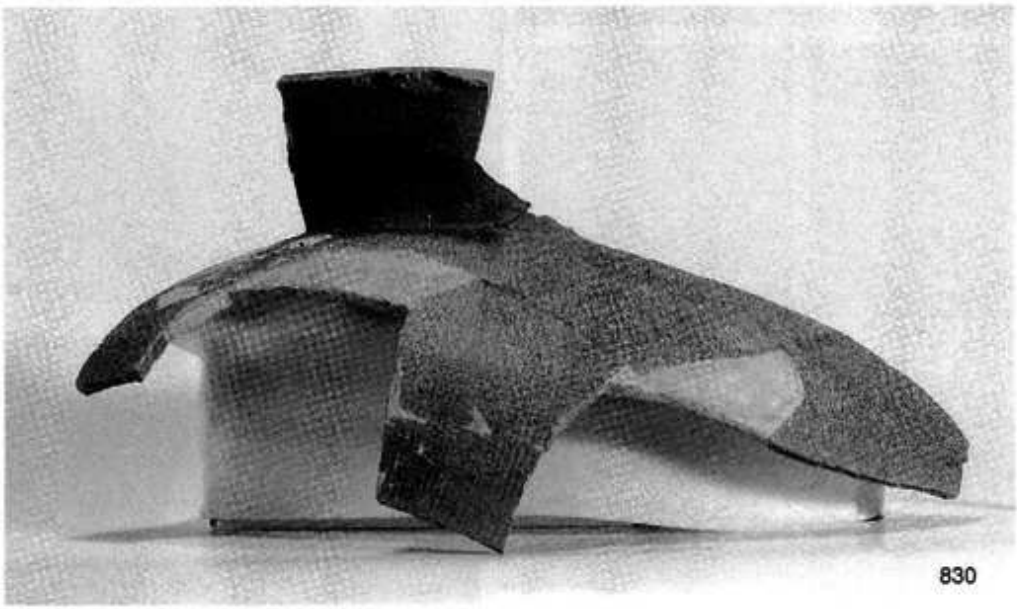



818

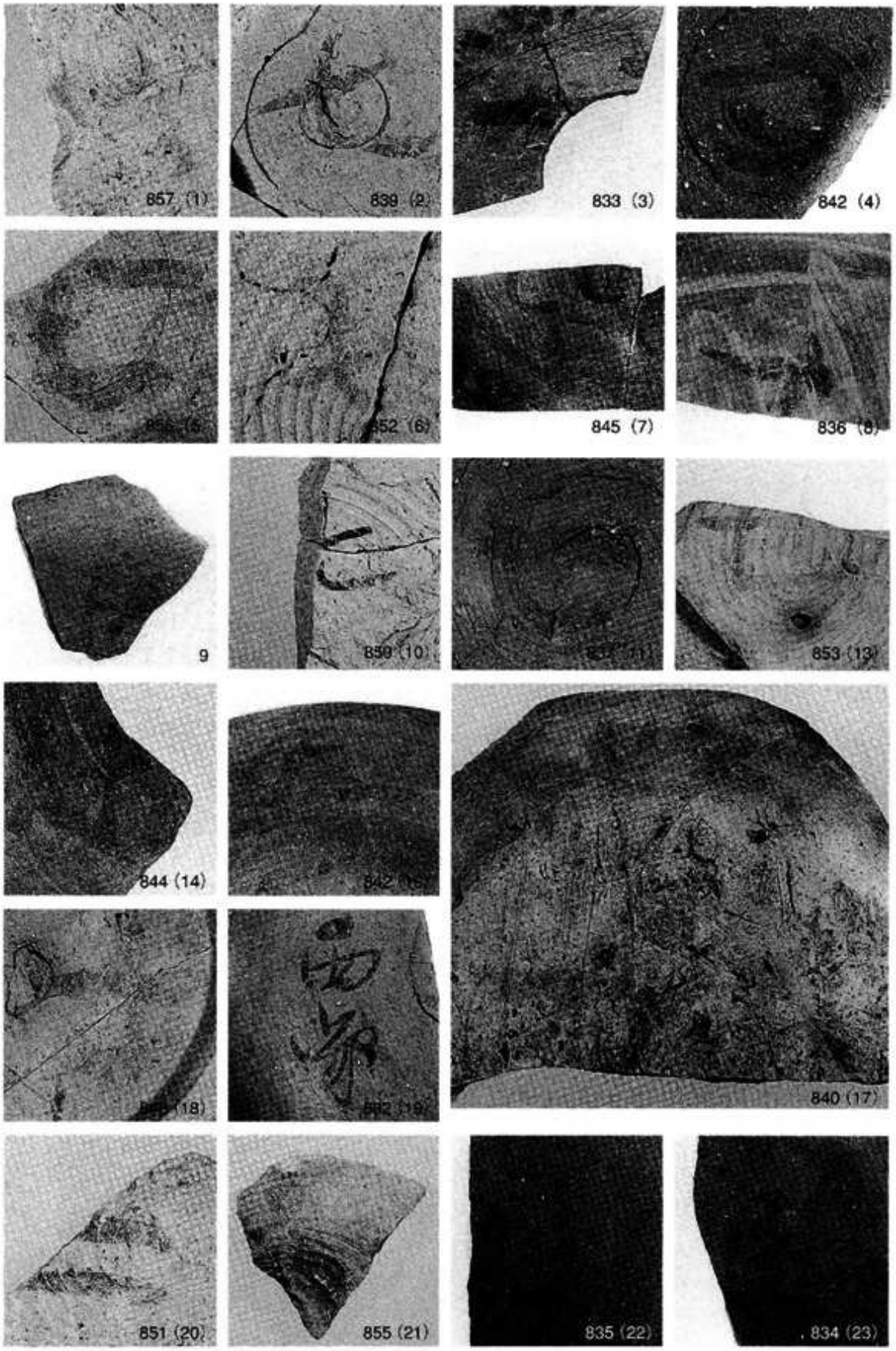
図版22　平安時代の遺物8（遺構外出土）



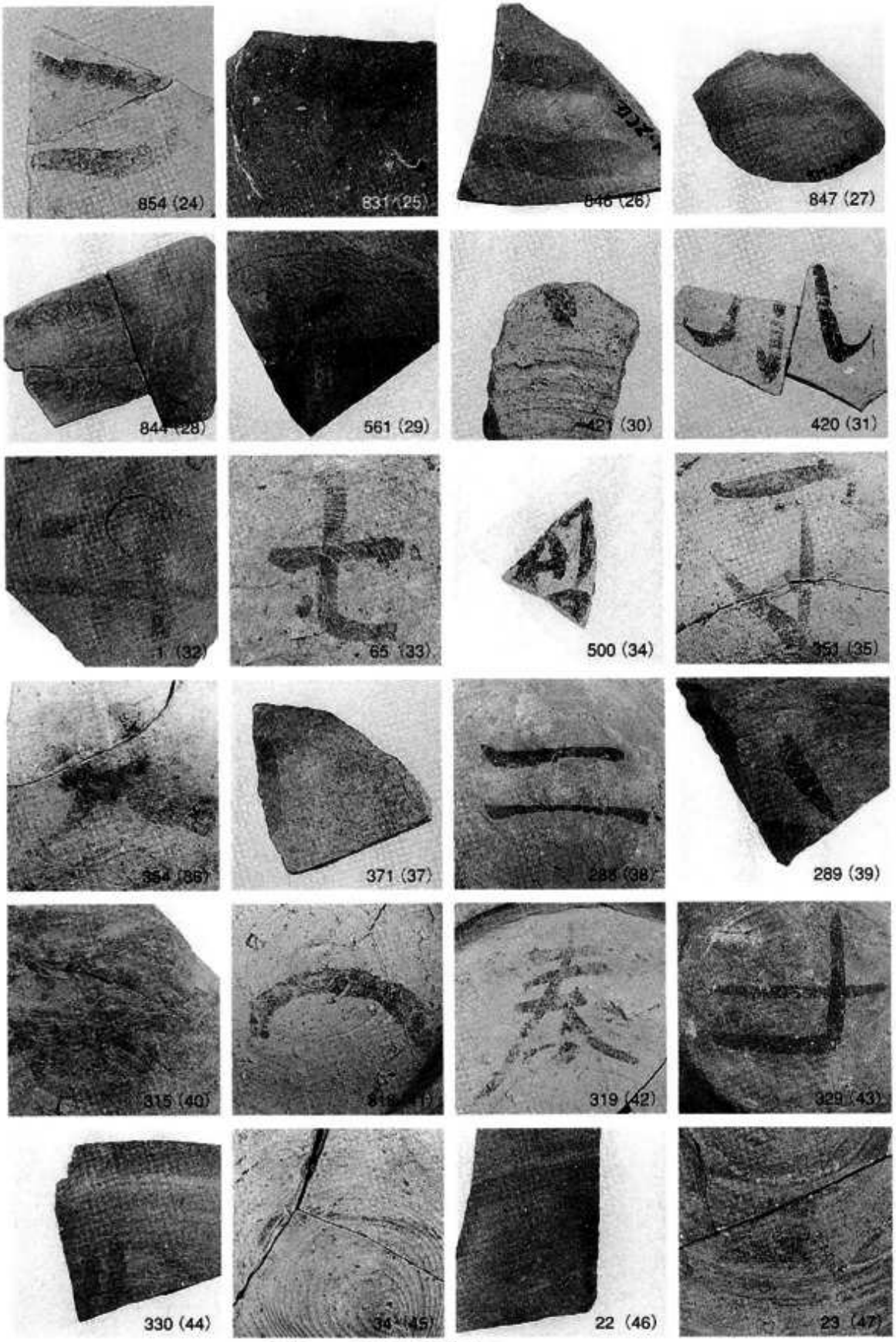




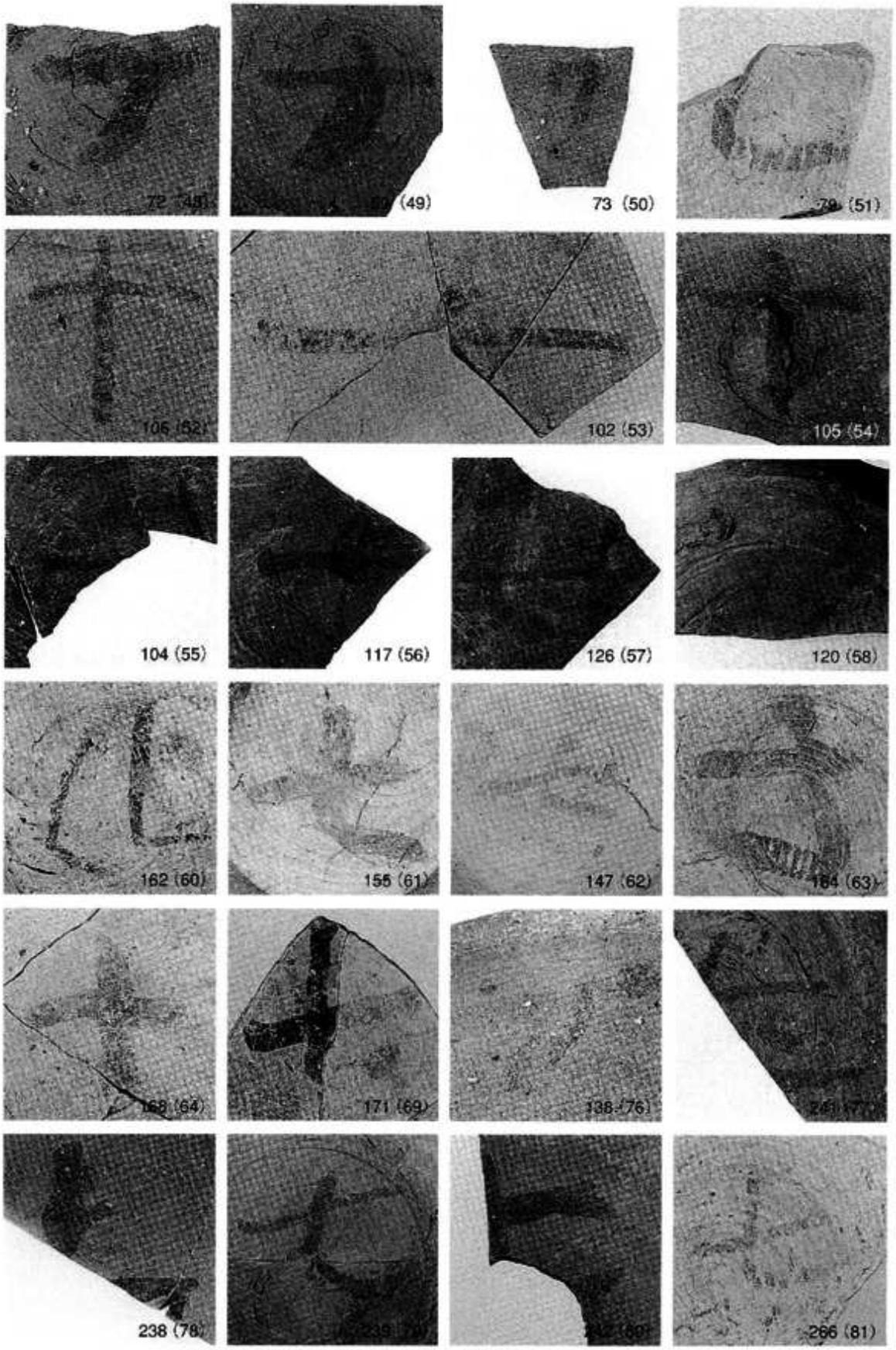
図版23　平安時代の遺物9（遺構外出土）



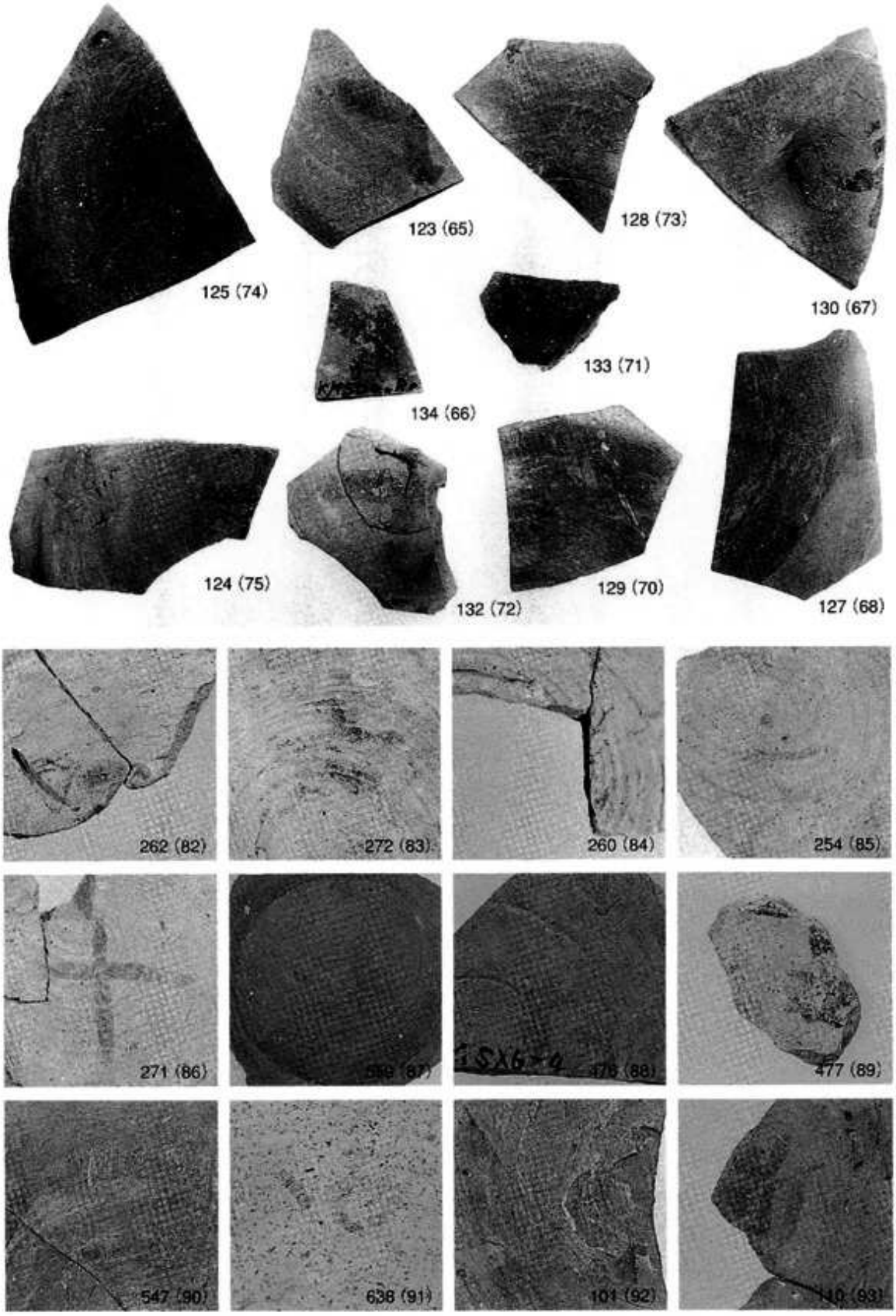
図版24　平安時代の遺物10（墨書土器1～11、13・14、16～23）



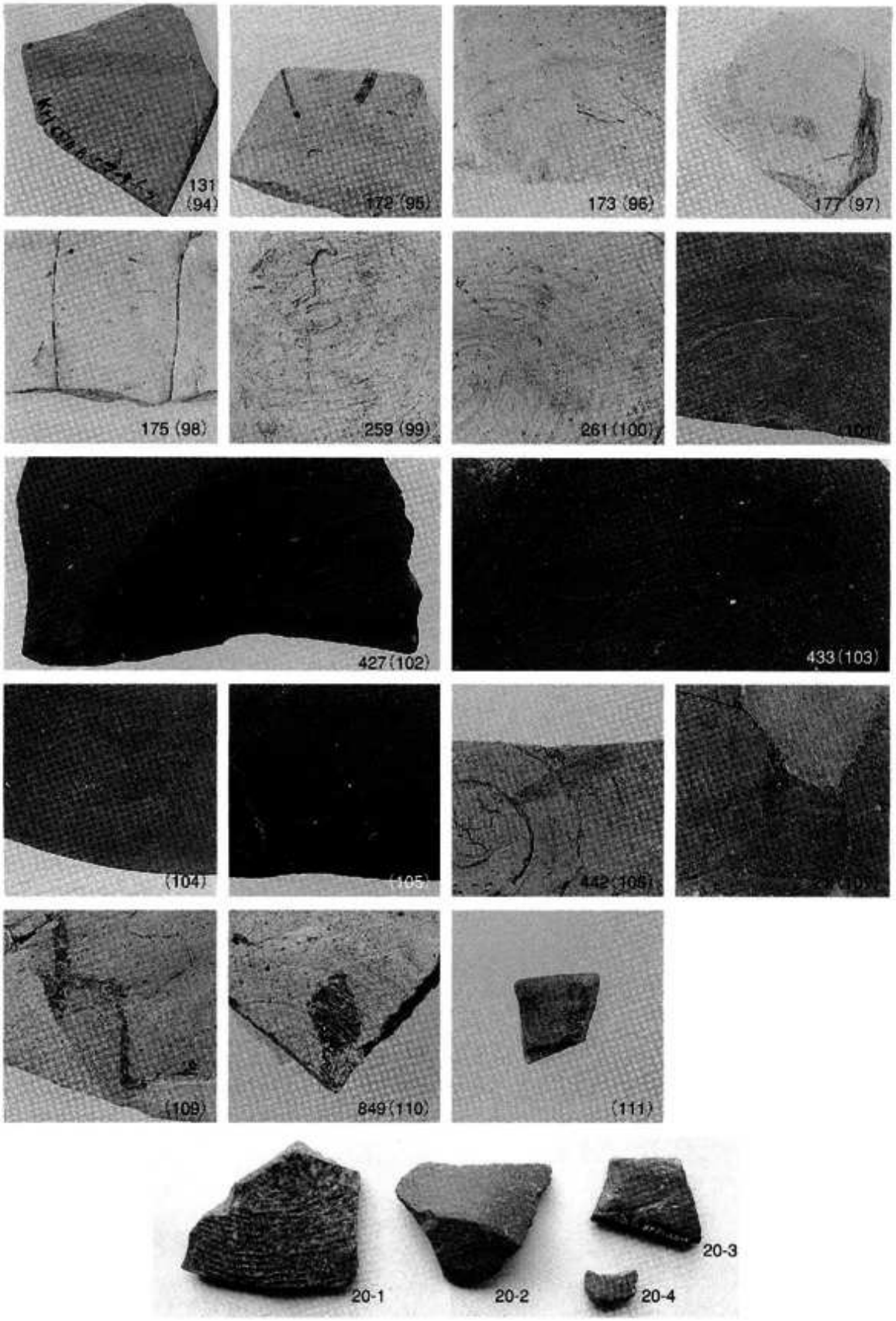
図版25　平安時代の遺物11（墨書土器24～47）



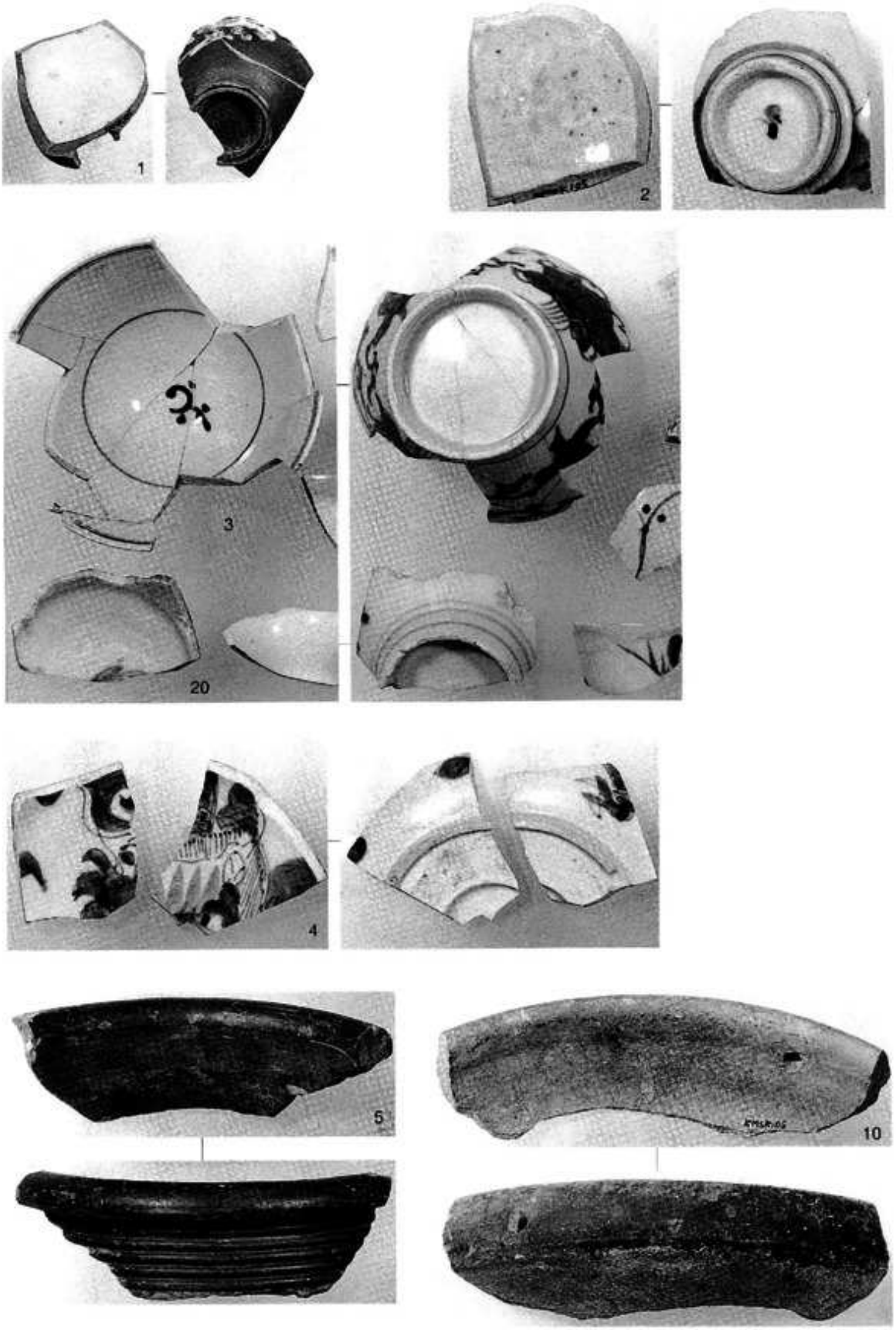
図版26　平安時代の遺物12（墨書土器48～58、60～64、69、76～81）



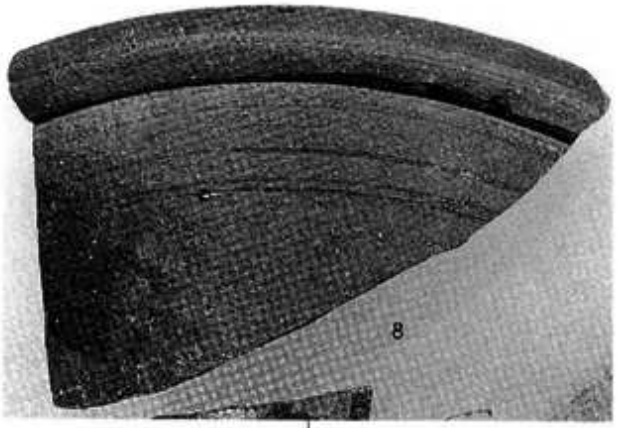
図版27　平安時代の遺物13（墨書土器65～68、70～75、82～93）

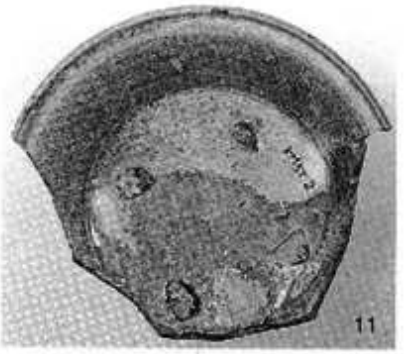


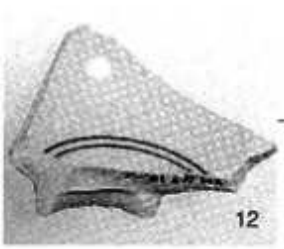
図版28　平安時代の遺物14（墨書土器94～107、109～111）、中世の遺物

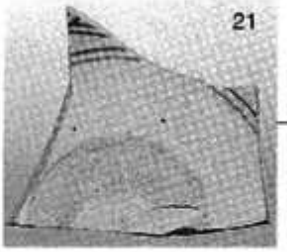


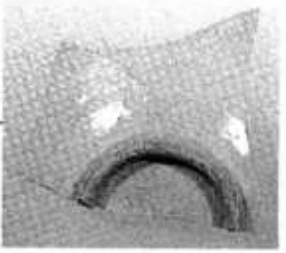
図版29　近世の遺物1

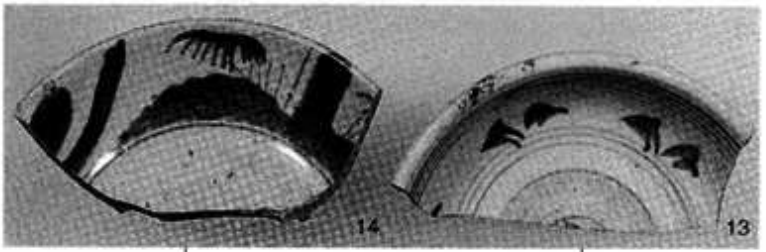


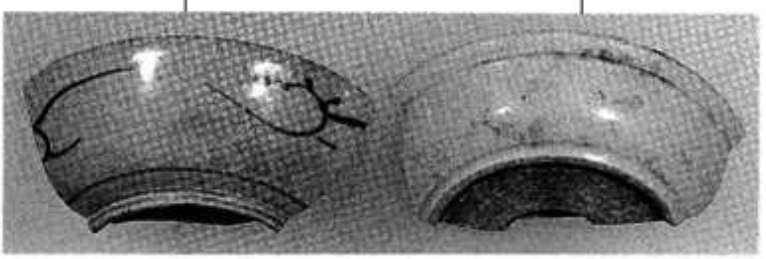




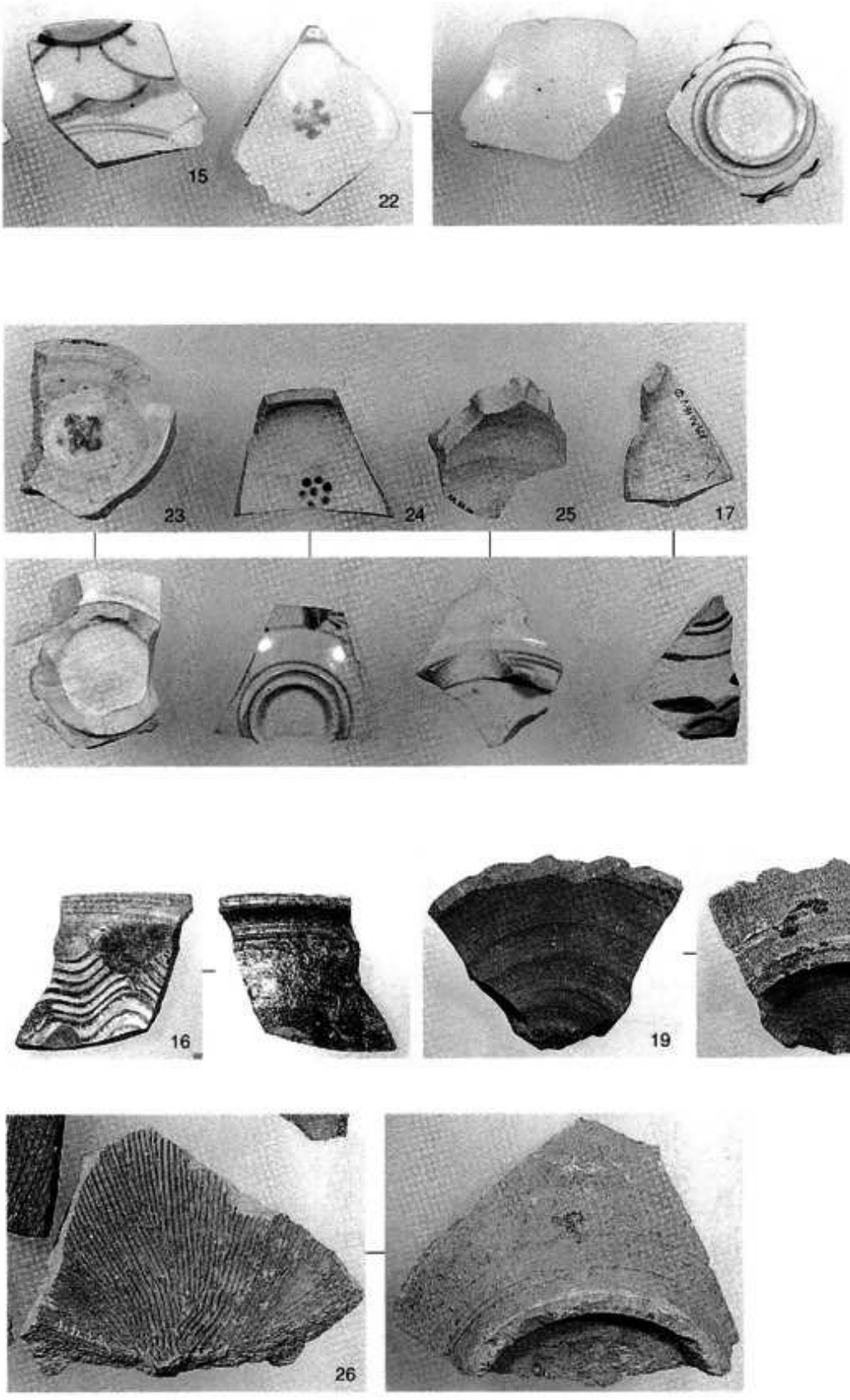




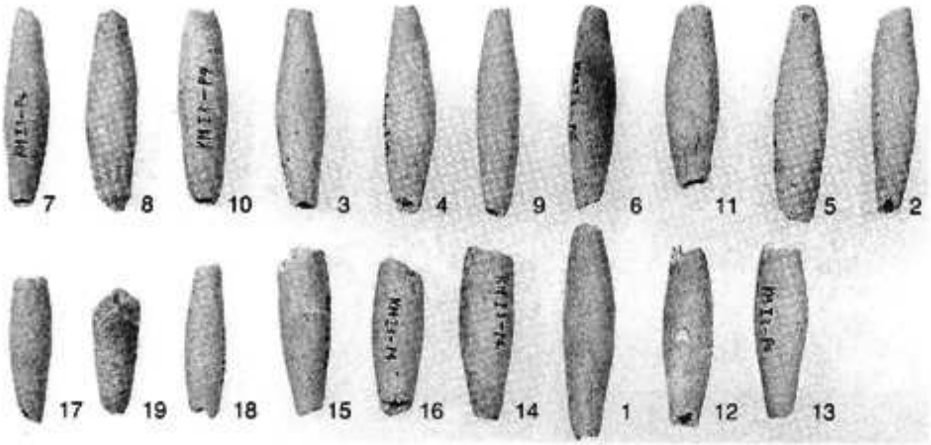




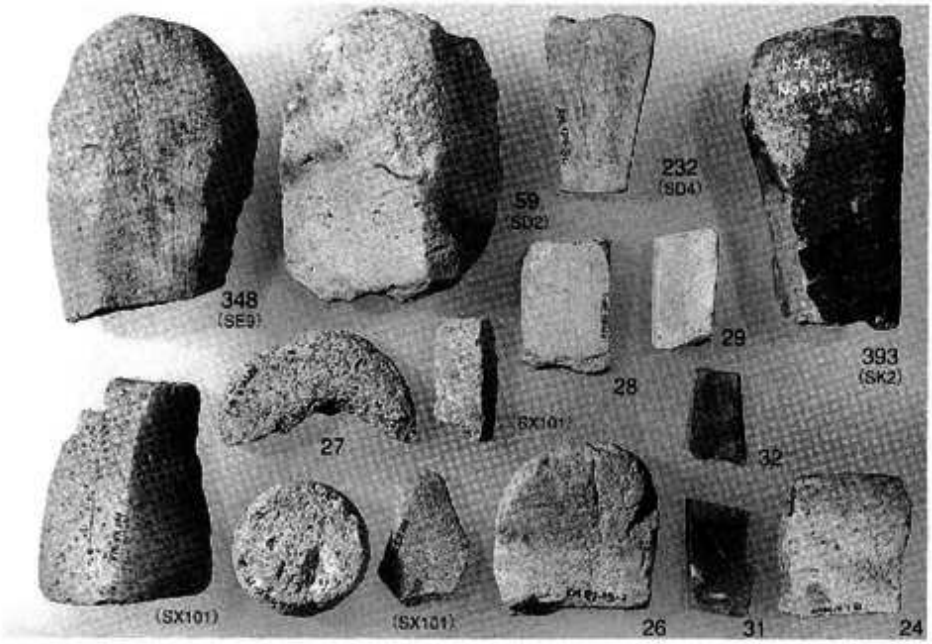
図版30　近世の遺物2



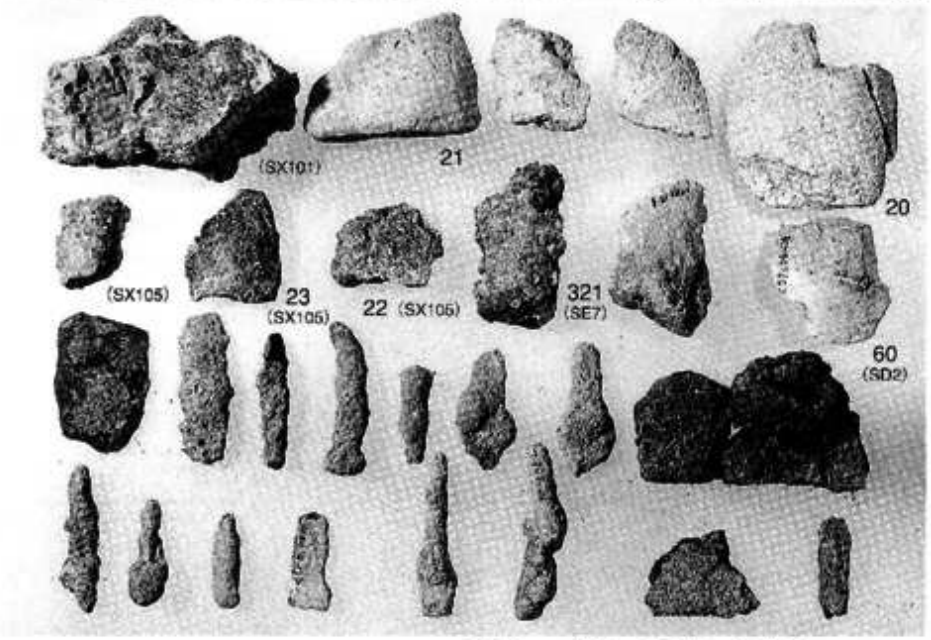
図版31　近世の遺物3



土錘



石製品



羽口・鉄滓・鉄製品

※縮尺不同

図版32　土錘・石製品・鉄製品

付図 新潟市小丸山遺跡遺構全測図

新潟市小丸山遺跡
直り山団地建設事業用地内発掘調査報告書

発行日　1995年3月31日
発　行　新潟市教育委員会
新潟市一番堀通町3番地12
〒951 TEL.(025) 228-1000
印　刷　太陽印刷所
新潟市和合町2－4－18
〒950 TEL.(025) 382-7651